

2026 年度

教育学部 講義計画と内容

[目次]

- ・基礎教育学専修 基礎教育学コース〔2025 年度以前進入学者〕
- ・教育学専修 教育学コース〔2026 年度以降進入学者〕
- ・教育社会科学専修
- ・教育社会科学専修 比較教育社会学コース
- ・教育社会科学専修 教育実践・政策学コース
- ・心身発達科学専修
- ・心身発達科学専修 教育心理学コース
- ・心身発達科学専修 身体教育学コース
- ・教養学部 第 2 学年 A1、A2、A1A2 持出専門科目
- ・教職課程科目（Ⅰ）本郷キャンパス
- ・教職課程科目（Ⅱ）駒場キャンパス
- ・特設科目

※この資料は UTAS の簡易版です。

※UTAS と情報が食い違う場合は、UTAS を是としてください。

- ・基礎教育学専修 基礎教育学コース〔2025 年度以前進入学者〕
- ・教育学専修 教育学コース〔2026 年度以降進入学者〕

時間割コード	09261101	担当教員	山名 淳、平石 晃樹		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	木 4
講義題目	教育哲学概説(教育思想論)／Introduction to Philosophy of Education 教育哲学概説(教育思想論)				

授業の目的・概要	本授業では、教育哲学の基礎およびそれをもとにした議論の方法を学びます。教育哲学とは、教育について根本的に考察する学問です。ところで、教育を「根本的」に考察するとは、いったいどのようなことを言うのでしょうか。本授業では、教育について考えるための具体的なテーマを各回設定し、そのテーマに関わる主要概念や問題構成を概説します。 本授業の目標は、(1) 教育哲学とは何かということの概略を示すことができる、(2)教育哲学の基礎知識を習得する、(3)そのような基礎知識をもとにして教育に関する基本的な議論を行うことができる、以上の 3 点にあります。
授業計画	”本授業で取り上げる具体的なテーマは以下のものを予定しています。進度や受講者の関心などにより変更する場合があります。 【山名担当分】 ・「記憶」——人間形成と記憶の二重の関係 ・「人新世」——カタストロフィを語る人間学 ・「特権」——現代社会における差異の問題に対する教育の両義性 ・「ビルドゥング」——自己と世界の相互作用的な生成としての人間形成 ・「アーキテクチャ」——教育は触発か、それとも誘導か ・「暴力」——繊細な力としての教育と現代社会 【平石担当分】 ・「教育目的」——教育は誰／何のためか ・「人格」——教育はどこまで子どもの内面に踏み込んでよいのか ・「教化」——教育と洗脳は何が違うのか ・「国家」——国家はどこまで教育に介入してよいのか ・「強制」——子どもへの強制はどこまで正当化されるのか ・「平等」——教育は平等を実現できるのか、それとも不平等を拡げるのか ”
授業の方法	教育に関する多様な事例をとりあげて、人間と文化・社会・政治との力動的な関係性とそこに介入する試みとしての教育の問題について考える。各授業の内容について受講生はリアクションペーパーを作成することが求められる。次回の授業冒頭で受講生の感想が紹介され、そして次のテーマへの導入へと続く。
成績評価方法	平常点(毎時のリアクションペーパー、授業時の参加姿勢)と期末レポートの総合的評価(前者 5 割、後者 5 割)とする。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	参考文献については授業中に適宜指示する予定です。
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※2 参照 ※A 参照

時間割コード	09261102	担当教員	片山 勝茂		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	木 2
講義題目	教育人間学概説／Introduction to Educational Thought and Anthropology 教育人間学概説				

授業の目的・概要	教育人間学についての基本的知識・理解を得るとともに、教育と人間と社会のあり方について人間学的に考察し、自らの考えを根拠を示しながら表現する力を身につけることを目的とする。また、そのことによって、現代の教育が直面する諸課題について批判的に捉える視点を養うことを目指す。今年度は特に、教育人間学の重要な古典的テキストであるプラトン『メノン』を重点的に取り上げ、様々な注釈書や解説、論文を参考にしつつ読み解くこととしたい。
授業計画	”今のところ予定している授業計画は以下の通り。ただし、一部変更する可能性がある。 1. オリエンテーション、教育人間学とは 2. 「教育とは何か」を考える(1)伝達としての教育 3. 「教育とは何か」を考える(2)人間形成・発達の援助としての教育 2. ソクラテスの対話の方法と教育 3. プラトン『メノン』の概要と主な思想内容 4. プラトン『メノン』精読(1) 70a-73c 5. プラトン『メノン』精読 (2) 73c-79e 6. プラトン『メノン』精読 (3) 79e-82b 7. プラトン『メノン』精読 (4) 82b-86c 8. プラトン『メノン』精読 (5) 86c-89c 9. プラトン『メノン』精読 (6) 89c-96d 10. プラトン『メノン』精読 (7) 96d-100c 11. プラトン『国家』の教育概念：国家と教育 12. アリストテレスと教育 13. 教育における正義とケア (1) 正義と教育 14. 教育における正義とケア (2) ケアの倫理と教育 15. まとめ”
授業の方法	講義による。また、グループないし全体によるアイスブレイクとディスカッションも行う。
成績評価方法	試験は行わない。毎回の授業で提出するコメントシートと期末レポート、授業への参加状況(発表、発言、ディスカッションの積極性など)を合わせて総合的に評価する。
教科書	次の教科書を使用する。／Will use the following textbook
参考書	次の参考書を使用する。／Will use the following reference book
履修上の注意・備考	教科書となるプラトン『メノン』(藤沢令夫訳、岩波文庫)は購入し、本文と解説に(『メノン』を扱う授業の前に)目を通しておくようにしてください。可能であれば、参考書のプラトン『メノンー徳(アレテー)について』(渡辺邦夫訳、光文社古典新訳文庫)の解説にも目を通しておくことをお勧めします。
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (社)哲学 (公)哲学

時間割コード	09261103	担当教員	渡邊 真之		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	火 2
講義題目	日本教育史概説／Introduction to Japanese Educational History 日本教育史概説				

授業の目的・概要	教育と聞くと「学校」を思い浮かべる人が多いだろう。ただし、教育は「学校」に限定されるものだろうか。明治期における近代教育制度の発足と展開の過程で、学校は徐々に日本社会に定着していき、日本の教育と子どものありようを大きく変容させていった。ただし、学校の受容の仕方は、地域差や性差を伴った複雑なものであり、学校に代表される近代的な教育からは離れた世界も根強く存在していたことに留意する必要がある。 また、戦後においては、教育・学校は人権を軸として再構築される。戦後の教育・学校のありようは、その時々の方針・運動や社会の変化によってつくり、学校が人々にとって大きな影響力をもつようになる。ただし、学校を経由しない教育への私的な関心の肥大化や消費社会化の進展によって、子どもたちが生きるうえで学校外の教育やサービスが大きな影響力をもちはじめると、学校の基盤自体がゆらぎはじめていくことになる。 本講義では、従来の教育史が重視してきた学校や教育制度の変化をふまえつつ、学校に非ざる領域と学校の領域を架橋する子どもの「生き方」への視点を取り入れて、歴史的な観点から日本の教育と子どもを振り返ることを試みる。
授業計画	“第 1 回: イントロダクション 第 2 回: 国家による教育・国家によらない教育—近代教育制度のはじまりと整備— 第 3 回: 天皇制教育体制の展開—近代教育制度の確立過程における学校と子ども— 第 4 回: 教育する家族と子ども—子ども・家族・学校の連環— 第 5 回: 女子にとっての教育と学校—恵子にとって高等女学校とはどんな存在だったのか— 第 6 回: 戦争と教育—「少国民」の戦争体験— 第 7 回: 戦後教育改革の理想と教育実践—「民主主義」を実践する子ども— 第 8 回: 教育の五十五年体制の形成と教育政策・教育運動—身近な政治とかかわる子ども— 第 9 回: 経済成長下の学校と子ども社会—学校の内外を架橋する「現代っ子」— 第 10 回: 教育と指導の正統性の問い直し—1970 年代における教育の問い直し運動の展開— 第 11 回: すすむ教育改革とゆらぐ近代教育—教育における自由化・市場化の推進— 第 12 回: 社会問題化する学校と教育—非行・校内暴力・いじめと生活指導— 第 13 回: 「学校が見限られる時代」における教育の公共性の再構築へ 期末試験 ”
授業の方法	受講生の人数にもよりますが、基本的には講義形式です。授業内で史資料を読んだり、映像資料を視聴する機会を設けます。受講生同士で議論する機会も設けます。
成績評価方法	毎授業後のミニ・レポート: 30% 期末レポート: 70%
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	次の参考書を使用する。／Will use the following reference book
履修上の注意・備考	授業資料は授業前に授業システムにアップします。授業内で配布するプリントに加え、参考文献等を読んで、予習・復習をしてください。
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (社)日本史 (地)日本史

時間割コード	09261301	担当教員	山名 淳		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	木 4
講義題目	教育哲学演習／Seminar in Philosophy of Education 教育哲学演習				

授業の目的・概要	本授業では、哲学の領域でも議論されているテーマを取り上げて関連テキストを読解するとともに、人間形成や教育とのかかわりを主体的に検討する。今回のテーマは「気候変動」である。念頭に置いているのは、教育の枠組みのなかでネガティブな出来事をどのように扱うべきかという問いである。気候変動の問題は〈カタストロフィと教育〉に関する議論の文脈において重要性を帯びている。本授業では、気候変動教育の領域でこれまで何が検討されているかを押さえつつ、この問題を考えるうえで重要と考えられる哲学・思想をピックアップしてテキストを輪読し、その内容を中心にして議論を行う。 本授業を通じて、教育や人間形成の問題を歴史的かつ体系的に論じることができる。より具体的に言えば、本授業を通して、受講生は(1)「気候変動」について論じるための基礎概念および問題構成を習得することができる。(2)「気候変動」という主題との関連で、現代社会における教育について批判的に論じる基本的な構えを身につけることができる。(3)以上のことを前提としつつ、各受講生の個人研究を批判的に再検討する一視点を獲得することができる。以上のことを踏まえて上記のポイントについてより専門的な研究レベルに深化させることができる。
授業計画	”1 回目 ガイダンス(本授業の概要説明) 2 回目 テキスト分担、授業者によるレクチャー 3 回目 授業者によるレクチャーもしくはテキスト班での話し合い 4 回目 テキスト1 5 回目 テキスト2 6 回目 テキスト3 7 回目 テキスト4 8 回目 テキスト5 9 回目 気候変動に関するゲーミフィケーション(実体験) 10 回目 テキスト6 11 回目 テキスト7 12 回目(13 回目分も含む) 関連施設の訪問・観察 II”
授業の方法	最初は授業者(山名)によるガイダンスおよびレクチャーを中心とする。それ以降は、(1)テキストとして選定したテキストの検討、(2)グループディスカッション、(3)全体討議、の流れで授業を行う。なお、毎回の授業の終わりに履修者はコメントペーパーを作成して提出する。 授業では、気候変動に関するゲーミフィケーションの体験、関連施設の訪問・観察も予定しているが、詳細については最初の授業(ガイダンス)においてお知らせする。
成績評価方法	平常点(70 パーセント)と期末感想文(30 パーセント)の総合的評価を行う。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	教育や人間形成に対する関心をもって積極的に参加してください。 教育哲学および教育思想史に関する基礎知識は必須の前提条件ではありません。 授業での積極的な議論参加を期待します。
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09261302	担当教員	小国 喜弘、森 和宏		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	金 2
講義題目	戦後教育史演習／Seminar in History of Modern Japanese Education 戦後教育史演習				

授業の目的・概要	この授業では、日本教育史研究に必要な研究能力、ならびに基礎的な教養を獲得することを目指している。 報告やそのための準備・ディスカッションを通じて、先行研究のレビュー、史資料の蒐集および史料批判、史料に基づいた歴史叙述といった教育史研究に求められる諸能力を身につけつつ、日本教育史に関する基礎的な知識・理解を獲得することが、ここでの目標である。また、それらの歴史的な思索を手がかりとして、改めて現代の教育において求められていることが何なのかについても、考えを深める機会にしたい。 そのためのトピックとして、今年度は 1960 年代から 1970 年代にかけての民間教育運動のなかで特殊教育に取り組んだ教師たちとその実践に焦点を合わせたい。従来の特殊教育／障害児教育史において、1960～70 年代は、特殊学級・養護学校等の整備が進み、「権利としての障害児教育」の保障が進展した時代として描かれてきた。障害のある子どもの「発達」のために科学的な障害児教育を充実すべきだとする「発達保障論」は、いわばその中心に位置し、1979 年の養護学校義務化を到達点として、障害の重い子どもも含めた教育権保障の実現に寄与したことが知られる。 他方、近年の研究は養護学校義務化反対運動などに着目することで、同じ 1960 年代から 70 年代という時期を、障害のある子どもを通常の学校・学級、あるいは社会から排除・周縁化する機構が構築される過程として捉え返してきた。これらの研究は、近代学校教育制度の充実・発展として語られてきた既存の教育史像を批判し、近年のインクルーシブ教育をめぐる研究・運動に対しても、非常に有力な示唆を与えている。 しかしながら、いずれの研究も障害のある子どもの教育をめぐる運動的な対立を背景に進められる傾向が強く、1960 年代から 70 年代は両運動の対立を強調する歴史像が(双方の立場から)描かれてきた。両者の対立が現代のインクルーシブ教育をめぐる対立にも通底しているとき、その対立のみを描いてきた教育史像は、十分に応答できていない。 以上の研究上の背景を踏まえつつ、この授業では、1960 年代から 70 年代にかえての民間教育運動のなかで特殊教育に取り組んだ教師とその実践に着目する。彼らは民間教育運動のネットワークや日教組を中心とする運動を通じて、発達保障論に非常に近い位置、もしくは発達保障論の一翼にあった。しかしながら、従来の歴史研究ではほとんど描かれてこなかった存在でもある。彼らの実践を通して発達保障論をその「周縁」から描き直すことによって、二項対立的な歴史像の再検討を試みる。
授業計画	“第 1 回：イントロダクション(授業内容の導入、自己紹介など) 第 2 回：講義およびディスカッション 第 3 回：先行研究の検討(1) 第 4 回：先行研究の検討(2) 第 5 回：文献購読(1) 第 6 回：文献購読(2) 第 7 回：文献購読(3) 第 8 回：文献購読(4) 第 9 回：文献購読(5) 第 10 回：文献購読(6) 第 11 回：文献購読(7) 第 12 回：文献購読(8) 第 13 回：まとめ”
授業の方法	基本的に、対面で開講します。 第 1 回および第 2 回については、教員からの講義を中心としつつ、この講義でどのようなことに取り組むのかを考えます。第 3 回以降は、担当者(履修者)による報告を中心とし、報告を踏まえて全体および小グループで議論を行う予定です。履修者の数等によって、予定は変更する場合がありますが、第 3 回以降での報告のうち必ず 1 回は担当をしていただきます。
成績評価方法	基本的に、担当する発表(執筆する報告資料)の質について、以下の観点から総合的に評価します。 1 自分自身の主張を明確に言語化し、論証できているか 2 周辺の文献や先行研究を踏まえて、報告を位置づけられているか 3 文献を十分に読み込み、論点を描出できているか また、議論への参加・貢献を重視するため、各回の終わりに短いリアクションペーパーを記入・提出していただきます。その提出をもって出席とみなし、一定以上の出席および報告が認められた場合のみ、成績評価の対象とします。
教科書	その他。／Other
参考書	その他。／Other
履修上の注意・備考	ゼミでの議論のため、報告の担当でない回についても、必ず共通文献(文献の中から、重要だと思われる部分を一部

指定します)を購読したうえで出席をしてください。

何かありましたら、ご遠慮なく、いつでも下記の連絡先までご連絡下さい。|また、オフィスアワーとして、火曜日から金曜日の 14 時～17 時を設定します。赤門総合研究棟 324 号室(バリアフリー教育開発研究センター、森が対応します)にお越しいただいてもかまいません。

授業実施形態 対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus

教育職員免許法上の認定科目

時間割コード	09261303	担当教員	片山 勝茂		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	木 2
講義題目	価値と教育Ⅱ／Seminar in Values and Education II 価値と教育Ⅱ				

授業の目的・概要	2025 年度の「価値と教育Ⅰ」に引き続き、「ケアの倫理と教育」をテーマに、以下の英語文献と日本語文献(教科書)を講読することで、英語文献と日本語文献を精確に読み、理解する能力を向上させるとともに、現代社会における人格教育に関する問題について、(他の人々とコミュニケーションをとりながら)批判的に考える力を身につけることを目標とする。
授業計画	“オリエンテーションと日本語文献の講読が対面授業、英語文献の講読がオンライン授業の予定です。初回は対面で実施します。2回目以降、変更が生じた際には、メーリングリストでお知らせします。 1. オリエンテーション 2. Caring, empathy, and moral education (1) 2. Caring and Empathy p.216 精読 3. Caring, empathy, and moral education (2) 3. Ethics and Empathy p.217 精読 4. ギリガン「第五章 女性の権利と女性の判断」講読 5. Caring, empathy, and moral education (3) 3. Ethics and Empathy p.218 精読 6. ギリガン「第六章 成熟の姿」講読 7. Caring, empathy, and moral education (4) 3. Ethics and Empathy p.219 精読 8. ノディングズ「序章と第一章 社会の深い変化に対する教育の浅薄な対応」講読 9. Caring, empathy, and moral education (5) 4. Moral Education Based on Empathy p.220 精読 10. ノディングズ「第二章 ケアリング」講読 11. Caring, empathy, and moral education (6) 4. Moral Education Based on Empathy p.221 精読 12. ノディングズ「第三章 ディシプリンを超えて—リベラル・エデュケーション批判」講読 13. Caring, empathy, and moral education (7) 4. Moral Education Based on Empathy p.222 精読 14. ノディングズ「第四章 代替するヴィジョン」講読 15. まとめ”
授業の方法	文献講読を基本とする。英語文献については、訳読による精読と内容についてのディスカッションを行う。日本語文献については、報告者が概要と(疑問点や討論の論点を提示する)コメントを発表し、討論を行う。 授業で使用する教材やレジュメは UTOL やメールを通じて電子的に配布します。
成績評価方法	試験は行わない。毎回の授業で提出するコメントシートと期末レポート、授業への参加状況(発表、発言、ディスカッションの積極性など)を合わせて総合的に評価する。期末レポートは「ケアの倫理と教育」をテーマに 2,000 字程度で論じたものとする予定である。
教科書	次の教科書を使用する。／Will use the following textbook
参考書	授業中に指示をする。／Will specify at class time
履修上の注意・備考	英語文献の講読については、発表担当者でない者も、事前に自分の訳を作成した上で授業に参加することを推奨する。また、正当な理由があって欠席する人は配慮する。
授業実施形態	対面・オンライン併用型 A(総時間数の半数以上を対面で実施)／Hybrid Type A(Face-to-face/Online): Conduct classes in-person 50% or more of the total hours of the course
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09261304	担当教員	大塚 類		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	月 4
講義題目	臨床教育現象学演習／Seminar in Clinical Phenomenology of Education 臨床教育現象学演習				

授業の目的・概要	臨床現象学では、私たちが日常生活において体験するさまざまな出来事を「事例」として、現象学や哲学の観点から考察することを試みます。事例に基づく質的研究の一種だと言えるでしょう。 本講義ではまず、講義者の自己紹介も兼ねて、臨床現象学的事例研究の論文を数本読み、その形式を学びます。そのうえで、若者・家族・教育にまつわる個別具体的なトピックを取り上げている『さらにあたりまえを疑え！』を教科書として、皆で対話を重ねます。 人間の普遍的な経験構造を明らかにしようとする学問である現象学には、「個別は普遍に通じる」という言葉があります。個別具体的な事例を深く考察できれば、「私にも思い当たる節がある」、「そういうこともありうるかもしれない」という形で、普遍的な人間理解へと繋げられるはずです。受講者のみなさんが、自分事として当事者性をもって臨めるような身近なトピックを、深く考察することを通して、みなさんの物事を見る観点や、自己／他者理解が深まることを目指します。 Clinical phenomenology attempts to examine various events that we experience in our daily lives as 'cases' from a phenomenological and philosophical perspective. It is a type of qualitative research based on cases. In this lecture; the lecturers will first read several papers on clinical phenomenological case studies and learn about their format; as well as introducing themselves. Then; using the textbook "さらにあたりまえを疑え！ Question the obvious even more!"; which covers individual and specific topics related to youth; family and education; the lecturers will engage in a dialogue. as a textbook; which covers specific topics related to youth; family and education; and we will engage in dialogue together. In phenomenology; the study of the universal structure of human experience; there is a saying that "the individual leads to the universal". If we can deeply examine individual concrete cases; we will be able to connect them to a universal understanding of human beings in the form of "I have an idea of what that could be like" or "That could happen to me too". The aim is to deepen participants' perspectives on things and their understanding of themselves and others through in-depth discussion of familiar topics that they can relate to as their own personal experiences.
授業計画	”1 オリエンテーション 2 臨床現象学に関する論文講読① 3 臨床現象学に関する論文講読② 4 序章：みんなと普通に生きられること＋第一章：家族の形 5 第二章：児童虐待 6 第三章：発達障害 7 第四章：生きられる時空間 8 第五章：いじめ 9 第六章：自閉症スペクトラム障害 10 第七章：カウンセリング 11 第八章：不登校 12 第九章：非行 13 第十章：キャリア教育 14 終章：みんなと普通に生き続けること 1 Orientation 2 Reading of papers on clinical phenomenology (1) 3 Reading of papers on clinical phenomenology (2) 4 Introduction: living normally with everyone + Chapter 1: Family forms 5 Chapter 2: Child abuse 6 Chapter 3: Developmental disabilities 7 Chapter 4: Time and Space for Living 8 Chapter 5: Bullying 9 Chapter 6: Autism Spectrum Disorders 10 Chapter 7: Counselling 11 Chapter 8: Truancy 12 Chapter 9: Delinquency 13 Chapter 10: Career education 14 Concluding chapter: continuing to live normally with everyone else ”
授業の方法	毎回グループワークのため対面実施 ・少人数のゼミ形式で行う。 ・受講者は事前に教科書の該当章を読み、グループワークで話したいテーマを UTOL にて提出 ・授業冒頭は、前回のリアクションペーパーへの回答、事前質問への回答を講義者より行う。(約 10 分) ・メンバーを変えて 2 回グループワークを行う(約 30 分ずつ) ・残りの時間は SLIDO による全体チャット。テーマへの考察を深める。(約 30 分) Format: Sessions are conducted face-to-face to facilitate group work. Seminar Style: The class is held in a small-group seminar format. Pre-session Task: Students must read the assigned textbook chapter in advance and submit their proposed discussion themes via UTOL. Session Structure: Opening (Approx. 10 mins): The instructor provides feedback on reaction papers from the previous session

	and answers pre-submitted questions. Group Work (Approx. 60 mins): Two 30-minute group work sessions will be held with rotating members. Plenary Discussion (Approx. 30 mins): A collective chat session using Slido to deepen the examination of the themes.
成績評価方法	平常点（毎回の出席状況と予習課題・オンラインリアクションペーパーの提出状況） Ordinary marks (attendance at each session and submission of preparatory assignments and online reaction papers)
教科書	次の教科書を使用する。／Will use the following textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	当事者意識をもった積極的な受講を期待します。 毎回、グループワークによる対話を中心とした授業構成のため、「対面授業」とする。 初回の授業はオンデマンド配信の予定。 We expect active participation in the course. As each class is structured around dialogue through group work&comma; the course is designated as a 'face-to-face class' The first class will be delivered on demand. ・出席不正が 1 回でも行われた場合は、速やかに事務に通告します。 ・著しい遅刻や早退の場合、出席とみなしません。 Academic Integrity: Any instance of fraudulent attendance will be reported to the administration office immediately. Punctuality: Students who are significantly late or leave early will not be marked as present.
授業実施形態	対面・オンライン併用型 A（総時間数の半数以上を対面で実施）／Hybrid Type A(Face-to-face/Online): Conduct classes in-person 50% or more of the total hours of the course
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09261305	担当教員	隠岐 さや香		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	月 4
講義題目	高等教育の歴史／History of Higher Education 高等教育の歴史				

授業の目的・概要	この授業では、歴史文献を踏まえつつ、高等教育と呼ばれるものの多様な姿を考察する。高等教育は中等教育のあとの教育を意味し、大学教育だけに留まらない。現代でもフランスにはグランド・ゼコール（Grandes écoles）という、将来の官僚や政治家候補を多く育成する大学以外の組織がある。また、各種専門学校や、成人が自由に参加出来る市民講座も高等教育の一種である。とはいえ時間の制限があるため、授業においては主に日本の最初の西洋型大学といえる東京大学の成り立ちを扱う諸文献を通じて、大学と専門学校の違いや、各国ごとの大学制度の違いなどを確認する。何故なら、19 世紀に由来を持つ東京大学はその初期において、いわば専門学校的な組織の集合体として生まれたのだし、イギリス、フランス、ドイツなど異なる地域の制度的要素を借用し、取り込んだハイブリッドな存在でもあった。また、大学の授業だけではなく、学生寮も学生の学びには重要であった。東京大学については数多くの研究が存在するが、本授業ではとりわけ、東京大学においては周縁的な立場に置かれていた科学史家の中山茂（1928-2014）の記述を参考にする。また、並行して制度に囚われない成人教育の事例についての講義や、外部講師による講演やディスカッションも行う。 高等教育は時に、怪物的な影響力を社会に対して行使する。前述の中山は、日本の戦前の非軍人エリート育成の場であった帝国大学と、軍部・軍閥の人材養成機構をそれぞれ、海の怪獣リヴァイアサンと、陸の怪獣ビヒモスになぞらえた。中山の生きた時代にはビヒモスが瀕死の重傷を負っていたが、現代はどうだろうか。また、制度に囚われない高等教育の役割と可能性は何だろうか。本授業を通じて、受講生は高等教育についての基本的な考えを身につけつつ、社会的な視野で高等教育を考察できるようになるはずである。
授業計画	“暫定的に以下を定める。受講生との相談によって変わる可能性もある 1. イントロダクション(講義) 2. 西洋の大学と専門教育、学生生活(講義) 3. 文献講読とディスカッション 4. 東京大学について(講義と散策) 5. 文献講読(1) 6. 文献講読(2) 7. 文献講読(3) 8. 文献講読(4) 9. 文献講読(5) 10. さまざまな成人教育 11. 外部講師による講演とディスカッション 12. 総合討論”
授業の方法	講義の回と発表の回、ディスカッションの回で構成される。発表の回においては、教員から短い説明の時間があつたあと、担当者が課題文献等の内容を踏まえて発表し、その後全体でディスカッションを行う。その他、大学構内を散策する回がある。
成績評価方法	平常点(コメントペーパーや議論への貢献度)および担当報告の総合評価とする(前者 50%、後者 50%)
教科書	次の教科書を使用する。／Will use the following textbook
参考書	授業中に指示をする。／Will specify at class time
履修上の注意・備考	初回の授業時に分担等を行う予定なので参加出来ない場合は連絡して下さい。 東京大学の構内を散策し、銅像や建物の特徴を観察しておくくと授業が楽しくなる。また、東京大学文書館サイト(https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/history/index.html)の閲覧 もお勧めする。 重要事項は適宜 ITC-LMS で告知する。
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09261306	担当教員	平石 晃樹		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	火 4
講義題目	教育と真理／Seminar in Education and Truth 教育と真理				

授業の目的・概要	本演習の主題として「教育と真理」を設定した背景のひとつには、「ポストウールズ」と呼ばれる状況がある。2016 年にオクスフォード大学出版の「今年の一語」に選出された「ポストウールズ」は、真理なるものに対する人々の態度変化を言い表したものである。もはや人々は真偽を確定するための地道な検証プロセスをうっとうしく思い、「本当っぽく見えるもの (truthiness)」にこそ飛びつく。こうした状況が歴史的には真理の教授を使命として成立した近代公教育の根幹を揺るがしかねないことは想像に難くないはずだ。 あるいはこうもいえよう。今日の教育をめぐる言説では、知識・技能やコンピテンシーなどが語られることはあっても、「真理」が語られることはほとんどない。これは、真理の教授が自明の前提となったからなのか、それとももはや真理の教授など人々はもはや気にかけなくなったからなのか。もし後者だとしたら、かのポストウールズ現象は以前から静かに進行していた地殻変動をすくいとるための言葉だということになるだろう。 以上の関心と見立てのもと、本演習では、①教育と真理の関係を思想的観点から検討しつつ、②いま言われている「ポストウールズ」なる現象の内実をより明確に把握することを目指したい。
授業計画	“初回は担当教員がイントロダクションを行う。以後の回は指定文献の講読にあてる。”
授業の方法	文献講読のスタイル。毎回報告者を立て検討文献について報告を受けたのち、参加者全員で議論する。
成績評価方法	平常点、発表、最終レポートを総合的に評価する。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	受講者は毎回指定の範囲の文献をよく読み込んでから授業に臨むこと。
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09261401	担当教員	平石 晃樹		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	火 4
講義題目	道徳と教育／Morality and Education 道徳と教育				

授業の目的・概要	本講義では、基本的には日本の小中学校で「特別の教科 道徳」としておこなわれている道徳教育の実情(学習指導要領から教科書・授業実践例まで)をフィールドとして設定しながら、そこにいかなる教育哲学的な諸問題がひそんでいるのかを明らかにすること目標とする。「道徳を教育することはできるのか」「そもそも道徳とはなにか」ということ自体すでに難問なのだが他方で、日本の学校現場で使用されている道徳の教材や実践例、あるいはそれらを下支えする学習指導要領のほうから立ち上がる教育哲学上の問いというものもある。本講義ではむしろそうした問いをめぐる考察にも同程度のウェイトを置くことで、教育の理論と実践を往還する視点を受講者とともに探究することをめざしたい。
授業計画	”以下の計画は暫定的なものであり受講者の関心等におうじて修正することがある。 1. イントロダクション:道徳教育の現在地 2. 道徳を教えることはできるのか 3. 道徳の授業を受けもつからには完璧に道徳的でなければならないのか 4. 道徳はほんとうにひとそれぞれなのか 5. 道徳教育は価値観の押しつけから逃れられるのか 6. 道徳教育とは「こころを育む」ことなのか 7. 道徳性が成長するとはいかなることなのか 8. 日本的道徳教育はなぜ自己犠牲が好きなのか 9. 道徳教育のゴールはどこにあるのか 10. 道徳教育と哲学教育はいかに関連するか 11. 道徳教育と公民科教育はいかに関連するか 12. 海外ではどのような道徳教育がなされているのか 13. 講義の総括:これからの道徳教育を想像する ”
授業の方法	担当者による講義形式をベースとしながら、受講者数や受講者の関心等を勘案して文献読解やディスカッションを取り入れる予定である。
成績評価方法	平常点(20%)と期末レポート(80%)による。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	特になし。
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※6 参照 ※G 参照 教科又は教職に関する科目(旧) 大学が独自に設定する科目(新)

時間割コード	09261402	担当教員	星加 良司、能智 正博、野崎 大地、熊谷 晋一郎、近藤 武夫、額賀 美紗子、東郷 史治、飯野 由里子、大塚 類		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	金 5
講義題目	ダイバーシティ・インクルージョン概論／Introduction to the Theories of Diversity and Inclusion ダイバーシティ・インクルージョン概論				

授業の目的・概要	障害者・女性・性的マイノリティ・外国にルーツを持つ人々等、多様な背景や特性を持つ人々の包摂(ダイバーシティ・インクルージョン)の必要性が社会的な関心事となっている。一方で、現実を目を向ければ、多様性の包摂は道半ばであるばかりでなく、ヘイトやバックラッシュ等、差異や多様性をめぐる分断や格差が先鋭化する状況すら顕在化している。こうした「理念」と「現実」とのギャップを的確に分析し、それを架橋するための方略を探究する知性が、多様性を包摂する社会に生きる私たちには求められている。本授業では、マジョリティ中心に形成された環境・制度・規範等がマイノリティを周縁化するメカニズムに着目しつつ、様々な専門性を有する教員の講義を通じて、多様性が活きる社会を実現するための視点や実践的知見を提供する。 ※なお、この授業は、学部横断型「ダイバーシティ・インクルージョン教育プログラム」のコア科目(選択必修)として開講されている。
授業計画	”第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 ダイバーシティ・インクルージョン(DI)をめぐる動向と基礎的課題 第 3 回 移民の子どもから考える日本社会の多様性 第 4 回 インクルーシブ教育とは 第 5 回 インクルーシブ教育と ICT 第 6 回 身体機能の障害に立ち向かう科学技術 第 7 回 思春期の多様な自己実現を可能にする心の健康とメンタルヘルスリテラシー 第 8 回 ナラティヴと障害 第 9 回 解釈的正義と当事者研究 第 10 回 DI とクエア・アクティヴィズム 第 11 回 DI と障害学 第 12 回 クエア理論と障害学を架橋する 第 13 回 これからの「多様性理解」について考える”
授業の方法	この授業は、ガイダンスも含めてオンラインで行います。開始時間までに下記 Zoom ミーティングにアクセスするようにしてください。 https://u-tokyo-ac-jp.zoom.us/j/81259457827?pwd=VTU4H7DwaE1YZvxLmWYcbtad5whei8.1 ミーティング ID: 812 5945 7827 パスワード: 251428
成績評価方法	毎回の講義(第 2 回以降)に対するリアクションペーパーを中心に、各担当教員から随時提示される課題への評価を加味して総合評価を行います。リアクションペーパーについては、オンライン講義の最後の 10 分に、UTOL を用いて入力して貰う予定です。あまりに短い文章(例えば 30 字以内)は、0 点とすることがあります(各回 10 点満点で合計 120 点満点となり、指定の比率に応じた相対評価で成績をつけていきます)。およそ 200 字前後を目安として、自らの考えをしっかりとまとめる機会として用いてください。提出は、講義日の翌々日(日曜日
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	Zoom の参加 URL については、固定された URL を設定していますが、担当教員によって変更する可能性もありますので、毎回確認をするようにしてください。インターネットにうまくつながらない場合、事情により時間内で接続できなかった場合のために、講義を録画しています。
授業実施形態	オンライン型(オンラインのみで実施)／Fully Online: All classes conducted online
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09261501	担当教員	片山 勝茂、平石 晃樹、山名 淳、大塚 類、隠岐 さや香		
単位数	2	学 期	通年	時 限	月 1
講義題目	基礎教育学研究指導／Tutorial in Basic Theories of Education 基礎教育学研究指導				

授業の目的・概要	基礎教育学コースの卒業論文の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。山名と平石が教育哲学、隠岐が教育史、片山が教育人間学、大塚が教育臨床学を担当し、個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。また、コース全体での卒論指導会も複数回実施する。
授業計画	”この授業は集中形態の授業である。履修者は複数回にわたり、自分の卒業論文の研究主題についての報告を行う。その報告のために、履修者は事前に自分の研究テーマに関連する教員から資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等についての指導を受け、十分な準備をしなければならない。報告においては、自分の研究内容についての系統的なプレゼンテーションをしなければならない。その報告を受けて、担当教員全員ならびに当日の参加者との間で質疑応答を行う。 第1回 基礎教育学研究指導 オリエンテーション 第2回 卒業論文作成における留意点 第3回 卒業論文作成のためのガイドライン 第4回 卒業論文作成のための主題選択(個別指導)1 第5回 卒業論文作成のための主題選択(個別指導)2 第6回 卒業論文作成の方法(個別指導)1 第7回 論文作成の方法(個別指導)2 第8回 個別の報告・全体の指導1 第9回 個別の報告・全体の指導2 第10回 個別の報告・全体の指導3 第11回 個別の報告・全体の指導4 第12回 中間報告1 第13回 中間報告2 第14回 中間報告3 第15回 中間報告4 第16回 秋季報告1 第17回 秋季報告2 第18回 秋季報告3 第19回 秋季報告4 第20回 最終報告1 第21回 最終報告2 第22回 最終報告3 第23回 最終報告4 第24回 直前指導1 第25回 直前指導2 第26回 直前指導3 第27回 直前指導4 第28回 概要作成1 第29回 概要作成2 第30回 研究指導のまとめ ”
授業の方法	個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。また、コース全体での卒論指導会も複数回実施する。
成績評価方法	卒論指導会でのプレゼンテーションと質疑応答、各自の目標達成度、研究成果によって評価を行う。
教科書	次の教科書を使用する。／Will use the following textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	基礎教育学コースで卒業論文を執筆する者は必ず登録すること。また、前学年までにコースの必修科目及び選択科目の単位数を合わせて 30 単位以上修得しておくこと。
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	

・教育社会科学専修

時間割コード	09262301	担当教員	卯月 由佳		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	月 3
講義題目	教育の計量社会科学／Quantitative Social Sciences in Education 教育の計量社会科学				

授業の目的・概要	教育、社会、経済の関連について把握し、説明するための社会科学の理論を学び、その理論に基づいて量的データ分析を行うための、多変量解析の基礎的な考え方とモデルについて理解することが本授業の目標です。パソコンを用いたデータ分析実習も行います。なお、本授業は、社会調査士カリキュラムの E 科目(多変量解析の方法に関する科目)に対応しています。
授業計画	”1.教育の社会科学(人間開発、不平等、世代間移動、政策) 2.社会・経済が教育に与える影響に関する理論とデータ分析 3.教育が社会・経済にもたらす効果に関する理論とデータ分析 4.線形回帰(単回帰):相関係数、共分散、最小二乗法とその前提条件 5.データ分析実習(1):単回帰 6.線形回帰(重回帰):統制変数、モデル適合度の評価、パス解析 7.データ分析実習(2):重回帰 8.非線形回帰(1):二乗項、対数項、交互作用項 9.非線形回帰(2):ロジスティック回帰 10.データ分析実習(3):ロジスティック回帰 11.教育政策立案・評価に必要なデータと分析 12.データ分析実習(4):データ分析結果の発表(重回帰、ロジスティック回帰) 13.教育の社会科学に関する多変量解析の総括テストと解説”
授業の方法	講義形式及び演習形式で授業を行います。データ分析の理解を深めるため、データ分析実習では課題提出を求めます。最後に総括テストを行います。なお、進行状況に応じて授業計画を変更する場合があります。
成績評価方法	総括テストの結果に基づいて成績を評価します。授業に積極的に参加した場合は、その参加状況(課題の提出状況を含む)を成績に加味する場合があります。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	授業中に指示をする。／Will specify at class time
履修上の注意・備考	データ分析実習の回にはノートパソコンを教室に持参してください。統計分析ソフトとして R を利用する予定です。R に関する知識は履修の前提としません。
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09262302	担当教員	本田 由紀		
単位数	2	学 期	S1	時 限	火 4, 金 4
講義題目	日本社会の変容と課題／Change and Problems of Japanese Society 日本社会の変容と課題				

授業の目的・概要	日本社会の変容と課題について、様々な文献やデータを読み取ることを通じて、現在の日本社会の特徴と求められる対策について認識を深める。 一般的・抽象的なレベルでは、ある社会の構造とその変動を俯瞰的に捉える見方、国際比較により社会間の体制の相違を知り特定の社会状況を相対化する見方、図表を読み取りながらデータが意味している事柄を解釈する力、ある社会で支配的な言説や規範を批判的にとらえ返す力などをつけることを目標とする。
授業計画	”授業計画 第1回:オリエンテーションと講義(「日本の高等教育費用負担構造」) 第2回:講義(「探究学習のパネル分析」) 第3回:格差と貧困 第4回:いじめ 第5回:進路選択 第6回:大学教育の意味 第7回:労働市場と賃金 第8回:恋愛・結婚 第9回:男性性・女性性 第10回:外国ルーツの人々 第11回:社会意識 第12回:不平等・教育・メリトクラシー 第13回:ふりかえりと期末課題構想発表”
授業の方法	文献を講読し、履修者間で議論することにより、現代日本社会の現実と問題点について知り、その中で個人がいかなる役割を果たしてゆけるかについての認識を形成する。 授業で得た知識をふまえ、中間課題・期末課題を課す。
成績評価方法	授業時に提出する講読票、中間課題、期末課題を5:2:3の比率で評価する。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	現代の親子関係、若年労働市場、教育政策、社会福祉などについて社会的課題と研究上の課題を幅広く押さえる内容の授業であるため、それらに関する実証的研究に取り組もうとする者にとって直接的に役立つことはもちろん、社会学の方法論・理論についての基礎教養を得ることができる。 対面(オンラインも併用)
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09262303	担当教員	本田 由紀		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	火 4
講義題目	教育社会学理論演習／Seminar on Theories of Sociology of Education 教育社会学理論演習				

授業の目的・概要	この授業では、(教育)社会学に関わる主な社会学理論についての基本文献を講読することを通じて、(教育)社会的な「ものの考え方」とは何か、それは時代や社会によってどのような拘束性を帯びているか、理論と現実を照らし合わせることによってどのように双方に対して示唆が得られるかを学ぶことを目的とする。
授業計画	“第1回:オリエンテーション 第2回:牧野智和『社会は「私」をどうかたちづくるのか』はじめに～第2章 第3回: “ 第3章 第4回: “ 第4章 第5回: “ 第5章 第6回:ニコラス・ローズ『生そのものの政治学』序章・第1章 第7回: “ 第2章・第3章 第8回: “ 第4章 第9回: “ 第5章 第10回: “ 第6 第11回: “ 第7 第12回: “ 第8 第13回: 期末レポート構想発表”
授業の方法	各回の指定文献について出席者はあらかじめ講読票を書いて提出する。その内容について全員で議論を行う。学期末には特定の理論や概念を取り上げて検討するレポートを執筆する。
成績評価方法	各回の講読票およびレジメと期末レポートを 7:3 の比で評価する。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	事前に「教育社会学概論」を履修していることが望ましい。 社会学という学問の固有の特性を理解することができる内容であるため、社会学系の大学院への進学を考えている者はもちろん、幅広い社会科学系の学問分野および仕事分野の基礎教養として役立つ。 対面(教室で Zoom 使用)
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (社)社会学 (公)社会学

時間割コード	09262304	担当教員	阿曾沼 明裕、日下田 岳史、両角 亜希子、福留 東土		
単位数	2	学 期	S2	時 限	木 3, 木 4
講義題目	大学論／University Studies 大学論				

授業の目的・概要	本授業では大学教育や大学という存在に焦点を当てる。大学を含めた高等教育段階の教育研究は、伝統的な教育学において主要な研究対象ではなかったが、ここ 30 年ほどで大きく研究が進展した分野である。本授業の担当教員は、普段、大学院の「大学経営・政策コース」の教育を担当しているが、その知見を学部教育に反映させ、学部生向けに編成した授業を行う。 本授業の主要な目標は、受講生各自の大学生生活の経験に立脚しながら、各自が自分の視点から、大学での学習や大学生生活の意義を捉えることができるようになることである。各自の学習や学生生活を考える材料として、それらを支える教育とカリキュラム、学生支援、歴史的・比較的視点を取り上げる。もうひとつ、この授業で重視するのは、大学院生・大学職員と学部生との対話である。相互にとって学びの機会になると思う。
授業計画	”4 名の講師が順に担当する。 6/4、6/11 阿曾沼 高等教育の制度的概念、大学の歴史 6/18、6/25 日下田 投資としての大学進学、投資を規定する諸要因、内部収益率からみる大学論、家計の教育費負担 7/2 福留 入学者選抜・大学カリキュラムの日米比較 7/9、7/16 大学教育モデルと現実、教育改善をめぐる政策と現場の課題 ★受講生の関心等を見つつ、修正する可能性もある。”
授業の方法	講義、学生間のグループディスカッション、受講生の発表と意見交換を中心に行う。
成績評価方法	授業への参加と貢献、期末レポートによる。 期末レポートについては、最終回(7/16)に案内する。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	できるだけ学生参加型の授業編成とするので、授業に積極的に参加すること。また、要望があれば担当教員に伝えること。 受講を決めたら Google Classroom への登録を済ませること。
授業実施形態	対面・オンライン併用型 A(総時間数の半数以上を対面で実施)／Hybrid Type A(Face-to-face/Online): Conduct classes in-person 50% or more of the total hours of the course
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09262305	担当教員	勝野 正章、橋野 晶寛、村上 祐介		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	金 3
講義題目	教育行政調査演習Ⅲ／Seminar in Field Research on Educational Administration Ⅲ 教育行政調査演習Ⅲ				

授業の目的・概要	自治体や学校をフィールドとした調査および実証分析の方法の基礎を学び、教育政策の課題、教育行政や学校の改革動態について理解を深めることを目標とする。テーマや調査対象は参加者の討議により自主的に決定し、演習Ⅱ（A1・A2）での調査に向けて計画を立てる。教育行政調査演習Ⅱと併せて履修することが望ましい。
授業計画	“質的・量的な調査および分析手法の基礎を学んだ上で、演習Ⅳでの調査に向けてテーマ設定・調査の企画を行う。 原則として対面で実施する。 授業の順序や内容については受講生の状況をみて変更することがある。 第1回 オリエンテーション 第2回 政策リサーチの方法 第3～6回 量的研究法の基礎 第7～10回 質的研究法の基礎 第11回 実証研究の検討 第12回 研究倫理 第13回 授業のまとめ”
授業の方法	文献講読・発表、討議を組み合わせで行う。
成績評価方法	平常点と期末レポートによる。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	次の参考書を使用する。／Will use the following reference book
履修上の注意・備考	時間割上に設定された時間以外に作業を行う場合も生じることもありうるので留意すること。
授業実施形態	対面・オンライン併用型 A（総時間数の半数以上を対面で実施）／Hybrid Type A(Face-to-face/Online): Conduct classes in-person 50% or more of the total hours of the course
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09262306	担当教員	勝野 正章、橋野 晶寛、村上 祐介		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	金 3
講義題目	教育行政調査演習Ⅳ／Seminar in Field Research on Educational Administration Ⅳ 教育行政調査演習Ⅳ				

授業の目的・概要	実地調査や聞き取り調査、およびデータ分析を通じて、教育政策の課題、教育行政や学校の改革動態について理解を深めることを目標とする。調査結果を報告書にまとめる。
授業計画	”テーマの設定、先行研究の検討、調査の計画・実施、データ分析、報告書の作成を小グループを単位として行う。 原則として対面で授業を実施する。 第 1 回 オリエンテーション、 第 2 回 グループの設定、予備学習 第 3～8 回 班での作業 第 9 回 中間発表 第 11～12 回 班での作業 第 13 回 最終発表 ※適宜、実地での聞き取り調査を行うことがある。 ”
授業の方法	グループで計画を立て、調査・分析を行う。時間割上に設定された時間以外に調査を行う場合も生じることに留意してほしい。
成績評価方法	出席状況と報告書による。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	・時間割上に設定された時間以外に作業を行う場合も生じることもありうるので留意すること。 ・教育行政調査演習Ⅲ（S1S2）を履修していることが望ましい。
授業実施形態	対面・オンライン併用型 A（総時間数の半数以上を対面で実施）／Hybrid Type A(Face-to-face/Online): Conduct classes in-person 50% or more of the total hours of the course
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09262308	担当教員	浅井 幸子		
単位数	2	学 期	S1	時 限	火 1, 火 2
講義題目	教育方法学演習 I／Seminar of Research on Teaching and Curriculum I 教育方法学演習 I				

授業の目的・概要	[授業の目標] この授業では、教育実践の研究課題や実践上の課題の概要を理解するとともに、教育方法学領域の研究手法の基礎のなかでも主に観察法を身につける。具体的には、以下の通りである。 1. 授業、カリキュラム、教師、教育内容(リテラシー)、教育評価に関する、研究上、実践上の今日的課題について概要を理解する。 2. 授業、カリキュラム、教師、教育内容(リテラシー)、教育評価に関して、研究課題を設定し、探究する。 3. 課題を探究する過程で、記録の採取の仕方、フィールドワークの仕方、文献収集の方法等を身につける。 4. 採取した記録のまとめ方やプレゼンテーションの仕方を身につける。 5. 教育方法学とはどのような学問か、自分なりの説明ができるようになる。 [授業の概要] 教育方法学は、特定の親学問をもたず、教育事象に対する臨床性やアプローチの学際性を特徴とする。教育実践に関するあらゆる事柄が研究対象となっているが、主として研究が進められてきたのは、授業研究、カリキュラム研究、教師研究、教育内容研究、教育評価研究、である。この授業では、授業、カリキュラム、教師、教育内容(リテラシー)、評価などのトピックごとに、近年の課題状況を概観したうえで、授業観察を中心としたフィールドワークや、文献調査、インタビュー調査等を行う。教育実践への課題意識や興味関心を基盤としたグループに分かれて探究し、報告会を行う。
授業計画	”第1回 ガイダンス:教育方法学とは 第2回 教育実践研究の課題(1)教師研究 第3回 教育実践研究の課題(2)授業研究 第4回 教育実践研究の課題(3)保育研究 第5回 教育実践の研究(1)フィールドワークと質的研究法(観察法、面接法) 第6回 教育実践の研究(2)フィールドワーク 第7回 教育実践の研究(3)報告会”
授業の方法	第1回は、ガイダンスの後、主として講義と文献購読による情報の共有を行う。 第2回～第4回は、主として教育実践研究に関する文献を購読し、教育実践研究のあり方や課題を学ぶ 第5回～第7回は、主として教育実践研究の方法に関する文献購読、実施、報告を行う。
成績評価方法	授業への参加状況とレポートの提出状況によって総合的に評価する。 用意された活動のすべてに参加した者を成績評価の対象とする。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	履修希望者は必ず初回の授業に出席すること。 情報収集やフィールドワークは受け入れ機関の事情により、必ずしも授業時間内に実施できるとは限らない。授業時間外でも活動をすることになるので、注意されたい。
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09262309	担当教員	李 正連		
単位数	2	学 期	A1	時 限	火 3, 火 4
講義題目	社会教育学演習 I / Seminar in Adult and Lifelong Education I 社会教育学演習 I				

授業の目的・概要	本授業のテーマは、「教育福祉と社会教育・生涯学習」とする。近年拡大しつつある社会格差やさまざまな社会的排除の問題を受け、それらの問題を教育の側面からとらえ、生涯学習を基盤とした教育福祉による社会的包摂の可能性を考える。
授業計画	”第 1 回 オリエンテーション&教育福祉について考える。 第 2 回 問題の所在(第 1 章～第 4 章) 第 3 回 実践の諸相(第 5 章～第 8 章) 第 4 回 実践から学ぶ①ゲストスピーカーによる特別講義 第 5 回 課題と展望(第 9 章～第 12 章) 第 6 回 実践から学ぶ②実践現場の見学 第 7 回 全体のまとめ(第 13 章) ”
授業の方法	指定文献の輪読(発表と討論)を基本とするが、演習内でゲストスピーカーにも適宜参加していただく。また、実践現場にも出向き、見学する予定である。 なお、履修者は発表以外にも、各回の指定文献についてあらかじめ講読票を書いて提出する。
成績評価方法	演習への参加度、課題(発表と講読票、ワーキングペーパー等)への取組状況を総合的に評価する。
教科書	教科書は使用しない。/ Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。/ Will not use reference book
履修上の注意・備考	初回の授業では発表の順番や履修方法について説明するので、履修希望者は必ず出席すること。 授業での積極的な発言・参加を求める。
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)/ Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09262310	担当教員	新藤 浩伸		
単位数	2	学 期	A2	時 限	木 3, 木 4
講義題目	社会教育学演習Ⅱ／Seminar in Adult and Lifelong EducationⅡ 社会教育学演習Ⅱ				

授業の目的・概要	都市における市民の学習・文化活動の実態はどのようなものか。それが都市の形成とどのように作用しあいながら営まれてきたか。行政はそうした活動をどう支えているか。文献講読と大学近隣の地域活動の調査を通じて探る。 ここ数年は東京都昭島市、渋谷区、杉並区をフィールドにしてきたが、2026 年度も東京都内の自治体を予定している。
授業計画	“授業開始時に提示する。”
授業の方法	文献講読とフィールドワークによる。大学近隣の自治体の社会教育施設、あるいは NPO や自治会等の活動に注目し、そこで活動している方々に取材しながら、そこで行われている活動内容、培われる人間関係、作り出されてきた文化の内容などに注目してレポートする。調査の形態(全体で調査するか、グループに分かれるか)は受講人数と受講者の関心に応じて最終的には決定する。可能であれば期末にレポート集を作成する。
成績評価方法	出席および授業への参加状況により判断する。
教科書	その他。／Other
参考書	授業中に指示をする。／Will specify at class time
履修上の注意・備考	フィールドワークを織り交ぜる予定だが、調査先で失礼のないよう心がけること。
授業実施形態	対面・オンライン併用型 A(総時間数の半数以上を対面で実施)／Hybrid Type A(Face-to-face/Online): Conduct classes in-person 50% or more of the total hours of the course
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09262311	担当教員	新藤 浩伸		
単位数	1	学 期	通年	時 限	木 6
講義題目	博物館学特別研究／Special Studies in Museum Activities 博物館学特別研究				

授業の目的・概要	博物館実習について、事前および事後の指導を行う。
授業計画	” 実習は、事前のガイダンス、博物館現場での実習および実習記録の作成と実習報告の執筆、発表によって行われる。 学事日程上の授業初回日にガイダンスを行うので(オンラインで実施予定)、履修希望者は必ず参加すること。近年ガイダンスに参加せず履修する学生が増えているため、正当な理由なく参加しなかった場合は評価を下げる。”
授業の方法	実習先については、「関連ホームページ」に掲載された館については紹介可能だが、それ以外は自身で探すものとする。実習期間だけではなく、学内で行う事前事後の指導も合わせて出席することが求められる。
成績評価方法	実習、事後指導への出席、実習後の報告、レポートをもとに総合的に評価する。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	履修するには、原則として前年に、博物館概論(教育学部)、文化施設経営論(文学部)、博物館資料論(文学部)、博物館資料保存論(理学部)、博物館教育論(教育学部)、博物館展示論(文学部)、博物館情報・メディア論(教育学部)のうち最低二つを受講していることが必要である。詳細は相談に応じるので、これらの科目未履修者は個別に問い合わせること。 ・不明点等はメールにて問い合わせること。
授業実施形態	対面・オンライン併用型 A(総時間数の半数以上を対面で実施)／Hybrid Type A(Face-to-face/Online): Conduct classes in-person 50% or more of the total hours of the course
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09262312	担当教員	宮田 玲		
単位数	2	学 期	S1	時 限	月 3, 月 4
講義題目	教育と言語処理／Education and Language Processing 教育と言語処理				

授業の目的・概要	言語処理の基本的な技術を演習形式で学びながら、教育場面への応用やその課題について理解する。前半では、文字列処理・言語処理の要素技術について個別に解説した上で、具体的な教育実践・教育研究を想定しながら、実際のテキストに対する分析を行う。後半では、生成 AI サービスの基盤となる技術の仕組みや挙動を解説した上で、教育場面における言語処理技術の活用に関する動向を概観する。最後に、教育と言語処理をテーマに、テキスト分析あるいはツール開発に関する演習課題に取り組む。 本授業では、言語処理技術でできること・できないことを把握した上で、その応用について検討できるようになることが目標である。また、言語処理の技術的側面を扱いつつ、知識の伝達を可能にする記号・言語・文書のあり方とはどのようなものか、という基本的な問いに随時立ち戻りながら授業を進める。
授業計画	”1 オリエンテーション 2 テキストの基本操作(文字エンコーディング、ファイル操作、正規表現) 3 テキストの整備(文書、コーパス、アノテーション) 4 文の解析(形態素解析、構文解析、意味解析) 5 概念の分析(固有表現抽出、専門用語抽出) 6 機械学習の基礎(種類、仕組み) 7 ニューラルネットワークの基礎(学習の仕組み、テキストのベクトル表現) 8 ニューラルネットワークの応用(Transformer、BERT、大規模言語モデル、生成 AI) 9 自然言語処理の教育応用(機械翻訳と英語教育、リーダビリティとことばの支援) 10～13 総合演習 以上はあくまで目安であり、参加者の関心・背景知識に応じて、適宜内容を組み替える。”
授業の方法	講義と演習を組み合わせる。レジュメやベースとなるソースコードを配布する。
成績評価方法	授業参加、演習課題(発表含む)、レポートによって総合的に評価する。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	授業ではプログラミング言語 Python を使った演習を行う。基本的なコードはあらかじめ用意するため、プログラミング技術は前提としないが、授業では積極的に手を動かして、試行錯誤することが重要である。授業以外でも Python の基礎を学んでおくと、より効果的に演習に取り組めるようになる。授業時はインターネットにつながる PC を持参すること。
授業実施形態	対面・オンライン併用型 A(総時間数の半数以上を対面で実施)／Hybrid Type A(Face-to-face/Online): Conduct classes in-person 50% or more of the total hours of the course
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09262313	担当教員	影浦 峯		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	金 1
講義題目	講義をきく技術:MIT Linear Algebra(線形代数)MOOCS 講義を通して I /Skills for Understanding Lectures: Using MIT Linear Algebra Video Lecture as a Case I 講義をきく技術:MIT Linear Algebra(線形代数)MOOCS 講義を通して I				

授業の目的・概要	以下の二点を目標とする。 (1) 英語授業を聞くために必要な語学としての英語のスキルを診断確認するとともに「文書パッケージ」としての授業を理解するために言語・記号をたどるための基礎技術を身につけること。 (2) 線形代数の基本を統計学の最小二乗法に対応する直行射影のところまで理解すること。 This lecture course has two objectives: (1) To diagnose students' own English skills in understanding university-level English lectures and to gain basic skills of following manipulation of symbols and language expressions necessary for undersatnding lectures as a &quot;document package&quot;; (2) To understand introductory Linear Algebra up to orthogonal projection that correponds to least square solutions in statistics.
授業計画	”夏学期は、MIT Open Course Series 18.06 Linear Algebra の第 1 講から第 16 講を聞き、対応した線形代数の内容の理解と内容を理解するために講義をきく技術の基本を身につける。扱う MIT の講義は以下である。 Lecture 01 Lecture 02 Lecture 03 Lecture 04 Lecture 05 Lecture 06 Lecture 07 Lecture 08 Lecture 09 Lecture 10 Lecture 14 Lecture 15 Lecture 16 Lecture 11-13 は応用なので課題とする。 講義をきく技術としては、主に以下を扱うが、参加者の状況に応じて柔軟に変える。 - 言語表現そのものへの着目 - 既知と未知、それに対応した新たな知識の領域とそれを意味づける流域との区別 - 問いの定式化 - 量子子を含む論理形式の初歩的認識 - 質疑において言語表現を参照すること - 解答・理解の探索領域の明示化 The lecture course will cover MIT Linear Algebra course Lectuer 1 to Lecture 16. Participants are supposed to understand the Linear Algebra covered by the lecture and to gain basic skills of listening to lecture courses. MIT lectures covered will be: Lecture 01 Lecture 02 Lecture 03 Lecture 04 Lecture 05 Lecture 06 Lecture 07 Lecture 08 Lecture 09 Lecture 10 Lecture 14 Lecture 15 Lecture 16 Lectures 11-13 will be left for participants for self stody. As for the skills for listening to lecture courses&comma; the following will be covered&comma; subject to change dependent on students. - Identifying language expressions per se; - Old and new information and corresponding new knowledge and the sphere of meanings; - Formulating questions; - Rudimentary logical statements including quantifiers; - Referring to language expressions in QA; - Clarification of the search space for QA. ”
授業の方法	毎回、概ね以下を繰り返す。 前回までの確認(冒頭 5-10 分) MIT lecture をきく(40-55 分) 質疑応答(10 分前まで) まとめ(10 分) For each lecture: - revieing what we learned (up to) the previous week (5-10 min) - Listening to MIT lecture (40-55 min) - QA (to 10 min before the end) - summary (10 min)
成績評価方法	平常点 Based on class participation
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	事前に次の回の lecture を見ておくこと Watch the lecture for tne next class
授業実施形態	オンライン型(オンラインのみで実施)／Fully Online: All classes conducted online
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09262314	担当教員	影浦 峯		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	金 1
講義題目	講義をきく技術:MIT Linear Algebra(線形代数)MOOCS 講義を通してⅡ／Skills for Understanding Lectures: Using MIT Linear Algebra Video Lecture as a Case Ⅱ 講義をきく技術:MIT Linear Algebra(線形代数)MOOCS 講義を通してⅡ				

授業の目的・概要	以下の二点を目標とする。 (1) 英語授業を聞くために必要な語学としての英語のスキルを診断確認するとともに「文書パッケージ」としての授業を理解するために言語・記号をたどるための基礎技術を身につけること。 (2) 線形代数の基本を固有値・固有ベクトル、SVD と一般化逆行列のところまで理解すること。 This lecture course has two objectives: (1) To diagnose students’ own English skills in understanding university-level English lectures and to gain basic skills of following manipulation of symbols and language expressions necessary for undersatnding lectures as a &quot;document package&quot;; (2) To understand introductory Linear Algebra up to engenvales and eigenvectors&comma; and SVD and generalised inverse.
授業計画	”夏学期は、MIT Open Course Series 18.06 Linear Algebra の第 17 講から第 33 講を聞き、対応した線形代数の内容の理解と内容を理解するために講義をきく技術の基本を身につける。扱う MIT の講義は以下である。 Lecture 17 Lecture 18 19 Lecture 20 Lecture 21 Lecture 22 Lecture 23 24 Lecture 25 Lecture 27 Lecture 28 Lecture 29 Lecture 30 Lecture 31 Lecture 33 Lecture 24b&comma; 26&comma; 32&comma; 34 は応用・クイズなので課題とする。 講義をきく技術としては、主に以下を扱うが、参加者の状況に応じて柔軟に変える。 - 言語表現そのものの反復 - 言語・記号への参照と意味の表出、対応する新情報と旧情報 - 個体指示による対象の固定 - 説明とは何をするのか - 統合的入れ替えと系列的置き換え - 構造マッチングに基づく問の定式化 The lecture course will cover MIT Linear Algebra course Lectuer 17 to Lecture 33. Participants are supposed to understand the Linear Algebra covered by the lecture and to gain basic skills of listening to lecture courses. MIT lectures covered will be: Lecture 17 Lecture 18 19 Lecture 20 Lecture 21 Lecture 22 Lecture 23 24 Lecture 25 Lecture 27 Lecture 28 Lecture 29 Lecture 30 Lecture 31 Lecture 33 Lecture 24b&comma; 26&comma; 32&comma; 34 は応用・クイズなので課題とする。 Lectures 24b&comma; 26&comma; 32 and 34 will be left for participants for self stody. As for the skills for listening to lecture courses&comma; the following will be covered&comma; subject to change dependent on students. - Repeating exact language expressions; - Referring to symbols and language expressions&comma; distinguishing use to represent meanings and mentioning the symbols&comma; and identifying new and known information; - Fixing the referent by using singular entity identifiers; - Understanding &quot;explaining&quot;; - Using syntagmatic swapping and paradigmatic replacement; - Detecting questions by using structural matching. ”
授業の方法	毎回、概ね以下を繰り返す。 前回までの確認(冒頭 5-10 分) MIT lecture をきく(40-55分) 質疑応答(10 分前まで) まとめ(10 分) For each lecture: - revieing what we learned (up to) the previous week (5-10 min) - Listening to MIT lecture (40-55 min) - QA (to 10 min before the end) - summary (10 min)
成績評価方法	平常点 Based on class participation
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	事前に次の回の lecture を見ておくこと Watch the lecture for tne next class
授業実施形態	オンライン型(オンラインのみで実施)／Fully Online: All classes conducted online
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09262315	担当教員	山田 翔平		
単位数	2	学 期	S2	時 限	金 1, 金 2
講義題目	情報組織論演習／Seminar in Information Organization 情報組織論演習				

授業の目的・概要	伝統的な図書館の世界では、目録と分類が資料組織化の 2 つの中心であった。21 世紀、文字、画像、動画、音声、ソフトウェアなどあらゆる形式の情報・知識がデジタル化され、コンピュータ・ネットワーク上に膨大かつ半永久的に蓄積される時代になって、目録、分類を初めとする情報組織化の理論と実践は発展し、ますます重要になっている。 本授業のテーマは、分類やインデクシング(索引語付与)など、主題分析に基づいた情報組織化である。本授業の目的は、主題分析に基づいた情報組織化についての基礎的理論と実践的技法を学び、さらに学習・研究を続ける契機となる問題意識を獲得することにある。授業は、(1)情報組織化および主題分析の社会的な意義・機能と、その歴史的な変化について学ぶパート、(2)印刷資料をモデルとして確立した主題目録法(分類法・件名法)の理論と技法を学ぶパート、(3)あらゆる情報メディアを対象として構築されつつあるインデクシングの理論と技法を学ぶパートから構成される。(3)では、分類・インデクシングという行為の形式化の問題や技術的な動向、理論的限界の問題も取り上げる。また(2)と(3)では、授業中および授業時間外の実習を行う予定である。
授業計画	”1. 情報組織化と図書館 2. 分類(1):区分則 [実習を含む] 3. 分類(2):生物と知識の分類 4. 分類(3):日本十進分類法(NDC)の概要 1 [実習を含む] 5. 分類(4):NDC の概要 2 6. 分類(5):NDC の詳細 1 [実習を含む] 7. 分類(6):NDC の詳細 2 8. 分類(7):NDLC・DDC・UDC・CC [実習を含む] 9. 索引(1):語彙統制 10. 索引(2):基本件名標目表(BSH) [実習を含む] 11. 索引(3):件名・シソーラス 12. 索引(4):インデクシング 13. 分類・索引の自動化 14. まとめ[実習を含む]”
授業の方法	基本的に講義形式で行うが、必要に応じて実習を行う。また講義の際には、個別に指名して質問に回答してもらう。毎回授業資料を配布する予定である。
成績評価方法	授業中に行う数回の発表、小課題、小テストおよび授業への参加度により総合的に評価する。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	本講義は司書資格のための必修科目である。しかし、司書資格の取得をめざさない学生も、体系的な理解のためには「情報組織論」(隔年開講)を合わせて履修することが望ましい。
授業実施形態	オンライン型(オンラインのみで実施)／Fully Online: All classes conducted online
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09262316	担当教員	橋野 晶寛		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	金 4
講義題目	教育行政・学校経営演習Ⅳ／Seminar in Educational Administration and School Management Ⅳ 教育行政・学校経営演習Ⅳ				

授業の目的・概要	この授業では、現代の教育政策・行政の動向および考え方・論点を学ぶ。教育政策・行財政の現代的トピックについて、政策動向を把握するだけでなく、普遍的・中核的論点について教育学のみならず隣接社会科学分野の実証研究・規範論を参照しながら、多角的に深く考察する視点を養う。
授業計画	”第2回以降は発表者を割り当て、文献輪読を行う。主に扱うトピックは以下の通り(扱うトピックは教育行政・学校経営演習Ⅲのものと同棲み分けするようにする)。 1)教育政策における価値 ・教育政策の当否を何によって判断すべきか ・学校教育における自由はどこまで可能か ・教育機会の平等のために政策・行政には何ができるか/できないか、何をすべきか/すべきでないか、等。 2)教育財政・教育費負担 ・教育財政支出を正当化する根拠は何か ・財政的集権・分権は教育政策にどのように影響するか ・教育費負担をめぐる政治において、政治的・経済的制約とどう向き合うか、等 3)教員政策 ・日本型教育制度は教員の人材確保における量的・質的側面、教員の厚生にどのように影響するのか ・教職の特質は、人材確保、働き方、力量形成・動機づけにどのように影響するか ・教員の量的・質的人材確保に寄与する政策は何か、等 4)教育政策とデータフィクション・データサイエンス ・成果、貢献、必要性を測ることはできるか/どう測るのか ・エビデンスは教育政策に関わる政治と学術の関係を変えうるか ・DX&comma;AI は教育政策・行政に何をもたらすのか、等 第1回 オリエンテーション 第2~13回 文献輪読”
授業の方法	第2回以降は、文献輪読を行う。 毎回指定された文献(論文または図書の一部、分量の目安は40~50頁)を事前に読んできた上で、発表者が文献要旨と論点を報告し、議論を行う。
成績評価方法	平常点(発表、授業中の発言)による。 ただし、日程の都合等で発表を担当できない場合は、期末に相応のレポートを提出してもらう。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	次の参考書を使用する。／Will use the following reference book
履修上の注意・備考	各回の課題文献について事前に読む時間を十分に確保すること。
授業実施形態	対面・オンライン併用型 A(総時間数の半数以上を対面で実施)／Hybrid Type A(Face-to-face/Online): Conduct classes in-person 50% or more of the total hours of the course
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09262401	担当教員	藤原 翔		
単位数	2	学 期	S1	時 限	水 3, 水 4
講義題目	教育調査分析法／Quantitative Educational Research Methodology				
	教育調査分析法				

授業の目的・概要	教育の社会科学的研究に用いられる社会調査データを分析する際に、必要となる統計学に関して入門的な講義を行う。具体的には、分布と統計量、相関係数、確率論の基礎、サンプリング、推定と検定、クロス集計、回帰分析について概説する。それによって、既存の分析結果の意味を正確に理解し、自分で新たに意味のある計量分析を行うための初歩的な知識を獲得することを目標とする。「教育社会学調査実習」の履修者は、この講義を併修すること。／This course provides an introductory lecture on statistics necessary for analyzing social survey data used in social scientific research on education. Specifically&comma; it covers distributions and statistics&comma; correlation coefficients&comma; basic probability theory&comma; sampling&comma; estimation and testing&comma; cross-tabulation&comma; and regression analysis. The goal is to acquire basic knowledge to accurately understand the meaning of existing analytical results and to conduct meaningful quantitative analysis independently. Students enrolled in &quot;Educational Sociology Survey Practice&quot; should take this lecture concurrently.
授業計画	”・イントロダクション ・度数分布表 ・基本統計量 ・相関係数 ・確率モデルと統計的推定 ・統計的検定 ・平均値の差の検定 ・クロス集計と独立性の検定 ・多重クロス集計とエラボレーション ・回帰分析 ・偏相関と重回帰分析 ・回帰モデルの説明力と検定 ・回帰分析の応用 (以上はあくまで予定のため、変更になる場合がある。)／ ‐ Introduction ‐ Frequency Distributions ‐ Basic Statistical Measures ‐ Correlation Coefficients ‐ Probability Models and Statistical Estimation ‐ Statistical Testing ‐ Testing Differences between Means ‐ Cross-tabulation and Tests of Independence ‐ Multiple Cross-tabulation and Elaboration ‐ Regression Analysis ‐ Partial Correlation and Multiple Regression ‐ Explanatory Power and Testing of Regression Models ‐ Applications of Regression Analysis (Please note that this schedule is tentative and subject to change.)”
授業の方法	教科書の主要部分を用いて講義を行う。また SSJ データ・アーカイブで公開されているデータ(あるいは教員が独自に収集したパネルデータ)を用いた R による実習も行う。毎回、R を用いた課題を提出することが必要となる。／ The lecture will cover the main sections of the textbook. Practical exercises using R will be conducted with data from the SSJ Data Archive (or panel data independently collected by the instructor). Students are required to submit assignments using R for each session.
成績評価方法	課題レポート(60%)と最終レポート(40%)によって評価を行う。／ Evaluation will be based on weekly assignments (60%) and a final report (40%).
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	「教育社会学調査実習」の履修者は、この講義を併修すること。「教育社会学調査実習」を履修しない学生が多数、この講義を履修すると見込まれる場合は、受講者数の調整を行う場合がある(詳細は初回の授業で説明する)。／Students enrolled in &quot;Educational Sociology Survey Practice&quot; must take this course concurrently. If a large number of students not enrolled in &quot;Educational Sociology Survey Practice&quot; register for this course&comma; enrollment may be adjusted (details will be explained in the first class). この授業科目は、社会調査士資格取得のための「D. 社会調査に必要な統計学に関する科目」、教職課程の「教科に関する科目(社会学)」にそれぞれ該当する。／This course corresponds to &quot;D. Statistical Methods for Social Research&quot; required for the Social Researcher Certification&comma; and &quot;Subject-related Courses (Sociology)&quot; for the Teaching Certificate Program.
授業実施形態	対面・オンライン併用型 A(総時間数の半数以上を対面で実施)／Hybrid Type A(Face-to-face/Online): Conduct

classes in-person 50% or more of the total hours of the course

教育職員免許法上の認定科目

教育職員免許法上の認定科目 (社)社会学|(公)社会学

時間割コード	09262402	担当教員	額賀 美紗子		
単位数	2	学 期	S2	時 限	火 3, 火 4
講義題目	フィールドワークの理論と実践／Theory and Practice of Fieldwork フィールドワークの理論と実践				

授業の目的・概要	エスノグラフィーとは、ある出来事が起こっている現場に入り込み、そこに参加している人々と関わりあいながら、かれらの日常世界の成り立ちを、かれらの視点に立って内側から理解する調査方法のことを指す。これは質的調査法のひとつであり、参与観察やインタビューを含むフィールドワークが中心的な手法になる。この授業ではエスノグラフィーの理論とプロセスについて学び、実際にインタビューや学校現場の参与観察を演習形式で行いながら、さまざまな質的調査の方法論を習得することをめざす。
授業計画	”第一回 ①質的調査とはなにか：目的、意義、プロセス ②参与観察を行う：現場のメモからフィールドノートへ 第二回 ①フィールドノートを書く：何をどう描写するか ②フィールドにアクセスする：研究者のポジショナリティと研究倫理 第三回 ①質的テキストを分析する：コーディングとグラウンデッド・セオリー・アプローチ実践 ②研究計画をたてる：先行研究・リサーチ・クエスションの設定・フィールド／対象の選定 第四回 ①話を聴く：インタビュー、生活史調査、ライフストーリー研究 ②《グループ・プロジェクト》テーマを設定し、インタビュー・ガイドラインの検討 第五回 ① インタビューの技法と授業内ミニ実践 ②《グループ・プロジェクト》データ収集の進捗状況確認、コーディングの検討 第六回 ①質的研究法を使って論文を書く：良い質的研究論文の条件 ②《グループ・プロジェクト》次週の発表準備：コードから仮説生成へ 第七回 プロジェクトのグループ発表 ”
授業の方法	講義と演習を組み合わせる
成績評価方法	出席 20%、課題 80%
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	フィールドノートの作成やインタビューによるデータ収集と分析など、授業の課題が多いのでそのつもりで履修すること。積極的にディスカッションに参加することを期待する。
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (社)地理学(地誌を含む) (公)社会学

時間割コード	09262403	担当教員	多喜 弘文		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	火 2
講義題目	比較社会学の方法／Methods and Approaches in Comparative Sociology 比較社会学の方法				

授業の目的・概要	社会学は、もし異なった社会的・歴史的環境に置かれていたら、今の自分とは異なる価値判断をしていたかもしれないという想像力を比較によって喚起する。この比較には様々な単位がありうるが、本講義では国民国家を単位とした比較における日本社会の特徴に焦点をおき、その理論化と実証のための方法を先行研究から学んでいく。根拠のない特殊性論や文化還元主義的のトートロジー、あるいは自覚なく欧米中心主義や計量帝国主義に依拠することの問題点を理解できるようになることが目標である。
授業計画	“第 1 回: イントロダクション: 何のために比較するのか 第 2 回: 日本社会は特殊か 第 3 回: 他社会との比較からみた日本の教育(1) 第 4 回: 他社会との比較からみた日本の教育(2) 第 5 回: 他社会との比較からみた日本の教育(3) 第 6 回: 他社会との比較からみた日本の労働(1) 第 7 回: 他社会との比較からみた日本の労働(2) 第 8 回: 他社会との比較からみた日本の労働(3) 第 9 回: 教育システムと労働市場の制度的相補性 第 10 回: 量的研究・質的研究と実証 第 11 回: オリエンタリズムを乗り越える 第 12 回: 比較社会学の方法: 理論と実証 第 13 回: まとめと期末課題について”
授業の方法	授業は、教員による講義を中心にしつつ、受講学生による議論を組み合わせる形式でおこなう。いくつかの回では、指定された文献を読み、事前あるいは事後に講読票を提出してもらう。また、いくつかの回では、授業での議論を踏まえてコメントを提出してもらう。
成績評価方法	上述の①講読票、②コメントシートに加え、③期末レポートの提出を課す。また、④授業への積極的な参加についても一定程度加味する。以上 4 点の評価のウェイトは、①3 割、②3 割、③3 割、④1 割である。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	指定がある場合には事前の文献購読や講読票の提出を求める。
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09262404	担当教員	萩巣 崇世		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	火 2
講義題目	国際教育開発論／International Education Development 国際教育開発論				

授業の目的・概要	本講義では、教育と社会の関係を多角的に捉え、国際教育開発の持つ様々な意味を、理論と実践の両面から考えていく。特に、現代のグローバル化する世界において、教育はどのような課題に直面しているのか、同時に、教育にはどんな役割が期待されているのかを、具体的な事例に基づいて検討していく。 本講義は前半・後半の二部構成で展開する。第一部では、広い意味で「教育」という営みを理解した上で、教育と社会の関係を捉えていく。教育学、経済学、社会学、哲学など多方面から、「教育」を「開発」することの意味について考えるとともに、国際教育開発の歴史と潮流を整理する。 第二部では、グローバル化する世界において教育が抱える様々な課題を取り上げ、これらの課題に対してこれまでどのような国際協力・国際開発が行われてきたのか、また、教育開発が現地の人々にどのような影響を及ぼしてきたのかについて、途上国に限らず日本の事例なども取り上げて具体的に見ていく。参加者の興味関心に基づき、可能な場合には各分野の専門家の話を聞く機会も設ける。 本講義では、知識、批判的思考、コミュニケーション、態度・行動の 4 つの領域においてそれぞれ以下のような知識とスキルを身につけることを目指す。 知識:教育と社会の関係を多角的に捉え、国際教育開発の持つ様々な意味をふまえて、国際教育開発の歴史と潮流、実践上の課題や難しさを理解する。 批判的思考:世界が直面している教育課題に関心を持ち、自分自身の経験や身近な現実と結びつけて考えて説明することができる。 コミュニケーション:他者の意見を聞きながら自分のスタンスを明確にし、資料やデータを使って効果的に意見を表明できる(口頭およびレポート)。 態度・行動:授業で扱うトピックについて理解を深めたり、新しい意見や見方を学んだりするため、多様な意見を持つクラスメイトと対話し協力することができる。
授業計画	”第1回:オリエンテーション、シラバスと評価方法の説明 第2回:「教育」とは何か?:教育学の考察 第3回:「教育」と「社会」:社会学的考察 第4回:「教育」と「経済発展」:経済学的考察 第5回:「教育」と「開発」:教育開発の歴史と潮流 第6回:「国際」と「教育」と「開発」:哲学的考察 第7回:現代の教育課題①:教育の格差 第8回:現代の教育課題②:教育の質と学び 第9回:現代の教育課題③:教育の内容と方法 第10回:現代の教育課題④:人の移動と教育 第11回:現代の教育課題⑤:SDGsと教育 第12回:現代の教育課題⑥:教育のグローバル化 第13回:第二部の振り返り ”
授業の方法	本講義は学生の主体的な学びを中心に進める。そのため、各自が授業前に内容のある程度理解し、自分なりの問いや考えを持って授業に臨むことが欠かせない。授業は、それぞれが持ち寄った問いや意見を共有し、受講者同士が学び合う場となるよう、ディスカッションやグループワークを中心に進めていく。 基本的には、毎回の講義に参加する前に指定された文献を読み、簡単なコメントペーパーを講義のグループサイトにアップする。コメントの内容は読んだ文献の筆者への質問や疑問でも良いし、文献の内容を身近な例に引きつけて考えたことでも良く、200 字程度にまとめる。毎回、重要な問いやコメントを選び講義の中で取り上げて議論する。90～120 分程度の準備が必要になる。
成績評価方法	授業への参加・貢献度:20% コメントペーパー:30% レポート:50%
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	授業計画は受講者数および受講者の関心領域にしたがって変更の可能性があるので注意してください。変更がある場合には授業内で説明します。
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (社)地理学(地誌を含む) (公)社会学

時間割コード	09262405	担当教員	前田 麦穂		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	金 5
講義題目	教育の歴史社会学／Historical Sociology of Education 教育の歴史社会学				

授業の目的・概要	【目標】 本授業の目標は、「教育の歴史社会学」すなわち教育社会学の歴史研究について学び、その研究系譜・方法論・特徴について考察することにより、「教育の歴史社会学」の意義や課題、今後の可能性について理解できるようになることです。 Objectives: This course aims to teach the historical study of the sociology of education&comma; also known as &quot;Historical Sociology of Education.&quot; Students will learn about its research genealogy&comma; methodologies&comma; and characteristics&comma; as well as its significance&comma; problems&comma; and future possibilities. 【概要】「歴史社会学」とは、何らかの形で過去を扱っている社会学的研究のことを指します。 「教育の歴史社会学」はこれまで、「移動・選抜研究」と「言説・社会史研究」という二つの研究系譜を形成しながら、様々なタイプの歴史研究を蓄積してきました。 本授業では、概ねこの二つの研究系譜の発展過程を追尾しながら、文献講読を通じて「教育の歴史社会学」の特徴や方法論について学び、その意義や課題、今後の可能性について探究します。 Overview: &quot;Historical sociology&quot; refers to sociological research that deals with the past in some way. “Historical sociology of education” has accumulated diverse historical research while forming two distinct research lineages: “mobility and selection studies” and “discourse and social history studies.” This course will broadly trace the development of these two lineages. Through close reading of key texts&comma; students will learn about the characteristics and methodologies of “historical sociology of education&comma;” explore its significance and challenges&comma; and investigate its future potential.
授業計画	”【1 ガイダンス・教育の歴史社会学とは】・広田 照幸&comma; 2006&comma; 「教育の歴史社会学 ―その展開と課題―」社会科学研究&comma; 57 巻&comma; 3-4 号&comma; p. 137-155 https://doi.org/10.34607/jssiss.57.3-4_137・竹内 洋&comma; 1995&comma;「教育社会学における歴史研究」教育社会学研究&comma; 57 巻&comma; p. 5-22 https://doi.org/10.11151/eds1951.57.5 【2 研究系譜の概観】・井上 義和&comma; 森 直人&comma; 2013&comma;「教育の歴史社会学：1995 年以降の展開と課題」&comma; 教育社会学研究&comma; 93 巻&comma; p. 193-224 https://doi.org/10.11151/eds.93.193・元森 絵里子・高橋 靖幸(2025)「2010 年代以降の教育の歴史社会学：問題設定の変化に注目して」『教育社会学研究』117&comma; pp. 29-58. 【3 近代化とエリート】・麻生 誠&comma; 1960&comma; 「近代日本におけるエリート構成の変遷」教育社会学研究&comma; 15 巻&comma; p. 148-162 https://doi.org/10.11151/eds1951.15.148・天野 郁夫&comma; 1969&comma; 「近代日本における高等教育と社会移動」教育社会学研究&comma; 24 巻&comma; p. 77-93&comma;en223 https://doi.org/10.11151/eds1951.24.77 【4 学歴主義の起源】・天野 郁夫&comma; 1982&comma; 『教育学大全集 5 教育と選抜』第一法規 . https://dl.ndl.go.jp/pid/12047258 【5 学歴社会の成立】・天野郁夫編&comma; 1991&comma; 『学歴主義の社会史：丹波篠山にみる近代教育と生活世界』有信堂高文社. https://dl.ndl.go.jp/pid/13170307 【6 選抜・配分】・濱名 篤&comma; 1984&comma; 「明治期における士族の学校教育機会に関する研究」教育社会学研究&comma; 39 巻&comma; p. 154-171 https://doi.org/10.11151/eds1951.39.154・武石 典史&comma; 2017&comma; 「官僚の選抜・配分構造」&comma;教育社会学研究&comma; 100 巻&comma; p. 265-284 https://doi.org/10.11151/eds.100.265 【7 入試】・小針 誠&comma; 2000&comma; 「私立小学校の入学選抜メカニズムに関する歴史社会学的研究」教育社会学研究&comma; 67 巻&comma; p. 25-43 https://doi.org/10.11151/eds1951.67.25・石岡 学&comma; 2014&comma; 「1920 年代日本の中等学校入試改革論議における「抽籤」論にみる選抜の公正性」教育社会学研究&comma; 94 巻&comma; p. 173-193 https://doi.org/10.11151/eds.94.173 【8 モダニティとしての教育】・森 重雄&comma; 1993&comma; 『モダンのアンスタンス：教育のアルケオロジー』ハーベスト社. https://dl.ndl.go.jp/pid/13247835・森重雄&comma; 1988&comma; 「モダニティとしての教育：批判的教育社会学のためのブリコラージュ」『東京大学教育学

	部紀要』27&comma; p. 91-115. https://repository.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/records/29828 【9 教育言説】 ・今津考次郎・樋田大二郎編&comma; 2010&comma; 『続 教育言説をどう読むか: 教育を語ることばから教育を問いなおす』新曜社.(序章) ・広田照幸&comma; 2001&comma; 『教育言説の歴史社会学』(序章・第 1 章・第 2 章) 【10 学校教育】 ・稲葉 浩一 &comma; 2013&comma; 「記録される「個性」」 教育社会学研究 &comma; 93 巻 &comma; p. 91-115 https://doi.org/10.11151/eds.93.91 ・水谷 智彦&comma; 2016&comma; 「生徒への罰からみる教師像の成立と変容」教育社会学研究&comma; 98 巻&comma; p. 177-196 https://doi.org/10.11151/eds.98.177 【11 子ども】 ・元森 絵里子&comma; 2008&comma; 「近代日本における「子ども」の成立と教育の自律化」教育社会学研究&comma;83 巻 &comma; p. 45-63 https://doi.org/10.11151/eds.83.45 ・高橋 靖幸&comma; 2018&comma; 「昭和戦前期の児童虐待問題と「子ども期の享受」」 教育社会学研究 &comma; 102 巻 &comma; p. 175-194 https://doi.org/10.11151/eds.102.175 【12 ジェンダー】 ・今田絵里香&comma; 2001&comma; 「近代家族と「少女」の国民化―少女雑誌『少女の友』分析から」『教育社会学研究』68&comma; pp. 225-242. https://doi.org/10.11151/eds.1951.68.225 ・今田絵里香&comma; 2017&comma; 「教育社会学と歴史研究: 移動・選抜、社会史、ジェンダー史の視点から」日本教育社会学会・本田由紀・中村高康編『教育社会学のフロンティア 1 学問としての展開と課題』岩波書店&comma; pp. 165-186. 【13 授業のまとめ】 ※進捗や履修者の状況により、各回の講読文献は変更になる場合があります。その場合は事前に連絡します。”
授業の方法	本授業では、文献購読とそれに基づくグループディスカッションを行います。 履修者は事前に課題文献を読み、講読票(文献の概要・興味深かった点・疑問に思った点等を記入)を作成した上で授業に臨んでください。 授業終了時に、リアクションペーパーを提出してください。
成績評価方法	講読票 60%、リアクションペーパー40%で評価します。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	次の参考書を使用する。／Will use the following reference book
履修上の注意・備考	履修者は事前に課題文献を読み、講読票(文献の概要・興味深かった点・疑問に思った点等を記入)を作成した上で授業に臨んでください。 「〇〇の歴史社会学」という言葉を聞いたとき、あなたなら空欄に何を入れたくなるでしょうか。 「教育言説の歴史社会学」「教師の歴史社会学」「職業と選抜の歴史社会学」「教育と階層の歴史社会学」「社会移動の歴史社会学」「子ども観の歴史社会学」「児童虐待の歴史社会学」「教育的価値の歴史社会学」「職業婦人の歴史社会学」―これらはすべて、教育社会学において実際に行われてきた「〇〇の歴史社会学」の一部です。 これらの言葉が少しでもあなたの琴線に触れるのであれば、この授業はきっとあなたにとって有意義な議論の場
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09262406	担当教員	古田 雄一		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	木 2
講義題目	比較教育行政論／Comparative Study of Educational Administration 比較教育行政論				

授業の目的・概要	本授業では、アメリカの教育制度・政策の変遷や現代的動向について学び、日本との比較も取り入れながら、その特徴や課題について考察することにより、教育行政のあり方について多面的に理解できるようになることを目的とする。
授業計画	”1. イントロダクション 2. アメリカの教育制度の概要(1) 3. アメリカの教育制度の概要(2) 4. 学力保障をめぐる教育改革の変遷(1)1960 年代～ インプット重視の平等保障政策 5. 学力保障をめぐる教育改革の変遷(2)1990 年代～アウトカム重視の教育改革 6. 学力保障をめぐる教育改革の変遷(3)2010 年代～ 改革の見直しと現代的動向 7. 教育の質保証と評価(1)学校評価 8. 教育の質保証と評価(2)教員評価 9. 学校／教育における選択(1)学校選択 10. 学校／教育における選択(2)学校以外の選択肢 11. 学校の意思決定への保護者・住民・生徒の参加 12. 公教育と政治 13. まとめと振り返り”
授業の方法	主に講義形式で行うが、人数に応じて受講者間でのディスカッションなども取り入れる。 また、毎回の授業で振り返りの小課題(リアクション・ペーパー)を課す予定である。
成績評価方法	・レポート課題(約 50%) ・平常点(約 50%)・・・授業で課す小課題、授業への参加・貢献度等を総合的に評価する。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	・諸外国の教育に関心があることが望ましい。 ・予習・復習等:授業内容について振り返り、日米の教育行政について考察を深めるとともに、関心や疑問をもった事柄について自分でも調べてみる。
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09262407	担当教員	今村 聡子		
単位数	2	学 期	A1	時 限	水 5, 水 6
講義題目	教育法／Educational Law 教育法				

授業の目的・概要	教育基本法・学校教育法をはじめとする我が国の教育関係法令の体系やその広がりについて理解するとともに、近年の教育関係法令改正における論点について議論・考察することを通じて、法的思考力（リーガルマインド）をよりよい教育（行政）実践に生かす素地を養うことを目標とする。
授業計画	”概ね以下を予定とするが、特に第7回以降で取り上げる事項については直近の法改正及び受講者の興味・関心等に応じて差し替える可能性がある。 また、教育委員会職員をゲストとする授業を設ける予定。 第1回・第2回 イントロダクション、教育に関する法令の分類と体系1: 体系とその広がり 第3回・第4回 教育に関する法令の分類と体系2: 学校教育関係の法令 第5回・第6回 教育法学の概観 第7回・第8回 近年の法改正とその論点1: 高校就学支援関係 第9回・第10回 近年の法改正とその論点2: 教職員定数関係 第11回・第12回 近年の法改正とその論点3: 教育課程関係 第13回 まとめ ”
授業の方法	講義形式（対面のみ） 資料や講義による講師からの話題提供と、講師と学生及び学生間の対話やグループワークにより進める。 毎回（2時限連続授業のため、2時限目の最後に）リアクションペーパー記入時間を設ける。
成績評価方法	授業における議論への参画状況・貢献度（60%）、リアクションペーパー（40%） ※出席回数が一定回数に満たない場合は評価の対象外となる。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	授業への積極的な参加と、授業における議論への貢献を重視します。 受講生に国家公務員志望者がいる場合は、希望に応じ、中央官庁における行政実務や勤務の様子などについても触れる予定。
授業実施形態	対面型（対面のみで実施）／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 （社）法律学 （公）法律学（国際法を含む）

時間割コード	09262408	担当教員	神林 寿幸		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	金 5
講義題目	教育政策の計量分析入門／Introduction to Quantitative Analysis of Education Policy 教育政策の計量分析入門				

授業の目的・概要	教育政策研究の方法の一つに、計量分析があります。国内外の教育行政学では、教育政策に関する計量分析が発展し、エビデンスに基づく教育政策も重視されています。研究だけでなく、教育実務や日常生活でも、教育政策を量的な側面から正確に検証し、その結果を適切に解釈する能力がますます重要になっていると言えるでしょう。 本授業では、フリーの統計解析パッケージである R と RStudio を用いて、教育に関するデータの取り扱いと基礎的なデータ分析の方法を学びます。自分で設定したリサーチ・クエスチョンに答えるために必要な教育データを構築し、そのデータを正確に分析し、結果を解釈して考察できるようになることを目指します。 One method of education policy research is quantitative analysis. In the field of education administration&comma; both in Japan and abroad&comma; quantitative analysis of education policy has advanced&comma; and evidence-based education policy has become increasingly valued. It can be said that the ability to accurately examine education policy from a quantitative perspective and to appropriately interpret the results is becoming ever more important—not only in research&comma; but also in educational practice and everyday life. In this course&comma; students will learn how to handle education-related data and conduct basic data analysis using R and RStudio&comma; which are free statistical analysis packages. The goal is for students to be able to construct the educational data necessary to answer a research question they have formulated themselves&comma; analyze that data accurately&comma; and interpret and discuss the results.
授業計画	”1 イントロダクション 2 R と RStudio のインストール、R と RStudio の基本操作、データの読み込み 3 記述統計量の確認 4 t 検定—2 群の平均値の差を比較する 5 分散分析—3 群以上の平均値の差を比較する 6 相関と偏相関 7 単回帰分析 8 重回帰分析 9 クロス集計 10 ロジスティック回帰分析 11 因子分析 12 主成分分析 13 全体の振り返りと補足 1 Introduction 2 Installing R&comma; Calculations using R&comma; and Reading data into R 3 Calculating descriptive statistics 4 t-test 5 Analysis of Variance (ANOVA) 6 Correlation and Partial Correlation 7 Single Linear Regression 8 Multiple Linear Regression 9 Crosstabulation 10 Logistic Regression Analysis 11 Factor Analysis 12 Principal Component Analysis (PCA) 13 Summary and Appendix”
授業の方法	本授業は講義と演習から構成されます。各単元の内容を担当教員が解説した後、R と RStudio を使い、実際にデータ解析を行います。可能であれば、解析結果についてペア・グループ・クラス全体で議論する機会も積極的に設ける予定です。 This course consists of lectures and exercises. After the instructor explains the content of each unit&comma; students will use R and RStudio to perform hands-on data analysis. Where possible&comma; opportunities will also be actively provided for students to discuss their analysis results in pairs&comma; groups&comma; or as a whole class.
成績評価方法	各単元の演習問題 (50%)、最終レポート (50%) Exercise problems for each unit (50%)&comma; Final report (50%)
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	■履修上の注意 ・授業に参加する際は、R が使用できる PC を各自で用意してください。 ・質問や相談がある場合は、担当教員に速やかに連絡してください。 ・授業中は、他の受講者の迷惑になる行為をしないでください。 ・受講者が安心して学修できる環境を保つため、本授業に関する内容を SNS やインターネットに投稿することは厳禁です。ご理解とご協力をお願いします。 ・授業資料は電子媒体で配布・共有します。著作権の観点から、授業資料を個人の学修目的を超えて複製・改変すること、受講者以外に譲渡すること、または SNS やインターネットに転載することは厳禁です。 ・その他、授業の進行中に連絡事項が発生した場合は、授業内もしくは掲示によって周知します。 Precautions for Lesson – Please bring your own PC with R installed when attending class. – If you have any questions or concerns&comma; please get in touch with the instructor promptly. – During class&comma; please refrain from any

	behavior that may disturb other students. - To maintain an environment where all students can learn with peace of mind&comma; posting any content related to this course on social media or the internet is strictly prohibited. Your understanding and cooperation are appreciated. - Course materials will be distributed and shared electronically. From a copyright perspective&comma; it is strictly prohibited to reproduce or modify course materials beyond the scope of personal study&comma; to share them with anyone outside the course&comma; or to repost them on social media or the internet. - If any additional announcements arise during the course&comma; they will be communicated in class or via posted notices. ■ 予習 (Preparation for Lesson) 次回学ぶ単元について、参考書等で事前に調べてください。特に「どのような分析方法を学ぶのか」をイメージできるまで予習しておくといでしょう。 Please research the upcoming unit in advance using textbooks or other references. It is particularly helpful to prepare until you can form a clear picture of the analytical methods you will be learning. ■ 復習 (Review of Lesson) ・授業資料を読み返し、自分でもう一度分析を行う。 ・課題に取り組む。 - Reread the class material and analyze it again on your own. - Work on the assignment.
授業実施形態	対面・オンライン併用型 B(総時間数の半数未満を対面で実施)／Hybrid Type B(Face-to-face/Online): Conduct classes in-person for less than 50% of the total hours of the course
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09262409	担当教員	奥 聡一郎		
単位数	2	学 期	S2	時 限	集中
講義題目	英語教授法・学習法概論／An Introduction to Methodologies for Teaching and Learning English 英語教授法・学習法概論				

授業の目的・概要	・言語教育・人文科教育学などの流れの中で英語教育がどのような位置付けがなされているのか、理解する。 ・英語教育に必要な基礎知識(母語・第二言語習得, 外国語教授法, 4 技能 5 領域、学習者理論等)を概観し、これらの理解を深める ・各自の外国語教育・学習歴を振り返り、英語教育・英語学習に対する認識を深める ・効果的な英語教授法・学習法について歴史を踏まえて考察し、これからの英語教授法・学習法を展望する 以上の目標達成を目指して、状況に応じながら、双方向的な授業を行います。
授業計画	”第 1 回: イントロダクション: 言葉の教育をめぐる現状分析 第 2 回: 言葉を学ぶために必要な研究領域 第 3 回: 教授法と学習法 第 4 回: 英語教育学、日本語教育学、国語教育学と教授法 第 5 回: 外国語教授法と英語教育学 第 6 回: 聞くことの指導と学習 第 7 回: 読むことの指導と学習 文法教育 第 8 回: 読むことの指導と学習 読解と解釈、批評 第 9 回: 話すことの指導と学習 第 10 回: 書くことの指導と学習 第 11 回: これからの英語教授法 第 12 回: これからの英語学習法 第 13 回: 授業のまとめ 第 14 回: 教授法と学習法に関するまとめの最終試験※注意: 上記計画は、受講者の状況等に伴って、変更の可能性があります。変更等の連絡は、必要に応じて LMS で行います。”
授業の方法	・検定教科書等に掲載されている教材分析の他、これらと関連する資料を使用しながら授業を行います。 ・講義と演習・受講者のプレゼンテーションを組み合わせた授業形態です。 ・受講者同士のグループワークを随時取り入れます。 ・LMS での授業を組み合わせる予定です。
成績評価方法	・課題 70%、最終試験 30% ・上記にグループワークの成果、発表、最終レポート等も踏まえて、総合的に評価します。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	【準備学習(講義を履修するために必要な予備知識)等] 本科目は、現在の外国語(英語)教育の概要を理解していることを前提に進めます。 これらの概要を把握していない場合、各学校種の『学習指導要領』及び同解説(国語・外国語・英語教育関係)をあらかじめご覧ください。以下の文部科学省ホームページより入手可能です(2024 年 1 月 5 日現在): https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm 『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編』の付録 8・9・10 は学校種を横断して目標や言語材料が閲覧可能です。 ・本講義は、以下の日程の予定で行う集中講義です: 8 月 28 日(木)2~4 限、8 月 29 日(金)1~4 限、9 月 1 日(月)1~4 限、9 月 2 日(火)2~4 限 ・初回授業(8 月 28 日 2~4 限)は対面で行います。 ・授業運営や内容についてお知らせがある際、ITC-LMS で行います。 ・配布教材に基づいて学習し、問題意識を持って授業に臨んでください。 ・授業に関する情報は、LMS のお知らせ欄で周知します。定期的にお知らせを見るようにして下さい。
授業実施形態	対面・オンライン併用型 A(総時間数の半数以上を対面で実施)／Hybrid Type A(Face-to-face/Online): Conduct classes in-person 50% or more of the total hours of the course
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09262410	担当教員	端山 聡子		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	月 2
講義題目	博物館教育論／Museum Education 博物館教育論				

授業の目的・概要	本講座では、博物館、中でも美術館における教育活動の歴史と理念、活動の基礎となる学習理論、具体的な事例に関する講義と演習を通して、博物館の教育的役割と意義について理解を深めるとともに、博物館の教育活動に必要とされる基礎的能力を養う。特に、教育普及においては博物館活動のすべてがリソースであることを考え方と実例を通して示す。また、利用者主体の博物館の可能性について多角的に検討するために他の社会教育施設(公民館、図書館)との比較もおこなう。/This course deepens understanding of the educational role and significance of museums&comma; particularly art museums&comma; through lectures and exercises covering the history and philosophy of museum education&comma; the learning theories underpinning such activities&comma; and specific case studies. It also cultivates the fundamental skills required for museum educational activities. Specifically&comma; it demonstrates through both theory and practice that all museum activities serve as resources for educational outreach. Furthermore&comma; to explore the potential of user-centered museums from multiple angles&comma; comparisons are made with other social education facilities (community centers&comma; libraries).
授業計画	”1 オリエンテーション ミュージアムと教育普及について(概観) 2 図書館・公民館・博物館の比較1 3 図書館・公民館・博物館の比較2 4 資料整理から展覧会へ教育普及的な展開 5 中高生のためのプログラム 6 社会的自立に困難を抱えた若者のためのプログラム 7 学校と博物館の連携 8 教育普及の方法 1ワークショップとグループ学習 9 教育普及の方法 2 ディスクリプションと観察 10 博物館のボランティア 11 障がい者と博物館 12 博物館の見学と評価(学外活動)※実施日時は未決定 13 博物館における教育の達成と課題 ”
授業の方法	講義、授業内での発言、口頭発表、グループディスカッション、コメントシートの提出等
成績評価方法	出席と授業への関与
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	授業中に指示をする。／Will specify at class time
履修上の注意・備考	特にありません。 さまざまな博物館に関心を持って見てほしい。
授業実施形態	対面・オンライン併用型 A(総時間数の半数以上を対面で実施)／Hybrid Type A(Face-to-face/Online): Conduct classes in-person 50% or more of the total hours of the course
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09262411	担当教員	山内 祐平		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	水 2
講義題目	学習環境のデザイン／Design of Learning Environment 学習環境のデザイン				

授業の目的・概要	学習環境のデザインについてデジタル教材、オンライン学習、ワークショップなどの事例研究を通じて検討する。 知識目標:「理解や問題解決の支援」を教材として実装する方法を知る 技能目標:教材のポイントを発表し、本質を議論する技能を身につける
授業計画	〃04/08 オリエンテーション 授業の概説 04/15 デジタル教材概論 領域の概論 04/22 ゲストトーク 05/13 初等中等教育での展開 Khan Academy 05/20 高等教育での展開 Minerva Schools 05/27 幼児教育での展開 Kits 06/03 企業内教育での展開 Sakidori Pocket OJT 06/10 オープンエデュケーション Coursera 06/17 シリアスゲーム Minecraft 06/24 GIGA スクール Google for Education 07/03 AI の活用 Academic Term Converter 07/10 ワークショップ CAMP 07/15 カフェでの学び UTalk (一部変更の可能性があります)〃
授業の方法	1)担当グループが事例研究を行い発表する 2)事例についてグループで議論し、デザインの特徴と課題について検討する 3)議論から出た疑問を報告グループに投げかけ、問いを深める 4)教育・学習研究の概念との接続について教員が解説する
成績評価方法	毎回の小レポート評価(50%) グループの事例研究報告の評価(25%) グループ議論における貢献と発見(25%)
教科書	次の教科書を使用する。／Will use the following textbook
参考書	次の参考書を使用する。／Will use the following reference book
履修上の注意・備考	グループワークのため履修人数制限あり(20 名) オリエンテーション時に 20 名を超えた場合には授業後に抽選を行い、落選者に連絡する。 抽選を行った場合公平性を担保するため 2 回目からの履修はできないので注意すること。 本授業は対面での参加を原則とし、特別な事情がある場合のみオンライン参加を認めるハイブリッド形式で行う。 各種資料の提供およびレポート提出は ITC-LMS で行うため、そちらも履修登録を行うこと。 4 月 8 日(水)10:30 より対面でオリエンテーションを行ないます。 (赤門横情報学環・福武ホール B2 福武ラーニングスタジオ 1)
授業実施形態	対面・オンライン併用型 A(総時間数の半数以上を対面で実施)／Hybrid Type A(Face-to-face/Online): Conduct classes in-person 50% or more of the total hours of the course
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09262412	担当教員	新藤 浩伸		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	木 1
講義題目	博物館概論／Introduction to Museum Studies 博物館概論				

授業の目的・概要	博物館に関する基礎的知識を理解し、専門性の基礎となる能力を養う。博物館とはいかなる、何のための施設なのかについて、定義、歴史、国際比較等の多面的な視野から理解することを目標とする。博物館という場所を通じて、人はなぜものを集めるのか、ものをみるとはどういうことか、といった問いについて考える。博物館に関する基礎的知識を理解し、専門性の基礎となる能力を養う。博物館とはいかなる、何のための施設なのかについて、定義、歴史、国際比較等の多面的な視野から理解することを目標とする。博物館という場所を通じて、人はなぜものを集めるのか、ものをみるとはどういうことか、といった問いについて考える。また、博物館以外の文化・教育施設（公共ホール、公民館、図書館等）、文化的な活動が生起する空間も視野に入れる。
授業計画	”1. オリエンテーション 2. 博物館学の目的・方法・構成 3. 博物館という思想 4. 博物館の定義 5. 博物館史(1) 古代ギリシア～17 世紀 6. 博物館史(2) ベーコン～19 世紀 7. 博物館史(3) 文明のなかの博物学 8. 博物館史(4) 近代日本の博物館 9. 博物館と社会 10. 記憶の場所としての博物館(1) 想起について 11. 記憶の場所としての博物館(2) 東京大学との関わり 12. ゆっくり見る(1) 13. ゆっくり見る(2) 14. 博物館をとりまく人 15. まとめ ”
授業の方法	基本は対面講義とする予定だが、オンライン授業とする場合もある。博物館見学や、手配がつけばゲスト講義等もおりまぜる予定である。
成績評価方法	最終レポート(50%)および授業中に出す課題(50%)による。
教科書	次の教科書を使用する。／Will use the following textbook
参考書	その他。／Other
履修上の注意・備考	一口に博物館といっても館種も領域也多岐にわたるため、自分自身の専門領域を超えて幅広く関心を持って頂きたい。 ICOM: The International Council of Museums http://icom.museum/
授業実施形態	対面・オンライン併用型 A(総時間数の半数以上を対面で実施)／Hybrid Type A(Face-to-face/Online): Conduct classes in-person 50% or more of the total hours of the course
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09262413	担当教員	福島 幸宏		
単位数	2	学 期	A2	時 限	木 1, 木 2
講義題目	図書館・博物館情報メディア論／Information Media in Library and Museum 図書館・博物館情報メディア論				

授業の目的・概要	図書館・博物館等における情報の提供と活用等に関する基礎的能力を養う。その際、現場の実態を提示するとともに、情報を活用するための前提となる知的財産権や情報倫理についても言及する。また、情報メディアをその歴史性から検討する視野を持てることも目標とする。 Developing Fundamental Skills for Providing and Utilizing Information in Libraries&comma; Museums&comma; and Similar Institutions. This includes presenting the practical aspects of the field&comma; addressing intellectual property rights and information ethics as foundational elements for information utilization. Additionally&comma; the goal is to cultivate a perspective that considers information media from its historical context.
授業計画	”1. 資料と情報の過去 2. 資料と情報の現在 3. 資料と情報の未来 4. 文化資源をめぐる関係制度・法制 5. 図書館・博物館等の情報の流通と連携 6. 施設見学 7. 文化資源を拓く”
授業の方法	講師による講義を基本とするが、随時受講者からの発言を求めるとともに、各回ごとに意見等の提出を求める。 While the primary mode of instruction is through lectures by the instructor&comma; active participation from participants is encouraged&comma; with regular opportunities for them to contribute their thoughts and submit opinions after each session.
成績評価方法	授業中の発言等を通じての授業への参加（10％）、レポート（90％）を総合的に評価する。 The overall evaluation will be based on active participation during class discussions（10%）and comprehensive assessment of reports（90%）.
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	様々な図書館・博物館等の動向を取り上げて講義を行うので、平素からさまざまな図書館・博物館等の動向に注視し、その情報発信の状況に関心を持っておくこと。特に国立国会図書館のカレントアウェアネス・ポータル https://current.ndl.go.jp/ を毎日チェックすることが望ましい。 Since the lectures cover various trends in libraries&comma; museums&comma; and similar institutions&comma; it is recommended to regularly pay attention to the developments in these fields and maintain an interest in their information dissemination practices. Particularly&comma; it is desirable to check the National Diet Library’s Current Awareness Portal (https://current.ndl.go.jp/) on a daily basis. 講義内容は進行状況によって前後する場合がある。 また、状況によってはゲスト講師を依頼することもある。 The lecture content may vary in sequence depending on the progress&comma; and there might be instances where guest speakers are invited based on the situation.
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09262414	担当教員	塩見 みづ枝、李 正連、新藤 浩伸		
単位数	2	学 期	S2	時 限	集中
講義題目	生涯学習政策論／Study on Lifelong Learning Policy 生涯学習政策論				

授業の目的・概要	人生 100 年時代、AI の急速な発展に伴う産業構造の変化、グローバル化など、急速な変化を続ける社会においては、生涯学習・社会教育の役割も、従来の枠にとどまらず、時代・社会の変化に見合ったものに変化していくことが求められている。経済先進諸国においては、経済的な豊かさのみならず、精神的な豊かさや健康までを含めて幸福や生きがいを捉える「ウェルビーイング(Well-being)」の考え方が重視されてきており、我が国においても教育を通じて日本社会に根差したウェルビーイングの向上を図っていくことが求められる。 VUCA の時代とも呼ばれる予測困難な時代においては、学校教育終了後も人生の諸段階に応じて様々な学びが不可欠となる。今後は時代のニーズに即して職業上新たに求められるスキルを習得するためのリスキリング、社会人を対象とした職業能力等の向上のためのアップスキリングにとどまらず、社会の変化に対応して年齢を問わず必要となる基礎的なスキルの習得のための学習や、自己実現を図る上で必要となる学習等も含めた広い意味でのリカレント教育を個々人のニーズに応じて受けられる機会の充実を図り、生涯を通じたウェルビーイングの実現につなげることが重要である。 また、生涯学習・社会教育は、人々の生活基盤を形成する「学び」の実践を核とした地域づくりのための営みという性格を強く持っており、これまでもコミュニティ形成の基盤となる役割を担ってきた。今後は障害者の生涯学習や外国人の日本語学習の機会提供などにも対応し、各地域において誰一人取り残さない社会的包摂を実現することで、個人だけではなく地域社会のウェルビーイングにもつなげることも求められている。 本講義では、現在の我が国を取り巻く社会環境の変化を踏まえつつ、生涯学習や社会教育について、地域レベル、国レベルでの現状と施策の全体像を把握するとともに、今後の展望を考察する。 文部科学省や地方公共団体において生涯学習政策、社会教育政策、教育行政等を担当する、あるいは担当した経験のある文部科学省職員による講義も設けたい。また文部科学省職員と受講者との対話や意見交換の場も設け、行政担当者が何を考え、感じながら施策の立案・推進に当たっているかを披瀝しつつ、今後の政策についてともに考える「開かれ、つながる」講義としたい。 These lectures will provide an overview of the current situation and policies regarding lifelong learning and social education at the regional and national levels&comma; as well as consider future prospects for education in this area based on the changes in the social environment surrounding Japan. The lectures will be given by an officer of the Ministry of Education&comma; Culture&comma; Sports&comma; Science and Technology (MEXT) responsible for lifelong learning policy&comma; social education policy&comma; and education administration at MEXT and local governments&comma; or by a MEXT officer with past experience in this area. Moreover&comma; opportunities will be provided for discussion and exchanges of views with the MEXT official. The lectures will be “open and relevant” and enable participants to consider together with the lecturer future policy while revealing what administrative officials think and feel when formulating and administering policy measures.]
授業計画	”(若干変更する可能性あり) 1. 教育政策の全体像と方向性 2. 社会教育と社会教育行政の現状と課題 3. 生涯学習と生涯学習行政の現状と課題 4. 学校・家庭・地域の連携・協働、大学と地域との連携 5. 共生社会に関する学習の現状と課題 6. 文部科学省総合教育政策局職員との対話・意見交換 等 Course plan (may be revised slightly) 1.Overview and direction of education policy 2.Current situation and issues regarding social education and social education administration 3.Current situation and issues regarding lifelong learning and lifelong learning administration 4.School-family-community coordination/collaboration&comma; university and community coordination/collaboration 5.Current situation and issues regarding learning for an inclusive society 6.Discussion/exchange of views with official from the Education Policy Bureau at MEXT”
授業の方法	講義、討議等 Lecture, discussion, etc.
成績評価方法	出席状況や討議への貢献、レポート等を通じた総合評価とする。 Overall evaluation based on attendance,

	contribution to discussion, report, etc.
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	その他。／Other
履修上の注意・備考	・ 講師との対話や討議の時間を設ける予定であるので、積極的な参加を期待する。 ・ 以下の審議会の議論等を確認しておくこと ・ 中央教育審議会生涯学習分科会(https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo2/index.htm) ・ 中央教育審議会教育振興基本計画部会(https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo17/index.html) ※集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと 教育学部在学生向け Web サイト>授業・履修・学生生活>時間割>学部(集中講義) https://www.p.u-tokyo.ac.jp/students/class/#timetable
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09262415	担当教員	田所 祐史		
単位数	2	学 期	W	時 限	集中
講義題目	社会教育経営論／Management of Adult and Lifelong Learning 社会教育経営論				

授業の目的・概要	社会教育概念、法制、行政、機関・施設等の概要について基礎的な理解をした上で、地域社会を舞台に住民主体で学ぶ環境・条件と、学びの実践についてつかむことを目標とする。 現代社会教育の現状と課題の理解、日本社会教育史(主に 20 世紀前半)の理解を通じて、理論と実践、歴史から「社会教育経営」をとらえる視座と力量を獲得することを目指す。 また、受講生の興味関心や問題意識にもできる限り応じた、柔軟な授業展開に努める。
授業計画	”1. ガイダンス 社会教育概念 2. 社会教育法制・社会教育行政 3. 社会教育機関・施設(社会教育事業・経営の実際——公民館を中心に) 4. 日本社会教育史① 日露戦後～戦間期 5. 日本社会教育史② 戦間期～戦時期 6. 日本社会教育史③ 占領期 7. 日本社会教育史④ 高度経済成長期 8. 連携・協働 地域社会と社会教育 9. 連携・協働 教育福祉 10. 連携・協働 地域づくり 11. 社会教育実践の現状と課題① (社会教育機関・施設の見学等のフィールドワークまたは理論・歴史・実践検討) 12. 社会教育実践の現状と課題②(同上) 13. 社会教育実践の現状と課題③(同上) 14. 社会教育実践の現状と課題④(同上) 15. 社会教育実践の現状と課題⑤(同上)”
授業の方法	・対面のみで開催予定。 ・レジュメと資料プリント、教科書で講義する。適宜、映画・ドキュメンタリーなども視聴。 ・受講生と検討の上で、社会教育施設・機関や社会教育史関連の見学など、フィールドワーク実施を予定。 (最終日の終日を予定。参加人数規模、見学先の状況等を勘案し、代替等の選択も相談の上で検討)
成績評価方法	期末レポート 60%、主体的な授業参加や指定課題など 40%
教科書	次の教科書を使用する。／Will use the following textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	・例年、教育学部以外の受講が相当数あることから、教育学・日本近現代史についての基礎的素養等を履修条件とはせず、社会教育についての初学者を念頭に講義する。 ・講義中に、教科書や当日配付史資料(紙媒体)等を読む時間、映画・ドキュメンタリーなど映像視聴の時間を適宜設ける。 ・予習 教科書の関心のある箇所、講義で扱う箇所に目を通しておく(予め全て読んでおく必要はない)。 ・復習 講義で扱った内容に関わる教科書の章・節や、講義中にふれなかった配付プリント(史資料等)を読む。 ・発展的・自発的に・・・ 興味関心・問題意識と響き合う事項について、『月刊社会教育』ほか参考書で調べたり、社会教育機関・施設や実践現場へ実際に足を運んでみる。 講義で紹介した文献を読んだり、映画等を鑑賞したりする。 ・対面以外での連絡先・方法は、特に指示のない限りは、以下に示すアドレス宛のメールに限定する。 ※集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと 教育学部在学生向け Web サイト>授業・履修・学生生活>時間割>学部(集中講義) https://www.p.u-tokyo.ac.jp/students/class/#timetable
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09262416	担当教員	齋藤 泰則		
単位数	2	学 期	A1	時 限	木 1, 木 2
講義題目	情報サービス論／Information Service 情報サービス論				

授業の目的・概要	図書館で提供される情報サービスの種類と内容, レファレンス資料の種類, 情報探索と情報要求の特徴, 情報検索に関する理論について取り上げる。特に, 情報サービスの中心となるレファレンスサービスについて, 具体的なレファレンスプロセスの事例をもとに, 質問の特性, レファレンスインタビュー, 検索戦略の各側面について解説していく。
授業計画	”1. 図書館の情報サービスの特徴とレファレンスサービス 2. レファレンスプロセスとは 3. レファレンスインタビューと情報要求 4. 情報源の種類 5. 情報源の評価: インターネット情報源の信頼性評価 6. レファレンスコレクションの形成とレファレンス資料の実例(1): 3次資料・言語・事項 7. レファレンスコレクションの形成とレファレンス資料の実例(2): 歴史・地理・人物 8. レファレンスコレクションの形成とレファレンス資料の実例(3): 図書・雑誌・雑誌記事(学術論文) 9. レファレンス質問の種類とその処理 10. レファレンス事例の分析 11. 情報検索論(1)検索語の選定と検索式の作成 12. 情報検索論(2)文献集合と検索結果の評価 13. 各種の情報サービス 14. 発信型情報サービス 15. 今後の情報サービスの展望”
授業の方法	講義・ディスカッション
成績評価方法	期末テスト(40%)、毎回の小テスト(60%)
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	次の参考書を使用する。／Will use the following reference book
履修上の注意・備考	事前に、参考書に目を通しておくこと。 公共図書館と大学図書館でそれぞれ提供されているレファレンスサービスについて体験しておくこと。
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09262417	担当教員	河村 俊太郎		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	月 3
講義題目	図書館情報経営論／Library and Information Center Management 図書館情報経営論				

授業の目的・概要	図書館は非営利組織であるが、様々な職員が運営に関わっているため、その組織を維持し、発展させていくためには適切な経営が必要である。本講義では、こうした組織体としての図書館を適切に経営していくために不可欠である経営組織にかかわる、関連する法制度、業務体制、人材育成、各種計画の立案と評価等についての知識を学ぶ。
授業計画	”1 オリエンテーション・運営形態 2 図書館に関わる法制度 3 職員体制・図書館を支える人々 4 業務体制 5 組織デザイン(1) 6 組織デザイン(2) 7 中間まとめ 8 キャリア形成 9 人材育成・動機付け 10 計画立案 11 図書館予算 12 図書館評価 13 最終まとめ 13 まとめ”
授業の方法	レジュメを配布しつつ講義形式で進める。
成績評価方法	試験(40%×2回)、リアクションペーパーへの返答など講義への参加度(20%)
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	授業中に指示をする。／Will specify at class time
履修上の注意・備考	司書科目の「図書館制度・経営論」に相当する。 授業で紹介する図書館にかかわるニュースなどについて、その後の動向などを含め、自分でも調べてみること。
授業実施形態	対面・オンライン併用型 A(総時間数の半数以上を対面で実施)／Hybrid Type A(Face-to-face/Online): Conduct classes in-person 50% or more of the total hours of the course
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09262418	担当教員	三浦 太郎		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	月 2
講義題目	図書館文化史／Library and Cultural History 図書館文化史				

授業の目的・概要	図書の保存・利用の場として、図書館は歴史的にどのように発展してきたのだろうか。本講義では、欧米や日本の図書館の歴史を中心に論じる。 本を手にしたとき、ふと「これって、なんでこんな形なんだろう」と思ったり、近所の公立図書館や大学図書館で勉強していて、なんとなく「図書館って、いつ頃からあるのか」と疑問に感じたことがあるかもしれない。この授業では、図書や図書館にまつわるいくつかのトピックを拾いながら、その成り立ちや移り変わりについて理解を深めることをねらいとする。なかでも「近代公立図書館」という考え方が誕生した背景や、そうした考え方が日本に入ってきた経緯に焦点を合わせたい。
授業計画	“第 1 回イントロダクション 第 2 回文字の誕生と古代アレクサンドリア図書館 第 3 回中世修道院図書室と黙読文化 第 4 回ゲーテンベルクの印刷革命 第 5 回ドイツ図書館学思想の誕生 第 6 回米国ソーシャル・ライブラリーの成立 第 7 回米国パブリック・ライブラリーの成立 第 8 回米国パブリック・ライブラリーの展開 第 9 回日本の公家文庫・僧侶文庫 第 10 回江戸時代の文庫 第 11 回明治時代の書籍館・通俗図書館 第 12 回大正～昭和戦前期の図書館 第 13 回戦後占領期の図書館改革 第 14 回まとめ”
授業の方法	講義（日本語）による。
成績評価方法	試験（75%）および授業時の確認小テスト／小レポート（25%）による。
教科書	プリントを配布する。／Will distribute handouts
参考書	次の参考書を使用する。／Will use the following reference book
履修上の注意・備考	本科目は、司書資格取得のために大学において履修すべき「図書館に関する科目」の選択科目「図書・図書館史」にあたる。 特になし
授業実施形態	対面・オンライン併用型 A（総時間数の半数以上を対面で実施）／Hybrid Type A(Face-to-face/Online): Conduct classes in-person 50% or more of the total hours of the course
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09262419	担当教員	新居 池津子		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	木 5
講義題目	読書教育論／Reading Education 読書教育論				

授業の目的・概要	子どもにとって読書とは、基礎学力だけでなく、豊かな感性や心などを育む上で重要である。そのために公共図書館では、学校図書館や保健センターなどの関係機関や団体などと連携・協力しながら、子どもの読書活動を支援している。そこで、本講義では、まず、図書館における児童サービスや子どものためのメディアについて基本的な知識を身につける。それらの知識に基づき、演習活動(フィールドワーク)や話し合いを通して、子どもの視点に寄り添った適切な読書活動を提供することができるようになることを目的とする。 ／Reading is important for children not only in building foundational academic skills but also in nurturing rich sensibilities and emotional development.To that end&comma; public libraries support children's reading activities by collaborating and cooperating with related institutions and organizations such as school libraries and health centers.Therefore&comma; in this lecture&comma; we will first acquire basic knowledge about children’s services in libraries and media for children.Based on these knowledge&comma; the goal is for librarians to be able to provide appropriate reading activities that align with children’s perspectives through exercises&comma; fieldwork&comma; and discussions.
授業計画	”第 1 回: 児童サービスの意義と子どもと読書をめぐる状況 第 2 回: 子どもの発達段階と読書の役割 第 3 回: 子どものためのメディアと児童サービスの歴史 第 4 回: 子どものためのメディアの種類と特徴(1) フィクション・絵本 第 5 回: 子どものためのメディアの種類と特徴(2) ノンフィクション(知識の本、レファレンスブック、図書以外の資料) 第 6 回: 児童サービスのための環境づくり【演習課題 1】POP 作成 第 7 回: 児童サービスの評価 第 8 回: 児童サービスの種類と方法(読み聞かせ、ストーリーテリング、ブックトーク、科学遊び) 第 9 回: 乳幼児サービス 第 10 回: ヤングアダルトサービス 第 11 回: 読書のアニメーションに挑戦【演習課題 2】 第 12 回: 子どもに対するブックトーク【演習課題 3】 第 13 回: 子どもの読書活動の推進をめぐる学校図書館との協力・連携”
授業の方法	講義だけでなく、演習活動やフィールドワーク、受講生間で話し合いを行う機会を設ける。
成績評価方法	リアクションペーパー・ミニクイズ 20%、演習課題への取組や発表 60%、最終課題 20%により総合的に評価する。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	その他。／Other
履修上の注意・備考	本講義では、子ども(0歳から18歳まで)の本について、ブックトークやブックリストを課題とする。そこで、発達段階に応じたジャンルの異なる子どもの本について、あらかじめ目を通しておくこと。 また、以下の 3 点については、授業内での演習活動のために、事前/事後学修が必要となる。 ❶ 第 12 回の授業で行うブックトークの準備(【演習課題 2】) 対象となる年齢や学年を設定し、児童にオススメしたい本を 5 冊程度紹介できるように、以下の参考書・参考資料や身近な公共図書館等を利用し日頃から児童書に目を通しておくこと。 ❷ 第 11 回の授業で行う読書のアニメーションの準備(【演習課題 3】) 第 11 回までに、以下の指定図書の当該ページを熟読してくること。 J.K.ローリング作・松岡佑子訳(2001)『ハリー・ポッターとアズカバンの囚人』p.422-550&comma; ISBN9784915512407 参考:「三人はみんなと一緒に夕食を食べに降りたが、そのあとグリフィンドール塔へは戻らなかった。(p.422)～「君が説明してあげて」そう言って、ハリーはまた少しチョコレートを頬張った。(p.550)」 ❸ 授業時間外(平日の 10:00-16:00)だが、参加希望者には、2 時間程度の学外フィールドワーク(児童書出版者/学校図書館)を行うことを予定している。具体的な日時については、フィールドワーク先と調整後に授業で周知する。
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09262420	担当教員	河村 俊太郎		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	火 2
講義題目	読書と豊かな人間性／Reading and Human Development 読書と豊かな人間性				

授業の目的・概要	近年、活字離れや電子書籍の流通などが叫ばれる中で、子どもたちの読書を巡る状況が大きく変化している。そこで、日本の読書行政、子どもの発達段階、読書の歴史、学校、海外の状況、出版流通、地域社会を総合的に把握し、日本の学校図書館が今後どのように読書やその教育と関わっていくべきかについて学ぶ。
授業計画	”第1回：イントロダクション 第2回：子どもの読書の現場 第3回：日本の読書推進行政 第4回：発達段階と読書 第5回：近現代の日本における読書教育の歴史 第6回：中間まとめ 第7回：読書教育の手法 第8回：読書教育の実践 第9回：学校教育と読書教育 第10回：図書資料の種類とその選択 第11回：読書と新しいメディア 第12回：地域社会との連携 第13回：まとめ ”
授業の方法	主に講義にて行うが、現場の司書の実践を体験する回も設ける予定である。
成績評価方法	試験 80% 授業への参加状況 20%
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	授業中に指示をする。／Will specify at class time
履修上の注意・備考	準備学習として、これまでの自分の読書経験について振り返ってみること。何を読んだか、だけでなく、何がきっかけでどのような場で、そしてどのように読んだか。
授業実施形態	対面・オンライン併用型 A（総時間数の半数以上を対面で実施）／Hybrid Type A(Face-to-face/Online): Conduct classes in-person 50% or more of the total hours of the course
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09262421	担当教員	星加 良司、能智 正博、野崎 大地、熊谷 晋一郎、近藤 武夫、額賀 美紗子、東郷 史治、飯野 由里子、大塚 類		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	金 5
講義題目	ダイバーシティ・インクルージョン概論／Introduction to the Theories of Diversity and Inclusion ダイバーシティ・インクルージョン概論				

授業の目的・概要	障害者・女性・性的マイノリティ・外国にルーツを持つ人々等、多様な背景や特性を持つ人々の包摂(ダイバーシティ・インクルージョン)の必要性が社会的な関心事となっている。一方で、現実を目を向ければ、多様性の包摂は道半ばであるばかりでなく、ヘイトやバックラッシュ等、差異や多様性をめぐる分断や格差が先鋭化する状況すら顕在化している。こうした「理念」と「現実」とのギャップを的確に分析し、それを架橋するための方略を探究する知性が、多様性を包摂する社会に生きる私たちには求められている。本授業では、マジョリティ中心に形成された環境・制度・規範等がマイノリティを周縁化するメカニズムに着目しつつ、様々な専門性を有する教員の講義を通じて、多様性が活きる社会を実現するための視点や実践的知見を提供する。 ※なお、この授業は、学部横断型「ダイバーシティ・インクルージョン教育プログラム」のコア科目(選択必修)として開講されている。
授業計画	”第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 ダイバーシティ・インクルージョン(DI)をめぐる動向と基礎的課題 第 3 回 移民の子どもから考える日本社会の多様性 第 4 回 インクルーシブ教育とは 第 5 回 インクルーシブ教育とICT 第 6 回 身体機能の障害に立ち向かう科学技術 第 7 回 思春期の多様な自己実現を可能にする心の健康とメンタルヘルスリテラシー 第 8 回 ナラティブと障害 第 9 回 解釈的正義と当事者研究 第 10 回 DIとクイア・アクティヴィズム 第 11 回 DIと障害学 第 12 回 クイア理論と障害学を架橋する 第 13 回 これからの「多様性理解」について考える ”
授業の方法	この授業は、ガイダンスも含めてオンラインで行います。開始時間までに下記 Zoom ミーティングにアクセスするようにしてください。 https://u-tokyo-ac-jp.zoom.us/j/81259457827?pwd=VTU4H7DwaE1YZvxLmWYcbtad5whei8.1 ミーティング ID: 812 5945 7827 /パスコード: 251428
成績評価方法	毎回の講義(第2回以降)に対するリアクションペーパーを中心に、各担当教員から随時提示される課題への評価を加味して総合評価を行います。リアクションペーパーについては、オンライン講義の最後の 10 分に、UTOL を用いて入力して貰う予定です。あまりに短い文章(例えば 30 字以内)は、0 点とすることがあります(各回 10 点満点で合計 120 点満点となり、指定の比率に応じた相対評価で成績をつけていきます)。およそ 200 字前後を目安として、自らの考えをしっかりとまとめる機会として用いてください。提出は、講義日の翌々日(日曜日
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	Zoom の参加 URL については、固定された URL を設定していますが、担当教員によって変更する可能性もありますので、毎回確認をするようにしてください。インターネットにうまくつながらない場合、事情により時間内で接続できなかった場合のために、講義を録画しています。
授業実施形態	オンライン型(オンラインのみで実施)／Fully Online: All classes conducted online
教育職員免許法上の認定科目	

・教育社会科学専修 比較教育社会学コース

時間割コード	09263101	担当教員	中村 高康		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	金 3
講義題目	教育社会学概論／Introduction to Sociology of Education 教育社会学概論				

授業の目的・概要	教育現象を社会的に捉えるとは、どういうことか。なぜそれが必要なのか。現在の教育はいかなる状況にあるのか。この概論では、教育を対象とする社会学の基本的な理論や概念、実証的知見を学ぶことを通じて、教育をめぐる我々が直面している課題を理解することを目的とする。
授業計画	”さしあたり以下の内容を予定している(若干の変更の可能性あり。初回講義時に説明する)。 ①イントロダクション・教育社会学とは何か ②教育社会学のパラダイム1 ③教育社会学のパラダイム2 ④社会の中で生まれるー属性・社会化・言語ー ⑤家庭の中で育つー家族と教育ー ⑥ 学校に入るー近代化と教育投資ー ⑦学校の中で育つ1ー学校の社会的機能ー ⑧学校の中で育つ2ー教育内容・教育方法と社会ー ⑨学校の中で育つ3ー学校安全・学校問題ー ⑩学校から労働へー就職とキャリアー ⑪次の世代へー社会階層と教育ー ⑫ジェンダーと教育 ⑬まとめ:現代の教育を見る視点 ”
授業の方法	リアクションペーパーやコメントメモを提出してもらい、それを前提にして、授業は議論と講義を組み合わせた形で行う。授業では挙手ないし指名によりできるだけ学生からの意見を募る。
成績評価方法	通常リアクションペーパーおよびコメントメモ(随時)のほかに、学期末に試験を実施する。成績は、リアクションペーパー等:期末試験=50:50 の比で評価する。授業への参加度(発言等)も若干加味することがある。
教科書	その他。／Other
参考書	次の参考書を使用する。／Will use the following reference book
履修上の注意・備考	授業への積極的な参加を期待したい。
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※4 参照 ※C 参照

時間割コード	09263102	担当教員	多喜 弘文		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	火 3
講義題目	高等教育概論／Introduction to Higher Education Studies 高等教育概論				

授業の目的・概要	本講義は、高等教育の構造と機能についての理解を深めることを目標とする。基本的な概念・考え方の習得と、具体的な歴史と現状の検討を通じ、今ある高等教育を他でもあり得たものとして批判的に捉える視野を提供する。高等教育のあり方とそれを要請する教育外部の社会構造との相互作用に目を向けるため、異なる時代や異なる社会を取り上げて比較をおこなう。
授業計画	”1. イントロダクション 2. 大学の歴史(1) 3. 大学の歴史(2) 4. 大学の歴史(3) 5. 戦前日本の高等教育(1) 6. 戦前日本の高等教育(2) 7. 戦後日本の高等教育(1) 8. 戦後日本の高等教育(2) 9. 戦後日本の高等教育(3) 10. 欧米における高等教育(1) 11. 欧米における高等教育(2) 12. 高等教育の段階移行論 13. 総括”
授業の方法	主に講義形式でおこなうが、授業時には発言や議論への参加を求めることがある。受講者には、指定された内容についてのリアクションペーパー等を課す。
成績評価方法	平常点(60%)、期末レポート(40%)
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	事前に文献を読んで出席することを求める場合がある。
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (社)社会学[(公)社会学

時間割コード	09263103	担当教員	額賀 美紗子、荻巣 崇世、北村 友人		
単位数	2	学 期	S1	時 限	木 3, 木 4
講義題目	比較教育学概論／Introduction to Comparative Education 比較教育学概論				

授業の目的・概要	本講義の目的は、比較教育学の目的、発展経緯、理論、方法、テーマについて理解し、比較教育学のテーマに関わる学校のフィールドワークや国際データの検討、ゲストスピーカーの講義と授業内討論を通じて学生が比較教育学の知識と方法論を習得することである。 講義は教育社会学を専攻する三名の教員が担当し、それぞれが専門とする研究領域(異文化間教育/教育開発)、地域(アメリカ/アジア諸国)、教育段階(幼児・初等教育/高等教育)、焦点(政策/実践)を紹介する。グローバリゼーションの進展の中で、比較教育学における研究テーマや分析視角の多様化が進んでいることについて理解を深めてもらいたい。 具体的には、比較教育学に含まれる以下の研究領域を取り上げる。①教育制度、学校文化、子育てといった具体的なテーマに関する国際比較、②主に途上国における教育発展を扱う国際教育開発の理論と実践、③21 世紀に向けた教育の新たなアプローチ、グローバル化と教育の関係、④人の国際移動に伴う教育の多文化化と移民生徒の学力保障、である。 なお、この授業科目は、教職課程の「教科に関する科目((社)地理学、(公)社会学)」に該当する。
授業計画	”第1週 (4/9 1コマのみ) 担当:額賀 比較教育学とは何か 比較教育学の目的、発展経緯、理論、方法について概観する。学力、学校文化、子育てなど具体的なテーマに関するデータを検討しながら、日本の教育を相対化して考える視点について学び、グローバル化時代における国際比較研究の意義を考える。 第2週 (4/16) 担当:荻巣 比較教育学の中の国際教育開発 ①理論編 国際教育開発論について、比較教育学における意義と位置付け、課題と展望について概観する。特にカンボジアを事例として、国際教育開発が扱う研究課題や方法について理解を深めるとともに、価値観の押し付け論などの倫理的な問題についても考える。 第 3 週 (4/23) 担当:荻巣 比較教育学の中の国際教育開発 ②実践編 カンボジアで活動する日本の NGO「SALASUSU」より、代表の青木氏をゲストスピーカーとし、国際教育開発の実践に携わることへの思いや葛藤、今後の展望などについてお話を伺う。SALASUSU は「かものはしプロジェクト」から派生した団体で、カンボジアにおいて人身売買の危険に晒されている女性や子どもに対して独自のライフスキル教育プログラムを提供している。こうした具体的な活動について知り、実践者対話することで、翻って比較教育学や国際教育開発論を学ぶことの意味を考える機会としたい。 第4週 (4/30) 担当:北村 比較教育学の国際的な視点からの捉え直し 「比較教育学を国際的な視点から考える」というテーマのもと、比較教育学の可能性と課題について、グローバル化の影響を踏まえながら検討を加える。持続可能な社会の実現へ向けて、教育が果たすべき役割はどのようなものであるか、変容する「学び」のあり方という観点から検討を加える。「持続可能な開発目標(SDGs)」との関連を中心に据えながら、多様な教育のあり方について論じる。 第5週 (5/14) 担当:北村 比較教育学の課題と展望 第4週 の議論を踏まえ、現在の比較教育学が直面している課題を整理し、今後の比較教育学のあり方を展望する。 第6週 (5/21) 担当:額賀 国際移動と教育 日本社会の多民族化・多文化化の状況について学び、異文化間教育学・比較教育学の視点から移民背景をもつ子どもたちの教育機会やウェルビーイングについて考える。移民の子どもや親の経験から、学校や地域社会における包摂と排除の課題を検討し、多様性が尊重される公正な社会の実現に必要な政策や実践を検討する。ゲストスピーカーとして、移民生徒の教育に長年携わってきた高校教員の方を迎え、教育現場で生起するリアルな課題を共に考えたい。 第7週 (5/28) 担当:額賀 外国籍の子どもの教育を受ける権利(横浜中華学校訪問) 日本には多くの外国人学校が存在し、外国籍だけではなく日本国籍の子どもがさまざまな理由から外国人学校を選択し、在籍している。しかし、その多くは学校教育法で定められた一条校ではないため持続的な運営に困難が生じやすく、地域社会や日本的一条校との間の関係構築が難しい場合がみられる。また、日本では外国籍の子どもに就学義務がないため、外国人学校に通う子どもの学ぶ権利は看過されがちである。この授業では横浜にある中華学校を訪問し、授業見学や生徒との交流を通じて外国人学校の存在意義や直面する困難について理解を深める。 ”

授業の方法	講義とディスカッションを組み合わせる
成績評価方法	出席 10%、毎回の授業におけるミニレポート課題（北村 30%、額賀 30%、荻巣 30%）
教科書	次の教科書を使用する。／Will use the following textbook
参考書	次の参考書を使用する。／Will use the following reference book
履修上の注意・備考	・二コマ続きの講義であるため、両方とも受講できることが履修条件となります。グループ・ディスカッションに積極的に参加することを求めます。 ・授業の資料は LMS にアップロードするので、各自授業に持ち込むこと。紙媒体で配布はしません。 ・zoom や jamboard にアクセスしてもらう回がありますので、ネットにつながる PC を用意して授業に参加してください。
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目（社）地理学(地誌を含む) (公)社会学

時間割コード	09263201	担当教員	仁平 典宏、多喜 弘文、小原 明恵		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	木 1
講義題目	教育社会学調査実習 I ／Training in Research Methods for Sociology of Education I 教育社会学調査実習 I				

授業の目的・概要	この演習では、「教育社会学調査実習 II～IV」、および「教育調査分析法」と一体となって、教育を中心テーマに、社会調査の手法を実習を通して学習することを目的とする。とくに、「教育社会学調査実習 I」では、「教育社会学調査実習 III、IV」で行う調査実習で必要とされる知識として、社会調査に関する基本的な考え方、量的調査や質的調査などの社会調査の方法、資料やデータの蒐集から分析までの諸過程、質問文の作り方などについて、テキストを用いて学習する。この実習を通じて、社会学的な認識のしかた、問題構成の方法、社会的現実の記述と分析の方法について学んで欲しい。
授業計画	”1 ガイダンス。研究の進め方、文献の探し方、調査倫理について。 2 文献講読。社会調査の歴史。社会調査の目的、調査の種類と実例、量的調査と質的調査、統計的調査と事例研究法。 3 文献講読。調査の目的に応じた調査方法の選び方。標本調査の特徴。 4 文献講読。先行研究・先行調査などの探し方。 5 文献講読。社会学の理論と検証。理論仮説―作業仮説―検証。 6 文献講読。社会調査の目的。仮説―質問項目。 7 文献講読。変数のしくみ。データのしくみ。変数の合成のしかた。 8 文献講読。質問紙のしくみ。 9 文献講読。ワーディングの注意点。 10 調査対象に関する既存資料・官庁統計などについての報告。 11 文献購読。昨年度の調査実習報告書の批判的検討。 12 研究トピック別に3班に分かれて討議(「社会調査とプライバシー」等) 13 文献講読。今後の調査の流れについて留意点、課題、作業について説明。”
授業の方法	演習
成績評価方法	平常点
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	コース学生のみ履修可 初回の授業は2限に行います。
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (社)社会学[(公)社会学

時間割コード	09263202	担当教員	仁平 典宏、多喜 弘文、小原 明恵		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	木 2
講義題目	教育社会学調査実習Ⅲ／Training in Research Methods for Sociology of Education Ⅲ 教育社会学調査実習Ⅲ				

授業の目的・概要	この演習では、「教育社会学調査実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ」、および「教育調査分析法」と一体となって、教育を中心テーマに、社会調査の手法を実習を通して学習することを目的とする。とくに、「教育社会学調査実習Ⅲ」では、「教育社会学調査実習Ⅳ」で行う質問紙調査の準備段階として、調査の企画、仮説構成、調査項目の設定、質問文・質問紙の作成などの作業を行う。
授業計画	“4～5 月：文献講読(実証研究、社会学の考え方、質問紙の作り方・ワーディング・変数のしくみ)、調査の企画、見本となる研究例や先行研究の検討。 6 月～7 月：仮説構成、調査票の作成(質問項目づくり、ワーディングの検討)。”
授業の方法	1.調査のテーマ/領域:中学校の生活と学習に関する調査 2.調査の内容/概要:首都圏では中学受験が盛んになり、公立中学校にも学校選択制が導入されるなど従来とはまったく違った状況の中で、そのあり方自体が問われる時代となっている。他方で地方の公立中学校は人口減少など別の形の問題に直面している。この調査実習では、首都圏と地方の 2 つの自治体内の公立中学校群を対象とした質問紙調査を実施することで、それぞれの地域に住む中学生の生活や進路意識等の実態を学生自らがとらえることを目標とする。 3.調査の範囲/対象:首都圏 X 区立中学校生徒、地方 Y 自治体立中学校生徒 4.主な調査項目:友人関係、家庭での過ごし方、学校観、授業に対する姿勢、遊び、生活意識、通塾、受験、地域交流など 5.データ収集の方法:質問紙調査 6.調査の実施時期・調査地:9～11 月・首都圏 X 自治体立及び地方 Y 自治体立の中学校生徒を対象とする、学校通しのアンケート調査 7.調査における学生のかかわり/役割:受講学生一人ひとりが社会学的な仮説を立て、その検証に必要な質問をつくり、データ収集後は、コーディング作業、集計表の作成、分析、考察、レポートの作成まで行う。
成績評価方法	平常点
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	コース学生のみ履修可
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (社)社会学[(公)社会学

時間割コード	09263203	担当教員	仁平 典宏、多喜 弘文、小原 明恵		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	木 1
講義題目	教育社会学調査実習Ⅱ／Training in Research Methods for Sociology of Education Ⅱ 教育社会学調査実習Ⅱ				

授業の目的・概要	この演習では、「教育社会学調査実習Ⅰ、Ⅲ、Ⅳ」、および「教育調査分析法」と一体となって、教育を中心テーマに、社会調査の手法を実習を通して学習することを目的とする。とくに、「教育社会学調査実習Ⅱ」では、「教育社会学調査実習Ⅳ」で行う質問紙調査の分析に必要とされる知識として、サンプリングの方法、調査の実施方法、調査データの整理、統計の基礎知識や諸分析方法、統計ソフトの使用方法などについて、テキスト等を用いて学習する。この実習を通して、社会学的な調査の方法と考え方を体得することをめざす。この実習を通じて、社会学的な認識のしかた、問題構成の方法、社会的現実の記述と分析の方法について学んで欲しい。
授業計画	”1 文献講読。全数調査と標本調査、サンプリングの諸方法。本調査サンプルの特徴と留意点。 2 調査の実施方法に関する説明。調査対象への質問紙の発送・回収作業、質問紙に添付する、説明や依頼や調査実施方法に関する書類の書き方。 3 調査票の構成と、質問文を作成する上での方法と留意点に関する講義。 4 分析で主として用いる統計に関する確認の講義。(基礎統計量、クロス分析。エラボレーションなどの研究モデル。) 5 分析で用いる統計ソフト SPSS に関する講義。(データファイルのしくみ。基礎的な記述統計分析。変数の加工方法。) 6 調査データの整理方法に関する講義。(エディティング、コーディング、変数リストのしくみ、コーディングマニュアルの作り方。) 7 エディティング、コーディング作業。同上 8 調査データの整理方法に関する講義(1)。(回答状況に基づく新変数の作成。自由記述の処理。) 9 調査データの整理方法に関する講義(2)。(データクリーニングについて。) 10 調査データの整理方法に関する講義(3)。(基礎集計表の作成方法) 11 受講者全員で、基礎集計表に基づく、データの特徴に関する検討。 12 報告書を作成する際の留意点について。 13 担当教員、TA からデータ分析に関する個別指導。”
授業の方法	演習
成績評価方法	平常点
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	コース学生のみ履修可
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (社)社会学[(公)社会学

時間割コード	09263204	担当教員	仁平 典宏、多喜 弘文、小原 明恵		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	木 2
講義題目	教育社会学調査実習Ⅳ／Training in Research Methods for Sociology of Education Ⅳ 教育社会学調査実習Ⅳ				

授業の目的・概要	この演習では、「教育社会学調査実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ」、および「教育調査分析法」と一体となって、教育を中心テーマに、社会調査の手法を実習を通して学習することを目的とする。とくに、「教育社会学調査実習Ⅲ」では、「教育社会学調査実習Ⅳ」で行う質問紙調査の準備段階として、調査の企画、仮説構成、調査項目の設定、質問文・質問紙の作成などの作業を行う。
授業計画	“4～5 月：文献講読(実証研究、社会学の考え方、質問紙の作り方・ワーディング・変数のしくみ)、調査の企画、見本となる研究例や先行研究の検討。 6 月～7 月：仮説構成、調査票の作成(質問項目づくり、ワーディングの検討)。”
授業の方法	1.調査のテーマ/領域:中学校の生活と学習に関する調査 2.調査の内容/概要:首都圏では中学受験が盛んになり、公立中学校にも学校選択制が導入されるなど従来とはまったく違った状況の中で、そのあり方自体が問われる時代となっている。他方で地方の公立中学校は人口減少など別の形の問題に直面している。この調査実習では、首都圏と地方の 2 つの自治体内の公立中学校群を対象とした質問紙調査を実施することで、それぞれの地域に住む中学生の生活や進路意識等の実態を学生自らがとらえることを目標とする。 3.調査の範囲/対象:首都圏 X 区立中学校生徒、地方 Y 自治体立中学校生徒 4.主な調査項目:友人関係、家庭での過ごし方、学校観、授業に対する姿勢、遊び、生活意識、通塾、受験、地域交流など 5.データ収集の方法:質問紙調査 6.調査の実施時期・調査地:9～11 月・首都圏 X 自治体立及び地方 Y 自治体立の中学校生徒を対象とする、学校通しのアンケート調査 7.調査における学生のかかわり/役割:受講学生一人ひとりが社会学的な仮説を立て、その検証に必要な質問をつくり、データ収集後は、コーディング作業、集計表の作成、分析、考察、レポートの作成まで行う。
成績評価方法	平常点
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	コース学生のみ履修可
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (社)社会学[(公)社会学

時間割コード	09263205	担当教員	本田 由紀、荻巣 崇世、多喜 弘文、額賀 美紗子、中村 高康、仁平 典宏		
単位数	2	学 期	通年	時 限	水 6
講義題目	比較教育社会学論文指導／Dissertation Research in Sociology of Education, Comparative Education and Higher Education 比較教育社会学論文指導				

授業の目的・概要	各教員が第一回ゼミに説明する。
授業計画	”各教員が第一回ゼミに説明する。”
授業の方法	各教員が第一回ゼミに説明する。
成績評価方法	各教員が第一回ゼミに説明する。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	各教員が第一回ゼミに説明する。
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09263501	担当教員	本田 由紀、荻巣 崇世、多喜 弘文、額賀 美紗子、中村 高康、仁平 典宏		
単位数	2	学 期	通年	時 限	月 1
講義題目	比較教育社会学研究指導／Tutorial in Sociology of Education, Comparative Education and Higher Education 比較教育社会学研究指導				

授業の目的・概要	詳しくは各教員の第一回ゼミで説明する。
授業計画	”詳しくは各教員の第一回ゼミで説明する”
授業の方法	詳しくは各教員の第一回ゼミで説明する
成績評価方法	詳しくは各教員の第一回ゼミで説明する
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	詳しくは各教員の第一回ゼミで説明する
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09264101	担当教員	上田 孝典		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	月 2
講義題目	社会教育論Ⅱ／Theories of Adult Education Ⅱ 社会教育論Ⅱ				

授業の目的・概要	この授業では、戦後の社会教育の歴史、政策、法制度について概説する。また UNESCO を中心とする生涯学習理論との比較によって、日本の社会教育の独自性と課題について理解する。これらを通して、今後の社会教育のあり方と公教育として果たす役割について考察することができるようになる。 This class will provide an overview of the history, policies, and legal system of social education in the postwar period Japan. Through comparisons with UNESCO and other lifelong learning theories, students will understand the uniqueness and challenges of Japanese social education. The course will also examine the future of social education and the role it should contribute as public education.
授業計画	”1. 近代の社会教育 2. 戦争と社会教育 3. 日本国憲法と社会教育 4. 社会教育法と社会教育の自由 5. 高度経済成長期の社会教育 6. 都市と農村の社会教育 7. UNESCO の生涯教育理論 8. CONFINTIA と学習権 9. 新自由主義と生涯学習政策 10. アンドラゴジーと成人学習論 11. 生涯学習政策と自治体合併 12. 地域づくりと社会教育 13. 社会教育士と社会教育主事”
授業の方法	講義とディスカッション、必要に応じてプレゼンテーションを課す
成績評価方法	レポート 50% 小レポート 30% 授業への参加状況 20%
教科書	授業中に指示をする。／Will specify at class time
参考書	授業中に指示をする。／Will specify at class time
履修上の注意・備考	授業内で小レポートを課すこともある。
授業実施形態	オンライン型(オンラインのみで実施)／Fully Online: All classes conducted online
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09264102	担当教員	北村 友人、荻巣 崇世、額賀 美紗子		
単位数	2	学 期	S1	時 限	木 3, 木 4
講義題目	比較教育学概論／Introduction to Comparative Education 比較教育学概論				

授業の目的・概要	本講義の目的は、比較教育学の目的、発展経緯、理論、方法、テーマについて理解し、比較教育学のテーマに関わる学校のフィールドワークや国際データの検討、ゲストスピーカーの講義と授業内討論を通じて学生が比較教育学の知識と方法論を習得することである。 講義は教育社会学を専攻する三名の教員が担当し、それぞれが専門とする研究領域(異文化間教育/教育開発)、地域(アメリカ/アジア諸国)、教育段階(幼児・初等教育/高等教育)、焦点(政策/実践)を紹介する。グローバリゼーションの進展の中で、比較教育学における研究テーマや分析視角の多様化が進んでいることについて理解を深めてもらいたい。 具体的には、比較教育学に含まれる以下の研究領域を取り上げる。①教育制度、学校文化、子育てといった具体的なテーマに関する国際比較、②主に途上国における教育発展を扱う国際教育開発の理論と実践、③21 世紀に向けた教育の新たなアプローチ、グローバル化と教育の関係、④人の国際移動に伴う教育の多文化化と移民生徒の学力保障、である。 なお、この授業科目は、教職課程の「教科に関する科目((社)地理学、(公)社会学)」に該当する。
授業計画	”第1週 (4/9 1コマのみ) 担当:額賀 比較教育学とは何か 比較教育学の目的、発展経緯、理論、方法について概観する。学力、学校文化、子育てなど具体的なテーマに関するデータを検討しながら、日本の教育を相対化して考える視点について学び、グローバル化時代における国際比較研究の意義を考える。 第2週 (4/16) 担当:荻巣 比較教育学の中の国際教育開発 ①理論編 国際教育開発論について、比較教育学における意義と位置付け、課題と展望について概観する。特にカンボジアを事例として、国際教育開発が扱う研究課題や方法について理解を深めるとともに、価値観の押し付け論などの倫理的な問題についても考える。 第 3 週 (4/23) 担当:荻巣 比較教育学の中の国際教育開発 ②実践編 カンボジアで活動する日本の NGO「SALASUSU」より、代表の青木氏をゲストスピーカーとし、国際教育開発の実践に携わることへの思いや葛藤、今後の展望などについてお話を伺う。SALASUSU は「かものはしプロジェクト」から派生した団体で、カンボジアにおいて人身売買の危険に晒されている女性や子どもに対して独自のライフスキル教育プログラムを提供している。こうした具体的な活動について知り、実践者対話することで、翻って比較教育学や国際教育開発論を学ぶことの意味を考える機会としたい。 第4週 (4/30) 担当:北村 比較教育学の国際的な視点からの捉え直し 「比較教育学を国際的な視点から考える」というテーマのもと、比較教育学の可能性と課題について、グローバル化の影響を踏まえながら検討を加える。持続可能な社会の実現へ向けて、教育が果たすべき役割はどのようなものであるか、変容する「学び」のあり方という観点から検討を加える。「持続可能な開発目標(SDGs)」との関連を中心に据えながら、多様な教育のあり方について論じる。 第5週 (5/14) 担当:北村 比較教育学の課題と展望 第4週 の議論を踏まえ、現在の比較教育学が直面している課題を整理し、今後の比較教育学のあり方を展望する。 第6週 (5/21) 担当:額賀 国際移動と教育 日本社会の多民族化・多文化化の状況について学び、異文化間教育学・比較教育学の視点から移民背景をもつ子どもたちの教育機会やウェルビーイングについて考える。移民の子どもや親の経験から、学校や地域社会における包摂と排除の課題を検討し、多様性が尊重される公正な社会の実現に必要な政策や実践を検討する。ゲストスピーカーとして、移民生徒の教育に長年携わってきた高校教員の方を迎え、教育現場で生起するリアルな課題を共に考えたい。 第7週 (5/28) 担当:額賀 外国籍の子どもの教育を受ける権利(横浜中華学校訪問) 日本には多くの外国人学校が存在し、外国籍だけではなく日本国籍の子どもがさまざまな理由から外国人学校を選択し、在籍している。しかし、その多くは学校教育法で定められた一条校ではないため持続的な運営に困難が生じやすく、地域社会や日本的一条校との間の関係構築が難しい場合がみられる。また、日本では外国籍の子どもに就学義務がないため、外国人学校に通う子どもの学ぶ権利は看過されがちである。この授業では横浜にある中華学校を訪問し、授業見学や生徒との交流を通じて外国人学校の存在意義や直面する困難について理解を深める。 ”

授業の方法	講義とディスカッションを組み合わせる
成績評価方法	出席 10%、毎回の授業におけるミニレポート課題（北村 30%、額賀 30%、荻巣 30%）
教科書	次の教科書を使用する。／Will use the following textbook
参考書	次の参考書を使用する。／Will use the following reference book
履修上の注意・備考	・二コマ続きの講義であるため、両方とも受講できることが履修条件となります。グループ・ディスカッションに積極的に参加することを求めます。 ・授業の資料は LMS にアップロードするので、各自授業に持ち込むこと。紙媒体で配布はしません。 ・zoom や jamboard にアクセスしてもらう回がありますので、ネットにつながる PC を用意して授業に参加してください。
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目（社）地理学(地誌を含む) (公)社会学

時間割コード	09264103	担当教員	河村 俊太郎		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	火 3
講義題目	情報資料論／Information Media 情報資料論				

授業の目的・概要	図書館が扱う情報資源の範囲は年々広がっている。本講義では、そういった幅広い情報資源をまず概観し、それらがどのような性質を持っており、図書館においてどのような意義を持つのかを明らかにする。その上で、図書館はどのように情報資源を収集、蓄積、維持、発展させていくべきであり、また実際の現場において情報資源はどのように扱われているのかという図書館におけるコレクション形成の理論と実際を見ていく。
授業計画	”第 1 回 イントロダクション 第 2 回 情報資源の歴史 第 3 回 情報資源の出版と流通 第 4 回 印刷資料 第 5 回 非印刷資料 第 6 回 電子資料、ネットワーク資料 第 7 回 中間まとめ 第 8 回 地域資料、行政資料、灰色文献 第 9 回 学術情報資源とその流通 第 10 回 情報の性質 第 11 回 コレクション形成の理論 第 12 回 コレクション形成の実際 第 13 回 まとめ ”
授業の方法	講義による。
成績評価方法	試験（40%×2） リアクションペーパー（20%）
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	授業中に指示をする。／Will specify at class time
履修上の注意・備考	毎回授業の前日までに講義資料を UTOL にアップロードするので、必ずダウンロードしておくこと。 授業で紹介する図書館にかかわるニュースなどについて、その後の動向などを含め、自分でも調べてみること。
授業実施形態	対面・オンライン併用型 A（総時間数の半数以上を対面で実施）／Hybrid Type A(Face-to-face/Online): Conduct classes in-person 50% or more of the total hours of the course
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09264104	担当教員	浅井 幸子		
単位数	2	学 期	S2	時 限	火 3, 火 4
講義題目	教職論／Introduction to Research on Teacher Development 教職論				

授業の目的・概要	教師の仕事に多様な側面からアプローチし、その複雑な構造を理解する。とりわけ教師の仕事の中心である授業の経験に焦点をあてる。教員免許の取得を目指す履修者には、進路選択を考えるための知識と情報を提供する。
授業計画	”授業の流れは以下のように予定している。各回のトピックは授業の進行の状況に従って変更することもある。 1回 ガイダンス 2回 変容する社会の教師(1) 転換期の学校 3回 変容する社会の教師(2) 知識社会の学校と教師 4回 教師の知識(1) 資質と知識 5回 教師の知識(2) 教師の実践的思考様式 6回 教師の同僚性と共同体(1) 教師の同僚性 7回 教師の同僚性と共同体(2) 専門家共同体 8回 教師と学校の責任(1) 教師のヴァルネラビリティ 9回 教師と学校の責任(2) 教師と学校の責任 10回 日本の授業研究の歴史(1) 授業研究の視点 11回 日本の授業研究の歴史(2) 授業研究の歴史 12回 専門性と専門職性(1) 教師の専門職性 13回 専門性と専門職性(2) 反省的实践家としての教師 14回 カリキュラムのデザイン(1) カリキュラムの概念 15回 カリキュラムのデザイン(2) カリキュラムの変化 15回 まとめ”
授業の方法	講義を中心に、具体的な課題に即したグループディスカッションを行う。
成績評価方法	出席と課題レポートで評価する。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	特になし。 特になし。
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※1 参照 ※B 参照

時間割コード	09264105	担当教員	藤江 康彦		
単位数	2	学 期	S2	時 限	集中
講義題目	教育方法論／Teaching Methods 教育方法論				

授業の目的・概要	[授業の目標]教育方法学という学問の射程とその方法について概観するとともに、教育方法学の研究対象のなかでも学校教育における「授業」という事象について様々な視点から検討することを通して、学校教育や教室といった制度的な学習の場の特徴、社会文化的な状況における子どもの学習のありようと支援の方法、子どもの学習・発達を支援する専門家としての教師の実践を理解することをめざす。具体的には以下の通りである。 1. 教育方法学という学問について理解する。 2. 学校教育における授業の特徴について理解する。 3. 授業という営みの特徴、授業の構成要素、授業のデザイン、について理解する。 4. 授業における子どもの学習の特徴や支援の方法について理解する。 5. 学校や教室とはどのような学習環境であるのか、教師はそこで何をすべきかについて考察する。 [授業の概要]学校における教師の仕事の中心は授業の構想、実践、省察を通して子どもの学習を支援することである。この授業では、学校における授業の目的、授業の歴史や形態、授業のコミュニケーション、授業のデザインと評価、教師の実践的知識と成長などについて、実践事例や研究事例を検討しながら探究していく。社会的、文化的、制度的な場である教室において、教師や子どもがどう生きているのか、教師の立場からその生をどのように看取することができるのか、ということを追っていく。
授業計画	”①ガイダンス:教育方法学とはどのような学問か ②教室という時空間 ③教室における学習の特徴 ④ディスカッション1 ⑤学習者とは ⑥学習者の声を聴く ⑦ディスカッション2 ⑧授業の成り立ち ⑨授業を準備する ⑩授業をおこなう ⑪授業を評価する ⑫ディスカッション3 ⑬まとめ”
授業の方法	講義を中心に、適宜、受講者間のディスカッションを取り入れる。
成績評価方法	定期試験を行わず、平常試験(課題・レポート等)で総合評価する。 「毎回の小課題」(70%)、「最終論述課題」(30%)によって総合的に評価する。ただし、毎回の小課題の提出が全体の3分の2に満たない場合、および最終論述課題が未提出の場合は、原則として評価の対象外とする。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	原則として授業は対面で実施するが、出欠確認、資料送付、毎回にミニレポート提出に UTOL を使用するので、UTOL に接続して作業のできる端末を持参すること。 ※2018 年度以前開講「教育の方法」(担当教員:藤江康彦)と同一内容のため、既に単位を修得している場合は本科目の履修を認めない。 ※2019 年度以降開講「教育の方法 I」の単位を修得していても履修は可能である。 [履修上の注意] ※8-9 月集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと 教育学部在学生向け Web サイト>授業・履修・学生生活>時間割>学部(集中講義) https://www.p.u-tokyo.ac.jp/students/class/#timetable
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※8 参照 ※J 参照

時間割コード	09264106	担当教員	上野 正道		
単位数	2	学 期	A2	時 限	集中
講義題目	教育課程論／Curriculum Studies 教育課程論				

授業の目的・概要	現代のグローバル時代において、学校教育は大きな転換点を迎えている。この科目では、教育課程の理論とその実践的課題を整理して検討し、教育課程の過去・現在・未来について吟味し探究することを目的にする。特に、民主主義と公共性を基盤にした学校改革の観点から、教育課程を構成する授業や学力、教師といった主題にアプローチするとともに、想像的なアートと学びを中心とする教育課程についても取り上げることとする。また、アメリカ、ヨーロッパ、アジア諸国の教育についても紹介する。それによって、教育課程とは何か、授業と学びをどのように創造するか、学校をどのように改革するか、といったテーマに迫ることにする。
授業計画	”この授業は、Zoom のリアルタイムとオンデマンドの動画配信の両方を使ったオンライン授業になります。 1日目 1限(第1回) ガイダンス 教育課程とは何か(Zoom リアルタイム) 2限(第2回) 学校と教育課程の現代史 3限(第3回) グローバル時代の学校と教育課程 4限(第4回) フィードバックとディスカッション(Zoom リアルタイム) 2日目 1限(第5回) 近代日本の学校と教育課程 2限(第6回) 西洋近代の学校と教育課程 3限(第7回) 新教育から現代の教育課程へ 4限(第8回) フィードバックとディスカッション(Zoom リアルタイム) 3日目 1限(第9回) アート教育とカリキュラム 2限(第10回) シティズンシップ教育とカリキュラム 3限(第11回) シティズンシップ教育とカリキュラム 4限(第12回) 教職の専門性と教育課程 5限(第13回) まとめ(Zoom リアルタイム)”
授業の方法	講義形式
成績評価方法	平常点とリアクション課題(レポート)による
教科書	次の教科書を使用する。／Will use the following textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	【履修上の注意】 本科目は開講時期(1-3 月集中講義)の都合上、2025 年度卒業・修了予定者については卒業・修了要件に含めることはできないので注意すること。 ※集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと 教育学部在学生向け Web サイト> 授業・履修・学生生活> 時間割> 学部(集中講義) https://www.p.u-tokyo.ac.jp/students/class/#timetable ※2020 年度以前開講「教育課程」(担当教員: 上野正道)と同一内容のため、既に単位を修得している場合は本科目の履修を認めない。
授業実施形態	オンライン型(オンラインのみで実施)／Fully Online: All classes conducted online
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※5 参照 ※F 参照

時間割コード	09264201	担当教員	大高 研道		
単位数	2	学 期	S2	時 限	木 3, 木 4
講義題目	社会教育学演習Ⅲ／Seminar in Adult and Lifelong Education III 社会教育学演習Ⅲ				

授業の目的・概要	本講義では、複雑な社会における協同・共生というテーマを軸に社会教育の意味・課題・可能性について考えたい。わが国の社会教育実践・研究は、法概念としての社会教育（公民館を中心とした公的社会教育）を前提としつつも、それが有する地域づくりといった社会的機能を踏まえ、家庭・学校・地域社会におけるさまざまな協同的営みと重なり合いながら展開する教育実践として捉えられてきた。とりわけ、人びとの共同生活の過程と教育の相互性に着目した J. デューイの教育観はわが国の社会教育実践・研究に大きな影響を与えてきたが、生活過程の普遍的市場化が進み、他者とつながることの困難性がますます高まっている現代において、自律した個人やコミュニティがいかにして支え合う関係を再構築するのか、さらには異質性を超えた豊かな他者関係（自己内他者）を形成する学びがいかにして生まれるのか、が、焦眉の課題となっている。講義では、今日の競争社会によって失われつつある他者との関係性や人間性を回復させる砦としてあらためて注目されている「コミュニティ」の現代的な形、およびそれらと密接な関連をもつ労働や学習のあり方について、多面的な生活領域および活動主体の実践紹介を交えながら検討したい。 This Seminar aims to consider the meaning&comma; challenges and possibilities of social education in relation to the concepts of cooperation and conviviality in a complex society. Social education practice and research in Japan has been seen as an educational practice that develops in overlapping with various collaborative activities in the home&comma; school and local community. In an age of universal marketisation of life processes and increasing difficulties in connecting with others&comma; the pertinent questions are how autonomous individuals and communities can rebuild relationships of mutual support&comma; and how learning to form generous other-relationships (self-in-others) that transcend heterogeneity can be generated. In the lecture&comma; the contemporary form of ‘community’&comma; which is attracting renewed attention as a means for restoring the relationships with others and humanity that are being lost in today’s competitive society&comma; and the nature of work and learning that are closely related to such relationships are discussed&comma; focusing on practices in various fields of life and activities.
授業計画	”第1回：イントロダクション 第2回：地域をつくる社会教育 第3回：共生社会と社会教育（1） 第4回：共生社会と社会教育（2） 第5回：市民活動と社会教育（1） 第6回：市民活動と社会教育（2） 第7回：地域学習と社会教育（1） 第8回：地域学習と社会教育（2） 第9回：公民館と社会教育（フィールドワーク 1） 第 10 回：公民館と社会教育（フィールドワーク 2） 第 11 回目 学校と社会教育（1） 第 12 回目 学校と社会教育（2） 第 13 回目 地域をつくる社会教育の展開に向けて 第 14 回目 総括討論とまとめ”
授業の方法	文献講義に基づいた個別論題報告・ディスカッション、現地フィールドワーク（国立公民館）からなる。具体的な進め方は初回演習時に説明するが、2 週目から報告を担当してもらうため第 1 回演習には必ず出席すること。
成績評価方法	・平常点（授業への参加度、報告・発表内容等）70%、レポート 30% ・自身の報告担当ではない週のテキスト箇所を読んでこなかったことが判明した場合は、以後の出席は認めない。
教科書	次の教科書を使用する。／Will use the following textbook
参考書	次の参考書を使用する。／Will use the following reference book
履修上の注意・備考	・対話型の講義を重視する。グループ討議や質問・発言などを通して積極的に参加して欲しい。 ・第 1 回演習では、第 2 週以降の報告担当者を決めるので、必ず参加すること。 ・テキストはあらかじめ購入し、序章は事前に読んでおくこと。 本演習は、近代社会の矛盾をベースとした現代社会構造への批判的・創造的検討と、そこで求められる実践コミュニティへの学習論的アプローチの模索が主題となる。 ・やむを得ない事情で初回演習に出席できない場合は、前日までに必ず連絡すること。テキスト担当箇所は自動割り

	当てとする。
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09264203	担当教員	勝野 正章		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	木 4
講義題目	教育行政・学校経営演習Ⅲ／Seminar in Educational Administration and School Management III 教育行政・学校経営演習Ⅲ				

授業の目的・概要	ケア、保健、教育、少年司法などの分野において改善が進んでいるにもかかわらず、子どもの権利は世界全体でいまだ十分には実現されているとは言えない。この点において日本も例外ではなく、貧困、いじめ、そしてジェンダー、能力、人種、国籍に基づく差別など、子どもの権利の実現を妨げる障壁が存在している。子どもの権利は、学際的アプローチを必要とするグローバルかつローカルな課題である。 本授業は、グローバルおよびローカルの両方の文脈において子どもの権利を前進させるための課題と可能性を探究することを目的とし、とりわけ学校における子どもの権利保障の現状と課題を検討、考察する。子どもの教育に関する権利は、教育への権利（例：平等なアクセス）、教育における権利（例：非差別、暴力や虐待からの保護、参加）、そして教育を通じた権利（例：人権および自由の尊重を促進すること）を含むが、これらの権利を保障するうえで重要な意義を持つものとして、子どもの意見表明権に注目する。
授業計画	“本授業では、関連文献の読解、グループ討議、選択したテーマに関する調査研究、そして子どもの権利をさらに向上させるための提案を含む成果発表を行う。可能であれば、フィールドワークも取り入れたい。”
授業の方法	文献・資料の輪読に加えて、可能な範囲でフィールドワークを実施する。
成績評価方法	授業中の発表並びにディスカッションへの参加に加え、最終レポートで評価する。
教科書	授業中に指示をする。／Will specify at class time
参考書	授業中に指示をする。／Will specify at class time
履修上の注意・備考	特になし。
授業実施形態	対面型（対面のみで実施）／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09264501	担当教員	李 正連、橋野 晶寛、河村 俊太郎、宮田 玲、影浦 峽、北村 友人、勝野 正章、高橋 和子、村上 祐介、藤江 康彦、浅井 幸子、新藤 浩伸		
単位数	2	学 期	通年	時 限	木 6
講義題目	教育実践・政策学研究指導／Tutorial in Educational Administration and Adult Education 教育実践・政策学研究指導				

授業の目的・概要	教育実践・政策学コース所属学生のために、教育実践・政策学（教育行政学・学校教育学・社会教育学・図書館情報学）に関する卒業論文の執筆指導を行なう。
授業計画	“以下の点について、報告・指導を行う。 1) 卒業論文の趣旨・書き方 2) テーマ選択 3) 研究方法 4) 研究成果のまとめ方 夏学期に１度、全体検討会を持つ。”
授業の方法	各自が卒業論文に向けた研究に取り組み、それに基づいて議論を行なう。
成績評価方法	平常点による。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	卒業論文執筆の規程を踏まえて履修すること。
授業実施形態	対面型（対面のみで実施）／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09265301	担当教員	綾城 初穂		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	月 5
講義題目	質的心理学研究法 I ／Research Methods for Qualitative Psychology I 質的心理学研究法 I				

授業の目的・概要	本授業では、主に心理学で用いられる質的研究法の基礎について、講義および演習を通して学んでいく。具体的には、最も頻繁に用いられるカテゴリー化志向の分析方法を扱う。ディスカッションやプレゼンテーションも評価に含めるため、受講生には積極的な参加を求めたい。 本授業の到達目標は以下の通りである。 (1) 質的研究について基礎的な知識を習得し、その概要を説明することができる。 (2) カテゴリー化志向の質的研究法の基礎的手続きを習得し、簡単な実施を行うことができる。 (3) 質的研究による結果を、心理学研究の方法論に沿って説明することができる。
授業計画	”第 1 回質的研究とは何か:授業にあたって 第 2 回質的研究法の具体例 第 3 回インタビュー法①:インタビューとは何か 第 4 回インタビュー法②:インタビューの実施 第 5 回インタビュー法③:トランスクリプトの作成 第 6 回テーマ分析①:第 1 フェーズ(熟知) 第 7 回テーマ分析②:第 2 フェーズ(コーディング) 第 8 回テーマ分析③:第 3 フェーズ(テーマの生成) 第 9 回テーマ分析④:第 4 フェーズ(テーマの発展) 第 10 回テーマ分析⑤:第 5 フェーズ(テーマの定義) 第 11 回テーマ分析⑥:第 6 フェーズ(執筆) 第 12 回テーマ分析⑦:全体をまとめる 第 13 回分析結果のプレゼンテーション① 第 14 回分析結果のプレゼンテーション② 第 15 回分析結果のプレゼンテーション③ ”
授業の方法	第 1 回講義 第 2 回講義 第 3 回講義・演習 第 4 回演習 第 5 回演習 第 6 回講義・演習・プレゼンテーション 第 7 回講義・演習・プレゼンテーション 第 8 回講義・演習・プレゼンテーション 第 9 回講義・演習・プレゼンテーション 第 10 回講義・演習・プレゼンテーション 第 11 回講義・演習・プレゼンテーション 第 12 回演習 第 13 回プレゼンテーション・ディスカッション 第 14 回プレゼンテーション・ディスカッション 第 15 回分析結果のプレゼンテーション③
成績評価方法	最終レポート 25%、課題レポート 25%、分析結果のプレゼンテーション 25%、演習や発表への参加状況 25% なお、演習が多くあるため欠席回数が多い場合は評価の対象外となる
教科書	次の教科書を使用する。／Will use the following textbook
参考書	次の参考書を使用する。／Will use the following reference book
履修上の注意・備考	・授業内で実際に分析を行うが、そのほとんどは授業内で終わらないため、各自が分析作業を進める必要がある。 ・第 6 回以降は授業内での作業のためにノートパソコンを持参すること。もしも事情でノートパソコンが手に入らない者は第 1 回の授業後に必ず担当講師に相談すること。 ・教科書の該当箇所については、自分が発表担当でなくとも目を通しておくこと。 文字起こしをはじめとした面倒な作業や明快な線引きができないどっちつかずの議論が苦でない人にとっては、質的研究はとてもおすすめできる。なお、本授業は「質的研究を学んだことがないけれども、関心があり、場合によっては卒業論文で使う可能性がある」という学生を想定して構成している。 教科書は、授業の大半で参照するため、購入を推奨する。 参考書は、質的研究法を卒業論文等で利用したい者には、購入を推奨する。 ただし、どちらも第 1 回目までに購入する必要はない。
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (公)心理学

時間割コード	09265302	担当教員	針生 悦子		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	木 1
講義題目	発達心理学演習／Seminar in Developmental Psychology 発達心理学演習				

授業の目的・概要	研究論文・専門書を読み、批判的に検討する作業を通じて、発達心理学の基本的な問題やその研究手法について学ぶ。
授業計画	“初回授業義に授業で取り上げる文献を指示する。毎回の授業では、それぞれの文献を参加者全員で読み、問題設定や研究手法、知見について理解を深めることをめざす。”
授業の方法	演習形式
成績評価方法	授業での発表、討論への参加、最終レポート
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	初回授業時に授業の進め方について説明し文献を呈示するので、履修予定者は必ず参加すること。
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09265303	担当教員	藤村 宣之		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	木 2
講義題目	教授・学習心理学演習 I / Seminar on Psychology of Learning and Instruction I 教授・学習心理学演習 I				

授業の目的・概要	教授・学習心理学やそれに関連する認知発達心理学の研究手法と最近の知見について理解を深めることを目標とする。先行研究の文献検討や、授業時の映像やワークシートの心理学的分析などを通じて、教授・学習心理学や認知発達心理学の知見と方法論(実験研究, 実践研究, 調査研究, 面接研究など)について学ぶ。
授業計画	”第 1 回: イントロダクション:教授・学習心理学に関する諸概念 第 2 回:教授・学習心理学, 認知発達心理学の研究手法 第 3～7 回:教授・学習心理学, 認知発達心理学に関する先行研究の文献検討 第 8～10 回:授業時の映像視聴, 心理学的視点による映像分析・ワークシート分析 第 11～13 回:分析にもとづく心理学的考察および関連する文献の検討 ”
授業の方法	教授・学習心理学や認知発達心理学に関する文献検討では、『教育心理学研究』, 『発達心理学研究』, 『教授学習心理学研究』などの学術誌に掲載されている, 教授・学習心理学分野や児童期・青年期の認知発達心理学分野の最近の論文を対象とし, 各論文の担当者を決めて担当者がレポートを行い, 参加者全員で検討・討論を行う。また, 授業時の映像分析・ワークシート分析では, 授業時の映像を視聴して発話等の心理学的分析を行うと同時に, 児童・生徒のワークシートの記述内容について心理学の視点から分析を行う。さらに分析にもとづいた心理学的考察を行うと同時に先行研究との関連性などについて検討する。
成績評価方法	授業への参加・発表状況, および最終レポートにより行う。
教科書	次の教科書を使用する。／Will use the following textbook
参考書	次の参考書を使用する。／Will use the following reference book
履修上の注意・備考	毎週の授業に先立ち, 当日の授業に対応する教科書の章, および当日に発表・検討予定の論文について熟読しておくこと。 第1回の授業は対面で行う。以降の予定については, 後日, 連絡する。
授業実施形態	対面・オンライン併用型 A(総時間数の半数以上を対面で実施)／Hybrid Type A(Face-to-face/Online): Conduct classes in-person 50% or more of the total hours of the course
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09265304	担当教員	中島 由宇、大瀧 玲子、能智 正博、高橋 美保、滝沢 龍		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	火 4
講義題目	心理演習／Seminar in Psychology 心理演習				

授業の目的・概要	心理療法やカウンセリングの実践的な基礎となる臨床的態度、人とかかわり人のこころを理解しようとするありかたについて、こころをつかって(体感的、内省的、対話的に)学びます。そうした学びを土台として、 ・心理的支援を要する人への心理療法などに関する知識や技能の修得を目指します。 ・心理的支援を要する人の理解やニーズの把握、支援計画の作成を行うためのアセスメント能力を養います。 ・心理的支援を要する人の現実生活を視野に入れたチームアプローチ、多職種連携や地域連携に必要な、対話し協働する力を養います。 ・公認心理師としての職業倫理及び法的義務の意義を理解します。
授業計画	”授業前半では、臨床心理学の基本となる理論や方法について講義する予定です。 臨床心理学の社会的基盤 臨床心理学の心理的基盤 臨床心理学の生物学的基盤 臨床心理学の研究 心理的支援技法 授業後半では、心理療法やカウンセリングの実践的な基礎となる臨床的態度について、ロールプレイとディスカッションを通して学ぶ予定です。 体験から考える 心理療法のポイント アセスメント 心理療法のテクニック 非言語の心理療法 ”
授業の方法	授業の前半は、臨床心理学実践の基本的な知識や姿勢について学ぶ講義を主とします。後半はロールプレイやディスカッションによる演習を主とします。
成績評価方法	レポートにより評価します。 授業前半: 各回の小レポート(40%) 授業後半: 各回の小レポートと最終レポート(あわせて 60%)
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	次の参考書を使用する。／Will use the following reference book
履修上の注意・備考	この授業は公認心理師資格取得のためのカリキュラムの一部です。4年生で、公認心理師課程の指定科目のうち、4分の3以上(25科目中18科目)の履修を受講し終えていることを条件とします。
授業実施形態	対面・オンライン併用型 A(総時間数の半数以上を対面で実施)／Hybrid Type A(Face-to-face/Online): Conduct classes in-person 50% or more of the total hours of the course
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09265305	担当教員	大瀧 玲子、能智 正博		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	火 1
講義題目	心理実習／Practical Training in Psychology 心理実習				

授業の目的・概要	公認心理師の活躍する各領域の施設において見学等による実習を行い、当該施設の実習指導者又は教員による指導を受けながら、以下の点についての理解を深める。 ・心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ ・多職種連携及び地域連携 ・公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解
授業計画	”① オリエンテーション ② 保健医療分野の概観 ③ 福祉・教育分野の概観 ④ 産業・司法分野の概観 11 月 ～1 月 先方と都合を合わせて実習に出る ⑫⑬ 振り返り”
授業の方法	まず座学において、保健医療、福祉、教育、産業、司法分野における公認心理師の活動について学んだ上で、以下の実習機関すべてを回ることになる。 ・東京大学医学部附属病院(5 日間、20 時間) ・社会福祉法人 三井記念病院（1 日間、8 時間) ・社会福祉法人 泉会 岡本福祉作業ホーム玉堤分場（2 日間、16 時間) ・東京少年鑑別所(1 日間、2 時間半) ・キューブ・インテグレーション株式会社(1 日間、3 時間) ・跡見学園中学校高等学校(1 日間、1 時間) ※ 実習先についてはあくまで予定であり、情勢等によって中止や内容変更等の可能性がある。
成績評価方法	平常点 70%(現地実習指導者による評価も含む)、 レポート 30%(施設毎に、A4 で1～2枚程度) レポートの締め切り・提出方法は授業内で提示する。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	公認心理師の受験資格を得ることを真剣に考えている4年生であること(3年生は来年度にとっていただきたい)。 原則として、「公認心理師の職責」および「心理演習」の単位を修得済みないし修得中の者。 実習費用がかかる可能性がある。
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09265306	担当教員	植阪 友理		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	月 3
講義題目	認知カウンセリング実践演習Ⅱ／Practical Training of Cognitive CounselingⅡ 認知カウンセリング実践演習Ⅱ				

授業の目的・概要	心理学を生かした実践的研究活動である,「認知カウンセリング」や,その応用について学ぶ授業である。認知カウンセリングとは、一言でいえば人間の知的な問題(例,「～が覚えられない」「時間をかけていても、問題が解けるようにならない」「やる気がでない」)を抱えたクライアントに対して、心理学を生かしながら自立支援を行う活動である。自己調整学習などの知見も活用しながら学習者の自立を促している。 こうした活動を通じて、心理学の有用性を知るとともに、心理学の限界にも気づくことになり、新たな研究の立ち上げにもつながることが期待できる。こうした認知カウンセリングは、貧困家庭の子どもの支援や文京区教育センターと連携した事業などで活用されている。 本授業では、実際に「～に困っている」という人を対象に支援を行う。自分飲みの周りの人に対する支援を行い、レポートを作成することを基本とするが、教える対象がないなどの事情がある場合には、文京区教育センター等の生徒を紹介する。参加者は、基本的にはは事前に S セメスターで「認知カウンセリングの技法と応用」を受講することが望ましいが、受講していない学生についても授業を取れるように配慮する。 おお、診断初期,中期にその様子を報告し,参加者同士で議論する機会を設ける。最終的には、文京区教育センターや貧困家庭支援施設での最終発表を行い、その指導をめぐって議論する場を設ける。 実践の性質上、15~20 名程度を上限とする。
授業計画	”S セメスターで学んだことを活かして(今学期から参加する場合には、それに応じた指導を受けた後)、実際に「～に困っている」という人を対象に支援を行う。自分飲みの周りの誰かに対する支援(部活やアルバイトなどで支援したケースでも構わない)もしくは、教える対象がない場合には、文京区教育センター等(生活保護受給者家庭の施設なども含む)において、実習を行う。数回にわたる指導を行ってもらい、そこでの様子をそれぞれが持ち寄って議論する。これらの実習の時間については授業以外の時間帯に行われるため、それについて問題がない学生のための受講を受け付ける。 終了後にロングレポートを作成してもらい、実践した施設において、発表を行う。 実習の進行状況や、実践を行う施設との調整の結果、当該の授業時間以外にも発表等が行われる場合がある。これについては受講者と相談しながら進める。 なお、相談開始までの期間はこれまでに提出されているケースレポートなどを読んで議論し、研修する時間に当てる。認知カウンセリングの発想を生かした一斉授業の検討になる場合もある。 なお、複数回受講した学生については、学校の先生に対する支援を行ったケースを報告巢ことも可とする。これについては担当教員に相談すること。 ”
授業の方法	対面を基本とする。
成績評価方法	授業に関連する活動およびレポートによって総合的に判断する。授業に関連する活動としては、授業中の議論への参加および授業後に提出を求める「振り返りシート」、「最終レポート」への記入状況などを総合して判断する。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	本講座を受講するためには、S セメスターにおいて「認知カウンセリングの技法と応用」を受講していることが望ましい。ただし、受講していないくても参加できるように配慮する。 授業に関する連絡は、Slack を通じて行う。このため、初回の授業で手続きを行うこと。
授業実施形態	対面・オンライン併用型 A(総時間数の半数以上を対面で実施)／Hybrid Type A(Face-to-face/Online): Conduct classes in-person 50% or more of the total hours of the course
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09265307	担当教員	上岡 洋晴		
単位数	2	学 期	S1	時 限	火 1, 火 2
講義題目	身体教育方法論／Methodology of Physical and Health Education 身体教育方法論				

授業の目的・概要	この授業では、発育過程にある子どもが、運動嫌いにならず、自分のからだを上手に動かすことができること、生涯スポーツ(身体活動・運動)に繋がるようにすることについての教育方法論を学ぶ。具体的には、学校体育、部活動、生涯スポーツなどがその範疇となる。年齢や学年に応じた指導方法の具体例を踏まえての講義と学生自身の調査報告を中心に授業を進める。 親子一緒に運動体験、幼児教育(体育)、学校体育、大学体育(学生)、あるいはスポーツ少年団・部活動・自主サークルの実状とその問題点を明らかにすることが議論の出発点となる。例えば、身体活動・運動の質と量が多い子どもと、そうでない子どもの二極化の対策方法が挙げられる。何らかの原因で一度運動嫌いになると、以後の参加がかなり困難になることが知られており、これを防ぐ手立て考えることも現在の体育に求められる大きな課題である。 授業は、講義に加えて、事前に設定したテーマに基づき、担当する受講者が、図書・論文・各種統計資料などをまとめてプレゼンテーションを行い、全員でディスカッションする形式で進める。 体育の教職の単位取得を希望している学生はもちろんのこと、体育のあり方について興味のある学生には適した授業内容である。なお、この科目は教科に関する科目「(体)保健体育科の指導方法」「(保)保健科の指導方法」に該当する。 In this class&comma; you learn educational methodologies for children who are in the process of developing so that they can move their bodies well without being averse to exercise&comma; and that they are able to play lifelong sports (physical activity and exercise). Specifically&comma; students learn about school physical education&comma; athletic club activities&comma; and lifelong sports. Classes will focus on lectures based on specific examples of teaching methods according to age and grade level&comma; and survey reports by students. The starting point of discussion is to clarify the actual situation and problems of exercise experiences with parents and children&comma; early childhood education (physical education)&comma; school physical education&comma; university physical education (students)&comma; youth sports clubs&comma; club activities&comma; and voluntary circles. For example&comma; there are measures to deal with the polarization of children who have a high quality and quantity of physical activity and exercise and those who do not. It is known that once a person dislikes exercise for some reason&comma; it becomes quite difficult to participate in the future&comma; and thinking about ways to prevent this is also a major issue required of current physical education. In addition to regular lectures&comma; classes are conducted in a format in which the students in charge summarize books&comma; papers&comma; various statistical materials&comma; etc. based on a predetermined theme&comma; present them&comma; and discuss them with all students. The course content is suitable not only for students who wish to earn credits for a physical education teaching license&comma; but also for students who are interested in the state of physical education. This subject corresponds to the subjects &quot;Teaching Methods for (Body) Health and Physical Education&quot; and &quot;Teaching Methods for (Insurance) Health Departments&quot;.
授業計画	”4月7日: イントロダクション、4月14日: 学習指導要領、4月21日: 子どもの体力問題、4月28日: 運動部活動、5月12日: 生涯スポーツ、5月19日: プレゼンテーション(1回目)、5月26日: プレゼンテーション(2回目)と総括。 April 7: Introduction&comma; April 14: Course of Study&comma; April 21: Children’s physical fitness problems&comma; April 28: Sports club activities&comma; May 12: Lifelong sports&comma; May 19: Presentation (1st)&comma; May 26: Presentation (2nd) and summary. ”
授業の方法	学習指導要領・資料・新聞記事・パワポイントなどを用いた講義、ディスカッションを行う。各自に当該方法論に関するプレゼンテーション(20分程度)を実施してもらう。 Lectures and discussions using the Course of Study&comma; materials&comma; newspaper articles&comma; power points&comma; etc. are conducted. Students give a presentation on the methodology (about 20 minutes).

成績評価方法	毎回の授業におけるミニレポートと、プレゼンテーションの質を総合して評価する。テストは実施しない。 The quality of the small report and presentation in each class is evaluated comprehensively. No testing is conducted.
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	定刻(8時30分)に授業を開始するので遅刻なく出席すること。 Classes start on time, so students must attend without delay. 緊急の場合、下のメールアドレスまたは電話に連絡すること。 In case of emergency, please contact me at the email address below or by phone. 授業で用いるすべての資料(9種類のPDF)は下からダウンロードできる。 ただし、授業専用の資料なので、転送やネットへのアップなどを固く禁じる。 https://drive.google.com/drive/folders/183WRpWB3u7hRc48OyNdUaHkemCOKWO5b?usp=sharing
授業実施形態	オンライン型(オンラインのみで実施)／Fully Online: All classes conducted online
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)保健体育科の指導法

時間割コード	09265308	担当教員	東郷 史治、佐々木 司		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	月 3
講義題目	教育の疫学入門／Studying Epidemiology in the Field of Education 教育の疫学入門				

授業の目的・概要	健康教育に関連する疫学の概念・方法論(疫学研究の様々なスタイル、統計の基本的知識を含む)の理解を目的とする。これらの理解は、今後教育学の分野でも evidence-based の科学的実証性が次第に要求されるに従って不可欠のものになると考えられ、また将来社会人や研究者となったときの業務・政策等の立案・理解にも極めて重要である。またこの理解を通じて、世の中にあふれる「科学情報」の中で、信頼できる情報とそうでない情報を区別するポイントについて習得することも目標の1つである。これらの力は、学問の世界のみでなく行政、マスコミ、実業界等で活躍する上でも今後必要不可欠になると考えられる。
授業計画	“疫学とその研究の方法論に関する基礎知識について講義する。”
授業の方法	基本的に講義形式で行う。
成績評価方法	基本的に期末試験で評価する。
教科書	次の教科書を使用する。／Will use the following textbook
参考書	授業中に指示をする。／Will specify at class time
履修上の注意・備考	特になし
授業実施形態	対面・オンライン併用型 A(総時間数の半数以上を対面で実施)／Hybrid Type A(Face-to-face/Online): Conduct classes in-person 50% or more of the total hours of the course
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)衛生学及び公衆衛生学

時間割コード	09265309	担当教員	山本 義春、内匠 透		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	金 2
講義題目	教育の生理学／Educational Physiology 教育の生理学				

授業の目的・概要	教育生理学は、教育対象の精神的・身体的機能のうち、教育の受け容れを可能にする諸機能と、それらに対する教育内容・方法・環境等の影響を生理学的に解明することを目的とする。本講義では特に、神経系の構造と機能を学び、運動や学習と記憶等の教育の神経生理学的基盤および睡眠や精神機能の成り立ちとその破綻について理解を深めることを目指す。 Educational physiology aims to physiologically elucidate the various mental and physical functions of educational subjects that make them receptive to education, and the effects of educational content, methods, and environment on these functions. In this course, students will learn the structure and function of the nervous system, and deepen their understanding of the neurophysiological basis of education, such as movement, learning and memory, and the origins of sleep and mental functions and their disruption.
授業計画	”以下のトピックスに関連する文献を読み、その生理学的背景を検討する。 ・神経系の構造と機能(細胞、神経系、薬理) ・運動の制御 ・睡眠と生体リズム ・情動 ・学習と記憶 ・統合失調症と感情障害 ・不安障害と発達障害 ”
授業の方法	文献講読および下記 URL での教材を用いた解説
成績評価方法	平常点(出席)およびレポート・小試験による総合評価
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	関連ホームページを参照のこと
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)生理学(運動生理学を含む)

時間割コード	09265310	担当教員	多賀 厳太郎		
単位数	2	学 期	S1	時 限	月 2, 木 2
講義題目	心と脳の発達／Development of Mind and Brain 心と脳の発達				

授業の目的・概要	人間の発達、胚の形態形成にはじまり、胎児や新生児に与えられた遺伝的要因と生得的な能力、自らを変化・発展させる内在的な機構、物理的環境や他者との相互作用により適応・学習していく機構などが複雑にからみあう現象である。本演習では、講義及び受講者による演習、原著論文講読、レポート作成、プレゼンテーションを行い、発達脳科学に関わる基本的概念を学ぶ。
授業計画	”講義内容 1. 生命の普遍的な性質 生命とは何か、形態形成、人間の胚子の発生、発達と進化 2. 人間の脳はいかにできるか 脳のかたちと皺の形成、ネットワーク形成、胎児における自発行動と原始感覚の出現、脳の再構築と U 字型発達、乳児における脳の機能発現 3. 個体の成立 脳と身体性、自発運動から目的志向運動へ、睡眠と意識、個性とは 4. 世界との共生 物理的世界の経験と記憶、他者の知覚、言語の知覚と生成、音楽とコミュニケーション、免疫学的自己と神経学的自己、腸内細菌との共生 5. 人類進化を駆動する発達 二足歩行のネオテニー進化、言語を生成する脳の発達と進化 6. 人間を捉え直す 新たな人間形成理論の展望、生きていること・生きていくこと・生かされること 演習課題 授業時間内のミニレポート 指定英語論文の要約提出とプレゼンテーション”
授業の方法	講義、受講者によるプレゼンテーションとディスカッション。
成績評価方法	授業時間内のミニレポート、レポート課題、プレゼンテーション、ディスカッションを総合的に評価する。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	この科目は教職課程における「教科に関する科目」(体)体育心理学に該当する。
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)体育心理学

時間割コード	09265311	担当教員	東郷 史治		
単位数	2	学 期	A1	時 限	火 1, 金 1
講義題目	安全・安心教育／Safety and Security Education 安全・安心教育				

授業の目的・概要	近年、国内での交通事故件数や交通事故死亡者数は減少する一方で、自殺率の増加、地球温暖化、自然災害、SNS など、子どもの生命や心身の健康などを脅かす身近な危険因子は多様化しつつある。これに対し学校では、交通安全のみならず生活安全と災害安全の領域にわたり、児童生徒等の安全確保の取り組みが進められている。そこで本授業では、医学・生物学・理工学を含む学際的視点から、現在の学校と日常生活全般における安全確保のために必要な主要事項を理解し、生涯を通じて安心・安全な生活を送る基礎を培うとともに、安心な社会づくりに貢献できるような資質や能力を養うことを目標とする。
授業計画	”各週の予定項目は以下のとおりである。 ガイダンス 学校安全(1):安全安心科学 学校安全(2):体育・スポーツ活動中の事故 学校安全(3):部活動 学校安全(4):ピアサポート 災害安全(1):自然災害 災害安全(2):救命処置 現代生活安全(1):精神保健 現代生活安全(2):インターネット・情報セキュリティ 現代生活安全(3):高齢社会 環境安全(1):熱中症 環境安全(2):化学物質 定期テスト”
授業の方法	学生のプレゼンテーションを中心に授業を進める。対面での実施予定。ただし、状況に応じて、対面とオンラインの併用(ハイブリッド式)に変更する。
成績評価方法	平常点(出席)、プレゼンテーション、試験による総合評価。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	文部科学省等で作成されている関連資料について確認すること。なお、この科目は教科に関する科目「(体)(保)学校保健(小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む)」に該当する。
授業実施形態	対面・オンライン併用型 A(総時間数の半数以上を対面で実施)／Hybrid Type A(Face-to-face/Online): Conduct classes in-person 50% or more of the total hours of the course
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)学校保健

時間割コード	09265401	担当教員	寺尾 尚大		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	月 4
講義題目	心理学統計法Ⅱ／Psychological StatisticsⅡ 心理学統計法Ⅱ				

授業の目的・概要	本授業では、心理学で用いられる統計手法に共通する考え方と最もよく用いられる基本的な統計手法について講義を行います。加えて、より高度な統計手法を学んでいくうえでの基盤となる各種統計手法の数理的な側面についても講義を行います。具体的には、推定と検定の考え方を学んだうえで平均値差と連関に関する推測の方法について学修し、その後、線形モデルの基礎について学修します。本授業の目標は、「心理学で用いられる統計手法」や「統計に関する基礎的な知識」について習得することです。
授業計画	”本授業では、以下のような進度で授業を進めていく予定です。 第 1 回 心理学統計法Ⅰの簡単な復習，推定量と最小二乗法，最尤推定法 第 2 回 検定の考え方 第 3 回 検定力，信頼区間とサンプルサイズ設計 第 4 回 独立な 2 群の平均値差の検定 第 5 回 効果量とその区間推定，非心分布 第 6 回 対応のある 2 群の平均値差の検定と推定 第 7 回 2 群の比率の差の検定 第 8 回 カテゴリ変数間の連関の分析 第 9 回 変数と統計量のベクトルによる表現 第 10 回 単回帰分析のベクトル表現 第 11 回 平方とおよび分散の分割，回帰係数の標本分布の期待値と標準誤差 第 12 回 独立変数の効果の検定と自由度 第 13 回 平均値差への回帰分析的アプローチ，線形モデルに基づく統計的方法”
授業の方法	すべての回の講義は，対面で実施します。講義は，教科書に基づき作成した資料を利用します。式の展開を実施するので，ノートやルーズリーフ，タブレットなど，式の展開を担当者の板書と一緒に追えるものを持参してください。宿題として，講義回に対応する内容について，統計分析ソフト R を用いた演習課題を 10 回課します。
成績評価方法	期末テスト 60%，R の課題 20%，毎回の感想入力 20%
教科書	次の教科書を使用する。／Will use the following textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	【履修上の注意点】・2017 年度以前開講「心理統計学Ⅱ」と同一内容のため、既に単位を修得している場合は本科目の履修を認めない。 ・「心理学統計法Ⅰ」で扱った内容を前提とする。 ・学部横断型プログラム「数理・データサイエンス教育プログラム」の対象科目となる。 【R の宿題について】本授業では，統計解析ソフト R の演習を宿題として，期日までに実行結果の提出を求める。R と RStudio のインストール方法や使い方の概要については，初回の授業および動画教材で説明する。受講者は，管理者権限をもつ(ソフトウェアのインストール・アンインストールを自由に決めてよい権限をもつ)Windows 端末または Mac 端末を用意すること。なお，iPad，Chromebook は，R の宿題には使用できない。 【心理学統計法Ⅰについて】この講義は，心理学統計法Ⅰに続く講義として設定されており，心理学統計法Ⅰはすでに受講したことを前提として授業を進める。この講義から受講する者は，UTOL に掲載される 2025A セメスター「心理学統計法Ⅰ」の講義資料と教科書第 1 章～第 4 章を読んで準備しておくこと。
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09265402	担当教員	宇佐美 慧		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	火 2
講義題目	心理学統計法Ⅲ／Psychological Statistics Ⅲ 心理学統計法Ⅲ				

授業の目的・概要	回帰分析・分散分析・因子分析・共分散構造分析の基礎について理解する。
授業計画	”下記の事柄を 13 コマで実施する。 1. 部分相関係数と偏相関係数 2. 偏回帰係数とその解釈 3. 重回帰分析のしくみ 4. 平方和の分割と重相関係数の検定 5. 個々の独立変数の寄与の評価 6. 完全無作為 1 要因デザイン 7. 多重比較の考え方 8. 完全無作為 2 要因デザイン 9. 対応のある 1 要因デザイン 10. 共分散分析 11. 因子分析の考え方とモデル 12. 因子分析のしくみと因子の解釈 13. 因子の回転 14. 共分散構造と母数の推定 15. 共分散構造分析による潜在変数間の関係の分析 16. 項目反応理論・階層線形モデルに関する基礎”
授業の方法	講義による。
成績評価方法	期末試験による。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	特になし 【履修上の注意点】 2017 年度以前開講「心理統計学Ⅲ」と同一内容のため、既に単位を修得している場合は本科目の履修を認めない。
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09265403	担当教員	針生 悦子		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	木 1
講義題目	ことばの発達心理学(学習・言語心理学)／Psychology of Language Development ことばの発達心理学(学習・言語心理学)				

授業の目的・概要	人の行動が経験を通して変化する過程や、その中での言語の習得のメカニズムについて、概要を理解することを目標とする。授業では特に、子どもの言語獲得の過程とはどのようなものであるか、それを支えている人間の能力とはどのようなものか、言語獲得は人間の認知や思考にどのような影響を及ぼしうるのか、といった問題にアプローチするための研究方法も学びながら、現在得られている知見から、これらの問いに対してどのような答えを考えることができるのかについても検討していく。
授業計画	”1, イントロ(授業のすすめ方 etc.) 2, 類人猿に言語を教えるということ 3, 大人の言語学習、子どもの言語学習 4, 単語を聴き取る 5, 言語の音を聞き分ける 6, 「声」から「ことば」へ 7, 単語の学習 8, 文法の獲得 9, 文法能力の生得性をめぐる議論 10, 環境の役割 11, 読みの習得とディスレクシア 12, 言語と思考:言語比較 13, 言語と思考:発達”
授業の方法	講義形式。毎回の授業において課題の提出を求める。
成績評価方法	毎回の授業における課題提出、期末テスト
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	授業には、教科書・参考書の該当箇所を事前に読んだ上で参加することが望ましい。 【履修上の注意点】 2022 年度以前開講「ことばの発達心理学」と同一内容のため、既に単位を修得している場合は本科目の履修を認めない。
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09265404	担当教員	植阪 友理		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	月 3
講義題目	認知カウンセリングの技法と応用Ⅱ／Cognitive Counseling and its Applications Ⅱ 認知カウンセリングの技法と応用Ⅱ				

授業の目的・概要	心理学を生かした実践的研究活動である、「認知カウンセリング」や、その応用について学ぶ授業である。認知カウンセリングとは、一言でいえば人間の知的な問題(例、「～が覚えられない」「時間をかけていても、問題が解けるようにならない」「やる気がでない」)を抱えたクライアントに対して、心理学を生かしながら自立支援を行う活動である。こうした活動を通じて、心理学の有用性を知るとともに、心理学の限界にも気づくことになり、新たな研究の立ち上げにもつながることが期待できる。こうした認知カウンセリングは、貧困家庭の子どもの支援や文京区教育センターと連携した事業などで活用されている。本授業では、これらの基本的な技法や考え方、実際の支援のあり方について、座学のみならずロールプレイなども通じて体験し、学んでもらう。さらに、こうした個別学習支援の発想を、集団指導に応用していく方法についても学んでいく。 なお、後期に文京区教育センターや貧困家庭支援の施設で実習を行いたい場合には、Aセメスターで本授業と接続する「認知カウンセリング実践演習」もあわせて受講されたい。
授業計画	〃初回:ガイダンス(第1回) S1 セメスター(第2回～6回) 認知カウンセリングの基本的技法を座学および体験型ワークショップで学ぶとともに、具体的なケース検討会を行う。 S2セメスター(第7回～12 回) 認知カウンセリングの発想をいかした一斉指導のあり方について、座学と体験型ワークショップなどで学ぶとともに、実際の授業のビデオを見ながら議論を行う。 最終回:まとめ(第13回)〃
授業の方法	対面、毎回の授業で座学およびグループワークを実施。
成績評価方法	授業への出席に関連する評価と、最終レポートを組み合わせる総合的に判断する。授業への出席に関連する評価の中身は、毎回のグループワークの様子や、授業後に提出を求める「振り返りシート」、最終レポートを含む諸課題等の提出状況から、総合的に判断する。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	A セメスターにおいて、教育認知科学実践演習において認知カウンセリングの実習を、文京区教育センターもしくは貧困家庭支援の実践現場で体験したい場合には、この授業を履修するを推奨する。 授業に関する連絡は、Slack を通じて行う。このため、初回の授業で手続きを行うこと。
授業実施形態	対面・オンライン併用型 A(総時間数の半数以上を対面で実施)／Hybrid Type A(Face-to-face/Online): Conduct classes in-person 50% or more of the total hours of the course
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09265405	担当教員	加藤 健太郎		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	水 5
講義題目	教育測定／Educational Measurement 教育測定				

授業の目的・概要	心理学や教育学では、「心理尺度」や「テスト」を通じて、性格・態度・能力・学力といった人間の様々な特性を測定し、研究仮説を実証的に検討することが行われる。また、社会全体を見渡しても、研究に限らず様々な場面でテストが利用されている。本講義では、人間の特性を測定する道具としてのテストに着目し、その作成方法や、その性能を定量的に評価するための基礎を与える「テスト理論」について学ぶ。研究の文脈に限定せず、世の中で用いられている様々なテストに触れ、テストに関する新しい技術等についても紹介する予定である。
授業計画	”大まかな講義トピックを示す。順番は前後する可能性がある。複数回の授業にまたがるトピックを含む。 1. 教育・心理測定の概要と歴史 2. 様々な教育・心理テスト 3. テストの妥当性 4. テスト作成の手順と考え方 5. 中間プレゼンテーション 6. 古典的テスト理論 7. テストデータの分析 8. 項目反応理論 9. 新しいテスト技術 10. 期末プレゼンテーション”
授業の方法	講義を主体とするが、並行してテストの作成やデータ分析に関する実習を進める。また、実習の作業内容や結果についてのプレゼンテーションを行う。
成績評価方法	実習 50%＋期末レポート 50%
教科書	授業中に指示をする。／Will specify at class time
参考書	授業中に指示をする。／Will specify at class time
履修上の注意・備考	(心理)統計学の基礎知識(記述統計・推測統計・分散分析・回帰分析)があること。
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09265406	担当教員	川本 哲也		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	金 1
講義題目	人格心理学(感情・人格心理学)／Personality Psychology 人格心理学(感情・人格心理学)				

授業の目的・概要	人は互いに異なる存在であり、一人ひとりが「その人らしさ」をもっています。心理学では、この「その人らしさ」を「パーソナリティ」という概念で捉えます。本授業では、パーソナリティに関するさまざまな疑問について、多角的に考えていきます。例えば、私たちは自分や周囲の人のパーソナリティをどのように把握しているのでしょうか。国や文化が異なる人々の間で、パーソナリティの捉え方に違いはあるのでしょうか。一人ひとりのパーソナリティが異なるのはなぜでしょうか。また、「良い」パーソナリティと「悪い」パーソナリティは存在するのでしょうか。本授業では、これらの問いを通してパーソナリティへの理解を深めるとともに、人の多様性について考えることを目的とします。
授業計画	”1. パーソナリティとは 2. パーソナリティの特性アプローチ 3. パーソナリティの構造 4. パーソナリティにおける状態と特性 5. パーソナリティの測定 6. 他者のパーソナリティの知覚 7. パーソナリティの生涯発達 8. パーソナリティの遺伝 9. パーソナリティに対する進化的アプローチ 10. パーソナリティと自己、アイデンティティ 11. 職場におけるパーソナリティ 12. 教育場面におけるパーソナリティ”
授業の方法	主に講義による。一部授業回で、検査を用いた演習やグループディスカッションを含む。
成績評価方法	平常点(授業参加態度・授業内課題 [リアクションペーパー] への取り組み)30%、最終試験 70%により評価する。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	授業中に指示をする。／Will specify at class time
履修上の注意・備考	各回授業前に、事前に提供されるスライドに目を通しておく(事前学習 30 分程度)。 各回授業後に、学習した内容について授業内で紹介する参考書・参考論文を読み、学習を深める(事後学習 1 時間 30 分程度)。
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09265407	担当教員	小堀 彩子		
単位数	2	学 期	W	時 限	集中
講義題目	心理的アセスメント／Psychological Assessment 心理的アセスメント				

授業の目的・概要	臨床心理査定の中核的技法である心理検査法について、その基礎理論から実施法、解釈法を学ぶ。
授業計画	“第 1 回 オリエンテーション(授業の説明・心理アセスメントの概要について) 第 2 回 心理アセスメントの目的と倫理 第 3 回 心理アセスメントをめぐる諸概念 第 4 回 心理アセスメントの方法①(行動観察) 第 5 回 心理アセスメントの方法②(面接法) 第 6 回 心理アセスメントの方法③(質問紙法1) 第 7 回 心理アセスメントの方法④(質問紙法2) 第 8 回 心理アセスメントの方法⑤(投映法1) 第 9 回 心理アセスメントの方法⑥(投映法2) 第 10 回 心理アセスメントの方法⑦(知能検査) 第 11 回 心理アセスメントの方法⑧(発達検査・神経心理学的検査) 第 12 回 発達障害の理解の方法 第 13 回 心理アセスメントの観点および展開(テストバッテリーとアセスメントの計画) 第 14 回 まとめと試験 ”
授業の方法	基本的に講義形式だが、回によってはディスカッションを交え、ミニ・レポートを課す場合もある。
成績評価方法	授業の内容についての筆記試験を通じて成績評価を行う。
教科書	授業中に指示をする。／Will specify at class time
参考書	授業中に指示をする。／Will specify at class time
履修上の注意・備考	原則として全回出席の見込みがある学生のみ履修を認める。 ※集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと 教育学部在学生向け Web サイト>授業・履修・学生生活>時間割>学部(集中講義) https://www.p.u-tokyo.ac.jp/students/class/#timetable
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09265408	担当教員	高田 治		
単位数	2	学 期	S2	時 限	集中
講義題目	福祉心理学／Psychology for Social Welfare 福祉心理学				

授業の目的・概要	福祉領域における心理援助について学ぶ。特に、どのような援助対象者であり、どのようなニーズがあるのかについて、現場の感覚に触れ、考える。
授業計画	”社会福祉とは何かというところから始め、様々な福祉領域を概観し、福祉現場において生じる問題及びその背景、そして、心理社会的課題及び必要な支援について考える。 福祉政策についてから始め、障害福祉、高齢福祉、児童福祉など各領域を紹介し、福祉サービスを受ける人への心理支援の特徴を概観する。障害を抱える人の様子など映像で紹介する。 その後、児童虐待問題で注目される児童福祉施設における心理援助を例に具体的に実践について考える。児童虐待の現状、子どもに与える影響、家族の問題などを概観し、児童心理治療施設における被虐待児の支援の実際を紹介する。適宜グループ討議を入れ、支援者としてどういう心構えが必要かを討議してもらう。”
授業の方法	講義、映像資料の視聴、質疑応答
成績評価方法	平常点及びレポート
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	福祉心理学の概略を知るためには教科書に挙げた小畑編のものがよいかと思います。 子どもの支援、特に虐待を受けた子どもの支援について関心のある方は 拙著「施設心理士から伝えたいこと」に心理支援の考え方、発達についてなど 書きましたので、目を通していただけるといいと思います。児童心理治療施設については 滝川他の本がまとまっています。 ※集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと 教育学部在学生向け Web サイト>授業・履修・学生生活>時間割>学部(集中講義) https://www.p.u-tokyo.ac.jp/students/class/#timetable
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09265409	担当教員	高野 真梨子、東郷 史治		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	木 1
講義題目	栄養学概論／Introduction to Human Nutrition 栄養学概論				

授業の目的・概要	栄養とは、人間が食物として外界から必要な物質(栄養素)を取り入れ代謝して生命活動が続ける営みをいう。人間の健康の維持、増進には適切な栄養が必要である。人間は、食物として外界から必要な物質(栄養素)を取り入れながら栄養の営みを行い、食生活を営んでいる。食生活は個人的な問題とされがちだが、職業、収入、ジェンダーなど社会的決定要因の影響も大きい。本講では、人間の栄養の営み及び食生活を、地域社会や環境との関わりも含めてとらえ、生涯を通した健康的な食生活のための基礎的知識とその活用方法を学修する。自分を事例として、健康状態やライフスタイルに合わせて、学んだことを実生活で活用する力の修得も目的とする。
授業計画	”1. 人生 100 年時代だからこそその食生活の重要性:自分の食生活を考えてみよう 2. 何をどのくらい食べたらよいか:食事バランスガイドの理解と活用 3. 何をどのくらい、いつ食べたらよいか(時間栄養学の知見から) 4. 栄養素の機能と代謝① 炭水化物(糖質、食物繊維) 5. 栄養素の機能と代謝② たんぱく質 6. 栄養素の機能と代謝③ 脂質 7. 栄養素の機能と代謝④ ビタミン、ミネラル、水分 8. どの栄養素をどのくらい摂取したらよいか:食事摂取基準 9. スポーツと栄養 10. 社会的決定要因と生活習慣病・食生活:国民健康・栄養調査結果を中心に 11. 農業政策と栄養政策、「健康な食事」実現のための食環境整備 12. 世界の健康・栄養対策の動向:健康を超えて、地球環境を考慮した持続可能性の重視 13. 健康・栄養情報の読み解き方:ヘルスリテラシーを高めよう 14. 総合レポート”
授業の方法	1 回目, 2回目, 13 回目は対面授業。 その他はオンライン講義形式とし, Zoom を用いて同時配信の授業を行う。 一部自分で演習(ワーク)を実施してもらい、その提出物を求める。
成績評価方法	最終回の総合レポート(50%)、および提出物の内容(50%)を合わせて総合的に評価
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	授業の最後に、授業内容に関するコメントなどの提出を求めるので、それに対応すること。
授業実施形態	対面・オンライン併用型 B(総時間数の半数未満を対面で実施)／Hybrid Type B(Face-to-face/Online): Conduct classes in-person for less than 50% of the total hours of the course
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09265410	担当教員	森田 賢治、Arvind Kumar、加藤 郁佳		
単位数	2	学 期	W	時 限	集中
講義題目	脳科学特論／Functions and Dysfunctions of the Brain 脳科学特論				

授業の目的・概要	This lecture gives an introduction to modern systems, cognitive, and computational neuroscience on the brain functions and dysfunctions. Planned contents include: activity dynamics of neurons and neural circuits, computational and physiological mechanisms for learning, memory, and decision making (especially focusing on value learning and value-based decision making), and computational approaches to neuropsychiatric disorders.
授業計画	”The currently planned order is as follows, though this can be changed: - activity dynamics of neurons and neural circuits - computational and physiological mechanisms for learning, memory, and decision making - computational approaches to neuropsychiatric disorders ”
授業の方法	lecture
成績評価方法	attendance and report
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	We welcome motivated students from any departments (undergraduate or graduate) ※集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと 教育学部在学生向け Web サイト>授業・履修・学生生活>時間割>学部(集中講義) https://www.p.u-tokyo.ac.jp/students/class/#timetable
授業実施形態	対面・オンライン併用型 A (総時間数の半数以上を対面で実施)／Hybrid Type A(Face-to-face/Online): Conduct classes in-person 50% or more of the total hours of the course
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09265411	担当教員	星加 良司、能智 正博、野崎 大地、熊谷 晋一郎、近藤 武夫、額賀 美紗子、東郷 史治、飯野 由里子、大塚 類		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	金 5
講義題目	ダイバーシティ・インクルージョン概論／Introduction to the Theories of Diversity and Inclusion ダイバーシティ・インクルージョン概論				

授業の目的・概要	障害者・女性・性的マイノリティ・外国にルーツを持つ人々等、多様な背景や特性を持つ人々の包摂(ダイバーシティ・インクルージョン)の必要性が社会的な関心事となっている。一方で、現実を目を向ければ、多様性の包摂は道半ばであるばかりでなく、ヘイトやバックラッシュ等、差異や多様性をめぐる分断や格差が先鋭化する状況すら顕在化している。こうした「理念」と「現実」とのギャップを的確に分析し、それを架橋するための方略を探究する知性が、多様性を包摂する社会に生きる私たちには求められている。本授業では、マジョリティ中心に形成された環境・制度・規範等がマイノリティを周縁化するメカニズムに着目しつつ、様々な専門性を有する教員の講義を通じて、多様性が活きる社会を実現するための視点や実践的知見を提供する。
授業計画	”第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 ダイバーシティ・インクルージョン(DI)をめぐる動向と基礎的課題 第 3 回 移民の子どもから考える日本社会の多様性 第 4 回 インクルーシブ教育とは 第 5 回 インクルーシブ教育と ICT 第 6 回 身体機能の障害に立ち向かう科学技術 第 7 回 思春期の多様な自己実現を可能にする心の健康とメンタルヘルスリテラシー 第 8 回 ナラティヴと障害 第 9 回 解釈的正義と当事者研究 第 10 回 DI とクイア・アクティヴィズム 第 11 回 DI と障害学 第 12 回 クイア理論と障害学を架橋する 第 13 回 これからの「多様性理解」について考える”
授業の方法	この授業は、ガイダンスも含めてオンラインで行います。開始時間までに下記 Zoom ミーティングにアクセスするようにしてください。 https://u-tokyo-ac-jp.zoom.us/j/81259457827?pwd=VTU4H7DwaE1YZvxLmWYcbtad5whei8.1 ミーティング ID: 812 5945 7827 パスワード: 251428
成績評価方法	毎回の講義(第 2 回以降)に対するリアクションペーパーを中心に、各担当教員から随時提示される課題への評価を加味して総合評価を行います。リアクションペーパーについては、オンライン講義の最後の 10 分に、UTOL を用いて入力して貰う予定です。あまりに短い文章(例えば 30 字以内)は、0 点とすることがあります(各回 10 点満点で合計 120 点満点となり、指定の比率に応じた相対評価で成績をつけていきます)。およそ 200 字前後を目安として、自らの考えをしっかりとまとめる機会として用いてください。提出は、講義日の翌々日(日曜日
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	Zoom の参加 URL については、固定された URL を設定していますが、担当教員によって変更する可能性もありますので、毎回確認をするようにしてください。インターネットにうまくつながらない場合、事情により時間内で接続できなかった場合のために、講義を録画しています。
授業実施形態	オンライン型(オンラインのみで実施)／Fully Online: All classes conducted online
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09266101	担当教員	一柳 智紀		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	月 2
講義題目	教授・学習心理学概論(教育・学校心理学)／Psychology of Learning and Instruction 教授・学習心理学概論(教育・学校心理学)				

授業の目的・概要	教育現場において生じる問題及びその背景，教育現場における心理社会的課題及び必要な支援に関して理解することを目標とする。本授業では，特に，教授・学習に関して扱う。具体的には学習が成立するメカニズムや学習を支える要因，効果的な教授法についての基礎知識を獲得するとともに，受講者自身にとっての「教授・学習」の経験について振り返り，改善することを目指す。
授業計画	”1.「学習」とは？ 2.「できる」としての学習 3.動機づけ1・2 4.記憶・知識 5.知識と思考、素朴概念、ピアジェ 6.読みの学習：文章理解 7.メタ認知 8.社会的な相互作用における学び 9.教室におけるコミュニケーション、沈黙 10.小グループでの学習 11.協同による学習 12.「話し合い」を通じた学びとデザインする教師 13.まとめ”
授業の方法	講義形式を中心に進めていくが，適宜，小グループでの演習や討論を行う。
成績評価方法	毎回の振り返り(50%)および最終レポート(50%)により評価する。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	毎回の授業時に振り返りを提出してもらう。
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (公)心理学

時間割コード	09266102	担当教員	遠藤 利彦		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	月 2
講義題目	発達心理学／Developmental Psychology 発達心理学				

授業の目的・概要	授業の目標：現代発達心理学の成果に基づき、子どもの発達のプロセスとメカニズムおよび人の一生に亘る連続性と変化について基本的理解を得るとともに、心身の発達に資する養育・教育環境の役割について考究する力を身につける。 授業の概要：近年の発達心理学およびその周辺諸科学の成果に依拠しながら、主に乳幼児期から児童期くらいにかけての子どもの知情意全般の発達の様相と機序について概説し、それらに養育環境、とりわけ母子、父子といった種々の関係性および社会文化の諸特質がいかなる影響を及ぼし得るかについて考察を行う。また、早期段階における個人差が何に起因して生じるかを遺伝と環境に関する最新の諸議論を踏まえながら解説した上で、それがその後の生涯発達過程においてどのような連続性あるいは不連続性を呈するか、加えて、人生後半、とりわけ中高齢期にどのような心理的課題があるかなどについても論考することにした。さらに、そうした標準的な発達プロセスおよびメカニズムとの対比において、ADHD や自閉症あるいは広汎性発達障害等におけるそれらがいかなる特異性を有しているかを解説し、そうした発達障害に対してどのような支援が必要であるかについて考える。
授業計画	”第1回：私的発達心理学序論：錯覚と発達① 第2回：私的発達心理学序論：錯覚と発達② 第3回：生涯発達心理学の展開と課題 第4回：遺伝と環境①：進化発達心理学 第5回：遺伝と環境②：行動遺伝学 第6回：発達における時間の意味：個体発生 第7回：発達の素地としてのアタッチメント 第8回：アタッチメントの起源と発達 第9回：アタッチメントの個人差とその規定因および発達の帰結 第10回：子どもの対人関係の広がりと自己の発達 第11回：「心の理論」の起源と発達 第12回：感情および感情知性の発達とその機序 第13回：人生後半(中高年期)における心理的課題 第14回：発達障害とその支援 第15回：総括と展望 定期試験 ”
授業の方法	基本的に講義形式で行う。
成績評価方法	基本的に試験成績に基づいて行う(小レポートを適宜、課す場合もある)。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	授業時に指示する参考文献に、授業後、可能な限り、目を通すこと。
授業実施形態	対面・オンライン併用型 A(総時間数の半数以上を対面で実施)／Hybrid Type A(Face-to-face/Online): Conduct classes in-person 50% or more of the total hours of the course
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (公)心理学

時間割コード	09266201	担当教員	岡田 謙介、清河 幸子、一柳 智紀、大瀧 玲子、藤村 宣之、能智 正博、針生悦子、高橋 美保、滝沢 龍、遠藤 利彦、植阪 友理、宇佐美 慧		
単位数	4	学 期	S1S2	時 限	木 3, 木 4
講義題目	教育心理学実験演習Ⅱ（心理学実験）／Experiments in Educational PsychologyⅡ 教育心理学実験演習Ⅱ（心理学実験）				

授業の目的・概要	実習や見学を通じて、教育心理学の研究や実践をおこなうための基礎を養う。
授業計画	”確定したスケジュールは、初回授業で提示するが、面接法、性格検査、発達検査、知能検査、調査（質問紙）データの解析、認知心理学実験などの実習のほか、必要に応じて、心理学の生かされている現場（学校、老人ホーム）の見学も行う。”
授業の方法	実習，見学
成績評価方法	レポート
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	履修は、原則として、教育心理学コースの学生に限る。 2019 年度以前開講「教育心理学実験演習Ⅱ」と同一科目のため、既に単位を修得している場合は本科目の履修不可。 公認心理師カリキュラムにおける学部科目の1つである。
授業実施形態	対面型（対面のみで実施）／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09266202	担当教員	岡田 謙介、清河 幸子、一柳 智紀、大瀧 玲子、藤村 宣之、能智 正博、針生悦子、高橋 美保、滝沢 龍、遠藤 利彦、植阪 友理、宇佐美 慧		
単位数	4	学 期	A1A2	時 限	木 3, 木 4
講義題目	教育心理学実験演習Ⅲ(心理学実験)／Experiments in Educational Psychology III 教育心理学実験演習Ⅲ(心理学実験)				

授業の目的・概要	具体的な研究テーマのもと、研究の計画からデータの収集と解析、考察、報告書の作成にいたる、一連の研究活動にかかわり、心理学研究の実際を理解する。
授業計画	”1学期を、前半と後半、2つのタームに分け、それぞれのタームにおいて1つずつ、研究活動をおこなう。テーマは、教員や大学院生の提案する研究テーマの中から、各自の興味関心にしたがって選択する。”
授業の方法	グループ実習
成績評価方法	研究活動、レポート
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	履修は、原則として、教育心理学コースの学生に限る。「教育心理学実験演習Ⅰ」「教育心理学実験演習Ⅱ」とともに、実質的に、教育心理学コースの必修科目である。ほかの実験演習に比べると、参加者自身が、研究に積極的にかかわっていける余地が大きく、コースの科目では模擬卒業論文のような位置づけとなっている。 初回授業では希望テーマ調査へ回答いただくため、スマートフォン、PC 等の Google フォームに回答できる端末を持参してください。 2 回目以降の授業は、配属されたグループごとに異なる教室になります。初回授業での指示にしたがってください。 【履修上の注意点】 2018 年度以前開講「教育心理学実験演習Ⅲ」と同一科目のため、既に単位を修得している場合は本科目の履修不可。
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09266501	担当教員	岡田 謙介、清河 幸子、一柳 智紀、大瀧 玲子、藤村 宣之、能智 正博、針生 悦子、高橋 美保、滝沢 龍、遠藤 利彦、植阪 友理、宇佐美 慧		
単位数	2	学 期	通年	時 限	火 5
講義題目	教育心理学研究指導／Guided Research in Educational Psychology 教育心理学研究指導				

授業の目的・概要	学位論文作成の指導を行う。
授業計画	“個別指導とコース教員参加の発表会によって構成される。”
授業の方法	個別あるいは集団で実施する。
成績評価方法	参加を以って行う。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	主体的な参加が前提となる。
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09267201	担当教員	野崎 大地、林 拓志、東郷 史治		
単位数	3	学 期	S1	時 限	木 3, 木 4, 木 5
講義題目	身体教育学演習 I ／Laboratory in Physical and Health Education I 身体教育学演習 I				

授業の目的・概要	本実験演習の目的は、身体教育学における実験や測定に必要な方法論・技術を習得することである。具体的には、実際に研究室で進行している研究テーマにスポットを当てながら、問題設定の方法、様々な実験装置の使い方やデータ処理の方法などについて幅広く学んでいく。
授業計画	” 予定項目は以下のとおりである。 1. ガイダンス 2. Excel, JASP による簡単なデータ処理・統計処理 3, 4. Matlab の使い方 5. 動作分析 6. 運動学習課題”
授業の方法	・実験および分析の内容について講義形式のイントロダクション。 ・実験機器の使い方、データ処理の仕方を実習。 ・グループ毎に取得したデータを分析し、提出期限までにレポートを提出。
成績評価方法	平常点(出席)およびレポートによる総合評価。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	この科目は教科に関する科目「(体)生理学(運動生理学を含む)、(保)生理学」に該当する。
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)学校保健

時間割コード	09267202	担当教員	野崎 大地、林 拓志、東郷 史治		
単位数	3	学 期	S2	時 限	木 3, 木 4, 木 5
講義題目	身体教育学演習Ⅱ／Laboratory in Physical and Health EducationⅡ 身体教育学演習Ⅱ				

授業の目的・概要	本実験演習の目的は、身体教育学における実験や測定に必要な方法論・技術を習得することである。具体的には、実際に研究室で進行している研究テーマにスポットを当てながら、問題設定の方法、様々な実験装置の使い方やデータ処理の方法などについて幅広く学んでいく(身体教育学実験演習Ⅰに準じて行う)。
授業計画	”各週の予定項目は以下のとおりである。 経頭蓋磁気刺激による脳機能の測定 脊髄反射の測定 歩行運動の測定 心拍と血圧の測定 日常生活下での気分と体調の記録・分析 アンケート調査 ”
授業の方法	・実験および分析の内容について講義形式のイントロダクション。 ・実験機器の使い方、データ処理の仕方を実習。 ・グループ毎に取得したデータを分析し、提出期限までにレポートを提出。
成績評価方法	平常点(出席)、レポートによる総合評価。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	この科目は教科に関する科目「(体)生理学(運動生理学を含む)、(保)生理学」に該当する。
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)生理学(運動生理学を含む)

時間割コード	09267203	担当教員	野崎 大地、林 拓志、東郷 史治		
単位数	2	学 期	A1	時 限	木 3, 木 4, 木 5
講義題目	身体教育学演習Ⅲ／Laboratory in Physical and Health Education III 身体教育学演習Ⅲ				

授業の目的・概要	身体教育学演習 I, II で得た知識をもとに、研究計画、実験遂行、データ分析、結果のまとめ、プレゼンテーションまでの一連の流れを体験する「プロジェクト研究」を行い、一連の研究遂行の流れをつかんでもらう。
授業計画	”2,3 人のグループで、研究計画を立て、実験遂行、データ分析、結果のまとめ、プレゼンテーションまで行う「プロジェクト研究」を実施する。”
授業の方法	・2,3 人のグループで、研究計画を立て、実験遂行、データ分析、結果のまとめ、プレゼンテーションを行ってもらう。 ・毎週、進捗状況を報告する。 ・最終週に、コース教員、大学院生も出席する発表会で研究内容のプレゼンテーションを行う。
成績評価方法	平常点（出席）、プロジェクト研究による総合評価。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	この科目は教科に関する科目「(体)生理学(運動生理学を含む)、(保)生理学」に該当する。
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目（体)生理学(運動生理学を含む)

時間割コード	09267204	担当教員	野崎 大地、東郷 史治		
単位数	2	学 期	S2	時 限	集中
講義題目	運動指導方法(夏季野外種目)／Seminar in Teaching Methodology of Human Movement (Outdoor Activity in Summer) 運動指導方法(夏季野外種目)				

授業の目的・概要	野外生活を経験することにより、自然環境の理解を促し、共生の方法を学ぶ一方で、安全かつ効果的な野外活動の指導方法を学ぶ。これと並行して球技、水泳、登山の実習を行い、体育実技指導において必要な指導方法の習得を目指す。
授業計画	“2026 年度は 7 月 28 日ー31 日に実施予定(費用は個人負担: 最大 1 万円程度)。 ガイダンスを 6 月中旬、事前打ち合わせを 7 月中旬に行う。 日程は決まり次第掲示する。 ”
授業の方法	集中講義の形式で、夏季キャンプ実習を行う。
成績評価方法	出席および平常点。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	この科目は教科に関する科目「(体)体育実技」に該当する。 【履修上の注意】 ※集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと 教育学部在学生向け Web サイト>授業・履修・学生生活>時間割>学部(集中講義)を参照 https://www.p.u-tokyo.ac.jp/students/class/#timetable
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)体育実技

時間割コード	09267501	担当教員	東郷 史治、林 拓志、森田 賢治、多賀 厳太郎、野崎 大地、岸 哲史		
単位数	2	学 期	通年	時 限	火 5
講義題目	身体教育学研究指導／Tutorial in Physical and Health Education 身体教育学研究指導				

授業の目的・概要	卒業論文作成のためのテーマ設定、研究計画の立て方、先行研究の探索、研究手法、論文執筆の方法、卒論発表会でのプレゼンテーションの方法と内容について、本コース各研究分野(身体教育科学、教育生理学、発達脳科学、健康教育学)の全教員による助言・指導の機会と場を持つ。
授業計画	“卒業論文の計画書を作成し、本コースの全教員からその内容に対する助言・指導を受ける。”
授業の方法	随時検討会を開催する。
成績評価方法	平常点(出席・発表)による評価。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	本年度に卒業論文を執筆し提出する予定の 4 年次を対象とする。
授業実施形態	対面・オンライン併用型 A(総時間数の半数以上を対面で実施)／Hybrid Type A(Face-to-face/Online): Conduct classes in-person 50% or more of the total hours of the course
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09268001	担当教員	藤井 翔太		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	月 3
講義題目	Comparative Philosophy of Education／Comparative Philosophy of Education Comparative Philosophy of Education				

授業の目的・概要	In this course, we will explore a range of philosophical themes from a comparative perspective, approaching philosophy as a fundamental inquiry into worldviews and ways of life. We will also examine the educational implications of key concepts—such as the self, virtue, moral dilemmas, human nature, and the limits of language—and consider how these ideas can be applied in our own teaching practice. Through close readings of textbooks and scholarly articles on Asian philosophy written by English-speaking philosophers, we will engage with distinctive interpretations of Asian thought that draw on conceptual frameworks from Western philosophy. By critically reading and discussing these comparative philosophical works, students are expected to develop a rich and nuanced understanding of central ideas in both Eastern and Western philosophy.
授業計画	”1. Introduction – discussion on class outline and objectives 2. Cultural differences in thinking patterns and the philosophical approach 3. What is (comparative) philosophy (of education)? 4. Upanishads: the problem of the self 5. Bhagavad Gita: moral conduct and its foundations 6. Dhammapada: the foundation of altruism 7. The Analects: virtue ethics 8. Zhuangzi: relativity of concepts and perceptions 9. Shinto: plurality of traditions and diversity of worldviews 10. Prince Shotoku: the Japanese way of remixing thought 11. Zen Buddhism: nonverbal awareness and its continuity with daily life 12. Student presentations (1) 13. Student presentations (2) *The above schedule is tentative and may be subject to change depending on the number of students enrolled and their interests.”
授業の方法	The class will consist of a combination of lectures and discussions. Depending on the number of participants, you may also be asked to facilitate discussions in small groups.
成績評価方法	a. Reading Questions: 12% of Grade b. Online Discussions: 12% of Grade c. Leading Class Discussions: 30% of Grade d. Final Essay and Presentation: 30% of Grade e. Participation (throughout): 16% of Grade *The grading scheme may be adjusted at the beginning
教科書	その他。／Other
参考書	その他。／Other
履修上の注意・備考	You are required to carefully read one book chapter or one academic article in philosophy, written in English, prior to each class meeting. In addition, you are expected to participate actively in class discussions conducted in English. On some occasions, you may also be asked to facilitate discussions in small groups.
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09268002	担当教員	池田 岳大		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	火 2
講義題目	教育社会学のためのデータ分析法／Data Analysis Methods for Sociology of Education 教育社会学のためのデータ分析法				

授業の目的・概要	本授業では、社会科学の研究に不可欠な統計学的思考の基礎と、データ分析手法の基本的な枠組みを理解することを目的とする。まず、度数分布や記述統計量などの 1 変数の分析手法 を学び、次にクロス表や相関係数など 2 変数の関係性を把握するための手法 を理解する。さらに、因果と相関の違い、疑似相関の生じる要因など、共変関係を適切に解釈するための注意点についての理解を深めることを目指す。
授業計画	”1.イントロダクション 2.社会調査の進め方 3.統計資料へのアクセス: 公的統計、データアーカイブへのアクセス 4.調査票の作り方 5.変数の種類と尺度 6.グラフ読み取り・作り方 7.1 変数の記述: 代表値 8.1 変数の記述: 標準化、変動係数 9.2 変数の関連(量的変数): 散布図、共分散、相関係数 10.2 変数の関連(質的変数): クロス集計表、オッズ、オッズ比 11.因果と相関、疑似相関 12.媒介関係の分析 13.分析結果のまとめ”
授業の方法	本授業は、量的データ分析の基礎的理解を目的として、各回において講義と演習を組み合わせる。講義では、量的データ分析に関する基本概念および分析手法について、教員が作成した講義資料を中心に解説する。演習では、講義内容を踏まえ、主にExcelを用いたデータ分析を実際に行い、統計指標の算出や結果の解釈の方法を実践的に学ぶ。これにより、量的データを適切に整理・分析し、その結果を理解するための基礎的技能を身につけることを目指す。
成績評価方法	授業内での課題(70%)、レポート(30%)
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	その他。／Other
履修上の注意・備考	本授業は、量的データ分析の初学者を対象として基礎から解説するが、基本的な四則演算および確率に関する知識を前提として授業を進める。 講義や演習の内容について疑問点があれば、遠慮せず気軽に質問してください。教員も出来る限り回答、アドバイスをいたします。 この授業は社会調査士科目 C に対応している。詳細は社会調査協会の HP も参考にすること。 https://jasr.or.jp/
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (社)社会学 (公)社会学

時間割コード	09268003	担当教員	北村 友人、高橋 和子、浅井 幸子		
単位数	2	学 期	A2	時 限	月 3, 月 4
講義題目	学校教育学概論／An Introduction to Study on School Education 学校教育学概論				

授業の目的・概要	私たちが「教育」を考える際、まず真っ先に思い浮かべるのは「学校」である。しかしながら、「学校教育」は、国や社会の中での一つの制度にすぎない。その制度はいかなる力によって動いているのか、そのなかでどのような教育実践がなされ、当事者である子どもや教師はどのように生き、なにを経験しているのかを多様な側面から外観し、考察をしていきたい。この授業においては、とくに子どもの学習、教師の学習、世界やグローバル社会との関係における学校、という3つの柱を立て、それぞれの視点から「学校」を分析する。
授業計画	”第 1 回～第 3 回（北村）持続可能な社会を実現するための教育のあり方 第 4 回～第 6 回（高橋）英語教育を分析してみましょう―指導者と学習者の立場から 第 7 回～第 9 回（浅井）授業の研究を通じた教師の学習 第 10 回～第 12 回（藤江）学校における教師と子どもの学習と発達 第 13 回 まとめ ”
授業の方法	授業の方法:4名の担当者がオムニバス形式で、それぞれの専門の立場から学校教育について概論的な講義を行う。さらに映像や画像、文献、資料などを用い、個々の事例や実践例に即して学校教育の問題を具体的に議論する。 本講義は、対面方式で実施する。
成績評価方法	成績評価方法:授業への参加状況とレポートによって総合的に評価する。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	配付された資料や教材を熟読し、問題意識を持って授業に臨むこと。 資料は、UTOLにて配付する。 また、出席管理をUTOLにて行うことがあるので、当日は UTOL にアクセス可能な端末を持参すること。
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09268004	担当教員	勝野 正章、橋野 晶寛、村上 祐介		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	木 2
講義題目	教育行財政学／Educational Administration and Educational Finance 教育行財政学				

授業の目的・概要	教育行財政学並びに教育(学校)経営学の基本事項について、現代の改革や国際比較の視点を交えながら学び理解を深めることを目標とする。村上が教育行政分野、勝野が教育(学校)経営分野、橋野が教育財政分野をそれぞれ担当する。この科目は教職課程における「教科に関する科目」(社)経済学(公)経済学(国際経済を含む)である。
授業計画	”以下のような事項・内容を扱う。※変更することがある 教育行政分野(村上担当) 国の教育行政制度、自治体の教育行政制度、教育行政における国と自治体の関係、教育課程・教科書に関する制度 教育経営・学校経営分野(勝野担当) 教育における平等(アファーマティブアクション)、「効果のある学校」研究、教員の研修と評価、子どもの権利と学校 教育財政分野(橋野担当) 教育財政と政府間財政、教育費負担に関する政策と政治、教員の人材確保と労働環境、教育政策におけるデータフィクションと「エビデンスに基づく政策立案」 ”
授業の方法	教員による講義、質問に対する回答・解説を中心にしながら、適宜、グループでの意見交換や議論を交えて行う。
成績評価方法	期末試験による
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	特になし
授業実施形態	オンライン型(オンラインのみで実施)／Fully Online: All classes conducted online
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (社)経済学[(公)経済学(国際経済を含む)]

時間割コード	09268005	担当教員	李 正連		
単位数	2	学 期	A1	時 限	月 3, 月 4
講義題目	社会教育論 I ／Theories of Adult Education I 社会教育論 I				

授業の目的・概要	近年、科学技術の発達や情報化、グローバル化、少子高齢化等の急激な社会の変容が進む中、学校教育万能の時代は過ぎ去り、生涯学習の必要性が世界的な高まりを見せつつある。そこで、この講義では、社会教育・生涯学習の概念及び原理を概観して、理解するとともに、日本及び世界諸国における社会教育・生涯学習の動向を検討することによって、社会教育・生涯学習の意義、さらに今後の社会・生涯教育のあり方について考えることを目的とする。
授業計画	”1. 社会教育・生涯学習とは何か 2. 社会教育の歴史的理解 3. 生涯学習理念の登場背景及び主要な生涯学習論 4. 生涯学習の国際的動向①:欧米の動向を中心に 5. 生涯学習の国際的動向②:アジアの動向を中心に 6. 社会教育・生涯学習の法制及び主要政策 7. 社会教育施設・職員 8. 学校教育と社会教育・生涯学習 9. 社会的弱者と社会教育・生涯学習① 10. 社会的弱者と社会教育・生涯学習② 11. まちづくりと社会教育・生涯学習 12. 参画型社会と市民の学び 13. 期末試験”
授業の方法	基本的に講義形式とするが、授業中ワーキングペーパーを書いてもらう。
成績評価方法	授業中のワーキングペーパー30%、期末レポート 70%
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	特になし
授業実施形態	オンライン型(オンラインのみで実施)／Fully Online: All classes conducted online
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 教科又は教職に関する科目(旧) 大学が独自に設定する科目(新)

時間割コード	09268006	担当教員	宮田 玲		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	木 3
講義題目	情報・資料分析論演習／Seminar in the Analysis of Information and Documents 情報・資料分析論演習				

授業の目的・概要	標準的な統計学や調査法演習の入門として、データのかたちと形式化、図示、データの背後に世界を想定するとはどういうことか、それに対してどのようなデータをどのように捉えることができるか、を学びます。標準的な統計の用語では、記述統計・探索的データ解析・推測統計の基本的枠組みを理解するところまでをカバーします。実習には、フリーの統計解析・データ解析ソフトであるR(アール)を用います。データのかたちを把握し、そこから解釈の枠組みへと思考実験的に遡ること、その解釈の枠組みに従ってデータを取扱い処理すること、の2方向へと話を展開します。量的な分析としては、統計分析の基本をデータのかたちを中心に考えることになります。
授業計画	”1 導入 2 Rの基本:値のタイプとデータのかたち 3 Rの基本:関数の利用とグラフの基本 4 量的データの分類とデータの整理、位置の尺度とちらばりの尺度 5～7 探索的なデータの解析と可視化 8～10 推測統計(区間推定と検定の考え方) 11 相関と回帰 12～13:総合演習”
授業の方法	説明と議論・実習・課題を組み合わせて進めます。ほぼ毎回の授業で、R を用いた復習用の演習課題(要提出)を出します。自ら手を動かして、データを操作することを重視します。
成績評価方法	授業参加度(グループワーク、質問・コメント等)20%、演習課題(授業内課題、復習課題)80%
教科書	プリントを配布する。／Will distribute handouts
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	実習でコンピュータを使います。
授業実施形態	オンライン型(オンラインのみで実施)／Fully Online: All classes conducted online
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09268007	担当教員	影浦 峽		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	木 4
講義題目	教育研究調査法演習／Seminar on the Basics of Educational Research				
	教育研究調査法演習				

授業の目的・概要	近代以降において「思う」ではなく「認識する」ことを可能にしてきた外的な条件と形式的な条件に意識を向け、アカデミックな議論に参加し「認識する」基本的な手続きを学ぶ。授業は、参照すること・表現すること、構成すること、知識を参照することの3モジュールからなる。いわゆる「社会調査」などを扱う授業ではない。この程度のことをスキルとして身に付けておかないと、公共圏において独立した個人として社会的、経済的、政治的意思決定に参加することは割と難しいかもしれないという、本当に基本的な思考のスキルを扱う。したがって、扱うことのほとんどは、義務教育段階で、そうでない場合でもせいぜいが高等学校までで扱われていることであり、基本この授業はその意識化と復習である。 This lecture course deals with symbolic and language technologies that enable us to “think” which has nothing to do with “I think” “I feel” etc. The lecture consists of three parts; i.e. (1) to express; (2) to compose; and (3) to refer to. It covers most essential skills necessary to manipulate the symbolic and language technologies; i.e. those (supposedly) addressed in compulsory education.
授業計画	”1. 序論:考えていることと考えていると考えること、などおよび診断 2. 近代以降:ガリレオ・ガリレイ偽金鑑識官、デカルトと記号の問題、「べきだ」の普遍へ向けた解放 3. 参照すること(1) 4. 参照すること(2) 5. 表現すること(1) 6. 表現すること(2) 7. 構成すること(1) 8. 構成すること(2) 9. 構成すること(3) 10. 構成すること(4) 11. 知識を参照すること 12. 文書のテクノロジー 13. およそ考えることを可能にする条件をめぐる”
授業の方法	講義・課題遂行・ディスカッションを繰り返します。
成績評価方法	授業への参加度と授業時の課題、最終的な課題を、4:3:3の割合で評価する予定です。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	原則として教育学部教育実践・政策学コース進学者は必修です。すみません。 オンラインで行います。そもそも、本授業で扱うことは、空間的・時間的に離れたところでも、「理解」できるような言語表現の構成とそれに伴うテクノロジーに関わるものであり、対面で何らかの「ね、わかるでしょ」というチャネルに甘えるのは不適切だからです。もちろん、オンラインのほうが短期的な学習効果があがるという保証も研究もありますが、それは教育上の問題であり対面であることは認識を促す記号のテクノロジーが作動することの本質的要件でないどころか不要なものです。「我々は著作を読むことでその著者たる思想家と対話しているのだ」とのたまう人文社会系の「理論」研究者がゼミで対面にこだわるのは笑止であると言えるでしょう。
授業実施形態	オンライン型(オンラインのみで実施)／Fully Online: All classes conducted online
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09268008	担当教員	野崎 大地、森田 賢治		
単位数	2	学 期	A2	時 限	火 2, 金 2
講義題目	バイオダイナミクス／Biodynamics バイオダイナミクス				

授業の目的・概要	腕を伸ばす、立つ、歩くといった動作の制御から、動作遂行や環境変化に際して呼吸・循環系が生体恒常性を維持するように働く機構にいたるまで、身体運動には多くの生体調節システムの働きが関与している。身体運動を本質的に理解するには、生体調節システムの構成要素の知識だけでは不十分であり、各要素がどのように相互に組み合わせられ、全体としてうまく機能しているのかという視点が不可欠である。本講義では、生体システムの調節に関して、具体的な例を紹介しつつ、その背後にある仕組みについて、理論・数理的視点も交えて解説する。
授業計画	”下記の内容について、一回または二回ずつ講義を行っていく予定である。 1. イントロダクション 2. 運動とリズム ～歩行や鼓動の背後にある仕組み～ 3. 神経活動のダイナミクス ～神経活動の生成の仕組み～ 4. 筋収縮のメカニクス ～筋はどうやって力を産み出すか～ 5. 筋骨格系のモデル ～筋により駆動される身体運動～ 6. 身体運動のダイナミクス ～身体運動の運動方程式～ 7. 身体運動のエナジェティクス ～エネルギー変換機としての身体～ 8. 身体運動の制御 ～脳が身体運動を制御する仕組み～ 9. 記憶のダイナミクス ～神経回路の働きから認知・行動へ～ 10. 意思決定のダイナミクス”
授業の方法	使用教材等を下記 URL に置く予定である。
成績評価方法	平常点(出席)およびレポートによる総合評価。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	教育職員免許法上の認定科目:(体)運動学(運動方法学を含む) 使用教材等を、以下の URL に置く予定である。パスワード等は講義中に知らせる。 http://researchmap.jp/dnozaki/ 資料公開/ ITC-LMS「教材」(森田担当分)
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)運動学(運動方法学を含む)

時間割コード	09268009	担当教員	高桑 徹也、四津 有人、佐々木 麻起子		
単位数	2	学 期	A1	時 限	集中
講義題目	機能解剖学(人体の構造と機能及び疾病)／Functional Anatomy 機能解剖学(人体の構造と機能及び疾病)				

授業の目的・概要	身体の構造と機能、および関連した疾病の病態・メカニズムの基本的知識を学習する。 健康の維持・増進と、その教育に役立つ視点からの講義を行う。
授業計画	”3名の教員によるオムニバス形式で講義を行う。 【開講スケジュールおよび担当教員】 11 月 24 日(火)3-4 限 佐々木 11 月 25 日(水)1-2 限 佐々木 11 月 25 日(水)3-5 限 高桑 11 月 26 日(木)1-2 限 高桑 11 月 26 日(木)3-4 限 四津 11 月 26 日(金)1-2 限 四津 【講義内容】 佐々木担当 第 1 回:総論、神経、血管 第 2 回:循環器系、呼吸器系、 第 3 回:消化器系、腎泌尿器系 第 4 回:胸腔、腹腔 ※解剖学用語の暗記よりも、体表からの具体的な位置、相互の位置関係、膜構造と区画などの理解に重点を置く。 高桑担当 第 1-2 回:組織学__正常の組織の形態、とくに上皮、間葉についての総論を教授する 第 3 回:組織学__異常組織の形態をがん組織を例に教授する 第 4 回:ヒトの発生と異常__先天異常の発生について中心に教授する 第 5 回:ヒトの形態形成の研究;生理的臍帯ヘルニアとその解消について 四津担当 第 1 回:運動器総論 第 2 回:上肢の筋・骨格 第 3 回:下肢の筋・骨格 第 4 回:体幹の筋・骨格”
授業の方法	講義、ディスカッション
成績評価方法	講義時間内に試験を行う、または課題を出題する。 3名の教員がそれぞれ成績をつけ、総合したものを最終成績とする。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	その他。／Other
履修上の注意・備考	興味に応じて以下の参考書を参照してください。 1. 岩波講座 現代医学の基礎 3 人体のなりたち 坂井・佐藤 1998 岩波書店 2. 解剖学講義 改訂 3 版 伊藤・高野 2012 南山堂 3. 骨学実習の手びき 改訂 4 版 寺田・藤田 1992 南山堂 4. ラングマン人体発生学 第 12 版 T. W. サドラー MEDS 5. グレイ解剖学 原著第 5 版 (著)R. L. Drake, A. W. Vogl, A. W. M. Mitchell、(監訳)秋田恵一 2025 エルゼビア・ジャパン 6. ポケットチューター体表からわかる人体解剖学 原書第 2 版 大川淳/秋田恵一 2021 南江堂
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)生理学(運動生理学を含む)

時間割コード	09268010	担当教員	寺尾 尚大		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	金 2
講義題目	心理学統計法 I / Psychological Statistics I 心理学統計法 I				

授業の目的・概要	本授業では、心理学の研究においてよく利用される各種統計手法を学修するうえで必要となってくる基礎的な事項について講義を行います。具体的には、心理学研究と統計の関係について解説したうえで分布の記述的指標とその性質について学修し、その後、相関関係の把握と回帰分析、確率モデルと標本分布について学修します。本授業の目標は、これらの内容を理解し修得することです。
授業計画	”本授業では、以下のような進度で授業を進めていく予定です。 第 1 回 オリエンテーション、心理学研究と統計 第 2 回 尺度水準、量的変数の分布の代表値 第 3 回 量的変数の分布の散布度、歪度、尖度、累積分布 第 4 回 変数の線形変換と標準化、QQ プロット 第 5 回 共分散と相関係数、合計得点と差得点の分散、相関と共変と因果 第 6 回 単回帰分析 (1) 第 7 回 単回帰分析 (2) 第 8 回 測定の妥当性と信頼性 第 9 回 確率モデルと標本分布の基本的な考え方 第 10 回 標本比率の標本分布の導出 第 11 回 正規分布モデルと標本平均の標本分布 第 12 回 2 変数正規分布モデルと相関係数・条件つき分布としての単回帰分析 第 13 回 確率モデルの適用に関する諸問題”
授業の方法	すべての回の講義は、対面で実施します(第 1 回はオンラインです)。講義は 105 分とし、教科書に基づき作成した資料を利用します。式の展開を実施するので、ノートやルーズリーフ、タブレットなど、式の展開を担当者の板書と一緒に追えるものを持参してください。宿題として、講義回に対応する内容について、統計分析ソフト R を用いた演習課題を 10 回課します。
成績評価方法	期末テスト 60%、R の課題 20%、毎回の感想入力 20%
教科書	次の教科書を使用する。／Will use the following textbook
参考書	授業中に指示をする。／Will specify at class time
履修上の注意・備考	【履修上の注意点】・2017 年度以前開講「心理統計学 I」と同一内容のため、既に単位を修得している場合は本科目の履修不可。 ・学部横断型プログラム「数理・データサイエンス教育プログラム」の対象科目となる。 ・本科目は複数学部から開講される合併科目であり、科目間での調整が行われるため、試験が通常講義とは異なる曜限で実施されることがある。 【R の宿題について】本授業では、統計解析ソフト R の演習を宿題として、期日までに実行結果の提出を求める。R と RStudio のインストール方法や使い方の概要については、初回の授業および動画教材で説明する。受講者は、管理者権限をもつ(ソフトウェアのインストール・アンインストールを自由に決めてよい権限をもつ)Windows 端末または Mac 端末を用意すること。iPad、Chromebook は、R の課題には使用できない。
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09268011	担当教員	大瀧 玲子、能智 正博		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	金 1
講義題目	公認心理師の職責／Professionalism of Licensed Psychologists 公認心理師の職責				

授業の目的・概要	公認心理師法の施行に伴い、国家資格である「公認心理師」が誕生した。本資格は心理学の知識に基づいて、医療・教育・福祉・産業・司法の主に 5 領域での業務を行うため、その職責の基本についての理解と各領域での実践や連携の在り方の基礎的理解を本講義を通して身に着けることが求められる。 公認心理師の資格を得るためには学部課程で 25 の必修科目を履修することが必須となる。本科目「公認心理師の職責」は公認心理師の必須科目であり、かつ公認心理師という資格の説明会も兼ねている。資格取得に関心を持っているものは幅広く履修することが望まれる。
授業計画	”第 1 回:イントロダクション・公認心理師の役割 第 2 回:公認心理師の法的義務及び倫理 第 3 回:リスクマネジメント(利用者の安全確保と情報管理) 第4回:各領域の具体的業務:医療領域① 第 5 回:各領域の具体的業務:医療領域② 第 6 回:各領域の具体的業務:教育領域① 第 7 回:各領域の具体的業務:教育領域② 第 8 回:各領域の具体的業務:福祉領域① 第 9 回:各領域の具体的業務:福祉領域② 第 10 回:各領域の具体的業務:産業領域① 第 11 回:各領域の具体的業務:司法領域① 第 12 回:支援者としての自己課題発見・解決能力 第 13 回:生涯学習への準備”
授業の方法	オンラインと対面での実施とする。具体的なスケジュールは初回に配布するスケジュールを確認すること。
成績評価方法	出席点 30%, レポート 70%
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	・学部 4 年生で心理演習・心理実習を履修するためには単位取得が必須となる ・オンラインと対面で実施する。(詳細については後日掲載。) 授業計画の順番は変更となることがある。初回にて、スケジュールを説明するので確認すること。
授業実施形態	対面・オンライン併用型 A(総時間数の半数以上を対面で実施)／Hybrid Type A(Face-to-face/Online): Conduct classes in-person 50% or more of the total hours of the course
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09268012	担当教員	岡田 謙介、清河 幸子、一柳 智紀、大瀧 玲子、藤村 宣之、能智 正博、針生 悦子、高橋 美保、滝沢 龍、遠藤 利彦、植阪 友理、宇佐美 慧		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	木 3, 木 4
講義題目	教育心理学実験演習 I ／Experiments in Educational Psychology I 教育心理学実験演習 I				

授業の目的・概要	実習や見学を通じて、教育心理学の研究や実践をおこなうための基礎を養う。
授業計画	”確定したスケジュールは、初回授業で提示するが、性格検査、発達検査、知能検査、などの実習のほか、必要に応じて、心理学の生かされている現場（養護学校、家庭裁判所）の見学も行っていく。なお、本授業は木曜日3、4限に隔週で実施する。また、本郷キャンパスやその他の場所で実施することもあるので十分に注意すること。”
授業の方法	実習，見学
成績評価方法	レポート
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	履修は、原則として、教育心理学コースの学生に限る。
授業実施形態	対面型（対面のみで実施）／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09268013	担当教員	野崎 大地、森田 賢治、山本 義春		
単位数	2	学 期	A1	時 限	月 1, 木 1
講義題目	身体教育学概論 I / Introduction to Physical and Health Education I 身体教育学概論 I				

授業の目的・概要	からだの理(教育生理学)及び、からだを育むこと(身体教育科学)に関わる基本的な事象と現代的な課題について幅広く学ぶ機会とする。
授業計画	”主要な設定課題は以下の通りである(2023 年度)。 ・ICT/IoT とヘルスケア ・日常生活のモバイル行動医学 ・生体のゆらぎとその役割 ・睡眠のしくみ ・やる気・モチベーション・努力の脳身体機構 ・価値の学習の脳身体機構 ・価値に基づく意思決定の脳身体機構 ・疾患の機序(依存症などに焦点を当てて) ・身体運動の制御・学習の潜在性 ・身体運動の制御 1: 動作の普遍的パターン ・身体運動の制御 2: 制御を支える脳神経機構 ・身体運動の学習過程の科学 ”
授業の方法	教員の研究を中心に、行動、情動、運動の研究法や脳身体機構等について解説する。
成績評価方法	平常点(出席)およびレポート・小テストによる総合評価。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	授業内で提示する。
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)体育原理

時間割コード	09268014	担当教員	多賀 厳太郎、東郷 史治、西田 淳志		
単位数	2	学 期	A2	時 限	月 1, 木 1
講義題目	身体教育学概論Ⅱ／Introduction to Physical and Health Education II 身体教育学概論Ⅱ				

授業の目的・概要	脳とこころの発達(発達脳科学)及び、心身の健康と安全(健康教育学)に関わる基本的な事象と現代的な課題について幅広く学ぶ機会とする。主要な設定課題は以下の通りである。 発達とは何か・健康とは何か？保健で何を学ぶか？ 心身の発達・心身の健康・発達と遺伝・環境 脳の発達・免疫・アレルギーと感染症予防・睡眠・運動・代謝・セーフティ・プロモーション 認知・言語・学習・中枢神経発達・精神発達とその障害の疫学 動的システム・小児発達障害とはどのようなものか
授業計画	“発達脳科学の基本概念や生体を動的システムとして理解するための基礎を学ぶ 健康教育の介入ポイントを明らかにするための疫学研究の基本的的方法論と行動変容の基礎的理論を学ぶ”
授業の方法	教員による講義、課題の演習とレポート作成を組み合わせ授業を進める。
成績評価方法	出席、レポート、試験の総合評価とする。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	この科目は教職課程における「教科に関する科目」(体)学校保健 に該当する。
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 (体)学校保健

・教職課程科目（Ⅰ）本郷キャンパス

時間割コード	09269101	担当教員	中村 ともえ		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	金 2
講義題目	国語科教育法(基礎)／Basic Studies on Japanese Language 国語科教育法(基礎)				

授業の目的・概要	中・高等学校の国語教科書に採録されている(されたことのある)日本の近現代の文学作品を取り上げ、読解する。作品の読解の上でポイントとなる箇所や表現に受講者がフォーカスできるようになること、その上で段階的な発問や活動を設定できるようになることが目標である。
授業計画	“導入として、小～高等学校の国語教科書に採録されている文学教材を取り上げ、物語を読むとはどのような経験か、本文に何が書かれていないか(何を埋める必要があるか)、考察する。次に、教科書には作品の一部のみが採録されている作品、具体的には中島敦「古譚」より『山月記』、夏目漱石『こころ』を取り上げ、作品の総体を踏まえて改めて解釈する。また、詩の音読と分析、作品の要約といった活動を通じた読解の方法を提示・体験する。最後に、安部公房の『豹』『赤い繭』などいくつかの短篇小説を取り上げ、読解のポイントとなる箇所や表現について、段階的な発問を立てる練習をする。”
授業の方法	講義形式に加え、ペアワークやグループワーク、プレゼンテーションを取り入れる。
成績評価方法	授業内の課題と、期末レポートによって総合的に判断する。
教科書	次の教科書を使用する。／Will use the following textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	配布資料には目を通して臨んでください。その他、授業中に指示する課題を行うこと。
授業実施形態	対面・オンライン併用型 A(総時間数の半数以上を対面で実施)／Hybrid Type A(Face-to-face/Online): Conduct classes in-person 50% or more of the total hours of the course
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 国語科の指導法

時間割コード	09269102	担当教員	頼所 本一		
単位数	2	学 期	S2	時 限	集中
講義題目	国語科教育法(実践)A／Practical Studies on Japanese Language A 国語科教育法(実践)A				

授業の目的・概要	本講座の大きな特徴 1.生徒が『夢中』『工夫』『もがく』学習課題の設定 (1)授業の良し悪し(生徒の意欲関心度)は、どんな学習課題を設定したかで 80%決まります。 (2)授業成立の 3 要素 ☆国語の真正性(authentic learning) ☆学習課題 ☆学び合い(グループワーク) (3)『夢中』『工夫』『もがく』授業ポイント ☆『未知性』が内包されているもの⇒対: 言語 ☆『差異性』が内包されているもの⇒対: 他者(ひと) ☆『経験性』が内包されているもの⇒対: 自己 (4)学習課題について ☆『切り口は狭く学びは深く』⇒叙述を明らかにする ☆生徒が書いた『心に残った叙述』をもとに…(生徒の必要感) ☆差異の生まれる叙述を課題に… ☆叙述の『意味と関係の編み直し』が生まれるもの ☆言葉は『論理と倫理のくあわい』 (5)『不問』としたい学習課題 ①主題(テーマ)を問わない⇒文学は主題論や作家論を超えている。(作家が書こうとしているものから作品は超えている) ②気持ち(心情)を問わない⇒文学は不条理の世界を描いています。文学のもつ感情は言葉にできない。気持ちを聞くことで人生の真実が消える。生徒は建前を答えるしかできない。気持ちは「行動」と「状況」のなかに表現されている。 ③理由(なぜ?)を問わない⇒理由は一つではない。文学はそんなに単純なものではない(複雑な因果関係)。文学は不条理。不条理のなかに真実がある。不条理のなかで、人は『もう一人のわたし』『もう一人のあなた』『もうひとつの世界』『もうひとつの真実』を生きていく。 2.教育実習で出会った『子ども』(中学生・高校生)の「相」の捉え方 (1)生徒を知っていくことは授業に直結する (2)【具体的な手立て】 ①『心に残った叙述』と『その理由』を書いてもらう ②授業の残り 5 分間で『ふり返り』を書いてもらう (3)生徒の読みの『相』 ①『頭』で読む生徒(論理的思考) ②『肌』で読む生徒(感受的思考) ③『経験』で読む生徒(形成的思考) 3.『国語』教師として… (1)国語を学ぶってどういうことだろう? 哲学的問い⇒教科観 (2)その子の読みのよさを還してあげる⇒子ども観 (3)教師とは? ⇒教師観 ☆『教える』教師から『学ぶ』教師へ ☆『話す』教師から『聴く』教師へ ☆『伝える』教師から『つなぐ』教師へ
授業計画	“1 日目『ガイダンス』 1 回【講義】 模擬授業での『探究の課題』設定について 2 回【講義】志津田萌さん(現 東京都立深川第三中学校教諭 東京大学教育学部教育学研究科博士課程)※予定 3 回【演習】模擬授業での学習課題づくり ⇒グループ間で、どんな学習課題を設定すればいいか話し合ってみてください。構想を練る。 ⇒ワークシート作成 2 日目『模擬授業 1 人 40 分間』 (4 回～6 回) 3 日目『模擬授業 1 人 40 分間』 (7 回～9 回) 4 日目 模擬授業「1 人 40 分間」(10 回～12 回) リフレクション(13 回) ”
授業の方法	講義 グループ学習 演習 ビデオカンファレンス 模擬授業
成績評価方法	成績評価方法 ／Grade Evaluation①事前提出物(模擬授業テキスト・メッセージカード等)状況 ②模擬授業「課題設定、教師の居方など」 ④最終レポート提出状況(講義を受講して学んだこと。2000 字程度
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	1 本講義は「対面」授業が原則です。「対面」授業に参加できない場合は受講を控えてください。 2 事前提出物について 【集中講義前に提出していただきたいこと】 【重要】本講座は事前に提出していただくものが多いです。以下のことを念頭に入れて受講判断ください。 1 受講者は講義事前に以下までメールをください。事前に提出いただくシートを添付いたします。メールがない場合は受講できませんので予めご承知ください。 kuniyuumikihiro2010@yahoo.co.jp 【事前提出物】 ①模擬授業でのテキストコピー(A4 用紙2ページ以内)★厳守してください。 * テキスト選出について…「教える」テキストではなく、生徒役の受講生と「学び合える」テキストを選んでください。 ②テキストメッセージ 受講者が選んだテキストについて「心に残った叙述&その理由」を記入してください。受講生に送ります。そのテキストメッセージをもとに学習課題を設定し、模擬授業を行なっていただきます。 ★『utas』を利用しますので予めご承知おきください。 【集中講義中の提出物】 ①先輩のお話への感想記入 A4用紙 1 枚 ② 模擬授業デザイン A4用紙 1 枚 【集中講義中の

	持ち物】①教科書「学びの光源」(明治図書)⇒大学生協にて購入いただけます。 ②PC 【最終レポート提出】講義終了2週間以内 A4 用紙 4,000 字以上 【履修上の注意】※8-9 月集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと 教育学部在学生向け Web サイト＞授業・履修・学生生活＞時間割＞学部(集中講義) https://www.p.u-tokyo.ac.jp/students/class/#timetable
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 国語科の指導法

時間割コード	09269103	担当教員	江頭 双美子		
単位数	2	学 期	S2	時 限	集中
講義題目	国語科教育法(実践)B／Practical Studies on Japanese Language B 国語科教育法(実践)B				

授業の目的・概要	本授業は、教育実習に必要な技能を身につけることを目標とします。 目標 1.中等教育における国語科の授業計画と実践の手順を理解し、教材研究に基づく学習指導案を作成する。 2.協働学習、探究的な学習を意識した学習活動を取り入れて授業を計画する。 3.目的と状況に即した教具の選定や使用方法の工夫を取り入れて授業を計画する。 4.授業改善につながる観察の要点を理解し、適切に授業を見学する。
授業計画	“第1・2回 中学校・高等学校国語科学習指導要領の目標・内容 第3・4回 国語科における教材の役割 第5・6回 探究的・協働的な学習の意義と方法 第7・8回 教材研究・指導案作成 第9～13回 指導案検討・模擬授業・授業検討 第14回 試験”
授業の方法	担当者による講義、受講生による議論、模擬授業、授業検討。
成績評価方法	参加状況・提出物(学習指導案・レポート)・試験により、総合的に評価する。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	模擬授業に向かったの準備を行うことと集中講義であることの特性上、欠席するとその後の活動が困難となる可能性があるのでご注意下さい。 ほぼ毎回グループを編成し共同作業やディスカッションを行いますことをご了承下さい。 【履修上の注意】 ※8-9 月集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと 教育学部在学生向け Web サイト＞授業・履修・学生生活＞時間割＞学部(集中講義) https://www.p.u-tokyo.ac.jp/students/class/#timetable
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 国語科の指導法

時間割コード	09269104	担当教員	堀田 諭		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	金 3
講義題目	社会科・地理歴史科教育法(基礎)／Basic Studies on Social Studies, Geography and History 社会科・地理歴史科教育法(基礎)				

授業の目的・概要	【概要】 本講義では、中学校社会科及び高等学校地理歴史科に関する理論的・実践的な課題の検討を踏まえて、自らの社会科・地理歴史教育の教育観・授業観を構築することを目的とする。具体的には、学習指導要領の内容を理解し、様々な社会科・地理歴史教育論の特質と課題を検討し、教材研究を踏まえた発表・授業を実践することで、自己の教育観・授業観を再構成していく。 【到達目標】 ・地理歴史教育やカリキュラムの歴史の変遷を踏まえて、地理歴史教育の今日的意義について説明することができる。 ・地理歴史教育に関する理論的・実践的な課題の検討を踏まえて、自らの社会科・地理歴史教育の教育観・授業観を構成し、説明することができる。 ・特定の条件下で、地理歴史教材を発掘し、他者にわかりやすく発表することができる。
授業計画	”第1回社会科と地理歴史教育：なぜ地理や歴史を教えるのか？ 第2回中学校歴史教科書の比較研究：教科書執筆者の意図を読み取る 第3回学習指導要領の変遷と社会科授業：中学校社会科の内容分析 第4回地理教育の教育観・授業観：教養教育・科学教育としての地理教育 第5回身近な地域の教材研究：災害リスクの調査：地理院地図・GIS の活用 第6回市民教育としての地理教育：ICT 機器の活用 第7回歴史教育の教育観・授業観：実証主義・構成主義・実用主義的な歴史教育 第8回学習指導案の書き方：目標と評価／問いと活動の関係性 第9回社会科教科書分析・授業づくり①中学校歴史的分野 第 10 回模擬授業と協議会①問いの構成と資料づくり 第 11 回社会科教科書分析・授業づくり②中学校地理的分野 第 12 回模擬授業と協議会②ワークシートと活動づくり 第 13 回地理歴史教育の課題と自己の社会科授業観の再構成 ※受講者の人数等に合わせて一部変更する可能性あり”
授業の方法	講義と演習(グループワークまたは模擬授業)を組み合わせる。グループワークは、小グループによる討議を行う予定である。
成績評価方法	課題レポートなどの提出物を 60%、発表活動など授業への取り組みを 40%として総合的に評価を行う。なお、レポート等が提出されない場合やその内容が不良の場合は不可となる。
教科書	その他。／Other
参考書	その他。／Other
履修上の注意・備考	教員免許取得にかかわる科目であるため、授業への取り組みを重視する。授業実践や学習指導案作成の基盤となる教材研究、ワークシート作成など予習・復習が重要となる。 講義の中で紹介する関連文献や論文を読み進めて見識を深めることを期待する。ブックレポート課題の詳細などについては、授業の中で示していく。
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 社会科の指導法の一部(地理歴史)及び地理歴史科の指導法

時間割コード	09269105	担当教員	堀田 諭		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	金 3
講義題目	社会科・地理歴史科教育法(実践) A／Practical Studies on Social Studies, Geography and History A 社会科・地理歴史科教育法(実践) A				

授業の目的・概要	【概要】 本講義では、中学校社会科及び高等学校地理歴史科に関する理論的・実践的な課題を踏まえて、それらの教科目を実践するための社会科教員としての資質を養うことを目的とする。具体的には、学習指導要領の内容の理解とともに学習評価の考え方を踏まえて授業をつくり、実践・検討していく。自己の社会科教育観を学習指導案に表現し、他者と共に検討することで、よりよい社会科授業について検討していく。 【到達目標】・地理歴史教育に関する理論と実践を踏まえて、自らの授業観を学習指導案に表現することができる。 ・中学校社会科及び高等学校地理歴史科の趣旨を踏まえて、社会科授業を実践・検討することができる。
授業計画	”第1回社会科教育観・授業観の再考：社会科授業の類型と私の授業観 第2回近代国民国家と地理歴史教育：高等学校学習指導要領の内容分析 第3回真正の学びと指導・評価：シミュレーション学習と生徒の学びの意味 第4回学習指導要領と授業づくり・学習評価①単元を貫く問いと評価課題づくり 第5回学習指導要領と授業づくり・学習評価②学習指導案の作成 第6回社会科教科書分析・授業づくり①中世・近世単元 第7回模擬授業と協議会①史資料を活かした授業づくり 第8回社会科教科書分析・授業づくり②世界と日本の諸地域単元 第9回模擬授業と協議会②単元を見通した評価課題 第10回社会科教科書分析・授業づくり③近代・現代単元 第11回模擬授業と協議会③「困難な歴史」と国際的課題 第12回授業実践を踏まえた指導改善・学習指導案の修正 第13回社会科授業観の再構成と社会科教員の専門性 ※受講者の人数等に合わせて一部変更する可能性あり”
授業の方法	講義と演習(グループワークまたは模擬授業)を組み合わせる。グループワークは、小グループによる討議を行う予定である。
成績評価方法	課題レポートなどの提出物を60%、発表活動など授業への取り組みを40%として総合的に評価を行う。なお、「学習指導案」等のレポートが提出されない場合やその内容が不良の場合は不可となる。
教科書	その他。／Other
参考書	その他。／Other
履修上の注意・備考	教員免許取得にかかわる科目であるため、授業への取り組みを重視する。授業実践や学習指導案作成の基盤となる教材研究、ワークシート作成など予習・復習が重要となる。 講義の中で紹介する関連文献や論文を読み進めて見識を深めることを期待する。ブックレポート課題の詳細などについては、授業の中で示していく。
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 社会科の指導法の一部(地理歴史)及び地理歴史科の指導法

時間割コード	09269106	担当教員	橋本 渉		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	火 4
講義題目	社会科・地理歴史科教育法(実践) A／Practical Studies on Social Studies, Geography and History A 社会科・地理歴史科教育法(実践) A				

授業の目的・概要	中学校社会及び高等学校地理・歴史に関する科目について、授業内容と指導方法について、学習指導要領や昨今の教育事情を参照しながら、具体的イメージを掴む。また、将来において当該科目の教員として教育活動を行うに当たり、優れた授業が行えるよう、教育計画及び授業の組織の方法、教材作成など、それらのデザインができるよう、教科教育の考え方を理解し、その技能を習得する。戦後教育の思想や、昨今の協働学習の指導方法、歴史学及び地理学の考え方などを踏まえながら、社会科教育の在り方を検討する。
授業計画	”1&comma;オリエンテーション～社会科の歴史とその目標(戦後教育の変遷), 2&comma;学習指導要領と授業のかかわり(検定教科書の分析), 3&comma;社会科における資質・能力, 4&comma;教材とその活用について、5&comma;主権者教育とシティズンシップ教育, 6&comma;「主体的・対話的で深い学び」, 7&comma;授業づくりの実践①(歴史編), 8&comma;授業づくりの実践②(地理編), 9&comma;模擬授業とその検討①(歴史編その1), 10&comma;模擬授業とその検討②(歴史編その2), 11&comma;模擬授業とその検討③(地理編その1), 12&comma;模擬授業とその検討④(地理編その1), 13&comma;筆記試験 ”
授業の方法	講義、ディスカッション、グループワークによる
成績評価方法	授業への出席を重視する。加えて、最後の授業内で実施される筆記試験
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	プリントを配布する。／Will distribute handouts
履修上の注意・備考	教科教育法は、当該学問分野と戦後教育の捉え方および国の学習指導要領の変遷、昨今の協働学習などにおける教育観などを反映する。そのため、参加した授業機会のつまみ食いにならないよう、可能な限りすべての授業に参加し、学習指導や授業づくりの考え方、その授業実践について、多面的な視点から捉えられるよう、理解あるいは技能を積み重ねる必要がある。後に経験する、教育実習には、現場での実習という点を踏まえれば、教科教育法はきわめて重要である。なお、授業内では、資料のプリントを配付し展開するが、欠席者に対して過去の資料の再配付を行うことは、難しいことを留意しておきたい。 授業という実践活動を考えるには、自己の受けた学校教育の経験のみならず、多様な子どもに対する教育実践者としての視点、また公教育における社会科・地理歴史科の教育的視点が必要となる。そのため、学生は、様々な視点から、教科教育を捉え直す機会として、本講座に挑んでほしい。そのため、授業で話題にした内容や理解は、今後、教育現場で必要および参考となる内容となるので、課題意識や関心を高めていただきたい。授業への参加あるいは筆記試験については、そうして培った学生の理解や考え方を述べていく機会とする。挙げた参考文献は、抜粋し 第3回の授業、10/20は、休校とする
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 社会科の指導法の一部(地理歴史)及び地理歴史科の指導法

時間割コード	09269107	担当教員	村野 光則		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	水 5
講義題目	社会科・公民科教育法(実践)／Practical Studies on Social Studies and Citizenship 社会科・公民科教育法(実践)				

授業の目的・概要	中高公民科の授業に対応できる基礎的な授業技術を習得する。前半で授業づくりの基礎的な知識やテクニックを学び、後半は模擬授業を通じて実践的な授業技術の習得をめざす。
授業計画	”第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 教育実習の基礎知識 第 3 回 学習指導案の作り方 第 4 回 学習科学の知見を授業に生かす 第 5 回 考えさせる授業を創る①思考実験・読解力問題 第 6 回 考えさせる授業を創る②ジグソー法・質問づくり 第 7 回 考えさせる授業を創る③サイレントダイアログ・哲学対話 第 8 回 すぐれた授業実践に学ぶ 第 9 回 模擬授業A①(各 20 分＋ふりかえり) 第 10 回 模擬授業A②(各 20 分＋ふりかえり) 第 11 回 模擬授業B①(各 45 分＋ふりかえり) 第 12 回 模擬授業B②(各 45 分＋ふりかえり) 第 13 回 模擬授業B③(各 45 分＋ふりかえり)”
授業の方法	講義, アクティブラーニング, ビデオ視聴, 模擬授業
成績評価方法	模擬授業およびふりかえりレポート, 出席数
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	教育実習のための実技科目なので、無遅刻・無欠席が原則です(欠席の際は事前に連絡をお願いします)。
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 社会科の指導法の一部(公民)及び公民科の指導法

時間割コード	09269108	担当教員	村野 光則		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	水 5
講義題目	社会科・公民科教育法(実践)／Practical Studies on Social Studies and Citizenship 社会科・公民科教育法(実践)				

授業の目的・概要	中高公民科の授業に対応できる基礎的な授業技術を習得する。前半で授業づくりの基礎的な知識やテクニックを学び、後半は模擬授業を通じて実践的な授業技術の習得をめざす。
授業計画	”第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 教育実習の基礎知識 第 3 回 学習指導案の作り方 第 4 回 学習科学の知見を授業に生かす 第 5 回 考えさせる授業を創る①思考実験・読解力問題 第 6 回 考えさせる授業を創る②ジグソー法・質問づくり 第 7 回 考えさせる授業を創る③サイレントダイアログ・哲学対話 第 8 回 すぐれた授業実践に学ぶ 第 9 回 模擬授業A①(各 20 分＋ふりかえり) 第 10 回 模擬授業A②(各 20 分＋ふりかえり) 第 11 回 模擬授業B①(各 45 分＋ふりかえり) 第 12 回 模擬授業B②(各 45 分＋ふりかえり) 第 13 回 模擬授業B③(各 45 分＋ふりかえり)”
授業の方法	講義, アクティブラーニング, ビデオ視聴, 模擬授業
成績評価方法	模擬授業およびふりかえりレポート, 出席数
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	教育実習のための実技科目なので、無遅刻・無欠席が原則です(欠席の際は事前に連絡をお願いします)。
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 社会科の指導法の一部(公民)及び公民科の指導法

時間割コード	09269109	担当教員	家本 繁		
単位数	2	学 期	S2	時 限	集中
講義題目	数学科教育法(基礎)／Basic Studies on Mathematics 数学科教育法(基礎)				

授業の目的・概要	中学校・高等学校における数学科の授業を行うために必要な指導力を培う。特に中等教育前期(中学校)の教材研究に重点を置く。戦後における学習指導要領の変遷を学び、現行学習指導要領を理解し、具体的な学習内容を理解できることを目標にする。「良い授業とは」を問うことで、望ましい授業観・指導観を育成し、「日本一の授業名人の先生」になることを目標とする。そのために、各領域で指導されている内容を把握し、学習指導案の作成を行い、評価についても講義する。教材研究のあり方や問題解決型授業の実践例を与え、グループ活動などを行いながら講義を進める。数 学体験館での体験も行う予定である。授業・教材における ICT の利活用についても講義する。
授業計画	”第1回:「数学教育とは」オリエンテーション 第2回:「戦後の数学教育の変遷」学習指導要領の変遷 第3回:「領域研究1」A「数と式領域」(1)文字と式を中心として 第4回:「領域研究2」A「数と式領域」(2)方程式と数の構成 第5回:「領域研究3」B「図形領域」図形の見方(1) 第6回:「領域研究4」B「図形領域」ユークリッド言論に学ぶ(2) 第7回:「領域研究5」C「関数領域」(1)関数の基礎 第8回:「領域研究6」C「関数領域」(2)数学的な見方・考え方 第9回:「領域研究7」D「データの活用領域」データの活用 第10回:「領域研究7」D「データの活用領域」確率について 第11回:デジタル教科書と ICT の活用 第12回: 授業の実際と学習指導案について、学習指導案の作成 第13回:まとめと到達度確認 ”
授業の方法	講義とグループ活動・作業的活動を行う。 アクティブラーニングを基本とする。
成績評価方法	平常点および小論文課題と筆記テストを行い、評価する。 学習指導案の作成・提出は必須である。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	算数・数学科教育への関心が高いことが望ましい。講義の連続性があるので、講義に出席することを前提にします。 授業開始 29 分までは遅刻としますが、それ以降は入室は認めるが欠席扱いとなります。 講義回数(13 回)の 4 分の 3 以上(10 回以上)の出席を履修条件とします。 【履修上の注意】 ※8-9 月集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと 教育学部在学生向け Web サイト＞授業・履修・学生生活＞時間割＞学部(集中講義) https://www.p.u-tokyo.ac.jp/students/class/#timetable
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 数学科の指導法

時間割コード	09269110	担当教員	中筋 麻貴		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	火 2
講義題目	数学科教育法(実践) A／Practical Studies on Mathematics A 数学科教育法(実践) A				

授業の目的・概要	中学校・高等学校における数学科の授業を行うために必要な指導力を培う。そのためには、授業技術に加え、関連する幅広い知識が必要である。本講義では、数学教育の目的と現在直面している課題を理解し、これからの数学教育を担う教師として必要な知識と方法をアクティブ・ラーニング(双方向授業・模擬授業など)を取り入れた講義を通して学んでゆく。具体的には、中学校数学の検定教科書を用いた教材研究、指導案作成および模擬授業とその評価を中心に講義を進める。また、時間が許す範囲で教員採用試験対策に取り組む。 到達目標は以下の通りとする。 (1)これからの数学教育のあり方、課題点について学ぶ。 (2)中学・高校数学の指導内容を深く理解し、よりよい授業の指導法(デジタル教材および ICT 機器の活用を含む)を習得する。 (3)生徒の数学に対する意識をふまえ、興味・関心をひきだす授業展開の考察 以上の内容をもとに、現在の数学教育における問題や課題点に対し、主体的に解決できる能力を身につけることを到達目標とする。
授業計画	“第 1 回:オリエンテーション。中学・高等学校の学習指導要領の確認および授業分担について 第 2 回:教材研究の重要性と学習指導案の作成について 第 3 回:模擬授業 1 (1 年:文字式), 導入, 発問について 第 4 回:模擬授業 2 (1 年:方程式), 板書指導 第 5 回:模擬授業 3 (1 年:比例と反比例), プリント教材の作成 第 6 回:模擬授業 4 (1 年:平面図形と空間図形), 模擬授業の評価 第 7 回:模擬授業 5 (2 年:連立方程式), 模擬授業の評価 第 8 回:模擬授業 6 (2 年:1 次関数), 模擬授業の評価 第 9 回:模擬授業 7 (2 年:平行と合同／三角形と四角形), 模擬授業の評価 第 10 回:模擬授業 8 (2 年:確率), 模擬授業の評価 第 11 回:模擬授業 9 (3 年:平方根), 教員採用試験にむけて I 第 12 回:模擬授業 10 (3 年:二次方程式／関数 $y=ax^2$), 教員採用試験にむけて II 第 13 回:模擬授業 11 (3 年:円／三平方の定理), 教員採用試験にむけて III 第 14 回:振り返りおよび到達度確認”
授業の方法	中学校数学の検定教科書を用いた教材研究、指導案作成および模擬授業とその評価、および受講生としての授業参加を必須として行う。
成績評価方法	模擬授業(30%), 模擬授業の学習指導案(20%), 授業参加(30%), 課題(20%)を総合的に判断し評価する。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	本講義では、中学校・高等学校において即戦力となる模擬授業の展開を要求するため、教材研究、指導案作成、各自のアイデアを盛り込み取り組んだ模擬授業準備等、具体的なそれぞれの課題について、入念な事前準備を必要とする。また、教員採用試験対策を進める。準備学習時間の目安は以下とする。 ・教材研究として、各単元の学習指導要領の確認を行う(30 分) ・指導案の作成および模擬授業の準備(120 分) ・教員採用試験対策(40 分) 質問などはメールを利用すること。 講義資料の提供については授業内で連絡する。
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 数学科の指導法

時間割コード	09269111	担当教員	西脇 佳子、清野 堯明		
単位数	2	学 期	S2	時 限	集中
講義題目	数学科教育法(実践)B／Practical Studies on Mathematics B 数学科教育法(実践)B				

授業の目的・概要	中等教育段階での数学科の授業を行うときに、事前に教材研究ができ、学習指導案が作成できるようになることを目標とする。単なる問題提示、その解説、演習という授業の流れにとどまらないためにはどのような点に注意すべきなのかを具体的な指導事例を中心に考察する。自分の受けてきた授業を振り返り、数学科の授業者に必要な知識・技術について考察する。中学校・高等学校の学校現場で指導している立場から、具体的な教材・資料・実践例を通して、数学教育に関するテーマを与える。
授業計画	“第1回:「数学」と「学校数学」との違い 第2回: 現行の学習指導要領と中学校・高等学校の数学科カリキュラム 第3回: 学習指導要領の歴史 第4回: 学習指導法 第5回: 評価 第6回: 教材研究(空間図形の模型作りを例にして) 第7回: 教材研究(単元のつながりを意識した題材を例にして) 第8回: 教材開発(教科書の問題を生かす) 第9回: 教材開発(生徒の反応・誤答を生かす) 第10回: 数学的な考え方 第11回: ICTの活用 第12回: 数学的モデル化 第13回: 学習指導案の書き方 第14回: 模擬授業(学習指導案の進め方) 第15回: 模擬授業(授業を評価する)”
授業の方法	講義またはテーマごとに課題を提示して、その課題について問題解決し、その解決過程を振り返る。
成績評価方法	テストは行わず、レポート等で評価する。そのレポートや講義中の活動を見て、講義の内容を理解し、自らの問題解決過程を振り返り、考察をしているかどうかを確認する。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	上記の成績評価方法で記入したように、毎回の講義で学生の活動を重視し、さらにレポートを課すので、講義に出席することを前提とする。 【履修上の注意】 ※8-9 月集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと 教育学部在学生向け Web サイト＞授業・履修・学生生活＞時間割＞学部(集中講義) https://www.p.u-tokyo.ac.jp/students/class/#timetable
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 数学科の指導法

時間割コード	09269112	担当教員	對比地 覚		
単位数	2	学 期	S2	時 限	集中
講義題目	理科教育法(実践)A／Practical Studies on Natural Science A 理科教育法(実践)A				

授業の目的・概要	教育学部附属中等教育学校の理科専任教員が担当する。 理科教育を中心に、学生が教育実習をする際に、授業や学校現場で注意すべきこと・工夫できることなどを解説し、演習や模擬授業で実践する。 具体的には「理科教育では何をするのか」、「指導案の作成」、「実験・観察を含む授業運営」、「評価の演習」などの事項を扱う。 この科目は教職課程における「教職に関する科目」の「各教科の指導法」に該当する。
授業計画	”1. 理科教育の目的・学習指導要領 2. 授業の方法 3. 学習指導案の書き方 4. 学習指導案の作成/検討 5. 評価の方法 6. 評価の演習 I 7. 実験・観察の意義 8. 授業における安全管理 9. 模擬授業の準備 10. 模擬授業① 11. 模擬授業② 12. 探究活動の指導 13. 評価の演習 II 14. 昨今の学校教育を取り巻く動向”
授業の方法	実技演習や解説を中心に、グループワークや模擬授業を通して互いに理解を深める。
成績評価方法	出席状況、レポート(指導案を含む)、授業に対する取り組み
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	集中講義のため、1日でも欠席される場合は履修を認めることが難しくなります。 また指導案の作成などは宿題にする予定ですので、この期間は忙しくなると思います。 【履修上の注意】 ※8-9 月集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと 教育学部在学生向け Web サイト＞授業・履修・学生生活＞時間割＞学部(集中講義) https://www.p.u-tokyo.ac.jp/students/class/#timetable
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 理科の指導法

時間割コード	09269113	担当教員	荒井 恵里子		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	水 4
講義題目	理科教育法(実践)C／Practical Studies on Natural Science C 理科教育法(実践)C				

授業の目的・概要	教育学部附属中等教育学校の理科専任教員が担当する。 理科教育を中心に、学生が教育実習をする際に、授業や学校現場で注意すべきこと・工夫できることなどを解説し、模擬授業で実践する。具体的には「学校とはどんなところか」「教員の仕事」「理科教育では何をするのか」「様々な授業形態」などの事項を扱う。この科目は教職課程における「教職に関する科目」の「各教科の指導法」に該当する。
授業計画	”1. 教員という職業について 2. 理科教育の目的・学習指導要領 3. 授業の方法と評価 4. 授業の教材例 5. 授業でのメディア・機器の利用 6. 学習指導案の作成 7. 学習指導案の検討・模擬授業の準備 8. 模擬授業Ⅰ① 9. 模擬授業Ⅰ② 10. 実験・観察の意義・授業における安全管理 11. 模擬授業Ⅱ① 12. 模擬授業Ⅱ② 13. 模擬授業Ⅱ③”
授業の方法	講義や解説 グループワークによる事例の検討・発表 模擬授業の準備と実践
成績評価方法	出席状況 授業内のディスカッションへの参加状況 レポート(学習指導案を含む) 模擬授業
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	受講生には他の受講生を中高生に見立てて模擬授業を実施していただきます。受講人数によって変更はありますが、2回ずつを予定しています。模擬授業の前に授業外の時間で授業準備・教材準備が必要です。模擬授業に使用する教科書のコピーや自作プリントそのほかは自己負担となります。(例:受講生15名の場合は15名分のプリントをコピーして準備するなど)
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 理科の指導法

時間割コード	09269114	担当教員	青木 秀憲、上岡 洋晴		
単位数	2	学 期	S2	時 限	火 1, 火 2
講義題目	保健体育科教育法(実践)C／Practical Studies on Health and Physical Education C 保健体育科教育法(実践)C				

授業の目的・概要	保健体育の授業設計を実際に行うに当たっての技法、注意点を主に実習を通じて体得する。保健体育の授業運営では、自身の技術、知識、経験などをもとに構成することが基本となるが、中学生・高校生の集団を授業対象としている以上、理論・理屈、経験だけでその集団に対処することは難しい。授業は不測の問題が発生する危険を常に帯びており、そのような事態に的確に対応することも求められる。また、授業運営にはきわめて些末な準備作業が無数にあり、これを疎かにすると限られた授業時間内で効果的、効率的な授業を実施することは困難となる。本来教師として持つべき技術、知識、経験以外に、現場で生じる諸問題への対応力、事前の綿密な準備と現場での実行力は、あらゆる社会人にとって必要であり、教師を志す学生以外にも有益であると思われる。本授業はこうした能力を養成する第一歩と位置付けている。 保健体育科教育法(実践)には A、B、C の 3 科目の授業があるが、どの科目からでも受講することが可能である。また、中学校の教員免許取得を希望する場合を除き、A、B、C の3つすべてを履修する必要はなく、どれかを単独で履修し、単位を取得することも可能である。なお、教員免許取得を希望する者は下記の「その他」の欄を参照のこと。 本授業は、2025 年度 S2 で「実践 A」が、A2 で「実践 B」が既に開講されており、今回の「実践 C」では過去に「実践」を履修している者(既修者)と今回初めて履修する者(初修者)とが混在する可能性がある。従って、既修者と初修者とは授業内容や課題に若干の違いが生じる場合がある。例えば、既修者は模擬授業およびその振り返り等の実習を中心とし、初修者は授業運営に関する基本的な技法、考え方などを踏まえてから模擬授業に臨むなど、既修者と初修者を分けて別々の課題や実習に臨むことも予定している。 The purpose of this class is to understand how to teach a physical education class. The main things to do in this class are followings: ・Understanding physical education curriculum guidelines ・Creating physical education lesson plans ・Having a mock physical education class
授業計画	”主に以下の内容を学習するが、既修者と初修者では授業内容に若干の違いが生じる場合もある。 1. イントロダクション 体育教師が求められる役割、競技主体思考と学校体育思考の違い、東京大学で体育を学ぶ意義 2. 学習指導案の考え方・理念 3. 未熟練者の動作の分析 4. 学習指導案・授業時案の作成および発表・質疑 5. 指導実践見学(東京大学教育学部附属中等教育学校等での授業見学) 6. 体育実技模擬授業を一人 2 回程度(既修者は初修者よりも長時間の模擬授業を実施) 7. 体育実模擬授業振り返り 8. ニュースポーツの理解および実践 ※1 回の授業は原則 2 時限分連続(火曜 1 限・2 限)で実施し、S2 の期間中に合計 7 回授業日がある。”
授業の方法	本授業はすべて対面で実施する。履修希望者は第 1 回の授業日に直接教室に集合すること。授業期間の前半は講義、ディスカッション、作業が中心。後半は履修者が「教師役」、「生徒役」に分かれて行う体育実技の模擬授業や、学校現場に出向いて行う授業見学など、実習が中心となる。
成績評価方法	実習が主体となる授業のためペーパーテストによる定期試験は実施しない。講義で実施する諸作業の提出状況や内容、ディスカッションにおける発言内容、模擬授業の出来ばえを評価の対象とする。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	特になし。時期を問わず運動部やクラブチームなどでのスポーツ経験があることが望ましいが、全くスポーツに関係したことのない学生の視点・考え方には非常に示唆に富むものがあるので、まとまったスポーツ経験がなくても履修を勧めたい。 <注意:教員免許状取得を考えている学生へ> 平成 31 年度より施行されている新教職課程が適用となる学生は、教免法上の要件科目「各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)」について、中学校免許状取得には「身体教育方法論」2 単位及び「実践」6 単位の合計 8 単位の修得が必要となる(実践 A、B、C をそれぞれ 1 回ずつ履修)。また高等学校免許状を取得する場合は、「身体教育方法論」2 単位及び「実践」2 単位の合計 4 単位の修得を要する

	(実践 A、B、C のいずれか 1 科目を履修)。 教員免許状の取得を希望する場合、自身に適用されるのが新課程、旧課程のいずれであるかを十分に確認しておくこと。 なお、2026 年度は S2 で「実践 C」、A2 で「実践 A」の 2 科目のみの開講となる。また、2027 年度は S2 で「実践 B」、A2 で「実践 C」の 2 科目が開講される予定である。従って、2026 年度の学部 3 年生が 3 年、4 年の 2 年間で中学校免許状取得を希望する場合、2026 年度で「実践 A」を履修する必要がある(2027 年度は「実践 A」の開講予定がないため)、2027 年度には「実践 B」を履修することが必須となる(2026 年度は「実践 B」が開講されないため)。
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 保健体育科の指導法

時間割コード	09269115	担当教員	青木 秀憲		
単位数	2	学 期	A2	時 限	火 1, 火 2
講義題目	保健体育科教育法(実践)A／Practical Studies on Health and Physical Education A 保健体育科教育法(実践)A				

授業の目的・概要	保健体育の授業設計を実際に行うに当たっての技法、注意点を主に実習を通じて体得する。保健体育の授業運営は、自身の技術、知識、経験などをもとに構成することが基本となるが、中学生・高校生の集団を授業対象としている以上、理論・理屈、経験だけでその集団に対処することは難しい。授業は不測の問題が発生する危険を常に帯びており、そのような事態に的確に対処することも求められる。また、授業運営にはきわめて些末な準備作業が無数にあり、これを疎かにすると限られた授業時間内で効果的、効率的な授業を実施することは困難となる。本来教師として持つべき技術、知識、経験以外に、現場で生じる諸問題への対応力、事前の綿密な準備と現場での実行力は、あらゆる社会人にとって必要であり、教師を志す学生以外にも有益であると思われる。本授業はこうした能力を養成する第一歩と位置付けている。 保健体育科教育法(実践)には A、B、C の 3 科目の授業があるが、どの科目からでも受講することが可能である。また、中学校の教員免許取得を希望する場合を除き、A、B、C の3つすべてを履修する必要はなく、どれかを単独で履修し、単位を取得することも可能である。教員免許取得を希望する者は、下記の「その他」の欄を参照のこと。 本授業は、2025 年度 S2 で「実践 A」が、A2 で「実践 B」が既に関講され、2026 年度は S2 で「実践 C」、A2 で「実践 A」が関講される。従って、本年度の「実践 A」では過去に「実践」を履修した者(既修者)と今回初めて履修する者(初修者)とが混在する可能性がある。そのため既修者と初修者とは授業内容や課題に若干の違いが生ずる場合がある。例えば、既修者は模擬授業およびその振り返り等の実習を中心とし、初修者は授業運営に関する基本的な技法、考え方などを踏まえてから模擬授業に臨むなど、既修者と初修者を分けて別々の課題や実習に臨むことも予定している。 The purpose of this class is to understand how to teach a physical education class. The main things to do in this class are followings: ・Understanding physical education curriculum guidelines ・Creating physical education lesson plans ・Having a mock physical education class
授業計画	”本授業の主な内容は以下の通り。 1. イントロダクション(体育教師に求められる役割、東京大学で体育を学ぶ意義等) 2. 学習指導指導要領、学習指導案の理解および指導時案(授業案)の作成実習 3. 教育学部附属中等教育学校授業見学 4. 運動指導実践例学習 5. 体育実技模擬授業 6. 保健模擬授業 7. 体育・スポーツでの安全管理 ※1 回の授業は原則 2 時限分連続(火曜日 1 限、2 限)で実施し、A2 期間中に合計 7 回の授業を行う。 ※「運動指導実践例学習」は様々な運動指導現場で活動する方をゲストスピーカーとしてお招きし、その活動の様子を伺い、質疑を実施するもの。 ※履修者の人数や既修者、初修者の人数比率によっては上記スケジュールの一部を調整、変更する場合があります。 ”
授業の方法	中学校、高等学校の体育や保健の授業を想定し、履修者が「教師役」、「生徒役」に分かれて行う「模擬授業」と、実際の学校現場に出向いて行う「授業見学」など、実践的な実習が授業の中心となる。なお、初めて「保健体育科教育法(実践)」を履修する者が多い場合は、基本事項(学習指導案の解説、動作分析等)の比率を高める場合もある。本授業はすべて対面で実施する予定。履修希望者は第 1 回の授業日に、直接教室へ集合すること。
成績評価方法	実習が主体となる授業のためペーパーテストによる定期試験は実施しない。講義で実施する諸作業の提出状況や内容、ディスカッションにおける発言内容、模擬授業の出来ばえを評価の対象とする。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	特になし。時期を問わず運動部やクラブチームなどでのスポーツ経験があることが望ましいが、全くスポーツに関係したことのない学生の視点・考え方には非常に示唆に富むものがあるので、まとまったスポーツ経験がなくても履修を勧めたい。 ＜注意:教員免許状取得を考えている学生へ＞ 平成 31 年度より施行されている新教職課程が適用となる学生は、

	教免法上の要件科目「各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)」について、中学校免許状取得には「身体教育方法論」2 単位及び「実践」6 単位の合計8単位の修得が必要となる(実践 A、B、C をそれぞれ 1 回ずつ履修)。また高等学校免許状を取得する場合は、「身体教育方法論」2 単位及び「実践」2 単位の合計 4 単位の修得を要する(実践 A、B、C のいずれか 1 科目を履修)。 教員免許状の取得を希望する場合、自身に適用されるのが新課程、旧課程のいずれであるかを十分に確認しておくこと。 また、2026 年度は S2 で「実践 C」、A2 で「実践 A」の 2 科目のみを開講し、2027 年度は S2 で「実践 B」、A2 で「実践 C」の 2 科目が開講予定である。従って、2026 年度の学部 3 年生が 3 年、4 年の 2 年間で中学校免許状取得を希望する場合、2026 年度で「実践 A」を履修する必要がある(2027 年度は「実践 A」の開講予定がないため)、2027 年度には「実践 B」を履修することが必須となる(2026 年度は「実践 B」が開講されないため)。
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 保健体育科の指導法

時間割コード	09269116	担当教員	奥 聡一郎		
単位数	2	学 期	S1	時 限	火 3, 火 4
講義題目	英語科教育法(実践)A／Practical Studies on English Language A 英語科教育法(実践)A				

授業の目的・概要	授業の到達目標及びテーマ 1. 学校教育で外国語、英語を学ぶ意義を見直し、歴史的変遷と現状分析を通して、英語教師に必要な知識、指導技術を身につける。 2. 学習の対象となる英語そのものの理解を深め、授業における運用能力を高める。 3. 外国語教育の理論的知識と教授法に関する実践的知識について学ぶことにより、教育実習に対する準備を行う。 4. 指導法や教授法をマイクロティーチングの形式で実践したうえで、受講者各自が模擬授業を行い、講評や議論を通して、自らの授業改善につなげることができるようにする。
授業計画	”第1回:イントロダクション、評価方法の説明、英語の学び方を振り返り、学校教育と教員の役割について意見をまとめる。【キーワード 英語の学び方、学校教育】 第2回:英語学習について諸外国での授業と教授法、教材の比較・検討を発表する。【キーワード 言語政策、world Englishes 教授法】 第3回:学習指導要領の変遷日本の英語教育の特徴を学習指導要領の歴史的変遷から学び、コミュニケーション能力を身につけさせるための方法について理解を深める。【キーワード 学習指導要領 コミュニケーション能力】 第4回:英語教師の資質と能力。【キーワード 英語力、グループ・ワークによるマイクロティーチング】 第5回:4 技能の指導法「読む・書く」指導の実例を学ぶ。【キーワード 文法・語彙指導、辞書指導】 第6回:4 技能の指導法「聞く・話す」指導の実例を学ぶ。【キーワード 発音記号、フォニックス】 第7回:新しい学習方法【キーワード アクティブラーニング、反転授業、協働学習】 第8回:ICT 活用と教育工学【キーワード 板書、LL、CALL、フラッシュカード、電子黒板】 第9回:授業構成 導入、展開、評価などの技法を確認し、使えるようにする。【キーワード 学習指導案】 第10回:学習評価と言語活動のまとめ【キーワード 評価、キャンドゥーリスト】 第11回:録音と録画を使った授業分析と授業研究【キーワード 模擬授業、】 第12回:新しい教授法と模擬授業(1)【キーワード 授業評価、アクティブラーニング】 第13回:ICT 活用と模擬授業(2)【キーワード 4 技能、ICT 活用】 第14回:学習者要因に配慮した模擬授業(3)【キーワード 教室外学習、動機づけ】 第15回:授業のまとめ【キーワード 教員研修、授業研究】”
授業の方法	まず、教える対象となる英語についての基本的な理解を深め、運用能力の向上を図る。英語の特質を理論的に理解したうえで教材開発や言語活動の設定に応用できるようにする。学習指導要領の概要や言語政策、教授法の変遷など歴史的流れと教材論の展開を理解し、教育実習の準備をする。毎時の指導案及び年間授業計画の立て方、授業の構成、教科書の扱い方をアクティブラーニングの形式で学び、それぞれが学習指導案を作成し、模擬授業を行う。受講者による互いの講評や議論を通じて、教壇に立つ心構えを身につけることを目標とする。
成績評価方法	毎回の講義内容に関するリアクションペーパー(20%)、模擬授業の学習指導案(20%)、模擬授業への講評と議論(20%)、グループ・ワークによるマイクロティーチング(20%) 英語教育に関する最終レポート(20%)を総合的に評価する。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	原則として、教員免許取得予定者を対象とします。ITC-LMS を利用しますので、パソコンは必携となります。
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 英語科の指導法

時間割コード	09269117	担当教員	高橋 和子		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	金 3
講義題目	英語科教育法(実践)B／Practical Studies on English Language B 英語科教育法(実践)B				

授業の目的・概要	小学校・中学校・高等学校の英語教材に焦点を置いて、これらの構造と特色を踏まえた授業実践を目指します。 【目標】 1) コミュニケーション能力育成を目指す日本の英語教育のあり方を、英語教材の変遷を通して理解することができる 2) 英語教材(会話文、説明文、物語文等)の構造と特色を理解することができる 3) 小学校・中学校・高等学校における、英語教材のあり方を理解することができる 4) 英語で書かれたテキストをもとに、自ら英語教材を作成することができる 【概要】 ・コミュニケーション能力重視の英語教育と、英語教材の変遷について ・英語教材(会話文、説明文、物語文等)の構造と特色について ・各学校種における英語教材の特色について ・英語教材と問いの立て方について ・デジタル時代における英語教材のあり方について
授業計画	”第1回:イントロダクション 第2回:コミュニケーション能力重視の英語教育と英語教材:1980年代以降を中心に 第3回:英語教材の見かた:本文、質問／発問、学習活動／言語活動 第4回:小学校英語教材(1)会話文 第5回:小学校英語教材(2)絵本・物語文 第6回:中学校英語教材(1)会話文 第7回:中学校英語教材(2)説明文 第8回:中学校英語教材(3)物語文 第9回:高等学校英語教材(1)会話文 第10回:高等学校英語教材(2)説明文 第11回:高等学校英語教材(3)物語文 第12回:これからの英語教材 第13回:最終レポート ※注意:上記計画は、受講者の状況等に伴って、変更の可能性があります。変更等の連絡は、必要に応じてLMSで行います。”
授業の方法	・検定教科書等に掲載されている教材分析の他、これらと関連する資料を使用しながら授業を行います。 ・講義と演習を組み合わせた授業形態です。 ・受講者同士のグループワークを随時取り入れます。
成績評価方法	・課題(教材作成を含む)50%、最終レポート 50% ・上記にグループワークの成果等も踏まえて、総合的に評価します。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	その他。／Other
履修上の注意・備考	・原則として、教員免許取得予定者を対象とします。免許取得予定ではないが履修を希望する方は、以下のメールアドレスまでご相談ください。 【準備学習(講義を履修するために必要な予備知識)等】 本科目は、現在の外国語(英語)教育の概要を理解していることを前提に進めます。 これらを把握していない場合、各学校種の『学習指導要領』及び同解説(外国語・英語教育関係)をあらかじめご覧ください。『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編』の付録 8・9・10は学校種を横断して目標や言語材料が閲覧可能です。 ・配布教材に基づいて学習し、問題意識を持って授業に臨んでください。 ・授業に関する情報は、ITC-LMSのお知らせ欄で周知します。定期的にお知らせを見るようにして下さい。
授業実施形態	対面・オンライン併用型 A(総時間数の半数以上を対面で実施)／Hybrid Type A(Face-to-face/Online): Conduct classes in-person 50% or more of the total hours of the course
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 英語科の指導法

時間割コード	09269118	担当教員	戸上 和正		
単位数	2	学 期	S2	時 限	集中
講義題目	英語科教育法(実践)C／Practical Studies on English Language C 英語科教育法(実践)C				

授業の目的・概要	持続可能な学び及び学習指導を念頭においた、「安定した指導や学び」と「先進的戦略的な姿勢」の両面を持った英語授業のつくり方を考えます。そのために、以下の「2つのゴール」を設定して本講義を行います。 2つのゴール 本講座では、受講者の皆さんと授業者とで「英語科教育」の中でも学習者の動機づけについて深く考えていきたい。そのために、様々な命題(Task)を用意する。そのそれぞれでできあがる成果物を「活動のゴール」、その活動において気づいたこと身についたこと、考えたことなどを「思考のゴール」とする。 活動のゴール 一般的な学習指導を協働的な学びと個別(最適ではないやつ)の学びに分析して授業を作り、(予定として)附属学校の中高生に模擬授業をする。 思考のゴール 中高で英語の協働的な授業を行うために考慮すべきことがどのくらいあって、何を選ぶことでどんな結果を導く可能性があるのかを想定することができる。
授業計画	”大枠のトピックは以下の通りです。 1日目 午前 個の学びと集団の学びを考える、学びの保証とは何かを考える 午後 学習の動機について考える、題材について考える 2日目 午前 学ぶ題材について考える 2、授業をつくる 午後 授業の作りについて考える、授業をつくる 2 3日目 午前 模擬模擬授業とフィードバック、授業をつくる 3 午後 模擬授業をする、フィードバック 2 をする 4 日目 午前 模擬授業をする 2、フィードバック 3 をする 午後 まとめる ”
授業の方法	附属学校の教室で、話し合いをベースに展開します。
成績評価方法	講義中の課題とレポートによる評価です。参加日の活動のゴールと思考のゴールに対する、自己評価と相互評価を鑑みて、まとめのレポートを提出してもらいます。レポートの評価をペースとしますが、この評価規準は本講座に参加されている学生さんと相談して決めていく予定です。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	本講座は教育学部附属学校で行います。 【履修上の注意】 ※8-9 月集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと 教育学部在学生向け Web サイト>授業・履修・学生生活>時間割>学部(集中講義) https://www.p.u-tokyo.ac.jp/students/class/#timetable
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 英語科の指導法

時間割コード	09269119	担当教員	山名 淳		
単位数	2	学 期	S2	時 限	集中
講義題目	教育原理Ⅱ／Educational Principles II 教育原理Ⅱ				

授業の目的・概要	本授業は、教職課程の「教育の基礎的理解の関する科目」のうち、教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想に該当する科目である。教育とはどのような営みなのか、何をもって教育と定義するのか、そして教育とはどのような歴史的経緯を辿って今の在り方になったのか、といった原理的な問いに対峙しつつ、これから教職に就き未来の教育を創りあげる者としての自覚と課題意識を身につけるための、準備作業として位置づける。 この授業を通じて、受講生は(1)社会の変化と教育に関する出来事を結びつけ、社会・歴史的構成物として教育を捉える視点をもつことができる、(2)教育実践の背後の理念を捉え、理念から具体的な教育実践へとつなげる道筋を描くことができる、(3)現代の教育を巡る諸課題に対し、多様かつ幅広い視点からアプローチすることができる。
授業計画	”1. オリエンテーション：本授業の特徴、教育とは何か、教育学とは何か 2. 教育の目的①：人間形成の促しとしての教育 3. 教育の目的②：人間形成の三領域（家庭・地域・学校） 4. 学校教育の成立と構造 5. 子ども観・教育観の変遷 6. 教育の歴史 8. 教育の制度 9. 戦後教育改革と学習指導要領の変遷 10. 教育の思想① 11. 教育の思想② 12. カリキュラムと教育内容 13. 現代の教育課題 ”
授業の方法	講義形式を基本とするが、ディスカッションの時間を設けることがある。 受講生には、コメントペーパーで主体的な感想を述べていただく。
成績評価方法	期末レポート(40%)、平常点(60%)
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	この授業は教職に関する科目である。 予習として、日頃から教育関連のニュース等に関心を持ち、情報収集しておくこと。 【履修上の注意】 ※夏期集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと 教育学部在学生向け Web サイト＞授業・履修・学生生活＞時間割＞学部(集中講義) https://www.p.u-tokyo.ac.jp/students/class/#timetable
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※2 参照 ※A 参照

時間割コード	09269120	担当教員	児玉 佳一		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	金 2
講義題目	教育心理Ⅱ／Educational Psychology II 教育心理Ⅱ				

授業の目的・概要	【概要】 本授業では、幼児期から青年期にかけての学習と発達について、教育心理学や発達心理学をベースに学びます。発達分野では、身体・言語、認知、アイデンティティ、社会性の発達をトピックとして取り上げます。学習分野では、動機づけ、知識の獲得、学習の過程、学習指導の形態、教師の指導、学級集団づくり、学習の評価、特別支援教育をトピックとして取り上げます。 【目標】 1. 幼児期から青年期にかけての学習と発達に関する基礎的事項を理解する。 2. 発達段階を踏まえた学習支援についての在り方を理解し、構想できる。 【Overview】 This course explores learning and development from early childhood through adolescence&comma; grounded in educational psychology and developmental psychology. The developmental field covers topics including physical&comma; language&comma; cognitive&comma; identity&comma; and social development. The learning field covers topics including motivation&comma; knowledge acquisition and building&comma; the learning process&comma; forms of instruction&comma; teacher guidance&comma; classroom management&comma; learning assessment&comma; and special needs education. 【Objectives】 1. To understand fundamental concepts regarding development and learning from early childhood through adolescence. 2. To understand and design approaches to learning support that are grounded in developmental stages.
授業計画	”1. ガイダンス(なぜ発達や学習を学ぶ必要があるのか) 2. 身体・言語の発達 3. 認知の発達 4. アイデンティティの発達 5. 社会性の発達 6. 動機づけ 7. 知識の獲得・構成 8. 学習の過程 9. 学習指導の形態 10. 学習活動を支える指導 11. 学級集団づくり 12. 学習に対する評価 13. 子どものニーズに応じた教育”
授業の方法	授業前半は、パワーポイントスライドや映像資料を用いた解説を行います。授業後半は、前半の内容を踏まえたグループワークやディスカッションを行います。授業最後にはリアクションペーパーの記入により、本時の振り返りを行います(これは次の授業等でフィードバックします)。また、トピックに関連した実験や質問紙調査を体験する機会も設けます。 ※授業者の予定によって、一部オンラインとすることがあります。授業初回の連絡をご確認ください。
成績評価方法	最終課題(レポート)60% 授業内課題(授業内活動、リアクションペーパー)40% これらの合計で総合評価します。
教科書	その他。／Other
参考書	次の参考書を使用する。／Will use the following reference book
履修上の注意・備考	心理学系の科目を履修していると理解が深まりやすいと思いますが、必須ではありません。関連論文や実践も適宜紹介します。授業後に読むと理解が深まると思います。
授業実施形態	対面・オンライン併用型 A(総時間数の半数以上を対面で実施)／Hybrid Type A(Face-to-face/Online): Conduct classes in-person 50% or more of the total hours of the course
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※3 参照 ※D 参照

時間割コード	09269121	担当教員	堤 英俊		
単位数	1	学 期	S2	時 限	集中
講義題目	特別支援教育総論 I ／An Introduction to Special Needs Education I				
	特別支援教育総論 I				

授業の目的・概要	本授業では、特別な教育的ニーズを示す子どもを多角的・包括的に理解する力量を高めるとともに、日本におけるインクルーシブ教育の実現に向けた、通常の小・中学校や高等学校における具体的方策について検討する。到達目標は以下のとおりである。 1. 特別支援教育の制度と構造、およびインクルーシブ教育との関係性について説明できる。 2. 特別な教育的ニーズを示す子どもを理解するにあたっての基本的な知識・観点・態度を身につけるとともに、支援・配慮の原理と方法について理解する。 3. インクルーシブな学級・学校・地域づくりの具体的方策について考察し、言語化することができる。
授業計画	”次のようなテーマを検討する。 1. 特別支援教育の制度と構造、特別支援教育とインクルーシブ教育 2. 特別な教育的ニーズを示す子どもの理解と合理的配慮 3. 障害の個人モデルと社会モデル 4. 発達障害の理解(ASD・ADHD・LD)、神経回路の多様性 5. さまざまな障害の理解(知的障害・肢体不自由・病弱・視覚障害・聴覚障害等) 6. 人種・国籍・性・母国語、貧困等の理解 7. インクルーシブな学校づくり:オルタナティブな学校の取り組みに学ぶ 8. 通常学級におけるインクルーシブな学級づくり:学びとケアの共同体 9. 通常学級におけるインクルーシブな授業づくり①:授業のユニバーサルデザイン、ICT等の支援技術の活用 10. 通常学級におけるインクルーシブな授業づくり②:ペア学習・協同学習 11. 特別支援教育コーディネーター・特別支援教育支援員等の役割と連携 12. 個別の指導計画・個別的教育支援計画の作成と活用、通級による指導、自立活動 13. 交流及び共同学習、障害理解教育、多文化教育 14. インクルーシブな地域づくり:学校という制度的枠組みをこえて 15. これからの特別支援教育／インクルーシブ教育の課題 ”
授業の方法	講義を中心に、適宜、動画視聴やグループ・ディスカッションを行う。
成績評価方法	各回のリアクションペーパー(40%)、課題レポート(60%)にもとづき、総合的に評価する。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	授業中に指示をする。／Will specify at class time
履修上の注意・備考	事前にデータで配布する授業資料に事前に目を通す。 事後には配布資料をもとに授業の振り返りを行う。 授業では、主体的な参加を前提とする。 【履修上の注意】 ※集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと 教育学部在学生向け Web サイト>授業・履修・学生生活>時間割>学部(集中講義) https://www.p.u-tokyo.ac.jp/students/class/#timetable
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※E 参照

時間割コード	09269122	担当教員	富士原 紀絵		
単位数	2	学 期	S2	時 限	集中
講義題目	教育課程Ⅱ／Curriculum StudiesⅡ 教育課程Ⅱ				

授業の目的・概要	テーマ「教育課程の編成を理論的、実践的に学ぶ」日本教育課程の歴史的変遷を踏まえつつ、学校主体のカリキュラム編成法とマネジメントの意義とその方法について理解する。教育課程の全体構造との関係において各教科、領域の存在意義をとらえ、学校の全体教育課程を編成しマネジメントする能力を養う。
授業計画	第1回：教育課程・カリキュラム・学習指導要領の関係性 第2回：現代日本の子どもの諸問題(学習面、生活面)と教育課程 第3回：教育課程における教科の分化と総合、選択履修と共通履修の関係 第4回：学習指導要領の変遷にみる日本の教育課程の特徴(1)戦後初期 第5回：学習指導要領の変遷にみる日本の教育課程の特徴(2)1958 年～1977 年 第6回：学習指導要領の変遷にみる日本の教育課程の特徴(3)1989 年～1998 年 第7回：2017 年改訂学習指導要領の全体構造と特徴－2008 年学習指導要領との比較を通して 第8回：カリキュラム・マネジメントの意義 第9回：カリキュラム・マネジメントと授業評価と学校評価 第10回：カリキュラム・マネジメントの方法 第11回：教科横断的な教育課程編成の実践例から学ぶ－小学校 第12回：総合的な学習の時間を中心とした教育課程編成とマネジメントを実践例から学ぶ－中学校 第13回：教育課程の試作－学校教育目標を検討する 第14回：試作した教育目標と教科の関係を検討する 第15回：試作した教育目標と教科外領域の関係を検討する
授業の方法	全面対面授業 1)授業形式は講義。 2) 毎回、講義への感想の提出を求める(当日の授業時間内に提出)。 3) 感想ではなく、アンケートや特定のテーマについての意見を求めることもある。
成績評価方法	感想の提出(50%)、テスト(50%)の合算による。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	受講希望者はシラバスや ICT-LMS を意識的にチェックしておくこと。 1) 講義資料の事前配布、授業へのコメント、課題等は ICT-LMS システムを活用する。 2) 全学教職科目であるため、教員免許取得者の履修の観点では中等教育免許取得者を念頭に置くが、日本においてカリキュラム開発は初等教育を中心に行われてきた歴史的経緯があるため、初等教育の内容も押さえてゆくことになる。初等中等教育に関わる時事的な情報を、各自意識的に入手しておくこと。 【履修上の注意】※8-9 月集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと 教育学部在学生向け Web サイト＞授業・履修・学生生活＞時間割＞学部(集中講義) https://www.p.u-tokyo.ac.jp/students/class/#timetable
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※5 参照 ※F 参照

時間割コード	09269123	担当教員	藤井 佳世		
単位数	2	学 期	S2	時 限	集中
講義題目	道德教育法／Methods of Moral Education 道德教育法				

授業の目的・概要	本授業の目的は、教職を志す学生にとって必要な道德教育の基礎的知識・理解と道德の指導法を養うことにある。おもに、道德をめぐるさまざまな議論の考察を通して、道德教育の哲学的・倫理学的基盤、学校における道德教育の目標と内容について学び、学習指導過程の構想などのこれからの道德教育の可能性について考えることができるようになることを目的とする。
授業計画	“道德教育の課題や理論、授業の位置付けなどを学び、学習指導構想を作成する。”
授業の方法	講義、授業中の課題提出、グループワーク、ディスカッション、報告をおこなう。
成績評価方法	成績は、授業時間内に行うコメント、小レポート、課題提出で判断する。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	※集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと 教育学部在学生向け Web サイト＞授業・履修・学生生活＞時間割＞学部(集中講義) https://www.p.u-tokyo.ac.jp/students/class/#timetable
授業実施形態	対面・オンライン併用型 A(総時間数の半数以上を対面で実施)／Hybrid Type A(Face-to-face/Online): Conduct classes in-person 50% or more of the total hours of the course
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※6 参照 ※G 参照 教科又は教職に関する科目(旧) 大学が独自に設定する科目(新)

時間割コード	09269124	担当教員	浅川 俊彦		
単位数	1	学 期	S1	時 限	水 5
講義題目	総合的な学習の時間の指導法／Pedagogical Studies on the Period for Integrated Studies 総合的な学習の時間の指導法				

授業の目的・概要	中等教育段階における「総合的な学習の時間」「総合的な探究の時間」について実践的課題を学び、 実際の授業を構想する作業を通して、創造的な学習の場をつくる力量を形成する。 ―― 現在の学校教育では、教科学習においても「探究的な学び」が求められている。 かつては一定の知識や解法を身につけることが、諸課題にアプローチする際の基礎と考えられてきた。 しかしスマホひとつ取り出せば膨大なデータにいつでも容易くアクセスできるいま、 それを頭の中に詰め込む努力は虚しいものと言わざるを得ない。 中高の教室で行われる授業も、黒板を背にした教員が整理した知識をいかに合理的に生徒に受け渡し、ドリルや演習で歩留まりを上げていくか そんなスタイルが通用しないものとなりつつある。 では一体何が求められているのか。 そのヒントの一つが教科の枠を超えた「総合的(探究的)な学習」にある。 いま社会に満ちている諸課題の中から、何を自分ごととして選び取るのか。 その分野でこれまで何が明らかにされており、何がホットなトピックなのか。 自分の身の丈に合ったアプローチにはどんなものがあるのか。 あふれる情報の海から、信頼にたるものを手繰り寄せ 先人の到達に学びながらも自分の頭で思考・分析し 客観と主観を行き来させながらまとめ上げ それをわかりやすい形で、届けたい相手に向けて発信していく。 そうした一連の「探究的な学び」は、はたして 数十名の生徒が一斉に時間に縛られながら学習する 学校教育で本当に成り立つのだろうか? 履修学生自身の経験と先進的事例に学びながら、その問いに迫りたい。
授業計画	”第1回 総合的な学習とは何か(受講者の経験を対象化する) 第2回 「探究」にカリキュラムは成立するのか 第3回 総合的な学習の具体例(魅力的な事例にまなぶ) 第4回 総合的な学習をデザインする(グループワーク) 第5回 総合的な学習の指導案をつくる 第6回 授業案作成とその検討 第7回 授業案発表”
授業の方法	総合的な学習の時間について、先進的事例のいくつかと受講者自身の経験を踏まえ、 その特徴を吟味し、問題点および改善点を考える。 個人が一人ひとりで実際の授業を構想し、グループでの相互評価を元に さらに練り上げて学習指導案に結実させる。
成績評価方法	・毎回の振り返りフォーム(15点×7回) ・学習指導案(95点) の200点満点で評価。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	この授業自体を探究的・協働的な学びの場として構成していきたいので、 グループワークで積極的に発言し互いから学びあう姿勢が強く求められます そうした学びを成立させるために、履修者数の上限を 40 名程度とします 履修希望者が上限を超えた場合には、初回の授業で選考を行います その場合、初回欠席者は履修できません 40 名を超えた場合の履修者の選考は、卒業・修了予定者(D3・M2・B4)を最優先とし、 その次に上級学年から順次(D2→D1→M1→B3→B2)優先します なお例年、A1に希望者が集中しがちなので、可能なら S1・S2に履修すること ―― 授業終了後、その週の土曜日を締め切りに 400 字～600 字の振り返りフォームの提出があります (講義の最後になるべく 10 分程度の時間保障をおこないます) 学習指導案の提出(1次提出・2次提出・最終提出)がありますので、その分が準備学習となります 7 回しかない授業なので、5 回以上の出席と課題の提出を単位認定の要件とします 実習等と重ならない時期に履修してほしいです(やむを得ない事情には相談に応じます)
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※H 参照

時間割コード	09269125	担当教員	浅川 俊彦		
単位数	1	学 期	S2	時 限	水 5
講義題目	総合的な学習の時間の指導法／Pedagogical Studies on the Period for Integrated Studies 総合的な学習の時間の指導法				

授業の目的・概要	中等教育段階における「総合的な学習の時間」「総合的な探究の時間」について実践的課題を学び、 実際の授業を構想する作業を通して、創造的な学習の場をつくる力量を形成する。 ―― 現在の学校教育では、教科学習においても「探究的な学び」が求められている。 かつては一定の知識や解法を身につけることが、諸課題にアプローチする際の基礎と考えられてきた。 しかしスマホひとつ取り出せば膨大なデータにいつでも容易くアクセスできるいま、 それを頭の中に詰め込む努力は虚しいものと言わざるを得ない。 中高の教室で行われる授業も、黒板を背にした教員が整理した知識をいかに合理的に生徒に受け渡し、ドリルや演習で歩留まりを上げていくか そんなスタイルが通用しないものとなりつつある。 では一体何が求められているのか。 そのヒントの一つが教科の枠を超えた「総合的(探究的)な学習」にある。 いま社会に満ちている諸課題の中から、何を自分ごととして選び取るのか。 その分野でこれまで何が明らかにされており、何がホットなトピックなのか。 自分の身の丈に合ったアプローチにはどんなものがあるのか。 あふれる情報の海から、信頼にたるものを手繰り寄せ 先人の到達に学びながらも自分の頭で思考・分析し 客観と主観を行き来させながらまとめ上げ それをわかりやすい形で、届けたい相手に向けて発信していく。 そうした一連の「探究的な学び」は、はたして 数十名の生徒が一斉に時間に縛られながら学習する 学校教育で本当に成り立つのだろうか? 履修学生自身の経験と先進的事例に学びながら、その問いに迫りたい。
授業計画	”第1回 総合的な学習とは何か(受講者の経験を対象化する) 第2回 「探究」にカリキュラムは成立するのか 第3回 総合的な学習の具体例(魅力的な事例にまなぶ) 第4回 総合的な学習をデザインする(グループワーク) 第5回 総合的な学習の指導案をつくる 第6回 授業案作成とその検討 第7回 授業案発表”
授業の方法	総合的な学習の時間について、先進的事例のいくつかと受講者自身の経験を踏まえ、 その特徴を吟味し、問題点および改善点を考える。 個人が一人ひとりで実際の授業を構想し、グループでの相互評価を元に さらに練り上げて学習指導案に結実させる。
成績評価方法	・毎回の振り返りフォーム(15点×7回) ・学習指導案(95点) の200点満点で評価。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	この授業自体を探究的・協働的な学びの場として構成していきたいので、 グループワークで積極的に発言し互いから学びあう姿勢が強く求められます そうした学びを成立させるために、履修者数の上限を 40 名程度とします 履修希望者が上限を超えた場合には、初回の授業で選考を行います その場合、初回欠席者は履修できません 40 名を超えた場合の履修者の選考は、卒業・修了予定者(D3・M2・B4)を最優先とし、 その次に上級学年から順次(D2→D1→M1→B3→B2)優先します なお例年、A1に希望者が集中しがちなので、可能なら S1・S2に履修すること ―― 授業終了後、その週の土曜日を締め切りに 400 字～600 字の振り返りフォームの提出があります (講義の最後になるべく 10 分程度の時間保障をおこないます) 学習指導案の提出(1次提出・2次提出・最終提出)がありますので、その分が準備学習となります 7 回しかない授業なので、5 回以上の出席と課題の提出を単位認定の要件とします 実習等と重ならない時期に履修してほしいです(やむを得ない事情には相談に応じます)
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※H 参照

時間割コード	09269126	担当教員	浅川 俊彦		
単位数	1	学 期	A1	時 限	水 5
講義題目	総合的な学習の時間の指導法／Pedagogical Studies on the Period for Integrated Studies 総合的な学習の時間の指導法				

授業の目的・概要	中等教育段階における「総合的な学習の時間」「総合的な探究の時間」について実践的課題を学び、 実際の授業を構想する作業を通して、創造的な学習の場をつくる力量を形成する。 ―― 現在の学校教育では、教科学習においても「探究的な学び」が求められている。 かつては一定の知識や解法を身につけることが、諸課題にアプローチする際の基礎と考えられてきた。 しかしスマホひとつ取り出せば膨大なデータにいつでも容易くアクセスできるいま、 それを頭の中に詰め込む努力は虚しいものと言わざるを得ない。 中高の教室で行われる授業も、黒板を背にした教員が整理した知識をいかに合理的に生徒に受け渡し、ドリルや演習で歩留まりを上げていくか そんなスタイルが通用しないものとなりつつある。 では一体何が求められているのか。 そのヒントの一つが教科の枠を超えた「総合的(探究的)な学習」にある。 いま社会に満ちている諸課題の中から、何を自分ごととして選び取るのか。 その分野でこれまで何が明らかにされており、何がホットなトピックなのか。 自分の身の丈に合ったアプローチにはどんなものがあるのか。 あふれる情報の海から、信頼にたるものを手繰り寄せ 先人の到達に学びながらも自分の頭で思考・分析し 客観と主観を行き来させながらまとめ上げ それをわかりやすい形で、届けたい相手に向けて発信していく。 そうした一連の「探究的な学び」は、はたして 数十名の生徒が一斉に時間に縛られながら学習する 学校教育で本当に成り立つのだろうか？ 履修学生自身の経験と先進的事例に学びながら、その問いに迫りたい。
授業計画	“第1回 総合的な学習とは何か(受講者の経験を対象化する) 第2回「探究」にカリキュラムは成立するのか 第3回 総合的な学習の具体例(魅力的な事例にまなぶ) 第4回 総合的な学習をデザインする(グループワーク) 第5回 総合的な学習の指導案をつくる 第6回 授業案作成とその検討 第7回 授業案発表”
授業の方法	総合的な学習の時間について、先進的事例のいくつかと受講者自身の経験を踏まえ、 その特徴を吟味し、問題点および改善点を考える。 個人が一人ひとりで実際の授業を構想し、グループでの相互評価を元に さらに練り上げて学習指導案に結実させる。
成績評価方法	・毎回の振り返りフォーム(15点×7回) ・学習指導案(95点) の200点満点で評価。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	この授業自体を探究的・協働的な学びの場として構成していきたいので、 グループワークで積極的に発言し互いから学びあう姿勢が強く求められます そうした学びを成立させるために、履修者数の上限を 40 名程度とします 履修希望者が上限を超えた場合には、初回の授業で選考を行います その場合、初回欠席者は履修できません 40 名を超えた場合の履修者の選考は、卒業・修了予定者(D3・M2・B4)を最優先とし、 その次に上級学年から順次(D2→D1→M1→B3→B2)優先します なお例年、A1に希望者が集中しがちなので、可能なら S1・S2に履修すること ―― 授業終了後、その週の土曜日を締め切りに 400 字～600 字の振り返りフォームの提出があります (講義の最後になるべく 10 分程度の時間保障をおこないます) 学習指導案の提出(1次提出・2次提出・最終提出)がありますので、その分が準備学習となります 7 回しかない授業なので、5 回以上の出席と課題の提出を単位認定の要件とします 実習等と重ならない時期に履修してほしいです(やむを得ない事情は相談に応じます)
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※H 参照

時間割コード	09269128	担当教員	林 尚示		
単位数	2	学 期	S2	時 限	集中
講義題目	特別活動の指導法／A Way of Instruction of Extracurricular Activities 特別活動の指導法				

授業の目的・概要	特別活動は、各教科、特別の教科道徳および総合的な学習の時間以外の教育活動として、生徒の学校や学級の生活における具体的な展開に即した種々の価値の高い教育活動を統合したもので、教育課程の基準の中に位置付けられているものです。望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養うことを目標としています。この目標を達成できるように指導する方法を学びます。
授業計画	”1 オリエンテーション 授業内容・講義の進め方等 2 学級活動・ホームルーム活動の目標と内容 3 学級活動・ホームルーム活動の評価方法等 4 学級活動・ホームルーム活動の指導案作成 5 学級活動・ホームルーム活動の指導案の発表会 6 児童会活動・生徒会活動の目標と内容 7 児童会活動・生徒会活動の評価方法等 8 クラブ活動・部活動の目標と内容 9 クラブ活動・部活動の評価方法と指導計画 10 学校行事の目標と内容 11 学校行事の評価方法等 12 学校行事の指導計画作成 13 学校行事の指導計画発表会の発表会”
授業の方法	講義だけでなく討論・グループワークを行います。積極的に参加してください。
成績評価方法	各回の授業課題(60%)、授業参加態度等(40%)により、総合的に判断する。
教科書	次の教科書を使用する。／Will use the following textbook
参考書	次の参考書を使用する。／Will use the following reference book
履修上の注意・備考	教科書は授業に必須です。必ず各自で授業開始までに準備してください。 教科書・参考書の内容を進んで読んでください。 なお、本講義はグループ討論、全体討論を行う性格上、受講者数を最大で 50 名とします。それ以上の申し込みがあった場合は、上級学年から 50 名以下になるように制限しますので、あらかじめご了承ください。 ※集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと 教育学部在学生向け Web サイト＞授業・履修・学生生活＞時間割＞学部(集中講義) https://www.p.u-tokyo.ac.jp/students/class/#timetable
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※7 参照 ※I 参照

時間割コード	09269129	担当教員	林 尚示		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	火 4
講義題目	特別活動の指導法／A Way of Instruction of Extracurricular Activities 特別活動の指導法				

授業の目的・概要	特別活動は、各教科、特別の教科道徳および総合的な学習の時間以外の教育活動として、生徒の学校や学級の生活における具体的な展開に即した種々の価値の高い教育活動を統合したもので、教育課程の基準の中に位置付けられているものです。望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養うことを目標としています。この目標を達成できるように指導する方法を学びます。
授業計画	”1 オリエンテーション 授業内容・講義の進め方等 2 学級活動・ホームルーム活動の目標と内容 3 学級活動・ホームルーム活動の評価方法等 4 学級活動・ホームルーム活動の指導案作成 5 学級活動・ホームルーム活動の指導案の発表会 6 児童会活動・生徒会活動の目標と内容 7 児童会活動・生徒会活動の評価方法等 8 クラブ活動・部活動の目標と内容 9 クラブ活動・部活動の評価方法と指導計画 10 学校行事の目標と内容 11 学校行事の評価方法等 12 学校行事の指導計画作成 13 学校行事の指導計画発表会の発表会”
授業の方法	講義だけでなく討論・グループワークを行います。積極的に参加してください。
成績評価方法	各回の授業課題(60%)、授業参加態度等(40%)により、総合的に判断する。
教科書	次の教科書を使用する。／Will use the following textbook
参考書	次の参考書を使用する。／Will use the following reference book
履修上の注意・備考	教科書は授業に必須です。必ず各自で授業開始までに準備してください。 教科書・参考書の内容を進んで読んでください。
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※7 参照 ※1 参照

時間割コード	09269130	担当教員	黒田 友紀		
単位数	2	学 期	W	時 限	集中
講義題目	教育の方法Ⅱ／Teaching Methods II 教育の方法Ⅱ				

授業の目的・概要	【概要】本授業では、教育方法の理論や、学びや授業、教育評価に関する基本的な考え方について理解し、さまざまな学習形態や ICT・教材教具を活用した授業を具体的にデザインできることをねらいとする。また、実際の授業映像の分析から平等で質の高い学びについて検討し、「学びの専門家」としての教師の技(アート)についてともに考察を行いたい。 【目標】・教育方法の理論と歴史、子どもの学びや授業、教育評価などの基礎的事項について理解する。 ・授業の目的に応じ、学習形態・教材教具や ICT を活用して、具体的に授業をデザインすることができる ・教材研究の方法や授業の構成を考え、学習指導案の作成を含む基本的な指導技術を習得する。
授業計画	”1. 教育方法とは何か、授業について振り返る 2. 授業とは何か、教えると学ぶ、授業という場 3. 教育方法の理論と歴史(1)一斉授業の成立 4. 教育方法の理論と歴史(2)子ども中心主義・進歩主義の教育 5. 授業のデザイン(1)多様な空間・学習形態 6. 教育のデザイン(2)カリキュラムと授業デザイン 7. 教育のデザイン(3)課題の設定・教材・教具 8. 教育方法の実践例(1)協働的な学び、アクティブ・ラーニング 9. 教育方法の実践例(2)ICT の活用 10. 教育評価(1)教育業過とは何か、学習指導案の作成方法、教材研究 11. 授業評価(2)教育評価の理論と方法 12. 授業評価(3)授業デザインと評価:何を評価するか、どんな資質能力を測定するか 13. 授業の省察:子どもの学びの様子から考える 14. 授業の省察:授業研究と協議会での学び、教師の学びと成長 15. これまでのまとめ ※15 回分の内容を 13 回の授業で実施します。 ”
授業の方法	・主として、授業のテーマに沿って共有した資料に基づいて、講義＋小グループによるディスカッションと質疑＋補足説明によって授業をすすめる。 ・授業ビデオの視聴を行う場合、小グループおよび全体でのディスカッションを行い、その後リフレクションとして小レポートを作成してもらう。
成績評価方法	授業のリアクションペーパー・小レポート(50%)、授業・議論への参加(15%)、最終レポート(35%)で総合的に評価する。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	・この講義の履修にあたり必要となる予備知識や事前に履修しておくべき科目は特にないが、授業前後に資料等を読み、「自分はどのように考えるか」を明確にして授業に臨み、考察を深めてほしい。 ・また、シラバスは、受講生のニーズや状況等に応じて、授業途中にも変更することがある。 ※集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと 教育学部在学生向け Web サイト>授業・履修・学生生活>時間割>学部(集中講義) https://www.p.u-tokyo.ac.jp/students/class/#timetable
授業実施形態	対面・オンライン併用型 A(総時間数の半数以上を対面で実施)／Hybrid Type A(Face-to-face/Online): Conduct classes in-person 50% or more of the total hours of the course
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※8 参照 ※J 参照

時間割コード	09269131	担当教員	山本 宏樹		
単位数	2	学 期	A1	時 限	金 2, 金 3
講義題目	生徒指導・進路指導／Student Guidance and Career Guidance 生徒指導・進路指導				

授業の目的・概要	■授業の概要 もし授業中に生徒が寝ていたら、教師はどう振る舞えばよいのでしょうか。「高校に進学したくない」という中学生を前に、どのような言葉かけをすればよいでしょうか。「クラスで無視されている」という相談に対しては、具体的にどのように対応をすべきでしょう？ 教師の日常は、悩ましく切実な判断の連続です。生徒指導と進路指導は、子どもの人格・尊厳の奥深くに立ち至る困難な教育活動であり、子どもから「生涯の恩師」として慕われる可能性がある一方、子どもを深く傷つける可能性もはらみます。 受講生の皆さんも、これまでの学校生活において、多かれ少なかれ生徒の立場で生徒指導・進路指導を経験してきたはずです。この授業では、その時の記憶や想いを足がかりにしながら、今度は教師の立場になって理解を深めていきましょう。 ■授業の目標 本授業の目的は、生徒指導と進路指導・キャリア教育の理論と方法の理解です。生徒指導では「他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付けること」を、進路指導では「進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付けること」を全体の目標とします。 ■授業の到達目標 1) 生徒指導の意義や原理を理解し、それらを説明できること。 2) すべての児童及び生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解し、それらを説明できること。 3) 児童及び生徒の抱える主な生徒指導上の課題の様態と、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方を理解し、それらを説明できること。 4) 進路指導・キャリア教育の意義や原理を理解し、それらを説明できること。 5) 全ての児童及び生徒を対象とした進路指導・キャリア教育の考え方と指導の在り方を理解し、それらを説明できること。 6) 児童及び生徒が抱える個別の進路指導・キャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方と在り方を理解し、それらを説明できること。 ■Course overview If a student falls asleep in class&comma; how should the teacher respond? In the presence of a middle school student who expresses reluctance to attend high school&comma; what manner of discourse would be appropriate? In response to a consultation about being ignored by classmates&comma; what specific steps should be taken? A teacher's daily existence is a series of difficult decisions. Student guidance and career counseling are both arduous educational activities that reach into the deepest&comma; most profound depths of a child's personality and dignity&comma; and while it is possible for children to hold their teachers in awe as "lifelong mentors&comma;" there is also the potential for deep harm. All of you students have probably experienced student guidance and career counseling in your previous school lives. In this lecture&comma; using those memories as a foundation&comma; let us deepen our understanding while assuming the standpoint of a teacher.
授業計画	”第1回：生徒指導・進路指導の意義と目的 第2回：生徒指導の現状（1）学校の抱える問題（体罰） 第3回：生徒指導の現状（2）学校の抱える問題（行き過ぎた指導） 第4回：生徒指導の現状（3）学校の抱える問題（校則問題） 第5回：生徒指導の理論（1）生徒指導の原理と学校教育裁判 第6回：生徒指導の理論（2）教師の生徒指導上の諸問題の背景要因 第7回：生徒指導の方法（1）特別指導・懲戒処分・有形力の行使・機関連携 第8回：生徒指導の方法（2）対話的指導・修復的実践・子ども集団づくり・SST 第9回：生徒指導の方法（3）暴力行為・いじめ・不登校・非行逸脱・インターネット使用等の現状と対応 第 10 回：進路指導の理論と方法（1）進路指導・キャリア教育の原理 第 11 回：進路指導の理論と方法（2）進路指導の科学（職業選択編） 第 12 回：進路指導の理論と方法（3）進路指導の科学（進学指導編） 第 13 回：進路指導の理論と方法（4）進路指導のケーススタディ 第 14 回：総括”
授業の方法	・2 週目以降に班分けを行い、毎週グループディスカッションを実施します。 ・毎授業後にコメントペーパー等の提出を求め、内容を履修者に匿名で共有します。 ・配付資料はすべて UTOL で配付します。 ・授業は基本的にすべて録画し、復習や補講に供する予定です。 ・授業内で扱いきれない内容（分野別の職業指導等）について、オンデマンド動画

	を提供します(受講は任意です)。
成績評価方法	・対面授業への7割以上の出席を成績評価の前提条件として、授業内評価 60%(発言・グループワーク・コメントペーパー、ピアレビュー等)、期末レポート 40%で評価します。 ・対面授業について遅刻・欠席・早退をした場合は、次週授業までにビデオ補講を実施することを求めます。 ・期末レポートの評価方法には、履修者相互の匿名ピアレビューを含みます。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	・この講義を履修するために必要な予備知識(分野や科目、事前に履修しておくべき科目など)は特にありません。 ・教職を目指さない学生も履修可能です。履修者は学部 2,3 年生が多いですが、履修者のなかには学部 1 年生や博士後期課程の学生もいます。基本的に日本語での対応になりますが、それでよければ留学生も歓迎します(参加実績あり)。 ・主に復習、授業後課題、期末課題のために、所定の授業外学修を求めます。 ・初回到授業の進め方について資料配付のうえ説明を行います。授業の進め方についてご理解をいただいた上で受講いただきたいと思いますので、やむをえず初回到欠席をした場合は、2 週目の授業までにメールで申し出てください。 ・履修にあたって配慮してほしい点や、履修してよいかどうか等、気になることがあれば、お気軽にご連絡ください。 学生からの質問・相談には随時お答えしていますので、お気軽にご連絡ください。
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※9 参照 ※K 参照

時間割コード	09269132	担当教員	北原 祐理		
単位数	2	学 期	A1	時 限	木 4, 木 5
講義題目	教育相談Ⅱ／School Counseling II 教育相談Ⅱ				

授業の目的・概要	【目的】教育相談とは、児童・生徒一人ひとりの心理社会的発達や教育上の問題を理解し、人格的な成長を促進する活動です。その過程では、個人が各々の発達に即して自己理解を深め、集団の中で他者との関係性を育むことを援助することが求められます。学校現場における教育相談は、教員や心理職の個別の活動に限らず、両者の連携や組織風土を通して実践されます。本講義では、児童・生徒を理解するための心理学的知識や対応例を学び、受講者自身の専門性や立場を交えて教育相談の実践について考えることをめざします。 【到達目標】 ① 学校における教育相談の理念について説明することができる。 ② 児童・生徒の課題や不適応の意味を多角的な視点から説明することができる。 ③ カウンセリングの理論や技法に関する基礎知識を身につける。 ④ 教育相談における組織的な取り組み（支援計画の作成、学内外の連携など）の必要性を理解する。
授業計画	”第1回 オリエンテーション:なぜ教育相談を学ぶのか 第2回 子どもを理解するためのまなざし:児童期 第3回 子どもを理解するためのまなざし:思春期 第4回 教育相談におけるアセスメント 第5回 心理検査の実際と活用 第6回 子どもと関わる:カウンセリングの理論 第7回 子どもと関わる:カウンセリングの実践 第8回 子どもと関わる:メンタライジングの理論と実践 第9回 チームとしての学校:組織的な支援体制 第 10 回 生徒指導上の諸課題:不登校、いじめ 第 11 回 特性を踏まえた援助:発達障害 第 12 回 集団を育てる:心の健康教育 第 13 回 教師のメンタルヘルスと自己理解”
授業の方法	講義形式を基本として、適宜ペアワークやグループワークを取り入れる。受講者は毎授業後に自身の考えや気づきをまとめたリアクションペーパーを提出し、これが出席点および小課題点として換算される。必要に応じて、授業の冒頭でリアクションへのフィードバックを行う。
成績評価方法	・出席状況および小課題(グループ討議・リアクションペーパー):60% ・期末レポート:40% ※ 積極的な参加を求めるとともに、教職科目のために参加状況が芳しくない者は不可とすることがある。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	事前に履修しておくべき科目等はないが、児童期・思春期の心理的問題について扱うため、発達心理学・教育心理学・臨床心理学等への関心があると望ましい。 ※本科目は持ち出し科目に該当します。
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※10 参照 ※L 参照

時間割コード	09269133	担当教員	能智 正博、橋野 晶寛		
単位数	3	学 期	集中	時 限	集中
講義題目	教育実習 I / Student Teaching I 教育実習 I				

授業の目的・概要	1. 学校の組織及び教育活動の全般について、実地の観察と参加を通じて理解を深める。 2. 授業を実際に担当し、教科指導に関する指導力の基礎を養う。 3. 学級担任を実際に担当し、その職務内容を理解するとともに、学級経営に関する指導力の基礎を養う。 4. 個々の生徒及び生徒集団について理解を深め、生徒指導に関する指導力の基礎を養う。
授業計画	”事前指導は、2 月に 1 日、3 月に 1 日の計 2 日間、東京大学教育学部附属中等教育学校において実施する。カリキュラム、学級経営、生活指導上の諸問題についての講義、学習指導案作成演習を行う。事前指導における学修状況を総合的に判断し、合格者にのみ本実習を行うことを許可する。 本実習の指導計画は、実習校によって異なるため一概には記載できないが、概ね第 1 週は授業観察を中心に、生徒指導、学級経営、クラブ・部活動指導、学校行事、校務分掌などについて、指導教員の指導のもとで実際に体験し、指導力及び職務遂行能力の基礎を養う。第 2 週は、以上の観察と指導・職務への参加を継続するとともに、実際に授業を行う。また、可能な限り研究授業を実施して、授業実習のまとめを行う。 事後指導は、教育実習終了時期により、7 月または 11 月に東京大学教育学部附属中等教育学校において実施し、教育実習の振り返りを中心に行う。また、教育実習終了後 1 週間以内に「教育実習レポート」を提出しなければならない。 ”
授業の方法	事前指導では、講義を通して学校の組織及び教育活動の全般についての理解を深めるとともに、授業観察や学習指導案作成演習を行う。 本実習では、教育実習生が参加する学習指導、生徒指導、学級経営、クラブ・部活動指導、学校行事、校務分掌などのすべての側面について、教科及び学級担当の両指導教員を中心に実習校の教職員全体が指導を行う。 事後指導では、「教育実習レポート」の作成やグループ討議によって、教育実習の振り返りを行う。
成績評価方法	授業の到達目標が十分に達成できたかを基準として評価する。教育実習担当教員 2 名が、教育実習生の作成した「教育実習記録簿」及び「教育実習レポート」を精査し、教育実習校からの評価を勘案して、総合的に評価する。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	履修に際しては個人による UTAS からの履修登録ではなく、各自が所属する学部又は研究科(教育部)の担当係へ申し込み書類を提出すること。
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 教育実習 (2 週間)

時間割コード	09269134	担当教員	能智 正博、橋野 晶寛		
単位数	5	学 期	集中	時 限	集中
講義題目	教育実習Ⅱ／Student Teaching II 教育実習Ⅱ				

授業の目的・概要	1. 学校の組織及び教育活動の全般について、実地の観察と参加を通じて理解を深める。 2. 授業を実際に担当し、教科指導に関する指導力の基礎を養う。 3. 学級担任を実際に担当し、その職務内容を理解するとともに、学級経営に関する指導力の基礎を養う。 4. 個々の生徒及び生徒集団について理解を深め、生徒指導に関する指導力の基礎を養う。
授業計画	”事前指導は、2月に1日、3月に1日の計2日間、東京大学教育学部附属中等教育学校において実施する。カリキュラム、学級経営、生活指導上の諸問題についての講義、学習指導案作成演習を行う。事前指導における学修状況を総合的に判断し、合格者にのみ本実習を行うことを許可する。 本実習の指導計画は、実習校によって異なるため一概には記載できないが、概ね第 1 週は授業観察を中心に、生徒指導、学級経営、クラブ・部活動指導、学校行事、校務分掌などについて、指導教員の指導のもとで実際に体験し、指導力及び職務遂行能力の基礎を養う。第 2 週は、以上の観察と指導・職務への参加を継続するとともに、実際に授業を行う。また、可能な限り研究授業を実施して、授業実習のまとめを行う。 事後指導は、教育実習終了時期により、7月または11月に東京大学教育学部附属中等教育学校において実施し、教育実習の振り返りを中心に行う。また、教育実習終了後 1 週間以内に「教育実習レポート」を提出しなければならない。 ”
授業の方法	事前指導では、講義を通して学校の組織及び教育活動の全般についての理解を深めるとともに、授業観察や学習指導案作成演習を行う。 本実習では、教育実習生が参加する学習指導、生徒指導、学級経営、クラブ・部活動指導、学校行事、校務分掌などのすべての側面について、教科及び学級担当の両指導教員を中心に実習校の教職員全体が指導を行う。 事後指導では、「教育実習レポート」の作成やグループ討議によって、教育実習の振り返りを行う。
成績評価方法	授業の到達目標が十分に達成できたかを基準として評価する。教育実習担当教員2名が、教育実習生の作成した「教育実習記録簿」及び「教育実習レポート」を精査し、教育実習校からの評価を勘案して、総合的に評価する。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	履修に際しては個人による UTAS からの履修登録ではなく、各自が所属する学部又は研究科(教育部)の担当係へ申し込み書類を提出すること。
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 教育実習 (3 週間以上)

時間割コード	09269135	担当教員	橋野 晶寛、浅川 俊彦		
単位数	1	学 期	集中	時 限	集中
講義題目	学校体験活動Ⅰ／Experience in School ActivitiesⅠ 学校体験活動Ⅰ				

授業の目的・概要	1. 学校の組織及び教育活動について、観察と参加を通じて理解を深める。 2. 児童及び生徒との関わりを通して、その実態や課題を把握する。 3. 教師の活動の観察を通して、教師の役割や校務分掌のありかたについて理解する。 4. 授業の観察とその記録を通して、児童及び生徒の学習過程、教師による学習環境デザインのありかたを事例的に理解する。 5. 上記1～4についての省察を通して、教育実習における自己の目標を設定し、教職への関心や意欲を高める。
授業計画	”事前指導において、本学担当教員による事前講義及び本学教育学部の事務担当から事務上の諸注意についての説明を行う。また、受入校において、学校管理職や担当教諭による講義・指導(学校体験活動の概要説明)、担当教員による実習内容の詳細な説明及び実習の進め方について打合せと指導を行う。 本活動の指導計画は、受入校によって異なるため一概には記載できないが、受入校における教育活動をはじめとする活動全般について、支援や補助業務を行う。大学における科目担当教員が受入校の受入担当教諭と密に連携をとり、指導を進める。その際に、履修者は毎回の活動の自己評価シートを提出し、その内容の確認を受入校の担当教諭と本学担当教員が行い、フィードバックを行う。 事後指導は、活動期間終了時に随時実施され、本学担当教員、受入校の担当教諭、履修者により、活動内容に関する報告や振り返り等を行う。また、今後の教職課程の履修計画と教育実習への参加見通しを確認し目標設定を行う。”
授業の方法	事前指導では、講義を通して学校の組織及び教育活動の全般についての理解を深める。 本活動では、履修生が参加する活動に関連する学習指導、生徒指導、学級経営、クラブ・部活動指導、学校行事、校務分掌などについて、担当教員を中心に実習校の教職員全体が指導を行う。 事後指導では、「活動レポート」の作成や本学担当教員、受入校の担当教諭、履修者によるグループ討議によって、活動の振り返りを行う。
成績評価方法	授業の到達目標が十分に達成できたかを基準として評価する。本学担当教員が、履修者の作成した自己評価シートを精査し、受入校から提出される報告書の内容を勘案したうえで総合的に評価する。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	参加資格等については、各学部・研究科等の便覧の「◆教育職員免許状の取得について」の「4. 教育実習・介護等体験・教職実践演習・学校体験活動について」の該当項目を参照すること。また、2026 年度の募集プログラムについては、決定次第、下記の「関連ホームページ」に掲載予定。 申込期間:S セメスター 2026 年 4 月 2 日(木)～4 月 10 日(金)17 時 A セメスター(※)2026 年 7 月下旬～8 月中旬頃 ※A セメスターの申込の受付は行わない場合がある。 申込方法:教育学部学生支援チーム Web サイト内の「申込フォーム」より必要事項を登録すること。(学生個人による UTAS からの履修登録は不要。) 事前指導及び報告会の実施日時は下記のとおり【参加必須】 事前指導:2026 年 5 月上旬～中旬(予定) 報告会:2027 年 2 月上旬～中旬(予定) 予習:受入校の状況(学校規模、特色ある教育活動、地域や児童生徒の特性など)について理解しておく。また、これまで教職課程において学んだことをふりかえり、学校教育、教師の仕事などについての理解を確認する。 復習:活動のあった日は、その日の活動をふりかえり、活動日誌を執筆する。
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09269136	担当教員	橋野 晶寛、浅川 俊彦		
単位数	1	学 期	集中	時 限	集中
講義題目	学校体験活動Ⅱ／Experience in School Activities Ⅱ 学校体験活動Ⅱ				

授業の目的・概要	1. 学校の組織及び教育活動について、観察と参加を通じて理解を深める。 2. 児童及び生徒との関わりを通して、その実態や課題を把握する。 3. 教師の活動の観察を通して、教師の役割や校務分掌のありかたについて理解する。 4. 授業の観察とその記録を通して、児童及び生徒の学習過程、教師による学習環境デザインのありかたを事例的に理解する。 5. 上記1～4についての省察を通して、教育実習における自己の目標を設定し、教職への関心や意欲を高める。
授業計画	“事前指導において、本学担当教員による事前講義及び本学教育学部の事務担当から事務上の諸注意についての説明を行う。また、受入校において、学校管理職や担当教諭による講義・指導(学校体験活動の概要説明)、担当教員による実習内容の詳細な説明及び実習の進め方について打合せと指導を行う。 本活動の指導計画は、受入校によって異なるため一概には記載できないが、受入校における教育活動をはじめとする活動全般について、支援や補助業務を行う。大学における科目担当教員が受入校の受入担当教諭と密に連携をとり、指導を進める。その際に、履修者は毎回の活動の自己評価シートを提出し、その内容の確認を受入校の担当教諭と本学担当教員が行い、フィードバックを行う。 事後指導は、活動期間終了時に随時実施され、本学担当教員、受入校の担当教諭、履修者により、活動内容に関する報告や振り返り等を行う。また、今後の教職課程の履修計画と教育実習への参加見通しを確認し目標設定を行う。”
授業の方法	事前指導では、講義を通して学校の組織及び教育活動の全般についての理解を深める。 本活動では、履修生が参加する活動に関連する学習指導、生徒指導、学級経営、クラブ・部活動指導、学校行事、校務分掌などについて、担当教員を中心に実習校の教職員全体が指導を行う。 事後指導では、「活動レポート」の作成や本学担当教員、受入校の担当教諭、履修者によるグループ討議によって、活動の振り返りを行う。
成績評価方法	授業の到達目標が十分に達成できたかを基準として評価する。本学担当教員が、履修者の作成した自己評価シートを精査し、受入校から提出される報告書の内容を勘案したうえで総合的に評価する。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	参加資格等については、各学部・研究科等の便覧の「◆教育職員免許状の取得について」の「4. 教育実習・介護等体験・教職実践演習・学校体験活動について」の該当項目を参照すること。また、2026 年度の募集プログラムについては、決定次第、下記の「関連ホームページ」に掲載予定。 申込期間:S セメスター 2026 年 4 月 2 日(木)～4 月 10 日(金)17 時 A セメスター(※)2026 年 7 月下旬～8 月中旬頃 ※A セメスターの申込の受付は行わない場合がある。 申込方法:教育学部学生支援チーム Web サイト内の「申込フォーム」より必要事項を登録すること。(学生個人による UTAS からの履修登録は不要。) 事前指導及び報告会の実施日時は下記のとおり【参加必須】 事前指導:2026 年 5 月上旬～中旬(予定) 報告会:2027 年 2 月上旬～中旬(予定) 予習:受入校の状況(学校規模、特色ある教育活動、地域や児童生徒の特性など)について理解しておく。また、これまで教職課程において学んだことをふりかえり、学校教育、教師の仕事などについての理解を確認する。 復習:活動のあった日は、その日の活動をふりかえり、活動日誌を執筆する。
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09269137	担当教員	能智 正博、橋野 晶寛、日下田 岳史、大瀧 玲子、高橋 和子、今野 雅典、仁平 典宏、田邊 康夫		
単位数	2	学 期	A2	時 限	金 5, 金 6
講義題目	教職実践演習(中・高)／Seminar on Professional Practice in Teaching 教職実践演習(中・高)				

授業の目的・概要	教職課程における「集大成」として位置づけられる演習であり、各履修者の「教科に関する科目」及び「教職に関する科目」の履修状況を踏まえ、教員として必要な知識技能を修得したことを確認するために実施する。学校教育、特に中等教育のリーダーとなる教員の育成を目指し、文部科学省が含むべき事項と定める4事項(①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③幼児児童生徒理解に関する事項、④教科等の指導力に関する事項)の育成を図り、複雑な問題解決に対応できる判断力を培うための演習とする。 内容は、以下の 2 つに大別される。 ① 討論をベースにした教職に関する現代的課題の理解:現代的課題やその具体的事例についての講義を受講、あるいはビデオ(DVD)を視聴し、担任のコーディネートによりグループ討論及び全体討論を行う。 ② 授業の計画・実施・研究協議:グループ毎に授業を計画・実施し、クラス全体で研究協議を行う。
授業計画	”_”
授業の方法	教育学研究科教員と東大附属中等教育学校教員の連携協力のもとで実施される。4クラスに分けて行う。教職に関する現代的課題の理解については、担任がグループ、クラスでの討論をコーディネートして行う。授業の計画・実施・研究協議では、担任の指導のもと、グループ毎に授業を計画・実施し、クラス全体で研究協議を行う。受講者には主体的・積極的な参加が求められる。
成績評価方法	演習に参加しての平常点(振り返りレポートの提出を含む)による。出席が重視される。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	教職実践演習を履修する年度末に、教育職員免許状を取得する見込みの者又は教育職員免許状の取得に必要な単位の修得をすべて終える見込みの者が対象となる。履修登録は UTAS によらず特別な方法で行うので、下記「関連ホームページ」にて各自確認のうえ遺漏のないよう注意すること。
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09269201	担当教員	関根 宏朗		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	水 5
講義題目	教育原理Ⅰ／Educational PrinciplesⅠ 教育原理Ⅰ				

授業の目的・概要	本講義は、教育の理念ならびに教育に関する歴史および思想をその主たる対象とするものである。具体的には教育学を学ぶうえで重要と思われる上記に係るいくつかの基礎的な事項を取り上げ、個別のテーマごとに解説・講義を行っていく。映像教材や各種データ等を通して身近な事例についても多く話題にのせながら、従来の「教育」観ないし人間形成観にたいして反省的に再考を加える。 「教育」というこのあまりにも複雑な営為について、簡単になにか「答え」を出そうとするのではなく、むしろそこに「問い」を見いだしそれを大切にする姿勢を共有する時間としたい。 The primary objective of this lecture is to explore the conceptual foundations of education&comma; alongside its historical development and philosophical underpinnings. Specifically&comma; we will examine fundamental issues essential to the study of pedagogy&comma; with each session dedicated to a systematic analysis of individual themes. By integrating visual materials and diverse empirical data&comma; the course encourages a critical reappraisal of conventional perspectives on education and human cultivation. Ultimately&comma; this lecture seeks to move beyond the mere pursuit of definitive answers; instead&comma; it invites students to cultivate a scholarly disposition focused on identifying and valuing the profound 'questions' inherent in the multifaceted nature of education.
授業計画	”第1回:オリエンテーション 第2回:「教育」の理念にたいする哲学的考察(1):「野生児」の事例から見えてくること 第3回:「教育」の理念にたいする哲学的考察(2):人間であることと人間になること 第4回:教師の責任と権威のかたち(1):〈自由〉と〈管理〉のあいだにあるもの 第5回:教師の責任と権威のかたち(2):教育における〈贈与〉の思想と哲学 第6回:「発達」と「生成」のメディアとしての学校空間:人間形成の可能性をめぐって 第7回:教育における環境設計という視点(1):自律・甘え・アーキテクチャの教育思想 第8回:教育における環境設計という視点(2):家庭と地域に支えられた教育づくりの思想 第9回:顕在的・潜在的なカリキュラムの位相:言語コード理論と再生産論 第10回:「子ども」概念の成立と家族構造の変容:旧教育と新教育, アリエス・テーゼ 第11回:近代公教育の誕生・変遷と教師イメージの変化(1):明治維新から大正デモクラシー,そして戦時下教育へ 第12回:近代公教育の誕生・変遷と教師イメージの変化(2):戦後教育改革とくりかえされる学習指導要領の改訂 第13回:学校改革と従来の「学力」観の組み換え:知的探究としての学びのために 第14回:まとめ:learnとunlearn Session 1: Orientation and Conceptual Framework Session 2: Philosophical Inquiries into Education (I): Philosophical Implications of the &quot;Wild Child&quot; Session 3: Philosophical Inquiries into Education (II): The Dialectics of &quot;Being Human&quot; and &quot;Becoming Human&quot; Session 4: Responsibility and Authority in Pedagogy (I): The Tension between Freedom and Control Session 5: Responsibility and Authority in Pedagogy (II): The Philosophy and Ethics of &quot;Giving&quot; within the Educational Act Session 6: Schools as Media for Development and Metamorphosis: Exploring the Possibilities of Human Formation Session 7: Perspectives on Environmental Design in Education (I): Autonomy&comma; Amae&comma; and Architecture Session 8: Perspectives on Environmental Design in Education (II): Synergies between Familial and Communal Educational Support Session 9: Manifest and Latent Dimensions of the Curriculum: Linguistic Code Theory and Social Reproduction Session 10: The Social Construction of &quot;Childhood&quot; and Structural Transformations of the Family: Aries' Thesis and the Shift from Old to New Education Session 11: The Genesis and Evolution of Modern Education (I): From the Meiji Restoration to Taisho Democracy and Wartime Mobilization Session 12: The Genesis and Evolution of Modern Education (II): Post-war Reforms and the Iterative Revisions of the National Curriculum Session 13: School Reform and the Reconstruction of &quot;Academic Achievement&quot;: Toward Learning as Intellectual Inquiry Session 14: Synthesis and Concluding Reflections”
授業の方法	講義 Lecture in Japanese

成績評価方法	講義時間内のミニ・レポート5回(10 点 × 5)と学期末課題(50 点)の得点を合計し, 評価を行う。 Final grades will be determined based on the cumulative score of five in-class mini-reports (10 points each) and a final term assignment (50 points).
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	授業中に指示をする。／Will specify at class time
履修上の注意・備考	積極的な受講を期待する。 Students are expected to approach the course with enthusiasm and a proactive mindset.
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※2 参照 ※A 参照

時間割コード	09269202	担当教員	鈴木 悠太		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	月 4
講義題目	教師論 I / Teaching and Teacher Education I 教師論 I				

授業の目的・概要	本授業の主題は、授業改革・学校改革と教師をめぐる理論と実践である。すなわち、受講者のこれまでの学校教育における体験(被教育体験)を基盤とし、学びとは何か、授業とは何か、教職とは何か、学校とは何かについての原理的な検討を経て、より良い学校とより良い授業を構想するための理論的な基礎を独自に形成することである。 これらを通して、より良い教育の担い手(生涯において学び続ける教師)となるための基盤を確立する。 本授業の到達目標は、①学校改革・授業改革の基本となる概念や理論を活用し、②受講者自身のこれまでの教育体験(被教育体験)を深く省察し自己に相応しい教育観を形成し、③より良い学校とより良い授業を構想するための理論的な基盤について独自の見解を客観的・具体的に説明できること、である。
授業計画	”1. 「学校改革の現場の声を聴き、現場から学ぶ」とは何か。 2. 授業研究を中心とする学校改革 3. 学校改革の理論 4. 授業改革の理論 5. 学校改革の事例: 日本国内の展開 6. 学校改革の事例: 国際的な展開 7. 授業改革の事例: 日本国内の展開 8. 授業改革の事例: 国際的な展開 9. 教師の専門家共同体 10. 教師の専門家としての学び 11. 教職の専門性 12. 協同的な学び 13. 教育政策実施研究の視点 14. 授業改革・学校改革研究の方法論 15. 授業改革・学校改革のアクション・リサーチ”
授業の方法	本授業の方法は、教科書や配布資料に基づき、学校改革・授業改革の概念や理論についての講義を行い、適宜グループ・ワーク(協同学習)を取り入れる。受講者には、それぞれの被教育体験を基盤としながら、自己に相応しい教育観の形成やより良い学校とより良い授業の構想に関する自己の見解を説明できるようになることが期待される。
成績評価方法	最終レポート: 50%(授業改革・学校改革と教師をめぐる理論と実践の理解、教育観の省察と形成)、平常点評価: 50%(授業の到達目標の達成のための授業への参加度と授業内の小レポートの作成)。
教科書	教科書は使用しない。/ Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。/ Will not use reference book
履修上の注意・備考	講読する論文や実践記録について丁寧に読み込み授業内の学びを深める。授業後には授業内の学びをさらに深めるために発展的に論文や実践記録について引き続き丁寧に読み込む。
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)/ Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※1 参照 ※B 参照

時間割コード	09269203	担当教員	高井良 健一		
単位数	2	学 期	S2	時 限	集中
講義題目	教師論Ⅱ／Teaching and Teacher Education Ⅱ 教師論Ⅱ				

授業の目的・概要	教師という職業は、生徒にとって身近な職業であるが、その仕事の奥行き―難しさと複雑さ―を正確に理解することはたやすいことではない。逆に、この職業は、身近であるがゆえにはじめからわかったつもりになる危険をはらんでいる。そして、現在、教師の仕事はますます重要になるとともに、困難さを増している。こうした状況の中で、教師を志す人たちが確かなヴィジョンをもち、学びの世界に踏み出せるように、この教職論の授業では、教師の世界を内側―教師による語り・教師のライフヒストリー―と外側―教職の社会的位置づけ・社会的使命―から理解することをめざしている。また、授業のなかでは、受講生が主体となり、参加するセッションも取り入れる。公教育における教師の使命は、民主主義社会を担う他者への配慮に満ちた市民を育成することにある。自らもアクティブな市民であるとともに、他者への配慮に満ちた市民を育てるという使命をもった教師たちが、東京大学から巣立っていくことを期待している。 なお、具体的な授業の到達目標及びテーマは次の通りである。 1.教職の意義、教員の役割並びに職務内容に関する理解を深める。 2.教職を将来の進路として真剣に検討している学生に進路選択のための材料を提供する。 3.教職に関する情熱・使命感や子どもに対する責任感、興味・関心という資質能力を育む。
授業計画	”第1講 イントロダクション 第2講 教師になるということ(1)「教育実習」という関門 第3講 教師になるということ(2)「新任教師」の格闘 第4講 教師になるということ(3)「新任教師」の挑戦 第5講 教師の生活世界(1)「教師の一日と一週間」 第6講 教師の生活世界(2)「教師の一年と一生」 第7講 教師の学びと法規 第8講 教師としての危機とレジリエンス 第9講 時代と教師 / 多文化共生と教師のしごと 第 10 講 世界の教師たち「イギリスの教育改革」 第 11 講 世界の教育改革「フィンランドの教育改革」 第 12 講 日本の授業改革「輝け 28 の瞳」 第 13 講 これからの学校教育と教師 /最終レポート作成 ”
授業の方法	講義、ビデオ視聴、グループ・ディスカッション、ライティングのほか、個人発表、ワークショップなど、協働的な学び、アクティブ・ラーニングを取り入れる。
成績評価方法	授業への参加(個人発表・グループワーク・コメント・ミニレポート) 70 点と最終レポート 30 点で総合的に評価する。 なお、集中講義なので全日程参加が原則となる。ただし、正課の授業、試験などの「やむを得ない理由」による部分欠席(最大3コマまで)の場合のみ、追加レポートによる代替措置を認める。追加レポートの内容、形式、分量等については、第1講のイントロダクションで伝えるので、該当者は、第1講終了後に、申し出ること。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	履修上の注意 この授業では、受講生が教室の前に出て、話をする機会や、ワークショップ形式の授業を行うこともある。教師を志す者として当然のことであるが、たとえ自分とは意見が異なっている、他の受講生や講師といった他者を尊重し、コミュニケーションに向けてひらかれることが求められる。これができない時は、受講を見直していただく場合があるので注意されたい。他の受講生や講師と異なる見解をもつことは、認められるべきことであるが、これは決して他者に対して誹謗中傷をしても良いということではない。誹謗中傷と見なされる言動に対しては、厳しく対処する。 * 授業中の授業内容と関連のない私語や授業目的外のスマートフォン・PC の使用など、ほかの受講生の学びを妨げる言動は慎まれない。こうしたことが発覚した場合、一回目は警告、二回目は単位取得不可となる。 * * また、授業中に他の科目のテキストの読書をしたり、課題を行うなどの、いわゆる内職についても慎まれない。以前より授業時数も増え、他の科目の課題もおそらく多く、忙しいという気持ちはよくわかる。しかしながら、21 世紀の知識基盤社会を担う教師を目指す以上、「勉強文化」から「学びの文化」、そして「学び合いの文化」に、自分自身を編み直していく必要がある。 かつて内職をしていた学生のレポートは薄く内容を伴わないものであった。これを踏まえて、授業中の内職が発覚した場合は、学籍番号と氏名をチェックし、部分欠席と同じ扱いとし、参考文献★を読んだでの追加レポートの提出

を課することとする。二回目は単位取得不可となる。なお、これ以降、授業冒頭にこの話をする事としたところ、追加レポートの該当者は一人も出ていない。受講生の皆さんの学習能力の高さと誇りに対して深い敬意を表したい。本年度も同じであることを願っている。| * * * ワークショップでは、ペアワークがしばしば行われる。原則として一日の講義で同じペアでのペアワークは一回までとしたい(連続する《ミニペアワーク》は一回と数える)。集中講義は、長丁場でもあり、教室内の移動は歓迎するので、できるだけ多くの受講生と出会い、学び合ってほしい。|| 準備学習等(予習・復習)||これまで出会ってきた教師たちについて振り返り、印象に残っている教師について考えておく。|・授業で学んだことを振り返り、教師の仕事について自分が考えたことをノートにまとめておく。|・参考文献のなかから興味のあるものを読み、授業での学びにつなげて発展的な学習を行う。

【履修上の注意】|※8-9 月集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと|教育学部在学生向け Web サイト>授業・履修・学生生活>時間割>学部(集中講義)|<https://www.p.u-tokyo.ac.jp/students/class/#timetable>

授業実施形態 対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus

教育職員免許法上の認定科目 教育職員免許法上の認定科目 ※1 参照|※B 参照

時間割コード	09269204	担当教員	中村 知世		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	水 4
講義題目	教育と社会／Education and Society 教育と社会				

授業の目的・概要	本講義では教育を社会現象として俯瞰的に捉える視野を養うことを目的とする。 学校教育はあまりにも身近である。高等教育に至るまで、幼児教育段階も含めれば多くの人が 15 年以上も学校教育の中で過ごしてきた。それゆえにあなたにとっての学校教育の風景はあなたそのものを形作ってきたものでもある。学校教育の「当たり前」を問い直すことは、あなた自身の当たり前を問い直すことに等しく、こうした俯瞰的な視点を持つのは意外に難しい。一方ですでに問い直す視点を持ち得ている人もいだろう。学校教育が制度的あるいは規範的持っている「標準」とする価値に、疑問を持ったり、排除されてしまったりした経験がある場合である。経験に依存しがちな教育を眺める俯瞰的な視点を、この講義では、体系的、理論的、実践的に整理することで、多くの人が身につけられることを目指す。 近代学校教育は、国民国家の発展や労働者の育成など、「社会」の求めで生まれ、その形も時代とともに変化してきた。そして現代は、機会均等や平等を達成できるとの期待とは異なり、様々な「格差」が現れ、同時に「格差」を生み出す装置になってしまっているのが学校教育である。他方で多様な人々を包摂できるのもまた学校であり、教育と福祉の連携も求められている。学校の制度的な枠組みや教育内容、方法、機能は社会変動に影響を受けてきた。学校教育と社会の連動の大局をつかむことで、あなたが抱く学校教育の「当たり前」を問い直していただきたい。
授業計画	”第 1 回 イントロダクション(OD)4/8 第 2 回 教育社会学について 4/15 第 3 回 近代社会と教育 4/22 第 4 回 教育内容と方法・教育と選抜 5/13 第 5 回 教育政策 5/20 第 6 回 中間まとめ(OD)5/27 第 7 回 教育問題と逸脱 6/3 第 8 回 教育機会の不平等 6/10 第 9 回 家族と子育て 6/17 第 10 回 ジェンダー・セクシュアリティと教育(OD)6/24 第 11 回 仕事と教育 7/1 第 12 回 グローバル化の中の教育(OD) 7/8 第 13 回 社会保障と教育 7/15 ”
授業の方法	各回の授業のテーマに基づき、教科書の指定部分をあらかじめ読んでくることを前提として授業を進める。授業では初めに、前回授業に対するコメントへのフィードバックを行っていく。その後、各回の授業の主テーマに関して、教科書の補助的な解説や追加的な資料を提示し、より詳しい理解を促す。また、授業中には積極的に履修者同士にディスカッションや意見共有を求める。ただし、センシティブな内容を含む体験の共有などが行われる可能性がある場合には、ディスカッションへ参加しない自由も確保する。
成績評価方法	・各回のコメントペーパー:20% ・期末レポート:80%
教科書	次の教科書を使用する。／Will use the following textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	本科目の履修にあたって事前履修を必須とするものはない。教職科目であり入門的内容としている。各授業は、教科書の指定箇所を事前に読み込んでおくことを予習とし、復習としては教育に関する時事問題に注目し、授業で得た視点を踏まえて考察をすることを求めたい。
授業実施形態	対面・オンライン併用型 A(総時間数の半数以上を対面で実施)／Hybrid Type A(Face-to-face/Online): Conduct classes in-person 50% or more of the total hours of the course
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※4 参照 ※C 参照

時間割コード	09269205	担当教員	清河 幸子		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	金 5
講義題目	教育心理 I / Educational Psychology I 教育心理 I				

授業の目的・概要	【目標】「学ぶこと」や「教えること」に関連した心理学的知見を学び、それらに関連した諸問題に対する関心を高め、問題解決に資する体系的な知識と技能を習得することを目標とする。 【概要】教育心理学の中でも「教授・学習」「認知」を中心とした講義を行う。各テーマについて心理学的知見を紹介する。また、それらの知見を踏まえて、受講者自身にとっての「教授・学習」経験についての振り返る。
授業計画	”第 1 回:ガイダンス・「学習」とは？ 第 2 回:行動主義からみた学習(1):古典的条件づけ 第 3 回:行動主義からみた学習(2):オペラント条件づけ 第 4 回:行動主義からみた学習(3):観察学習・学習の原理 第 5 回:認知主義からみた学習(1):二重貯蔵モデル・作業記憶モデル 第 6 回:認知主義からみた学習(2):処理水準アプローチ 第 7 回:認知主義からみた学習(3):記憶の種類 第 8 回:状況主義からみた学習 第 9 回:学習を支える要因(1):動機づけ・マインドセット 第 10 回:学習を支える要因(2):学習方略・メタ認知 第 11 回:学習を支える要因(3):教育評価 第 12 回:学習を支える要因(4):他者との相互作用 第 13 回:理解確認テスト ※講義内容および順序は変更になることがある。”
授業の方法	講義形式を中心に進めていくが、適宜、小グループでの討論を行う。また、トピックに関連した実験や質問紙調査を実施し、体験的に学ぶ機会を提供する。
成績評価方法	理解確認テストにより評価する。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	理解確認テストは学期末に1回実施する。 ・本科目は、駒場キャンパスで開講されるため、教養学部前期課程の授業日程に従います。 ・また、初回授業はオンラインのみでの開講となります。
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※3 参照 ※D 参照

時間割コード	09269206	担当教員	岩田 一正		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	水 5
講義題目	教育課程Ⅰ／Curriculum StudiesⅠ 教育課程Ⅰ				

授業の目的・概要	教育課程やカリキュラムは、学習指導要領や教科書と同一視され、固定化されたものと認識される傾向があるが、本授業はこの認識の妥当性を考察していくことを課題とする。 この課題に迫るために、カリキュラムという用語の歴史、学習指導要領の内容・歴史的変遷・役割・意義・改訂の背景、教科横断的総合的学習、カリキュラムを改善するための学力調査の方法、ヒドゥン・カリキュラム、他国のカリキュラムなどを概観していく。そしてこの作業を通じて、カリキュラムの具体的内容の選択基準やカリキュラム編成の方法・類型を批判的に検討できる力を獲得するとともに、学校や子ども、また地域に即してカリキュラムを編成する意義を理解していくことを目指す。
授業計画	”1. オリエンテーション 2. カリキュラムの構成要素 3. 戦前・戦時期のカリキュラム、学習指導要領の変遷 1【1947 年、1951 年、1958 年学習指導要領の内容、社会的背景】 4. 学習指導要領の変遷 2【1968 年、1977 年、1989 年学習指導要領の内容、社会的背景】 5. 学習指導要領の変遷 3【1998 年、2008 年、2017 年学習指導要領の内容、社会的背景】 6. カリキュラム評価の方法【PDCA サイクルの確立、全国学力・学習状況調査、PISA、TIMSS、ランダム化比較実験】 7. 教科領域横断的総合的な学習の編成 1【総合的な学習の時間の意義、総合学習の映像資料の視聴】 8. 教科領域横断的総合的な学習の編成 2【地域、学校、子どもに即した総合学習のテーマ設定、学びの蓄積、総合学習で生じ得る困難】 9. カリキュラム編成の背後にある教育観、カリキュラム編成の原理・方法・類型、教育内容・カリキュラムの具体的内容の選択基準、各カリキュラム編成方法の差異 10. ヒドゥン・カリキュラム 1【ヒドゥン・カリキュラムとは、研究の展開】 11. ヒドゥン・カリキュラム 2【ヒドゥン・カリキュラムの事例、ジェンダー】 12. 他国のカリキュラム①【各国の学力調査・統計から見える姿、映像資料の視聴】 13. 他国のカリキュラム②【アメリカと韓国のカリキュラム】 14. 他国のカリキュラム③【イギリスとフィンランドのカリキュラム】 15. まとめ 以上のように計画しているが、状況に応じて変更することがある。”
授業の方法	本授業はプレゼンテーション・ソフトを用いた講義形式として実施する。また、学生の教育課程に関する具体的な理解を促進するために、映像資料を視聴する機会を設ける。なお、テーマによってはグループ・ワークに取り組み、それを踏まえてレポートを記述してもらう。 講義で用いるスライドを PDF ファイルとしたものを UTOL を通じて配布するので、事前に読んでもらいたい。
成績評価方法	筆記試験(60%:前記した「授業の目標」達成しているかどうかを評価する)、小レポート(40%:授業の際に提示する課題について簡単なレポートを何回か執筆してもらうこととなる)。
教科書	次の教科書を使用する。／Will use the following textbook
参考書	次の参考書を使用する。／Will use the following reference book
履修上の注意・備考	受講するために必要な予備知識というものはないが、上記した PDF ファイル、また教科書を授業の前後に読んでもらいたい。
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※5 参照 ※F 参照

時間割コード	09269207	担当教員	西野 真由美		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	月 5
講義題目	道徳教育の理論と実践／Theory and Practice of Moral Education 道徳教育の理論と実践				

授業の目的・概要	学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の理論と実践についての理解を深め、道徳教育の視点で学校教育の課題を捉え、地域社会のリソースを活用した教科等横断的な道徳教育のカリキュラムを開発するとともに、道徳授業を構想する力を育てることを目標にしています。
授業計画	”以下のテーマに沿って、進めます。 (1)学校における道徳教育の意義 学校で「道徳」を「教える」ことができるのか。できるとしても、教えるべきなのか。そして、何を教えるのか。そんな道徳教育への疑問や疑念を出し合って検討したうえで、学校における道徳教育の在り方を批判的に検討しましょう。 (2)日本における道徳教育の歴史 明治以降の学校教育が国民意識形成に与えた影響を道徳教育の視点で見直します。 (3)道徳教育の理論 代表的な道徳教育理論を理解して教育実践に生かす方法を検討します。 また、道徳の特別教科化で企図された「考え、議論する道徳」授業の実現に求められる指導法や評価に関する考え方を明らかにします。 (4)現代的な諸課題に応える道徳教育 キャリア教育、科学技術教育、情報教育など現代的な諸課題に道徳教育でどう取り組むかを具体的に考え、カリキュラムと授業を構想します。”
授業の方法	対面で実施予定です。授業では、ほぼ毎回、グループワークを実施し、ディスカッションや共同作業に取り組みます。授業で使用する資料や課題は、ITC-LMS で配布していきます。授業前後に確認するようにしましょう。
成績評価方法	毎時間の授業で提出していただくリアクションペーパーと授業で指定する参考文献へのレポートで評価します。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	授業は対面で実施予定です。毎回の学習内容やグループワークでの活動をリアクションペーパーで振り返って復習しましょう。
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※6 参照 ※G 参照 教科又は教職に関する科目(旧) 大学が独自に設定する科目(新)

時間割コード	09269208	担当教員	高野 慎太郎		
単位数	2	学 期	S2	時 限	集中
講義題目	特別活動論／Extra-Curriculum Activity 特別活動論				

授業の目的・概要	【授業の概要】「特別活動」とは何でしょうか。「特別活動」の記憶はありますか？この授業は文献研究やケーススタディを通じて理解を深めるとともに、実際に「特別活動」を企画し、運営するための実践的な知識・技能の習得を目指す授業です。 【授業の到達目標】学習指導要領に示された「特別活動」の理念や目標について学ぶとともに、「特別活動」を相対化しながら追体験することを通して、学校教育の充実に貢献することのできる人材としての資質・能力・態度の形成を目標とします。
授業計画	”第 1 回 学級びらき:特別活動とは何か？ 第 2 回 教育課程の中の特別活動 第 3 回 特別活動の目標と基本的性格・教育的意義 第 4 回 学級活動の目標と内容 第 5 回 ケーススタディ 第 6 回 生徒会活動の目標と内容 第 7 回 ケーススタディ 第 8 回 学校行事の目標と内容 第 9 回 ケーススタディ 第 10 回 特別活動を企画・実施しよう(1) 第 11 回 特別活動を企画・実施しよう(2) 第 12 回 特別活動を企画・実施しよう(3) 第 13 回 海外における TOKKATSU の意義と実践 第 14 回 特別活動の指導と評価 第 15 回 卒業前の学級活動:特別活動論の学びの成果と課題 * 受講者の関心に応じて、授業開始後に、シラバスを適宜変更する場合があります。”
授業の方法	映像資料を含む文献研究と、ケーススタディを行います。ケーススタディでは、中学1年生の入学式直後の学級活動「学級びらき」から中学3年生の卒業式前日の学級活動に至る中学校3年間を「特別活動」という切り口から追体験します。
成績評価方法	授業時のグループワーク(30%)、授業時のリフレクションシート(20%)、レポート試験(50%)によって総合的に評価します。詳細は履修者と相談の上、決定します。
教科書	その他。／Other
参考書	その他。／Other
履修上の注意・備考	特にありません 夏季集中開催の授業です。全日程出席できるかどうか、良く日程を確認してから、登録をするようにしてください。 ※ 集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと 教育学部在学生向け Web サイト>授業・履修・学生生活>時間割>学部(集中講義) https://www.p.u-tokyo.ac.jp/students/class/#timetable
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※7 参照 ※I 参照

時間割コード	09269209	担当教員	渡辺 貴裕		
単位数	2	学 期	A1	時 限	月 5, 月 6
講義題目	教育の方法 I ／Teaching Methods I 教育の方法 I				

授業の目的・概要	教育の目的を達成するために、具体的な方法は不可欠である。けれども一方で、方法を身に付ければ教育の目的が達成できるというわけではない。教育の方法がもつこうした不安定さをどう捉え、どう教育実践に臨んでいけばよいのか。 本講義では、教育方法に関する理論的基盤への理解を深めるとともに、自らが教師として授業を行い専門的発達を遂げるための実践的力の土台を形成することを目指す。 次の3つの内容が柱となる。 ・教育の「方法」とは何か ・どのようにして学習を促すことができるのか ・教師は実践からどう学び成長するのか
授業計画	”1. 実践記録から学ぶ 2. 個性記述的アプローチと法則定立的アプローチ 3. 「エビデンス」との向き合い方 4. 「パターンランゲージ」の発想 5. 教育の「方法」をどう捉えるか 6. 「〇〇としての教師」が提起するもの 7. 海外の事例から学ぶ 8. 教材という存在 9. 教室内のコミュニケーション 10. 単元とカリキュラム 11. リフレクションの理論 12. 授業検討会を問い直す 13. ミニ模擬授業の実施 14. ミニ模擬授業の検討会 15. 教師による実践研究”
授業の方法	グループワークを多用する。積極的な参加が不可欠である。
成績評価方法	定期試験は行わず、授業中に出題する課題をもって評価を行う。 出席が授業回数の3分の2に満たない場合、原則として評価の対象外とする。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	授業中に指示をする。／Will specify at class time
履修上の注意・備考	履修を希望する場合、初回から必ず出席すること。 授業時間中の活動を重視する授業形態であるため、教育実習などにより(7回のうちの)3回以上の欠席が見込まれる場合は、別年度あるいは他の時期の科目を履修することを推奨する。
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※8 参照 ※J 参照

時間割コード	09269210	担当教員	石田 千晃		
単位数	1	学 期	S2	時 限	集中
講義題目	ICT を活用した効果的な授業づくり／Creating effective your course using ICT ICT を活用した効果的な授業づくり				

授業の目的・概要	本授業は、学校現場において持続可能な ICT 活用を設計できる教師を育成することを目的とする。 生成 AI(対話型、翻訳技術など)、拡張現実(AR)、仮想現実(VR)などを事例として、ICT を教育方法として批判的に検討し、実装可能な授業設計へと統合する力を養う。 1. ICT 活用を教育理論(SAMR・TPACK 等)に基づいて説明できる。 2. 生成 AI、AR・VR の教育的機能を比較できる。 3. 現場条件(機材・予算・時間)を踏まえた ICT 活用授業を設計できる。 4. ICT 活用に伴う倫理的・社会的課題を検討できる。
授業計画	“第 1 日 ICT 活用の理論枠組み ICT 活用の 4 類型(可視化・疑似体験・接続・思考支援) ICT 活用ケースの分析(例：AI ダイアログ、AR 街歩き、VR 博物館等) 第 2 日 現場実装条件の検討 ICT 活用授業設計(グループ) 発表・総括討論”
授業の方法	下記日程の集中講義形式で行う 8 月 6 日(火)2&comma;3&comma;4 時限 8 月 7 日(水)2&comma;3&comma;4 時限
成績評価方法	・グループ課題(授業設計)40%一本課題は共同制作課題ではありません。グループで短時間検討し、授業設計案をまとめて提出する課題です。 ・個人レポート(方法論的考察)60%
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	PC 必須(グループワークの時に、話し合いに参加できるようにカメラ・マイクが使用できるようにしておいてください) 大学アカウントでサインインしてください。 実際に事例として使用するアプリケーションなどのツールについては、授業中に説明します。 【履修上の注意】 ※8-9 月集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと 教育学部在学生向け Web サイト>授業・履修・学生生活>時間割>学部(集中講義) https://www.p.u-tokyo.ac.jp/students/class/#timetable
授業実施形態	オンライン型(オンラインのみで実施)／Fully Online: All classes conducted online
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※M参照

時間割コード	09269211	担当教員	鈴木 雅博		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	月 5
講義題目	進路指導・生徒指導／Career Guidance and Student Guidance 進路指導・生徒指導				

授業の目的・概要	◆授業の概要 生徒指導とは「児童生徒が、社会の中で自分らしく生きることができる存在へと、自発的・主体的に成長や発達する過程を支える教育活動のこと」である(生徒指導提要[令和4年版])。ここに、「自分らしく生きる」という個人の生き方の問題を「社会」との関係のなかで、どう折り合いをつけるのかという難しい課題を見てとることができる。進路指導も「社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく」キャリア発達をめざすものとされるが(2011 年1月中央教育審議会答申)、ここにも同種の緊張関係を見出せる。教師は、時に葛藤を孕む「自分らしさ」と「社会」の関係について、どのように生徒指導・進路指導を行うことを求められ、それを行っているのか。その理念と実際を法制度・文化・社会情勢との関連において理解することが本講座の課題となる。 ◆授業の到達目標 (1)生徒指導の意義および原理を理解する。 (2)すべての児童生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解する。 (3)児童生徒が抱える生徒指導上の課題と、養護教諭等の教職員、外部の専門家および関係機関等との連携も含めた対応の在り方を理解する。 (4)進路指導・キャリア教育の意義および原理を理解する。 (5)すべての児童生徒を対象とした進路指導・キャリア教育の考え方と指導の在り方を理解する。 (6)児童生徒が抱える個別の進路指導・キャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方と在り方を理解する。
授業計画	”1 生徒指導の意義とチーム学校 2 生徒指導と子どもの権利 3 校則問題を考える① 4 校則問題を考える② 5 生徒指導における懲戒・体罰・不適切な指導① 6 生徒指導における懲戒・体罰・不適切な指導② 7 いじめ問題① 8 いじめ問題② 9 不登校の現状・教育機会確保法 10 フリーター・ニートとキャリア教育① 11 フリーター・ニートとキャリア教育② 12 高卒就職の進路指導① 13 高卒就職の進路指導②・まとめ ”
授業の方法	講義形式を基本としつつ、適宜ディスカッションを行う。
成績評価方法	授業後の小レポート 35%、期末試験 65% 。なお、欠席は4回までとする。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	受講生には日頃からいじめ・不登校といった生徒指導上の諸課題や進学・就職等の進路指導に関するニュース等に目を向けることが求められる。また、授業後に学習内容を復習し、関連する書籍等に目を通すことで、次回の授業に備えてほしい。
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※9 参照 ※K 参照

時間割コード	09269212	担当教員	新井 素子		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	火 2
講義題目	教育相談 I / School Counseling I 教育相談 I				

授業の目的・概要	学校教育における教育相談の意義と理論やカウンセリングの理論や技法に関する基礎的知識などを習得するとともに、事例を通じて教育相談の具体的な進め方や対応の要点、学内外の連携など教育において児童生徒を支援する際に必要な知識や技術についてできる限り深く考えて理解することを目指す。
授業計画	”第 1 回:オリエンテーション／教育相談の意義など 第 2 回:子どもの理解①(幼児期～児童期) 第 3 回:子どもの理解②(児童期～思春期) 第 4 回:カウンセリングの基本とその考え方 第 5 回:カウンセリングの基本的な技法 第 6 回:来談者中心療法の考え方 第 7 回:アセスメント(生物－心理－社会モデル)、子どもの抱える困難①(貧困, 児童虐待, ヤングケアラーなど) 第 8 回:子どもの抱える困難②(非行, 差別,ジェンダーなど) 第 9 回:発達障がいについての理解① 第 10 回:発達障がいについての理解② 第 11 回:保護者への対応・教師のストレス 第 12 回:学校教育システムの連携・多職種連携, スクールカウンセリングなど 第 13 回:定期試験 ”
授業の方法	講義形式を基本とする。講義内では教育相談に関連して具体的な事例について小グループでのワークやディスカッションを行う予定である。グループワークなどとそのフィードバックを通じて、履修者が講義で学んだことをより深く考察・理解することが期待される。毎回授業の最後にその日学んだことについて振り返ってリアクションペーパーにまとめて提出する。
成績評価方法	授業参加およびリアクションペーパー等(40%) 定期試験(60%)
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	授業中に指示をする。／Will specify at class time
履修上の注意・備考	事前に履修しておくべき科目等はないが、子どもの発達に関する講義内容が多く含まれるため発達心理学・教育心理学・臨床心理学等への関心があると望ましい。 講義を通じて、学校という教育の場や、子どもに関する多様な問題について考察を深めてもらいたい。他の人の価値観に触れる機会でもあり、積極的にワークに取り組むことが期待される。
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※10 参照 ※L 参照

時間割コード	09269213	担当教員	星加 良司、森 和宏、大内 紀彦、崔 栄繁、池野 絵美、飯野 由里子		
単位数	1	学 期	A1	時 限	金 5
講義題目	特別支援教育総論Ⅱ／An Introduction to Special Needs Education II 特別支援教育総論Ⅱ				

授業の目的・概要	本授業では、特別な教育的ニーズを示す子どもを多角的・包括的に理解する力量を高めるとともに、日本におけるインクルーシブ教育の実現に向けた、通常の小・中学校や高等学校における具体的方策について検討する。到達目標は以下のとおりである。 1. 特別支援教育の制度と構造、およびインクルーシブ教育との関係性について説明できる。 2. 特別な教育的ニーズを示す子どもを理解するにあたっての基本的な知識・観点・態度を身につけるとともに、支援や合理的配慮の原理と方法について理解する。 3. インクルーシブな学級・学校・地域づくりの具体的方策について考察し、言語化することできる。
授業計画	”第1回 ガイダンス 第2回 「共に学ぶ」学校・授業をどのようにつくればいいのか：個別指導計画、ユニバーサルデザインの問題 第3回 「障害の社会モデル」と特別支援教育の課題 第4回 学校の中の「社会的障壁」をどう失くすのか：合理的配慮と環境の整備 第5回 インクルーシブ教育の理念を再考する 第6回 イタリアの経験から学ぶインクルーシブ教育の可能性 第7回 カナダの経験から学ぶインクルーシブ教育の可能性”
授業の方法	オンライン（Zoom）で行う。 講義を中心に、適宜、動画視聴やグループ・ディスカッションを行う。
成績評価方法	各回のリアクション・ペーパー（計50点）、期末レポート（50点）にもとづき、総合的に評価する。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	原則リアルタイムでの参加を前提とする。
授業実施形態	オンライン型（オンラインのみで実施）／Fully Online: All classes conducted online
教育職員免許法上の認定科目	教育職員免許法上の認定科目 ※E 参照

・特設科目

時間割コード	09269901	担当教員	石黒 千晶		
単位数	2	学 期	S1	時 限	金 3, 金 4
講義題目	学校における創造性教育／Creativity Education in Schools 学校における創造性教育				

授業の目的・概要	本授業は、「学校における創造性教育」をテーマに、創造性研究の基礎理論と学校教育における実践について体験や議論を通じて学ぶことを目的とする。 前半では、創造性の定義・測定、創造性への介入研究、創造性を促進・阻害する要因など、教育心理学的な基礎理論と研究知見を扱う。これにより、学校教育において「創造性を育てる」とは何を意味するのか、どのような前提や限界があるのかを理論的に整理する。 後半では、芸術教育、探究学習、課外活動など、学校内外の具体的な教育実践を取り上げ、創造性教育の可能性と課題について検討する。対話型鑑賞や創造性介入をもとにしたミニワークなどの体験的活動も取り入れ、受講生自身の経験を通して創造性の働きを理解することを重視する。 授業は、オンラインでの講義・ディスカッションと、ミニワークを組み合わせる実施する。単に知識を学ぶだけでなく、研究知見を批判的に読み解き、学校教育の文脈に即して創造性教育を構想する力を養うことを目指す。
授業計画	”セッション 1 創造性とは何か 第 1 回:ガイダンス、創造性の定義 第 2 回:創造性の測定・学校教育における創造性教育 セッション 2 創造性は教育できるのか 第 3 回:創造性介入研究(ミニワークを予定) 第 4 回:創造性を促進する要因・阻害する要因 セッション 3 創造性と学校文化 第 5 回:学校と創造性(教師・カリキュラム・評価文化) 第 6 回:創造性教育は誰のためのものか セッション 4 芸術教育と創造性(ミニワークを予定) 第 7 回:芸術教育における創造性・鑑賞方略(対話型鑑賞など)のミニワーク 第 8 回:博物館・美術館での鑑賞体験 セッション 5 探究学習と創造性(ミニワークを予定) 第 9 回:探究学習の理論的背景 第 10 回:「問い」を立てるミニ探究体験 セッション 6 課外活動などの文脈 第 11 回:部活動・課外活動・学校外学習と創造性 第 12 回:創造性を「教科外」でどう育むか セッション 7 教師と創造性教育 第 13 回:教師の創造性 第 14 回:全体振り返り ”
授業の方法	授業は基本的にオンライン形式で行う。授業中は講義、ディスカッション、グループワークやミニワークを行う予定である。(受講生の人数に応じて具体的な方法は調整する)
成績評価方法	授業に関連する活動およびレポートによって総合的に判断する。具体的には、レポート 60%、授業への参加状況(発言)20%、毎回のリアクションペーパーへの回答内容 20%で評価する。
教科書	授業中に指示をする。／Will specify at class time
参考書	授業中に指示をする。／Will specify at class time
履修上の注意・備考	事前に教科書や参考書を読んでおくことを求める場合があるが、その場合は事前に連絡する。
授業実施形態	オンライン型(オンラインのみで実施)／Fully Online: All classes conducted online
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09269902	担当教員	星加 良司、本間 里美、飯野 由里子		
単位数	2	学 期	W	時 限	集中
講義題目	重度障害者の地域生活から学ぶ障害の社会モデル／Learning about the Social Model of Disability through the Independent Living of People with Severe Disabilities 重度障害者の地域生活から学ぶ障害の社会モデル				

授業の目的・概要	【授業の概要】「障害」とは何でしょうか。考えたことはありますか？この授業は ALS などの難病により重度の障害がある当事者や彼らを支える人々との講義や体験を通して、障害について考え、自分ができることを考える授業です。 Ⅱ【授業の到達目標】重度障害当事者の地域生活や、障害のモデル(考え方)について学び、障害について自分事として考えることにより、地域の医療、福祉、教育の充実に貢献できる人材としての態度を形成することである。
授業計画	“本授業は 2 日間の講義と 2 日間の体験により構成されている。Ⅱ1 日目 重度障害当事者が生きていくこと、学び、育ち、そして暮らすこと(重度障害当事者や専門職による講義)2 日目・3 日目 地域で暮らす重度障害当事者の生活(当事者の暮らす地域での見学・体験 6 時間)4 日目 見学・体験での経験や学びの共有 ・「障害の医学モデル」「障害の社会モデル」(重度障害当事者や専門職による講義) ・自らの経験や、講義及び見学・体験を通しての学びを振り返り「障害とは何か」を考える(学生同士、障害当事者講師、有識者との意見交換) ・インクルーシブ社会の実現についての考察”
授業の方法	1 日目:講義・グループワーク 2 日目・3 日目:当事者宅での介助見学・体験 4 日目:講義・グループワーク なお、本講義では実習費用として約2千円を徴収する。
成績評価方法	授業への参加状況
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	(予習)以下の動画視聴を推奨する ①https://youtu.be/5euJhZLeF20 境を越えて - Beyond the awareness gaps 3 分 ALS 当事者岡部宏生のある 1 日を描いたショートムービーⅡ②https://youtu.be/SIWNo-ZikGM SUNFLOWER -Living with ALS- 3 分 ALS 当事者酒井ひとみさんと家族、ヘルパーへのインタビューⅢ③https://youtu.be/lfyTzZTMQ4A あなたと僕を生きる(学食リメイク)30分程度 ALS 患者岡部宏生とそのヘルパーの生活Ⅳ④https://youtu.be/5_O-Ode8B-w ある ALS 当事者のもとで働く重度訪問介護の介助者の日常 16 分 介助者に焦点を当てて当事者の日々の生活を描いた動画 履修希望者が 20 人を超えた場合、履修者の選考を行う。そのため結果として、履修できない場合があり得ることに注意すること。Ⅱ※集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと 教育学部在学生向け Web サイト>授業・履修・学生生活>時間割>学部(集中講義) https://www.p.u-tokyo.ac.jp/students/class/#timetable
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09269903	担当教員	星加 良司		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	火 4
講義題目	ディスアビリティ・スタディーズ／Disability Studies ディスアビリティ・スタディーズ				

授業の目的・概要	
授業計画	
授業の方法	
成績評価方法	
教科書	
参考書	
履修上の注意・備考	
授業実施形態	
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09269904	担当教員	綾屋 紗月、並木 重宏、熊谷 晋一郎、近藤 武夫、星加 良司		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	水 4
講義題目	バリアフリー総論／Introduction to Barrier-free Studies バリアフリー総論				

授業の目的・概要	【目標】 1. バリアフリーの基本概念と歴史を理解し、多様な障害についての基礎的知識を習得する。 2. 医療、福祉、教育、研究、都市計画、法律、文化などの多様な視点からバリアフリーを 考察できる。 3. 障害の社会モデルと個人モデルの違いを理解し、社会的包摂の視点を持つことができる。 4. 障害当事者の視点から学び、実社会における課題を具体的に認識する。 5. バリアフリー社会の実現に向けて、自ら考え、行動できる基礎を築く。 【Objectives】 1. To understand the fundamental concepts and historical development of barrier-free design&comma; and to acquire basic knowledge of diverse disabilities. 2. To examine barrier-free approaches from multiple perspectives&comma; including medicine&comma; welfare&comma; education&comma; research&comma; urban planning&comma; law&comma; and culture. 3. To understand the differences between the social model and the individual (medical) model of disability&comma; and to develop a perspective grounded in social inclusion. 4. To learn from the perspectives of disabled persons and to recognize concrete challenges in contemporary society. 5. To build a foundation for thinking independently and taking action toward the realization of a barrier-free society. 【概要】 本授業は、社会の分断が進むなかで、障害の有無にかかわらず、また、多様な障害を持つ人たちが、連帯して共に生きる社会を実現するために必要な知識を学ぶことを目的とする。バリアフリーの概念を多角的に捉え、医療、福祉、教育、研究、都市設計、法制度、文化などの視点から考察し、実践的な知見を得る。オムニバス形式で、多様な視点からバリアフリーの課題と可能性を探る。 【Course Description】 This course aims to provide the knowledge necessary to realize a society in which people live together in solidarity&comma; regardless of disability&comma; amid increasing social fragmentation. It explores the concept of barrier-free design from multiple angles and examines it from the perspectives of medicine&comma; welfare&comma; education&comma; research&comma; urban design&comma; legal systems&comma; and culture&comma; thereby developing practical insights. The course is conducted in an omnibus format&comma; drawing on diverse viewpoints to explore both the challenges and possibilities of a barrier-free society.
授業計画	”5 人の教員が 2 回または 3 回ずつ担当し、各教員の障害の専門分野における最前線について講義する。 【各教員の主な研究分野】 星加:ディスアビリティの社会モデルに基づく社会理論／障害者のシティズンシップと 社会的位置／障害平等施策としての合理的配慮／社会的包摂のためのバリアフリー 教育など 近藤:障害のある児童生徒・学生の教育における支援技術と人的支援 熊谷:当事者研究と認識的不正義・ナラティブ・組織変革／医学の多様性と包摂性 並木:障害学生の科学分野における実験・実習支援 綾屋:当事者研究の歴史・理念・方法／当事者参加型研究／ニューロダイバーシティ運動と 自閉コミュニティ 【講義担当予定】 ※担当教員のスケジュールは変更する可能性がある。 -10 月- 第 1 回 7 日(水) 14:55-16:40 綾屋 第 2 回 14 日(水) 14:55-16:40 綾屋 第 3 回 21 日(水) 14:55-16:40 綾屋 第 4 回 28 日(水) 14:55-16:40 熊谷 -11 月- 第 5 回 4 日(水) 14:55-16:40 熊谷 第 6 回 11 日(水) 14:55-16:40 熊谷 第 7 回 18 日(水) 14:55-16:40 並木 -12 月- 第 8 回 9 日(水) 14:55-16:40 並木 第 9 回 16 日(水) 14:55-16:40 並木 第 10 回 23 日(水) 14:55-16:40 星加 -1 月- 第 11 回 6 日(水) 14:55-16:40 星加 第 12 回 13 日(水) 14:55-16:40 近藤 第 13 回 20 日(水) 14:55-16:40 近藤 27 日(水) 全レポート提出〆切”
授業の方法	◎本授業は、東京大学先端科学技術研究センターに所属する教員(近藤武夫、熊谷晋一郎、並木重宏、綾屋紗月)および東京大学学院教育学研究科付属バリアフリー教育開発研究センターに所属する教員(星加良司)がオムニバス形式で行う講義である。 ◎全回オンライン授業であり、出席確認のため、各学生は東京大学の ZOOM アカウントにてサインインした状態で入室すること。ZOOMには氏名を記入し、授業開始時間までに ZOOM に入室すること(そうでない場合、本人だと確認できず欠席扱いとなる)。 ◎使用言語は日本語だが、ZOOM による多言語翻訳機能の使用可能。 The class will be conducted in Japanese&comma; with multilingual interpretation available via Zoom.

成績評価方法	◎全授業時間(授業日数ではない)の 70%以上出席がない場合は、原則として成績評価の対象外とする。 ◎受講生は提出締切日までに、各教員の授業に対して以下の2つの課題に取り組む。 A)各教員の 3 回分(教員によっては 2 回分)の授業の要約(1000 文字程度) B)各教員が出題する以下のレポート課題(1000 文字程度～) ※つまり各学生は「2000 文字程度×教員 5 人分」の授業要約&レポート課題を提出する。 課題①: 偏見をふり返り、行動の変化を考える(綾屋) 課題②: 解釈的不正義の是正を考える(熊谷)
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	授業時に指示する 講義部分の動画(受講生の発言部分は基本的にカット)をレポート提出最終日(予定:2027/1/27)まで、いつでも視聴できるように UTOL にアップロードする。ただし講義時間中に出席しなかった場合、動画を視聴したとしても出席にはカウントされないので、ご留意いただきたい。
授業実施形態	オンライン型(オンラインのみで実施)／Fully Online: All classes conducted online
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09269905	担当教員	星加 良司、飯野 由里子		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	木 3
講義題目	ダイバーシティと社会／Diversity and Society ダイバーシティと社会				

授業の目的・概要	近年「ダイバーシティ(多様性)」という言葉が、社会や組織の目指すべき目標と関連づけられて語られるようになって います。そこでは性別や年齢、性的指向や性自認、障害等にもとづく差異が、社会全体の「活力」や企業の「生産性」 向上に直結するものとして語られがちです。しかし、私たちの間にある差異は平板なものとしてではなく、権力関係を含 んだものとして存在しています。それゆえ、さまざまな摩擦や衝突を生み出すものでもあります。 この授業の目的は、 私たちの間の差異の編成のされ方やそこに働く権力関係に目を向けることで、ダイバーシティを社会的公正の観点か ら捉え直すことにあります。その際、フェミニズム研究やクィア研究、ディスアビリティ研究等の知見を参照することで、 ダイバーシティについて学際的かつ多領域的に学んでいきます。 ※なお、この授業は、学部横断型「ダイバーシティ・ インクルージョン教育プログラム」のコア科目(選択必修)として開講されています。
授業計画	”第 1 回 ガイダンス&イントロダクション 第 2 回 新自由主義下の主体と教育 第 3 回 いま大学で何が起きているの か? 第 4 回 「人権の時代」は終わったのか? 第 5 回 人権侵害としての「経済的無力さ」 第 6 回 「DEI 廃止」の動き はどのように広がったのか? 第 7 回 「DEI 廃止」の背後にある 3 つの動機 第 8 回 DEI は「不公平」? 第 9 回 実力 主義の正体 第 10 回 DEI は「逆効果」? 第 11 回 「DEI 推進」に欠けているもの 第 12 回 特権とインターセクショナリ ティ 第 13 回 まとめと振り返り ”
授業の方法	・この授業は「対面」で実施いたします。
成績評価方法	1) 平常点(コメントシートの提出): 40 点 2) 期末レポート: 60 点
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	・指定文献および追加の教材は UTOL で共有します。 ・指摘文献を読んだ上で、講義に臨むことを期待します。 ・講義 は日本語で行います。
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09269906	担当教員	星加 良司、飯野 由里子		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	木 3
講義題目	フェミニズム理論／Feminist Theory フェミニズム理論				

授業の目的・概要	フェミニズム理論は、1960 年代後半に登場した第二波フェミニズム(女性解放運動)の運動と思想を受け、発展してきた知の枠組です。当初は、女性学(Women’s Studies)と呼ばれる学問領域の中で、主に男女間の不平等や格差の検証に焦点をあて、伝統的な学問分野の男性中心性が明らかするための道具立てとして用いられてきました。その後 1980 年代になると、男性や男性性の経験に焦点をあてた研究も行われるようになり、男性学(Men’s Studies)という専門領域の登場にも寄与します。ところが、女性学とそれに続く男性学がアカデミックな探求の専門領域として確立された 1980 年代後半、ポストモダニズムやポスト構造主義などの理論が進行した結果、「女性」や「男性」をそれぞれ別々の一元的なカテゴリーとして捉える考え方に疑問が突きつけられることになります。これにより、「女性学」や「男性学」という用語は論争的となり、それらの存在理由が大きく揺さぶられることになりました。「女性学」や「男性学」に代わるものとして、「ジェンダー論」という名称が好まれるようになった理由の一端はここにあります。こうした経緯を経て、現在フェミニズム理論は、男女間だけではなく多様な女性・男性の間に存在するさまざまな差別や不平等、格差(Ex. 就業機会の不平等や健康医療アクセスの格差など)を捉える知の枠組みとして展開されています。この授業は、フェミニズム理論が登場・発展した歴史的背景に加え、フェミニズム理論の基礎的な概念や考え方を紹介することを目的としています。2026 年度は、とりわけ「インターセクショナリティ」と呼ばれる「見方」(perspective)に焦点を当てます。インターセクショナリティは、人種や階級、性的指向や性自認、障害などの複数の差別がどのように交差し、一人の人間の経験に影響を与えているかを捉えるための見方のことを指します。こうした見方が登場・発展してきた歴史的経緯を押さえることで、複雑な抑圧構造を理解する上で、マイノリティ女性の経験と知識を反映したフェミニズム実践が不可欠であることを学びます。この授業を通じ、多様な視点からフェミニズムを捉える洞察力を身に付け、社会の複雑な問題に対する批判的思考を深めることを期待します。
授業計画	“第 1 回 ガイダンス&イントロダクション 第 2 回 フェミニズムの「波」：誰から見た「波」だったのか？ 第 3 回 ポストフェミニズム批判(1) 第 4 回 ポストフェミニズム批判(2) 第 5 回 フェミニズムと人種差別(1) 第 6 回 フェミニズムと人種差別(2) 第 7 回 中間まとめ 第 8 回 「権利」ではなぜダメなのか？—SRHR の問題点(1) 第 9 回 「権利」ではなぜダメなのか？—SRHR の問題点(2) 第 10 回 旧優生保護法国賠訴訟の意義と課題 第 11 回 フェミニズムとトランス差別(1) 第 12 回 フェミニズムとトランス差別(2) 第 13 回 まとめと振り返り”
授業の方法	対面で実施します。 90 分程度の講義の後、LMS にコメントを書き込む時間をとります。
成績評価方法	1)各回のコメント 50 点 2)期末レポート 50 点
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	受講生には指定文献を事前に読んだ上で授業に参加することが期待されます。
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09269907	担当教員	星加 良司、飯野 由里子		
単位数	1	学 期	A2	時 限	火 3
講義題目	インクルーシブ社会のための実践知／Practical Knowledge for an Inclusive Society インクルーシブ社会のための実践知				

授業の目的・概要	多様な差異を持つ人々が包摂される社会を実現することは、現代の重要な社会的課題となっている。また近年では、多様性=ダイバーシティ(性別、年齢、言語、身体特性等)の尊重のみならず、包摂性=インクルージョン(所属感覚、差異の尊重、民主的な意思決定等)の向上が重要であることが注目されるようになった。ただし、多様性の向上は必ずしも包摂性の向上を伴うとは限らず、また、多様な属性の差異によって包摂性の度合いにギャップが生じていることも指摘されている。こうした乖離を埋めるための実践として、ジェンダーやエスニシティに関わる意識的・無意識的な偏見の解消、障害のある人の参加機会を保障する「合理的配慮」や「バリアフリー」等、学校、企業、行政機関等様々な現場で、様々な取り組みが施行/試行されている。この授業では、集団や組織の「インクルーシブネス」を可視化する方法や「インクルーシビティ」を高める実践手法等を紹介し、その実施過程に潜む課題や問題点について議論する。
授業計画	”第1回 ガイダンス&イントロダクション 第2回 学校・地域におけるインクルージョン(1) 第3回 学校・地域におけるインクルージョン(2) 第4回 中間まとめ 第5回 企業組織におけるインクルージョン(1) 第6回 企業組織におけるインクルージョン(2) 第7回 まとめと振り返り”
授業の方法	本授業は、講義およびディスカッションによって構成されます。受講生には積極的に発言することが期待されます。
成績評価方法	1)第2回～第6回のコメントシート 50点 2)期末レポート 50点
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	授業にはバリアフリー教育開発研究センターと連携して事業を行っている OTD(ダイバーシティによる組織変革)普及協会のメンバーがゲストとしてオンラインで参加する予定である。
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09269908	担当教員	星加 良司、飯野 由里子		
単位数	2	学 期	S2	時 限	集中
講義題目	障害者の就労体験学習ーバリアフリー社会の可能性／Experiential learning of disabilityand employment: Potential for a Barrier-Free Society 障害者の就労体験学習ーバリアフリー社会の可能性				

授業の目的・概要	今日では、多様な特性や背景を持つ人々が互いに尊重しあい、十全に能力を発揮できる状態(ダイバーシティ・インクルージョン)の価値は広く知られるようになった。一方で、歴史的に労働市場から阻害されてきた障害者については、いまだ包摂(インクルージョン)は道半ばであると言わざるをえない。その背景には、「障害」という概念自体が「働けない身体」をカテゴリー化するためのラベルとして「発明」されたという社会構造的問題があるが、そうであるからこそ、「労働市場における障害者の包摂」という課題は、理論的にも実践的にもクリティカルな課題である。 この授業は、座学と体験実習によって構成され、障害者の就労現場における体験学習とその振り返りを通して、社会のバリアフリー化に向けた実践的・具体的な可能性を探究することを目的とする。なお、本講座は富士電気株式会社、及び株式会社富士電気フロンティアのご協力(寄付を含む)を得て運営されている。
授業計画	”■第 1 回 @本郷キャンパス ・労働市場における「障害者」の位置づけについて ・障害者雇用をめぐる諸制度について ・実習先についての情報提供・留意事項 ■第 2 回 @富士電気フロンティア川崎工場 ・障害者の就労原場体験 ・障害のある従業員からの聞き取り ■第 3 回 @富士電気フロンティア 川崎工場 ・障害者の就労現場体験 ・就労インストラクターからの聞き取り ■第 4 回 @本郷キャンパス ・体験実習の振り返り ・実習レポートの作成”
授業の方法	講義と実習を組み合わせ、体験やディスカッションを中心にインタラクティブな授業を展開する。
成績評価方法	実習及びディスカッションへの参加状況と、最終授業時に作成するレポートの内容について、積極性・的確性等を考慮して総合的に評価する。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	※この授業は関係機関等の協力を得て行われることになるため、やむを得ない事情を除き、途中で履修を辞退することのないようにすること。 * 実習環境の都合により、履修者数は 10 名程度を上限とする。希望者が多い場合は、下記(2)により決定する。 (1)2026 年 5 月中旬までに、履修登録(UTAS)を完了させておくこと。 (2)2026 年 5 月下旬頃までに、UTOL に事前登録に係る内容を掲出するので、当該掲出の指示に従い、2026 年 6 月下旬までに「受講を希望する理由(300 字)」を提出すること。 ・UTOL の受講登録のみの場合、当該提出は無効となるので、十分注意すること。(この授業を履修することはできないので、十分注意すること。) ・繰り返しになるが、上記(1)の期限までに履修登録(UTAS)を完了させておくこと。 (3)2026 年 7 月中旬頃、履修許可者には UTOL にてその旨の案内をする。 ・実習環境の都合により、履修者数は 10 名程度を上限とする。希望者が多い場合は、上記(2)により決定する。 ・履修許可とならなかった者は、この授業を履修することはできない。 ー履修登録(UTAS)を削除とする予定なので、あらかじめ承知しておくこと。 なお、現場実習先への訪問にかかる交通費は自己負担とする。 実習先への入館のため、学生の所属と氏名を実習先企業にも共有するが、この授業の目的にのみ使われるものとする 【履修上の注意】※8-9 月集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと 教育学部在学生向け Web サイト>授業・履修・学生生活>時間割>学部(集中講義) https://www.p.u-tokyo.ac.jp/students/class/#timetable
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09269909	担当教員	星加 良司、飯野 由里子		
単位数	2	学 期	W	時 限	集中
講義題目	障害者の就労体験学習ーバリアフリー社会の可能性／Experiential learning of disability and employment: Potential for a Barrier-Free Society 障害者の就労体験学習ーバリアフリー社会の可能性				

授業の目的・概要	今日では、多様な特性や背景を持つ人々が互いに尊重しあい、十全に能力を発揮できる状態(ダイバーシティ・インクルージョン)の価値は広く知られるようになった。一方で、歴史的に労働市場から阻害されてきた障害者については、いまだ包摂(インクルージョン)は道半ばであると言わざるをえない。その背景には、「障害」という概念自体が「働けない身体」をカテゴリー化するためのラベルとして「発明」されたという社会構造的問題があるが、そうであるからこそ、「労働市場における障害者の包摂」という課題は、理論的にも実践的にもクリティカルな課題である。 この授業は、座学と体験実習によって構成され、障害者の就労現場における体験学習とその振り返りを通して、社会のバリアフリー化に向けた実践的・具体的な可能性を探究することを目的とする。なお、本講座は富士電気株式会社、及び株式会社富士電気フロンティアのご協力(寄付を含む)を得て運営されている。
授業計画	”■第 1 回 @本郷キャンパス ・労働市場における「障害者」の位置づけについて ・障害者雇用をめぐる諸制度について ・実習先についての情報提供・留意事項 ■第 2 回 @富士電気フロンティア川崎工場 ・障害者の就労現場体験 ・障害のある従業員からの聞き取り ■第 3 回 @富士電気フロンティア 川崎工場 ・障害者の就労現場体験 ・就労インストラクターからの聞き取り ■第 4 回 @富士電気フロンティア 川崎工場 ・体験実習の振り返り ・実習レポートの作成”
授業の方法	講義と実習を組み合わせ、体験やディスカッションを中心にインタラクティブな授業を展開する。
成績評価方法	実習及びディスカッションへの参加状況と、最終授業時に作成するレポートの内容について、積極性・的確性等を考慮して総合的に評価する。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	この授業の履修を希望する者は、次のとおり、必要な手続きを全て行うこと。 ※この授業は関係機関等の協力を得て行われることになるため、やむを得ない事情を除き、途中で履修を辞退することのないようにすること。 (1)2026 年 12 月中旬までに、履修登録(UTAS)を完了させておくこと。 この授業は、「W ターム」としての開講となる。 「W ターム」の授業の履修登録期間は、所属する学部・研究科等により異なっているので、十分注意すること。 ー例えば、「W ターム」の授業の履修登録期間が 2026 年 10 月しかない場合には、そのタイミングで履修登録(UTAS)を完了させておくこと。 ー「W ターム」の授業の履修登録期間が 2026 年 10 月と 12 月にあるが、12 月が上記期限後のみとなっている場合には、10 月のタイミングで履修登録(UTAS)を完了させておくこと。 (2)2026 年 12 月下旬頃までに、UTOL に事前登録に係る内容を掲出するので、当該掲出の指示に従い、2027 年 1 月中旬までに「受講を希望する理由(300 字)」を提出すること。 UTOL の受講登録のみの場合、当該提出は無効となるので、十分注意すること。(この授業を履修することはできないので、十分注意すること。) ー繰り返しになるが、上記(1)の期限までに履修登録(UTAS)を完了させておくこと。 (3)2026 年 12 月下旬頃、履修許可者には UTOL にてその旨の案内をする。 実習環境の都合により、履修者数は 10 名程度を上限とする。希望者が多い場合は、上記(2)により決定する。 履修許可とならなかった者は、この授業を履修することはできない。 ー履修登録(UTAS)を削除とする予定なので、あらかじめ承知しておくこと。 (4)その他、注意事項は次のとおり。 教育学部の学生のうち、2027 年 3 月卒業予定者については、Wタームに開講するこの授業の単位は卒業単位に算入されないで、十分注意すること。(この授業の成績発表は、卒業式のある 3 月下旬前となる予定。) この授業は、希望すれば必ず履修できるとは限らないため、今後の卒業に必要な単位数の計算に際しては、十分注意すること。(履修許可とならなかった場合を想定の上、余裕を持った履修計画をたてるようにすること。) 上記(3)以降に、UTOL に掲出する内容は、原則として、履修許可者のみを対象とするものになるの

で、あらかじめ承知しておくこと。||なお、現場実習先への訪問にかかる交通費は自己負担とする。

実習先への入館のため、学生の所属と氏名を実習先企業にも共有するが、この授業の目的にのみ使われるものとする||※集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと|教育学部在学生向け Web サイト>授業・履修・学生生活>時間割>学部(集中講義)|<https://www.p.u-tokyo.ac.jp/students/class/#timetable>

授業実施形態 対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus

教育職員免許法上の認定科目

時間割コード	09269910	担当教員	浅井 幸子、多賀 厳太郎、村上 祐介、遠藤 利彦、野澤 祥子		
単位数	2	学 期	S2	時 限	集中
講義題目	発達保育実践政策学概論／Introduction to Early Childhood Development, Education, and Policy Research 発達保育実践政策学概論				

授業の目的・概要	発達保育実践政策学は、子どもの育ちを中心に置き、子育て・保育の実践や政策のあり方について、学術的に解明検討を行う学際的学問領域である。本授業では、発達保育実践政策学に関わる多様なトピック、すなわち、乳幼児の発達、保育の理論・歴史・実践・制度・政策についての基礎的事項ならびに国内外の最新研究動向を学ぶ。さらに、学んだことや自身の経験に基づき、これからの子育て・保育の実践や政策、それを支える研究のあり方について他者と議論し、考える。
授業計画	“下記の内容について講義とグループワークによって学ぶ。 ①発達保育実践政策学の考え方と研究例 ②胎児・新生児・乳児の発達 ③乳幼児の認知的発達と子育て・保育(1) ④乳幼児の認知的発達と子育て・保育(2) ⑤乳幼児の社会情動的発達と子育て・保育(1) ⑥乳幼児の社会情動的発達と子育て・保育(2) ⑦保育の思想と歴史 ⑧保育の制度・政策 ⑨特別なニーズをもつ子どもと保育(1) ⑩特別なニーズをもつ子どもと保育(2) ⑪小学校への移行 ⑫父親の子育て ⑬これからの子育て・保育について考える:ディスカッション ”
授業の方法	講義とグループワークを適宜交えながら授業を進める。
成績評価方法	レポート
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	特になし 【履修上の注意】 ※8-9 月集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと 教育学部在学生向け Web サイト>授業・履修・学生生活>時間割>学部(集中講義) https://www.p.u-tokyo.ac.jp/students/class/#timetable
授業実施形態	オンライン型(オンラインのみで実施)／Fully Online: All classes conducted online
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09269911	担当教員	中西 正康、山名 淳		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	水 4
講義題目	演技実践／Acting Lesson 演技実践				

授業の目的・概要	プロの俳優が行う演技練習を通して自己を深く理解し、他者と響き合う力を養い、豊かな人間性を育む コミュニケーション力の向上
授業計画	”1 自己紹介 志望動機 ムーブメント トラスト練習 シアターゲーム 演技の定義 2 モノローグ(自分のモノローグ)を読む 3 モノローグ(自分以外の人のモノローグ)を読む 4 一語 一行 レペティション 5 演技の基礎練習 レペティション 6 演技の基礎練習 レペティション 7 レペティション 8 シーンスタディ 9 シーンスタディ 10 シーンスタディ 11 モノローグ 12 シーンスタディ 13 シーンスタディ ”
授業の方法	対面授業
成績評価方法	日常点
教科書	次の教科書を使用する。／Will use the following textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	動きやすい服装
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09269912	担当教員	近藤 良平、山名 淳、岡田 猛		
単位数	2	学 期	A1	時 限	火 3, 火 4
講義題目	身体表現の実践／Practice of Physical Expression 身体表現の実践				

授業の目的・概要	本授業は、第一線で活躍する振付家・ダンサーの近藤良平による身体表現の授業である。 本授業では「身体で表現を創出していくとはどういうことなのか」を、講師の経験に基づいた様々なアプローチを、実際に身体を動かして体験しながら探索していくことを大きな目的としている。
授業計画	”対面で行うことを前提とする。授業進行の詳細は、受講者の様子や、受講者とのやり取りの上で決定していく。大枠は以下の流れで、身体や身体表現、ダンスの可能性を講師とともに遊ぶように体験していくものである。 1. 出会い 2. 身体表現のワーク① 3. 身体表現のワーク② 4. 身体表現のワーク③ 5. 身体表現のワーク④ 6. 身体表現のワーク⑤ 7. まとめ ※参加者のみなさんの理解をとった上で、コンタクト(背中と背中を預け合う等の接触)を行う予定です。みなさんとお話をしながら決めていきたいと思います。”
授業の方法	対面で、講師と共に身体を動かして体験する方法をとる。
成績評価方法	以下の4点を踏まえて総合的に判断する。 1. 出席状況、2. 授業に対する積極性、3. 毎回の授業での課題やコメントシートの提出状況、4. 最終レポート
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	実技の授業なので毎回参加することは大切である。 実技授業の性質上、受講希望者が多い場合は、人数制限を設ける場合がある。 準備しておくことよいもの:動きやすい服装、飲み物、タオル、靴下(裸足もしくは靴下で動いていきます)、靴袋(ビニール袋等。御殿下記念館入館時に必要です)など。 ダンスやその他の表現活動の経験の有無は問いません。また、実技で行う身体表現も専門的な技術は必要としません。初めて表現やダンスを行う方も歓迎します。また、どの学部の学生も歓迎します。
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09269913	担当教員	Steven Fischer、岡田 猛		
単位数	2	学 期	S2	時 限	火 3, 火 4
講義題目	Cartoon Storytelling／Cartoon Storytelling Cartoon Storytelling				

授業の目的・概要	This course is for anyone who has an interest in expressing themselves through cartoons and those interested in cartoons as an art form. We will study creativity, drawing techniques, storytelling, creative writing, page layout, and the language of cartoons. This class is about realizing the potential of becoming a cartoonist no matter your skill level. This course is intended to introduce students to the possibilities cartooning offers as a vehicle to express and communicate effectively. Each student will create and complete an original manga-style story with original characters. We will also focus on the therapeutic aspects of art and creation, and how a deep dive into our invented worlds can teach us about our self and help us address personal conflict within.
授業計画	”220 min. sessions each Tuesday, 13.00 – 16.40 ”
授業の方法	lecture, exercises, projects
成績評価方法	Class Participation 25% Attendance 25% Attitude and Work Ethic 25% Final Project 25%
教科書	プリントを配布する。／Will distribute handouts
参考書	プリントを配布する。／Will distribute handouts
履修上の注意・備考	The only preparation needed for Cartoon Storytelling is to have pen, pencil, eraser, paper (or sketchbook) for ALL sessions including Session One. You will be doing a lot of writing and drawing in each session. Students will take away from this course what they give to it. Your journey into your production will be a journey into self, using the memories and feelings that emerge to inform your cartoon work. The intent is to use the act of creation to help u n/a
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09269914	担当教員	王 冀中、岡田 猛		
単位数	2	学 期	S2	時 限	集中
講義題目	油画材料と表現技法／Oil Painting Materials and Expression Techniques 油画材料と表現技法				

授業の目的・概要	中国電媒大学教授で美術創作研究院院長でもある王冀中教授による油画材料と表現技法の実技の集中授業である。油画の経験者のみならず、初心者も対象として、油画の基礎から教える。なお、授業は中国語で行われるが、日本語の通訳が付く。 授業目的: 1.受講生の美的感覚と芸術センスの向上 2.油画の基礎材料や技法の習得 3.自画像創作を通して自己と外部の世界との繋がりを探る 授業概要: 理論講義と絵画実践を通して、西洋油画の画材・技法の基礎知識と体系および画材や技法が油画の言語や表現に与える影響を理解し、色彩関係や人体構成の比例などの基礎知識を身につけ、素材表現への関心を養う。
授業計画	”授業内容: 一日目:油画の画材・技法の発展歴史の紹介 1.基礎画材の使用法 2.油絵具と画用液の調合方法 3.事前準備(キャンバスの張り方など) 二日目:油画の関連知識 1.色彩の基本知識 2.油画の基礎技法 3.人体デッサンの基礎 4.自画像のデッサン制作 三日目:自画像創作(過程) 1.下図の転写 2.構図の設定 3.下塗り 4.人物像の描写 四日目:自画像創作(完成) 1.着色 2.細部の描写 3.背景の処理 4.仕上げ ”
授業の方法	4 日間の夏期集中授業として実施する。実技授業につき、対面のみの実施で、絵画理論と実践を教える。 スペースや授業内容の制約上、受講者数は 10 名程度を上限とする。希望者が多い場合は、抽選等で決定する。
成績評価方法	油画技法を用いたスケッチや模写の最終課題作品によって成績を決める。 授業内容は講義中に適宜変更することがある。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	絵の具等で汚れても良い服装をして参加すること。 自画像を描くので、手鏡を持参すること。 授業外の準備と学習内容 絵画の学習実践のための各種画材を必要に応じて準備し、提供するので、材料費として 2000 円を初日に持参のこと。 【履修上の注意】※8-9 月集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと 教育学部 在学生 向け Web サイト > 授業・履修・学生生活 > 時間割 > 学部(集中講義) https://www.p.u-tokyo.ac.jp/students/class/#timetable
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09269915	担当教員	王 冀中、岡田 猛		
単位数	2	学 期	W	時 限	集中
講義題目	油画材料と表現技法／Oil Painting Materials and Expression Techniques 油画材料と表現技法				

授業の目的・概要	中国電媒大学教授で美術創作研究院院長でもある王冀中教授による油画材料と表現技法の実技の集中授業である。油画の経験者のみならず、初心者も対象として、油画の基礎から教える。なお、授業は中国語で行われるが、日本語の通訳が付く。 授業目的: 1.受講生の美的感覚と芸術センスの向上 2.油画の基礎材料や技法の習得 3.自画像創作を通して自己と外部の世界との繋がりを探る 授業概要: 理論講義と絵画実践を通して、西洋油画の画材・技法の基礎知識と体系および画材や技法が油画の言語や表現に与える影響を理解し、色彩関係や人体構成の比例などの基礎知識を身につけ、素材表現への関心を養う。
授業計画	”授業内容: 一日目:油画の画材・技法の発展歴史の紹介 1.基礎画材の使用方法 2.油絵具と画用液の調合方法 3.事前準備(キャンバスの張り方など) 二日目:油画の関連知識 1.色彩の基本知識 2.油画の基礎技法 3.人体デッサンの基礎 4.自画像のデッサン制作 三日目:自画像創作(過程) 1.下図の転写 2.構図の設定 3.下塗り 4.人物像の描写 四日目:自画像創作(完成) 1.着色 2.細部の描写 3.背景の処理 4.仕上げ ”
授業の方法	4 日間の春期集中授業として実施する。実技授業につき、対面のみの実施で、絵画理論と実践を教える。 スペースや授業内容の制約上、受講者数は 10 名程度を上限とする。希望者が多い場合は、抽選等で決定する。
成績評価方法	油画技法を用いたスケッチや模写の最終課題作品によって成績を決める。 授業内容は講義中に適宜変更することがある。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	絵の具等で汚れても良い服装をして参加すること。 自画像を描くので、手鏡を持参すること。 授業外の準備と学習内容 絵画の学習実践のための各種画材を必要に応じて準備し、提供するので、材料費として 2000 円を初日に持参のこと。 ※集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと 教育学部在学生向け Web サイト>授業・履修・学生生活>時間割>学部(集中講義) https://www.p.u-tokyo.ac.jp/students/class/#timetable
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09269916	担当教員	中野 優子、山名 淳		
単位数	2	学 期	S2	時 限	火 3, 火 4
講義題目	コンテンポラリーダンス創作の実践／Contemporary Dance Creation and Performance コンテンポラリーダンス創作の実践				

授業の目的・概要	本授業の目的は、「コンテンポラリーダンスの創作を実際に体験してみること」である。実際に心と身体を動かしながら、参加者それぞれが自分の心と身体だからこそできるダンスをクラスメイトと協力しながら創作・発表する。それを通して、自分自身やクラスメイトのこれまでに気が付かなかった魅力に気が付いたり、日常を捉えなおしたりすることを目指す。
授業計画	“対面で行うことを前提とする。授業進行の詳細については、参加者とやり取りし、参加者の提案を踏まえて、随時変更する。今のところは、以下のように、コンテンポラリーダンス創作の一つのアプローチを共に体験していこうと考えている。 1 お互いを知る・仲良くなる 2 どんどん出会う(自分の身体、イメージ、感覚、他者の身体、音楽、空間と出会う) 3 リンクさせる(気持ちやイメージと身体をつなげる、他者とつながる、音楽とつながる) 4 のんびりのる(湧き上がるものを待ったり、音楽にのったりと動かされる身体を知る) 5 ひらくとひめる(表現を空間に広げる・開くことと、秘めていくことを体験する) 6 みんなで創る(これまでの経験を基に、みんなで協力してシーンを創る) 7 つなげて伝える(創ったことをつなげて、伝え合う) ※身体表現をベースにしながらもドローイングや写真など、いろいろなメディアを組みあわせて創作しようと考えています。 ※dance partner の竹中寛道氏、konisu 氏にアドバイスいただきながら、ストリートダンス(特に HIPHOP ダンス)の要素も取り入れ、従来の「コンテンポラリーダンス」にとらわれることなく、自由にみなさんがみなさんのダンスを発見できる工夫をしようと考えています。 ※毎日が楽しくなるような宿題を課す回もあるかもしれません。 ※参加者のみなさんの理解をとった上で、コンタクト(背中と背中を預け合う等の接触)を行う予定です。みなさんとの対話をしながら決めていきたいと思います。 ”
授業の方法	対面で、講師と共に身体を動かして体験する方法をとる。
成績評価方法	以下の4点を踏まえて総合的に判断する。 1. 出席状況、2. 授業に対する積極性、3. 毎回の授業での課題やジャーナル(コメントシート)の提出状況、4. 最終レポート
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	実技の授業なので毎回参加することは大切である。 実技授業の性質上、受講希望者が多い場合は、人数制限を設ける場合がある。 準備しておくといふもの:調整可能な動きやすい服装、飲み物、タオル、靴下(裸足もしくは靴下で動いていきます)、くつを入れるくつ袋(ビニール袋など)など。 ダンスやその他の表現活動の経験の有無は問いません。また、実技で行う身体表現も専門的な技術は必要としません。初めて表現やダンスを行う方も大歓迎します。また、どの学部の学生也大歓迎します。
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09269917	担当教員	尾上 明代		
単位数	2	学 期	S2	時 限	集中
講義題目	ドラマセラピーを通じた表現実践／Practice for Expression through Drama Therapy ドラマセラピーを通じた表現実践				

授業の目的・概要	授業の目標 ドラマや劇を通して、「演じる」という芸術表現形態の楽しさを体験することで、創造性や自己表現力、自発性などを高めることを目標とする。 グループダイナミクスやリフレクションを使うドラマセラピーのワークを媒体とすることにより、上記と同時に、コミュニケーション技術、自分自身とさまざまな他者への理解力、受容力を高めることができる。 ドラマセラピーの理論的背景についての基本的理解が得られる。 <「演じること」は身体、感情、知性を統合して行う活動であり、さらにドラマセラピストである講師が自由で楽しい感覚を提供しながら授業を進めることにより、上記のような能力が同時に高まることが可能となる。> 授業の概要 ドラマや劇を演じることを通じて表現力や創造性を高め、かつ対人関係をより豊かにすることを目指すコースである。 「創造的教養人(岡田・縣、2013)*」を育成する一環として、表現を創造的かつ主体的に楽しむ体験を提供し、受講後の研究や職業生活、また人生を豊かにすることの一助になるようなアクティビティーで構成している。 グループワークの中においては自分を客観視できることに加え、ドラマにより自分の人生だけでは体験できない、他者の人生・状況・考え方などについても、より深い新しい理解が可能になる。 ドラマセラピーの多くの手法の中から社会臨床的なアプローチも体験する。 「ドラマで役を生きる」ということが、実はいかに「現実生活」を豊かにし、また問題解決のツールとして使えるかを、知的学習からだけでなく、身体・感情・感覚でホリスティックに理解し、体得できる内容なので、さまざまな学部・研究科の多くの方の履修をお薦めする。 社会において、特に学修においては「ことば」を多用し、頭で考えることが非常に多い。「ことば」がとても重要である一方、「ことば」にならないものや「ことば」を超えたもの、また自他の身体に意識を向けることは、学生にとって大変重要なトレーニングの一つと言える。この授業では、「普段」と違う体験と時間、そして全人的な学びを提供する。 <ドラマセラピーはクリエイティブ・アーツセラピーの一つで、ドラマ・演劇のプロセスを系統的かつ意図的に用いる体験的アプローチである。この手法により、自己の意識と無意識を含む様々な心的要素がとり扱われ、また、他者や環境との関係、および他者の多様な側面の探索も可能になる。そのため、自己覚知と他者理解が深まり、視点や行動、社会関係の変化を促すので、「セラピー」という狭い枠を超えて、人の創造性・自発性が必要となる多くの分野に汎用できる。> * 岡田 猛・縣拓 (2013)&comma; 芸術の認知科学 展望論文 創造の主体者としての市民を育む:「創造的教養」を育成する意義とその方法&comma; 認知科学&comma; 20(1)&comma; pp27-45.
授業計画	”Day1 第1回 このクラスの実施方法のオリエンテーションと最初の interaction のためのゲーム 第2回 想像力・創造力・表現力を豊かに 第3回 フィクション(架空)とリアリティ(現実)の間を行き来する 第4回 おとぎ話—象徴・架空の力 Day2 第5回 創造力・即興力・自発性を豊かに 第6回 社会臨床的アプローチ1(被抑圧者の演劇—1) 第7回 (同上—2) Day3 第8回 ドラマセラピーの基本的な理論 第9回 社会臨床的アプローチ2—対人関係、及び社会問題の探索(ソシオド라마—1) 第10回 (同上—2) Day4 第11回 ドラマセラピーの事例 第12回 心の障害物を乗り越えるドラマ 第13回 グループプロセスの終結・まとめ ”
授業の方法	集中授業として4日間で実施します。この授業形態を活かして、体験・ディスカッション・座学などをバランスよく配置し、わかりやすく、また疲れすぎないプロセスを作り進めていきます。 表現実践としてドラマ的ゲームや演技を行い、個人とグループの変容や発展を体験的に理解してもらいます。「演じる」ことへの不安をとりのぞき、楽しく取り組めるように漸進的に丁寧に進めていきます。このこと自体が、ドラマセラピーを媒体に使う利点の一つであるので、アクティビティーに不安がある人がいたとしても、心配せずに受講してください。 毎回、プロセスの振り返りを行い、クラス全体で自由なコメントを交換してディスカッションをします。
成績評価方法	表現力や創造性、自他の理解力などの発展・深化を、 授業参加の様子やディスカッションの内容(50%)、 期末レポート(50%)から総合して評価する。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook

参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	※ ご注意！ この授業は少しずつプロセスを踏んで進めていく内容となっているため、初日の授業に出席しなかった方がいた場合、2 日目以降からの参加は不可となり、この授業を履修していただくことができませんのでご理解とご協力をお願いいたします。 体験型の学習なので、基本的に全回出席することがまず大切です。 授業内での積極的な参加態度はもちろん良い評価の対象にはなりますが、「授業」だからといって、すべてのワークに無理に参加をしなければならない、というプレッシャーを感じる必要はありません。 その時どきの自分の心身の状態に合わせて参加して下さい。 「演技が得意な人、人前で発表することが好きな人」にのみ適しているアプローチではないかという勘違いもあるかもしれませんが、そうではなくて acting(演技をすること)が「多くの人が取り組みやすく、創造力や表 夏季集中として、4 日間(2週末)で実施します。 1日目 2～5限 2日目 2～4 限 3日目 2～4 限 4日目 2～4 限 【履修上の注意】 ※8-9 月集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと 教育学部在学生向け Web サイト＞授業・履修・学生生活＞時間割＞学部(集中講義) https://www.p.u-tokyo.ac.jp/students/class/#timetable
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09269918	担当教員	O JUN		
単位数	2	学 期	S2	時 限	集中
講義題目	超ドローイング演習／Drawing Exercise 超ドローイング演習				

授業の目的・概要	実際に絵を描く(ドローイング)ことを通して見る行為、感触、イメージ、表現、身体について体験的学習を行う。 当授業は画家やアーティストを養成するものではないが、ドローイングなど実技制作を通して芸術の意味やさまざまな表現について学び、個々の創作への意識や想像力を養う。 絵を描いたり見たりすることを楽しむ。 つまりこれは「絵の授業」です。
授業計画	”『シン・ドローイング、スケジュール』8 月 初日・8 月 17 日(10:25～16:40)3 コマ、(ガイダンス+レクチャー+実技) 2 日目・8 月 18 日(10:25～16:40)3 コマ、(実技+アーティストトーク) 3 日目・8 月 19 日(10:25～18:35)4 コマ、(実技+ギャラリーツアー) 4 日目・8 月 20 日(10:25～16:40)3 コマ、(実技+展示、講評) ○ 授業開始は毎回 2 限目(10:25～)から授業開始、4 限で終わり。(※3 日目 8/19 はギャラリーツアーがあるので 18:35 まで) ○ 19 日のギャラリーツアーについては場所、集合解散など時間は初日に通達する ”
授業の方法	古今東西の様々な芸術、美術の表現、方法、意味についてのレクチャー。 実際に紙にドローイングを描いてみる。 アーティストやアートに関わることをしている人のトークや講義を聴講する。 美術館やギャラリーで作品の鑑賞を行う。 それぞれが描いたドローイングの展覧会を構内において行い鑑賞し合う。
成績評価方法	実技の授業なので基本的に出席を重視する。 その上で授業への集中度、意欲、制作物などをみて総合的に成績を付けます。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	特にありません。 美術に関心がある人で、展覧会を鑑賞したりこれまでに実際に制作した絵画や工作物を持参して見せてください。 まったく初めての人も受講を歓迎します。 履修者が確定した時点で、授業で使用する画材、道具類など個人で用意するものをお伝えします。 何かを見たり、それについて考えたり、自分の記憶を辿ってみたり、人の身体について興味を持ってください。画集を見たり、展覧会に行ったりアートの鑑賞も大切です。 私(O JUN)を検索して私の作品画像や活動状況など見ておいてください。質問があれば用意しておいてください。 ミヅマアートギャラリー(私の Mothers gallery です)の私のページで発表履歴や若干の作品を見ることができます。 ※集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと 教育学部在学生向け Web サイト>授業・履修・学生生活>時間割>学部(集中講義) https://www.p.u-tokyo.ac.jp/students/class/#timetable
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09269919	担当教員	塚田 哲也、山名 淳		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	木 5
講義題目	書と字と手と目（書字とデザイン）／Calligraphy, Typography, Hands, and Eyes (Japanese Calligraphy and Character Design) 書と字と手と目（書字とデザイン）				

授業の目的・概要	わたしたちがふだん使っている「書体」や「フォント」などさまざまなデザインの「文字」。これらはもともと手で書かれることによってかたちが成立しました。 この授業では実際に筆を持ち、書くことで、文字（漢字・ひらがな）のかたちはどうできあがっているかを体験し、文字のなりたちと歴史による変遷をふまえ、各要素の構成とそこに秘められた身体性を理解します。また同時に文字を見る目、書を見る目を養います。 さらにはそれらをふまえて、これから文字はどうなっていくか、またこの「文字」がことばやコミュニケーションとともに今後どのようになっていくのかを想像し、あたらしい文字のありかたを模索します。
授業計画	“前半では筆の持ち方からはじめ、文字の基本形（スタンダード）となる楷書『雁塔聖教序』を手本として、文字を成り立たせるための基本的な筆の運び方・構成の原則を学び、文字はどのような姿をしているかを把握します。同時に書の歴史についても学び、そのかたちの変遷を筆づかいとともに体験します。また、漢字をもとにうまれた日本独自の文字である「ひらがな」についてもそのかたちを学びます。”
授業の方法	授業では、実際に墨を磨り筆を用いて半紙に課題となる楷書・ひらがなを書いていきます。 序盤では基本的な筆の扱い方から点画の書き方を学び、授業を追うごとに文字のブロックごとの構成などを学んでいきます。
成績評価方法	出席（50%）と授業への取り組み（25%）、および提出物やその内容（25%）を総合的に評価します。
教科書	次の教科書を使用する。／Will use the following textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	筆・墨を扱うので汚れてもよい服装で参加してください。 書字の道具（硯・墨・下敷・文鎮・半紙）についてはこちらで準備をしますが、数に限りがあるため、自分の愛用のものがあれば持参してください。 初回に説明をしますが、筆についてはこちらで準備をするものが古く、書きにくい場合があります。各自あらたにご用意いただくのが望ましいです。種類は「兼毫筆」太さは「4 号」を推奨します。 貸し出せる道具の数を越える受講希望者数の場合は、抽選にて履修者を決定します（初回授業への出席者のうち 20 名程度）。 これまでの書道経験や専門的技術は必要ありません。
授業実施形態	対面型（対面のみで実施）／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09269920	担当教員	高田 由利子		
単位数	2	学 期	S2	時 限	集中
講義題目	音楽療法を通した表現実践／Practice for Expression through Music Therapy 音楽療法を通した表現実践				

授業の目的・概要	・日常生活の中で受動的に聴取している音や音楽を能動的に聴取する体験をもつことにより、音や音楽は自分とその周囲の環境に対してどのような影響を与えているのかについて理解する。 ・能動的な聴き方を身につけるための様々な感覚(聴覚、視覚、触覚、嗅覚など)を使った身体表現に取り組むことで、自己の感情・思考・身体についてより敏感になることから自己理解を深める機会をもつ。 ・自己理解を深めるプロセスでは、他者や環境にも注意を向けていくため、音を媒体とした他者との協働ワークを通して、より円滑なコミュニケーションを図るためのふるまいを身につける。 ・音や音楽のもつ生理・心理・社会的な機能について自分なりに考察することができる。
授業計画	”Day1 自己の外界にある音を聴く 第1回 オリエンテーション、音楽に関連した自己紹介 ※他者に共有してもいい音や音楽を紹介(スマホや CD などに音源を準備)してください。第2回 マリー・シェーファーにおける「サウンド・エデュケーション」の概念を援用した音楽聴取ワーク① 第3回 絵から音を聴く、音から絵を観る 視覚と聴覚の交叉におけるワーク② Day2 自己に内在する音を聴く 第4回 音楽療法の理論と技法 第5回 音楽、ムーブメント、描画を融合させた表現アートセラピーにおける自己探求のためのワーク③ 第6回 ワーク③の続きと振り返り Day3 自己と他者(コミュニティ)が共有する音を聴く 第7回 音楽が療法として用いられる歴史的変遷、文化・社会的背景 第8回 音・音楽の聴取体験から自己のポートフォリオを作成するためのワーク④ 第9回 グループプレゼンテーションの計画1 Day4 自己と社会が共有する音を聴く 第10回 音楽のもつ社会的な機能における健康観 第11回 グループプレゼンテーションの計画2 第12回 グループプレゼンテーション 第13回 クロージングのための聴取、総括 ”
授業の方法	授業形態としては、講義と演習を取り入れた枠組みとなります。頭で理解するよりも身体で捉える感覚を大切にするため、演習の部分が多くなります。ワークの進め方としては、まず、体験から入ることが多いです。その後、その体験の背後にあるメカニズムについて説明をします。また、自己洞察を深めるためにも、必ず、ワークについての振り返りの時間もちます。この時、何を感じたり思ったのかについて、少数(2名から3名)の人たちと共有して頂きます。ただし、共有が難しいという方は、配慮してまいります。ワークをする上で一番大切なことは、安心した環境だと参加者一人一人が感じることです。これは心理療法でも、クライアントとラポール(信頼関係)を形成するためにもとても重要となります。ワークをしながら、自分に気づくこと、相手に気づくことが面白いと感じられるような時間を提供できたらと思っています。
成績評価方法	授業内ワークの参加やプレゼンテーションの内容(30%)、授業内振り返りレポート(30%)、最終レポート(40%)
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	・体験型の授業となり、連続して体験することで学びが深まる特性上、原則として、全回出席するように努めてください。 ・授業内で取り組むワークの多くは、自分と向き合う内容が多いことから、心理的な負荷がかかることもあります。そういうときは、ワークの輪から外れて無理をしないことも大切です。その時のご自分の心身の状態に合わせて参加して下さい。 ※集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと 教育学部在学生向け Web サイト>授業・履修・学生生活>時間割>学部(集中講義) https://www.p.u-tokyo.ac.jp/students/class/#timetable
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09269921	担当教員	田中 庸介		
単位数	2	学 期	W	時 限	集中
講義題目	なめらかな詩表現実践／Practice of Poetic Expression なめらかな詩表現実践				

授業の目的・概要	優れた詩の表現は、作者の実存と言語表出との思いがけないやりとりによって生まれます。本授業では特に詩の表現実践を通して、なめらかな日本語表現の基礎となる「読む、書く、聞く、話す」の能力を三日間で集中的に高めます。講師は現代詩人であると同時に第一線の細胞生物学者であり、芸術創造連携研究機構(ACUT)の副機構長として芸術科学連携にも取り組んでいます。今回は、総合大学におけるソリッドな芸術実践の一環として、詩の表現実践のレッスンを開講します。 Extraordinary poetic expression can be provided by unexpected encounter between the writer and the literature. On this course, we aim to augment your ability of reading, writing, hearing, and speaking in Japanese, through practice of poetic expression. This mentor is a contemporary poet and cell biologist, and also working on art-science collaboration as the vice president of The Art Center, UTokyo (ACUT). This lesson on poetic expression will therefore deeply contribute to the promotion of solid art practice in UTokyo.
授業計画	”1) 詩のワークショップ 2) 詩の朗読法 3) 詩作品の講読 の三つのメソドロジーを組み合わせ、三日間で集中的に詩の表現実践を訓練します。 Combination of poetry workshops, lessons of poetry recitation, and close reading classes of poetry will be repeatedly held in a three days' intensive course.”
授業の方法	以下の三つのメソッドを通して、全分野での表現の基礎となる「なめらかな詩表現」への道を指導します。 1) 詩のワークショップ Poetry workshops 数字短歌ワークショップ、詩の穴埋めワークショップなどにより、ことばへの親しみを深め、表現における驚きの感覚をつかむ。 2) 詩の朗読法 Lessons of poetry recitation 肉声を空間に打ち込むための軽い体動法と場当たりのレッスンを通じ、空間の響きの聴きとり方を体得する。 3) 詩作品の講読 Close reading classes of poetry 詩作品について自分の考えを述べ合うことで、自由な詩の読み方とその面白さを知る。自作の提出も可。
成績評価方法	出席と提出課題の評価 Attendance and assignments
教科書	次の教科書を使用する。／Will use the following textbook
参考書	次の参考書を使用する。／Will use the following reference book
履修上の注意・備考	教科書を事前に通読しておくこと Please read through the textbooks before attendance. 東京大学芸術創造連携研究機構 The Art Center, UTokyo https://www.art.c.u-tokyo.ac.jp/ ACUT2024 プロジェクト ACUT2024 Project https://www.acut2024.com/ 田中庸介「アウトリーチ活動としての詩のワークショップ、その光輝」日本現代詩人会 https://www.japan-poets-association.com/ 「アウトリーチ活動としての詩のワークショップ」/ ※集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと 教育学部在学生向け Web サイト>授業・履修・学生生活>時間割>学部(集中講義) https://www.p.u-tokyo.ac.jp/students/class/#timetable
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09269923	担当教員	佐藤 悠、山名 淳		
単位数	2	学 期	S1	時 限	月 3, 月 4
講義題目	美術鑑賞を思考方法として応用する／Applying Art Appreciation as a Method of Thinking 美術鑑賞を思考方法として応用する				

授業の目的・概要	様々な美術鑑賞体験と、その共有を複数人で行う。「美術」「鑑賞」に対する先入観を解き、それぞれの楽しみ方、親しみ方を見つける。また、そのプロセスを実感のある形で理解し、各自の学びや生活に応用するための講義。美術の専門知識を深く知る内容ではない。 Students will engage in a variety of art appreciation experiences and share them with others in a group setting. The course aims to question and unpack preconceived notions about “art” and “appreciation&comma;” enabling each participant to discover their own ways of enjoying and relating to artworks. Through experiential learning&comma; students will develop a grounded understanding of the appreciation process and explore how it can be applied to their own learning and daily lives. This course does not focus on acquiring specialized or in-depth knowledge of art history or theory.
授業計画	”1：心理的安全性が確保された状態で、鑑賞や対話を楽しむ導入。 2：パターン化して知る基本のフレームワーク。鑑賞と身体性の意識。 3：コミュニケーションや思考の方法を捉え直す。作品解説との関係を考える 4：言語周辺のコミュニケーションや展示する側の思考を体験する 5：フィールドワーク1（展示室） 6：フィールドワーク2（アートフィールド） 7：講義全体の振り返り。「良い鑑賞」とはなにか”
授業の方法	【基本的な授業形式】 前半：2時間程度のワークショップ（グループワーク）とレクチャー 後半：1時間程度のディスカッション
成績評価方法	出席とレポート
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	* 実技を含む授業のため、履修人数が予定を大幅に上回る場合は、初回に抽選を行う場合があります。
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09269924	担当教員	細川 文昌、山名 淳		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	金 4
講義題目	写真表現実践演習／Creative Photography for Beginners 写真表現実践演習				

授業の目的・概要	私たちは何かを見るとき、既存の枠組みの中で取捨選択し、見たいものだけを見えています。 この作業は無意識に瞬間的に行われるので、私たちは「ありのまま」を正確に見ていると思っています。 しかしながら、不要なものとして捨ててしまったものが、写真の中に浮かび上がることがあります。 それは、既存の枠組みが、断層のようにズレ動いた瞬間です。 その枠組みのズレを生じさせるもの、それが写真表現と呼ばれるものです。 そのズレは、新たな認識をもたらすのか、元の枠組みに吸収されなくなっていくのか、 そのうつろいを、冷静に観察してほしいと、皆さんに期待しています。 When we see things, we see only what we like to see with selections in the conventional framework. This process is done instantaneously and unconsciously, so we think we accurately see things as they are. However, in some photographs, we see what was thrown away as unnecessary stuff emerging on its surface. It is the moment, I think, the conventional framework is slipped like faulting. The energy causing the slip of the framework is so-called “photographic expression”. The slip may cause a new perspective, or be absorbed in the conventional framework and disappear. I strongly expect you to observe its transition inside of you meticulously.
授業計画	“カメラとレンズの構造、写真撮影の基礎を身につけ、日常的に写真を撮影する。 編集作業後、写真集を作り上げる過程を通して「写真表現」を自ら体験する。 1)カメラの使い方 各種基本設定 2)露出(絞りとシャッタースピード) 3)ライティング(光の方向と質) 4)被写体までの距離 5)写真を読む 写真リテラシー 6)人間を撮る 7)物を撮る 8)スナップショット 9)定点撮影 10)編集作業 11)画像編集ソフトウェア 12)写真集のタイトルとステートメント 13)写真集を完成。プレゼンテーション。内容を共有する。 授業内で偶然起こる出来事に反応して授業を展開することがあります。その場合、上記のとおり授業は進みません。 With learning the structure of cameras and lenses and the fundamentals of photography, students are expected to take photos in the daily life, after editing, and to experience “photographic expression” as an artist, through the process of creating a photo book. 1)How to use the camera. The basic settings. 2)Exposure: Aperture and shutter speeds 3)Lighting: The direction and quality of light 4)The distance to the subject matter 5)Reading photographic images: Photographic literacy 6)Photographing a person 7)Still life photography 8)Snap-shots 9)Fixed-point photography 10)Editing photographs 11)How to use graphic softwares 12)Title and statement of the photo book 13)Presentation of the final photo book Lessons may unfold in response to unexpected events that occur during class. In such cases, the lesson does not proceed in the order described above. ”
授業の方法	授業内で撮影した写真をディスプレイなど使用して共有、プレゼンテーションを行い、その内容についてディスカッションを行う。課題として撮影し出力したプリントを持ち寄ることもあり。 Students make presentations of their photographs with using a display and discuss the contents and are expected to bring photographs taken and printed out outside of the class as a assignment
成績評価方法	作品と課題の質、授業の参加状況。 Quality of the photo book and assignments and attitude about sharing with others.
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	必要機材 デジタル一眼レフカメラ 教育学部の貸出機材があるが、数に限りあり。 スマートフォン内蔵のカメラでも可。その場合はマニュアル設定を可能にするアプリケーションのダウンロードが必要。 PC グラフィック系のソフトフェア(無料)のダウンロードが必要なことあり。 Required Equipment Digital SLR Camera Some cameras is available for rental

	from the Faculty of Education, but quantities are limited. Smartphone cameras are acceptable. In that case, you will need to download an application that enables manual settings. PC You may need to download graphic-related software (free).
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09269925	担当教員	大友 良英、山名 淳、岡田 猛		
単位数	2	学 期	W	時 限	集中
講義題目	即興と社会、ノイズと音楽(即興的アンサンブルの実践を通じて考察する)／Exploring the Concepts Through Improvised Ensemble Practice				
	即興と社会、ノイズと音楽(即興的アンサンブルの実践を通じて考察する)				

授業の目的・概要	本講座では、即興演奏の実践とアンサンブル、さらにはその聴取を通して、音楽の成り立ちかたを考察する。 また、この実践を通して、ノイズとは何か、即興とは何か、何を持ってわたしたちは音楽を認識するのか。そもそも音を社会化（アンサンブル）するとはどういうことなのかを考察、さらにはこの実践の中からこの先の社会のあり方の可能性をも探っていきます。 実際に楽器で、あるいはさまざまなもので音を出したり声を出す実践と同時に、これまでの音楽や即興についての歴史的な考察も行います。 この講座は音楽を楽しく演奏できるようになることを目的とするのではなく(もちろん、楽しく演奏しアンサンブルすることにおそらくはなりますが)、それ以上に人間にとって音楽とは何であるのか、即興とはどういうことなのか、ノイズとは、といったことを考えることによって、未来の社会のあり方を考えるような講座になればと考えます。
授業計画	”1 回目 イントロ 2 回目～11 回目 ワークショップ実践と講義 12 回目と 13 回目 作品発表”
授業の方法	座学とワークショップを組み合わせる授業を行う。 座学は、音楽鑑賞をしながら、様々な資料をもとに、即興やノイズ、音楽についての考察する。 ワークショップは、実際に楽器や音の出るものを持ってきて、アンサンブルを組んだり、音楽作品を作る。
成績評価方法	出席点で成績を付ける。実技を伴う授業であるので、毎回出席することが重要である。授業への積極的な関与が求められる。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	授業中に指示をする。／Will specify at class time
履修上の注意・備考	講座を受講するにあたり、それまでの音楽経験や楽器の出来る出来ないは一切問いません。全くの初心者でも構いませんし、演奏経験や音楽教育を専門に受けた方でも、楽器等を一切演奏したことのない方でも、どちらでも同等に受講可能です。楽器の演奏経験のある方は、自身の楽器を持ってきてください。また、楽器のない方は、音の出るものならどんなものでも、たとえば鍋や、あるいはダンボール等叩けば音の出るものでも使用可能です。シンプルな打楽器等はこちらでも貸し出します。 音楽に興味がある方は誰でも参加できます。楽器の演奏スキルや音楽経験は一切問いません。 ※集中講義の授業日程および教室は HP を参照のこと 教育学部在学生向け Web サイト>授業・履修・学生生活>時間割>学部(集中講義) https://www.p.u-tokyo.ac.jp/students/class/#timetable
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09269927	担当教員	未定		
単位数	2	学 期	A1A2	時 限	木 2
講義題目	絵画と造形のアート表現演習／Painting and Formative Art Expression Practice 絵画と造形のアート表現演習				

授業の目的・概要	【目標】臨床美術※(クリニカルアート)の手法で絵画・造形の作品制作の楽しさを体験することで、自らの感性と表現する力を再発見し、創造性と自己表現力を高めることを目的としています。 また、他者とアートを介在してコミュニケーションをしたり、他者の作品を見ることで自分とは違う感性に触れ、他者理解を深めることも目的としています。 ※臨床美術は作品制作を通じて、絵の得手不得手に関係なく誰でも表現活動ができるアートメソッドです。医療・教育・福祉・企業など様々な機関で取り入れられています。 [Objective.] The purpose of this program is to rediscover one's own sensitivity and ability to express oneself and to enhance creativity and self-expression through experiencing the joy of creating paintings and sculptures using clinical art* (clinical art) methods. It also aims to deepen understanding of others by communicating with others through art and by experiencing sensitivities different from one's own through looking at other people's artwork. *Clinical art is an art method that allows anyone to engage in expressive activities through the creation of artwork&comma; regardless of whether they are good or bad at drawing. It has been adopted by various organizations in the medical&comma; educational&comma; welfare&comma; and corporate sectors. 【概要】 オイルパステルを中心に、墨・アクリル絵の具・粘土など様々な画材を用いて、具象・抽象の絵画や造形の表現演習を行います。またギャラリートークやロールプレイングなどでアートを通したコミュニケーションの演習を行います。 [Summary] In the class&comma; students will practice figurative and abstract painting and modeling expression using a variety of painting materials&comma; mainly oil pastels&comma; but also sumi ink&comma; acrylic paint&comma; mediums&comma; and clay. Students will also practice communication through art by giving gallery talks and role-playing.
授業計画	”コミュニケーションを通じてプロセスを楽しみながらアート表現をしていきます。 授業の様子をみながらカリキュラムを変更することもあります。 1 回目「ガイダンス 画面に触発されるミニ抽象画制作」感覚をほぐす 2 回目「五感のアナログ画制作」五感で感じたことを抽象表現する 3 回目「平面・量感画制作」果物を五感を使いモチーフに向き合う 4 回目「感性地図・対話型鑑賞」鑑賞を通して観察・発見を促す 5 回目「2 人で描くアナログ画制作」共同制作・アートコミュニケーション 6 回目「色彩感覚演習」自然物の色を発見して色を作る 7 回目「立体制作」五感を使いモチーフに向き合い粘土などをを用い立体表現する 8 回目「数字の形とアナログ造形表現制作」数字を形(フォルム)として捉えて構成する 9 回目「フロッタージュコラージュ制作」身の回りの物を触感的に感じ、摺り取った素材を使って 構成する 10 回目「抽象立体制作」素材感を楽しみながらアナログ立体表現し、更に色彩表現をする。 11 回目「動きのある空間造形」異素材を使って 空間を意識する 12 回目「平面・量感画制作」野菜を量感画の手法を用いて描く 13 回目「量感画ロールプレイング」伝える側の視点になってアートセッションをしてみる ”
授業の方法	作品演習が授業の中心で、個人で制作するものと、共同で制作するものがあります。また、感じたことの言語化、グループディスカッション、対話も行っていきます。
成績評価方法	制作演習中心の授業ですので、出席を重視します。 授業への前向きな取り組み・自分なりの創意工夫(70%)、レポート(30%)を総合的に評価します。 レポート提出は必須となります。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	作品制作を行いますので、汚れてもよい服装で参加してください。 授業では毎回下記 2 点を使用しますので各自購入の上持参してください。 ・脳いきいき画材オイルパステル※ 990 円 ※東大生協本郷書籍部より購入してください。 ・クロッキー帳(A4 か B4) 既に持っているものを持参しても大丈夫です。 上記以外は基本的に講師が準備しますが、ハサミ等各自持参してもらうこともあります。

演習の意図を理解するためにも、遅刻はしないように気を付けてください。

・講座は 20 名を上限にします。人数が多い場合は抽選などを行います。|・演習の意図を理解するためにも、遅刻はしないように気を付けてください。|・絵の得意不得意に関係なく、どなたでも表現できる時間です。苦手意識のある方こそこの機会にアート表現を通して自分の感覚と向き合うことをお勧めします。|人は誰でも表現者です。アート表現は、普段使わない感覚を活性化することができます。自分自身の感覚と向き合い自分を再発見する機会にもなります。|

授業実施形態 対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus

教育職員免許法上の認定科目

時間割コード	09269928	担当教員	和泉 淳子、山名 淳		
単位数	2	学 期	S1S2	時 限	月 3
講義題目	狂言の実践と型の身体表現／Kyogen Practice and Form of Physical Expression 狂言の実践と型の身体表現				

授業の目的・概要	本授業の目的は、「日本の伝統的な喜劇である狂言の表現を実際に体験してみること」である。実際に心と身体を動かしながら、参加者 1 人 1 人が芸と自分に向き合い、口伝を体験し、自分の心と身体だからこそできる表現を試みる。そこにレクチャーを加え、多面的に深く芸能と関わり、それらを通して、伝統と創造の関係や、自分が何者であるのか、日常を捉えなおしたり、新たな視座を発見することを目指す。
授業計画	”対面で行うことを前提とする。授業進行の詳細については、参加者とやり取りし、必要に応じて随時変更する。今のところは、以下のように狂言からキーワードをピックアップし、それをトピックとして、レクチャーや実技、ディスカッションなどを組み合わせて行う予定である。実技は毎時間、実施予定。 1 イン트로ダクション ～笑いと伝統～ 2 狂言の意味～発生と流儀～ 3 舞台と演出 4 演目について 5 ゲスト講義(和泉流二十世宗家和泉元彌師) 6 ゲスト講義(東京大学名誉教授岡田猛先生) 7 修業 ～狂言におけるジェンダー～ 8 狂言装束 コスチューム 9 登場人物について 10 ゲスト講義(十世三宅藤九郎師) 11 狂言の大曲・秘曲 12 狂言の現在 13 発表 ”
授業の方法	対面で、講師と共に身体を動かして体験する方法をとる。
成績評価方法	以下の 4 点を踏まえて総合的に判断する。 1. 出席状況、2. 授業に対する積極性、3. 毎回の授業での課題やコメントシートの提出状況、4. レポート
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	実技の授業なので毎回参加することは大切である。実技授業の性質上、受講希望者が多い場合は、人数制限を設ける場合がある。 準備しておくの良いもの : 調整可能な動きやすい服装、飲み物、タオル、白足袋もしくは白い靴下、靴袋(御殿下記念館入館時に必要です)など。 表現活動の経験の有無は問いません。また、実技で行う表現も専門的な技術のペースは必要としません。初めての表現や演技を行う方も歓迎します。また、どの学部 of 学生も大歓迎です。
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	

時間割コード	09269929	担当教員	大塚 ヒロタ、山名 淳		
単位数	2	学 期	S1	時 限	火 3, 火 4
講義題目	演劇表現の実践(古典喜劇から現代芝居まで)／Acting Practice (From Classical Comedy to Contemporary Plays)				
	演劇表現の実践(古典喜劇から現代芝居まで)				

授業の目的・概要	本授業の目的は「現代喜劇の原点と言えるコメディア・デラルテをベースとして、舞台演技、映像演技までを広く体験的に学ぶこと」である。芝居は人間、そして自己理解である。俳優として授業期間を過ごしていくことを通して、自分が何者であるのかといった自分の魅力や強みを発見・理解したり、弱みを魅力に変えたり、日常を捉えなおしたりすることを目指す。
授業計画	”対面で行うことを前提とする。 本授業を受講する受講生には授業期間中、本物の俳優として過ごしてもらうことを考えている。 なお、授業はストーリー仕立てで進行する予定である。授業進行の詳細については、参加者とやり取りし、参加者の提案も踏まえながら必要に応じて随時変更する。 今のところ以下の流れを想定している。 1 話「出会い」 自分の俳優としてのバックグラウンドをつくるシアターゲームとエチュード。 芸名決め 俳優として生きるとは(プロフェッショナルの俳優である講師のトーク) コメディア・デラルテとは(講師の演劇のベースである喜劇、コメディア・デラルテについてのトークと導入体験など 2 話「絆」 コメディア・デラルテの体験 演劇は「助け合い」である。共演者と信頼関係を築きシーンを作る。 3話「」以降は楽しみのため、タイトルは授業中に発表する コメディア・デラルテの体験、コメディア・デラルテの実践、舞台演技体験 4話「」 映像演技体験 5話「」 コメディア・デラルテ、舞台演技の実践 (3 話の発展) 6話「」 映像演技の実践 (4 話の発展) 7話「」 受講生のみなさんと結末を作ります ※役作りなど、実際に受講生が俳優として過ごせるような宿題を課す予定です。 ”
授業の方法	対面で、講師と共に身体を動かして体験する方法をとる。
成績評価方法	以下の 4 点を踏まえて総合的に判断する。 1. 出席状況、2. 授業に対する積極性、3. 毎回の授業での課題の提出状況、4. 最終課題
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
参考書	参考書は使用しない。／Will not use reference book
履修上の注意・備考	実技の授業なので毎回参加することは大切である。実技授業の性質上、受講希望者が多い場合は、人数制限を設ける場合がある。 準備しておくといもの:調整可能な動きやすい服装、飲み物、タオル、靴をしまう袋(ビニール袋) 表現活動の経験の有無は問いません。また、実技で行う表現も専門的な技術のベースは必要としません。初めて演劇を行う方も大歓迎します。また、どの学部の学生也大歓迎です。
授業実施形態	対面型(対面のみで実施)／Face-to-face: All classes conducted in-person on campus
教育職員免許法上の認定科目	